

令和 7 年度

教 育 要 項

奈良県立医科大学

医学部 看護学科

目 次

奈良県立医科大学の理念、方針、ポリシー	2
令和 7 年度 年間教務日程	5
令和 7 年度 看護学科時間割(前期・後期)	7
1 看護学科の概要	9
1) 設置の趣旨	
2) 基本的な考え方	
3) 学科の特色	
4) 教育目標	
5) 入学定員、修業年限及び学位	
6) 取得できる資格	
2 看護学科の教育課程	10
1) 医学部看護学科授業科目履修要領	11
(1) 令和 6 年度以降入学生の教育課程	
(2) 令和 5 年度入学生の教育課程	
(3) 令和 4 年度入学生の教育課程	
(4) 令和 2・3 年度入学生の教育課程	
(5) 平成 30 年・31 年度入学生の教育課程	
(6) 看護学科 4 年一貫教育カリキュラム表	
(7) 奈良県立医科大学医学部看護学科 カリキュラム・マップ	
(8) 奈良県立医科大学医学部看護学科 カリキュラム・ツリー	
(9) 奈良県立医科大学医学部看護学科 卒業時アウトカム	
2) 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領	39
3) 卒業に必要な単位数	43
4) 成績評価異議申立てに関する要領	45
5) 奈良県立医科大学医学部公欠規程	47
6) 暴風警報等発表時における授業の措置について	51
7) 地震発生等災害時における授業の措置について	52
8) 試験に関する諸注意	53
9) 出席確認端末について	54
10) 健康管理	55
3 1 年次開講科目の授業内容	58
4 2 年次開講科目の授業内容	130
5 3 年次開講科目の授業内容	196
6 4 年次開講科目の授業内容	234
教員名簿（看護学科専任・教養教育部門専任・兼任・非常勤）	276

はじめに

大学では、高校までと違い、実にさまざまな授業科目が開講され、その中から何を選択して受講するかは、学生自らが決めることになっています。この「教育要項」は、そのためのガイドラインです。目次に示されているように看護学科の概要、教育課程、履修要領等が掲載されています。特に授業内容の詳細は、担当教員があらかじめ学生に示す教育プラン（目的・目標・内容・授業方法等）で、皆さんにとっては、学習計画や履修科目を選択するうえで、最も基本的な資料となります。科目の目的や内容をしっかり理解するとともに、各科目がどのように関連しているかも考慮したうえで、自らの学習プランを立ててください。

大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するとしています。時間割は、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として講義及び演習は15～30時間で組まれています。残りの時間については、学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間で、一つの授業科目の内容を確実に理解するには、その時間が極めて重要です。

この冊子を見れば、どの時期にどんな内容について学習するかが分かりますので、積極的に活用してください。

理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

教育の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

方針

1. 良き医療人育成プログラムの実践
2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
4. 学習環境と教育環境の充実

ディプロマ・ポリシー

絶え間なく変化する社会のニーズに対応し、地域社会に貢献することができる看護師・保健師を育成する。所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修の上、履修要領で定められた卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。卒業時には以下の能力が求められる。

1 倫理観、態度、意欲

生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観を持ち、自ら学習し成長し続ける姿勢を身につけている。

2 創造性、探究力、国際的視野

幅広い教養と国際的視点から看護に関する課題を探究できる。

3 知識、批判的思考力

対象者の健康、環境に関する知識を修得し、諸問題を科学的根拠や批判的思考に基づいて検討できる。

4 実践力、応用力、共感能力

対象者の健康状態と生活を的確にとらえ、人への尽きない関心と思いやりをもって看護技術を提供できる実践力を身につけている。

5 コミュニケーション能力、チームマネジメント

地域社会における健康課題を把握し、保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントができる。

カリキュラム・ポリシー

医学部看護学科であることを最大限に生かし、医学教育と連携して、ディプロマ・ポリシーの5つの能力を習得するために看護教育カリキュラムを構成する。

1 教育内容

- (1) 系統的・段階的に学修できるよう、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3つの区分を設け、カリキュラムを構成する。
- (2) 基礎分野は、「人間・社会の理解」及び「国際理解」の区分で構成し、看護職者に求められる豊かな人間性の基盤となる倫理観や学び続ける姿勢、国際的視野、批判的思考力及びコミュニケーション能力を養う。また、医学看護学合同科目を配置し、多職種連携の基盤を育成する。
- (3) 専門基礎分野は、「生活・環境の理解」及び「健康の理解」の区分で構成し、対象者の健康・看護の基礎となる知識を養う。
- (4) 専門分野は、「看護学の基本」、「看護学の展開」、「看護学の発展と探求」及び「公衆衛生看護学」の区分で構成する。「看護学の基本」、「看護学の展開」及び「公衆衛生看護学」では、修得した知識を基盤とする批判的思考力、実践力、応用力及び共感能力を養う。「看護学の発展と探求」では、それまで養った能力を統合・発展させ、看護研究能力やマネジメント能力を養う。

2 教育方法

授業形態は講義・演習・実習とし、特に専門分野においては、概論・援助論の構成で理論と実践が融合できる配置とする。主体的な学習を推進するために、アクティブラーニングを基本とする多様な学修方法の提供を行う。

3 学習成果の評価

各科目の学習成果は、シラバスに定めるとおり、定期試験、レポート、実技及び授業への取り組み状況等によって評価することとし、成績の評価基準は、本学医学部看護学科授業科目履修要領に定める。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学は、医療の分野において看護学の立場から社会に貢献できる人材を育成するため、次のような資質を持った人を求めています。

<医学部看護学科が求める学生像>

1 自らを律し、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人

看護は人々の健康にかかわる日々の生活を支える営みであり、対象となる人の考えや気持ちを理解し、信頼関係を築くことが大切です。そのために、人との交流を大切にし、多様な価値観を受け入れ、他者と信頼関係を築ける豊かな人間性と高い倫理観を持つことを求めます。

2 幅広い知識と確かな基礎学力を有し、看護学への興味と科学的探究心をもって学習に取り組める人

看護の専門的知識を学ぶためには、その前提となる基礎学力を身につけておく必要があります。そのうえで、看護の対象となる人を多面的に理解して、科学的根拠のある看護を探究し、努力を惜しまず学習する姿勢を求めます。

3 国際的な視野で考え行動できるとともに、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意と行動力のある人

人々の健康を取り巻く社会は目まぐるしく変化します。地域のみならず国際社会に関心を持ち、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意をもって行動できる人を求めます。

4 奈良県立医科大学を愛し、その将来を担う志をもつ人

卒業生には、看護学とその関連領域においてマネジメント能力を発揮し活躍できることが期待されます。本学の理念および教育目標を十分に理解し、奈良県内の医療機関において看護職者として貢献する明確な目標をもっている人を求めます。

<入学者選抜の基本方針>

【一般選抜（前期日程）】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階において目指す基礎学力の達成度を測ります。また、個別学力検査では、小論文試験により、図表の解釈を含めた理解力、思考力、表現力及び論理的思考力等の看護学を学ぶために必要な能力を備えているかを評価し、面接試験により、学ぶ意欲や看護への関心を確認します。

【学校推薦型選抜】

卒後、奈良県内で活躍し、地域医療に貢献しようとする積極的な意志を持つ学生を対象とします。調査書、推薦書及び志望理由書によって、高等学校教育段階において目指す基礎学力の達成度と学習への意欲をみます。また、個別学力検査では、小論文試験により、理解力、思考力、表現力及び論理的思考力等の看護学を学ぶために必要な能力を備えているかを評価し、面接試験により、学ぶ意欲や看護への関心を確認します。

令和7年度 年間教務日程

日 程		学 事	備 考
令和7年	4 月 3 日(木)	在学生ガイダンス（予定）	
	4 月 7 日(月)	入学式	
	4 月 8 日(火)	新入生ガイダンス	
	4 月 9 日(水)	前期授業開始	
	7 月 23 日(水) ～ 7 月 29 日(火)	前期試験	
	7 月 30 日(水) ～ 9 月 18 日(木)	夏期休暇 ^[注1]	
	8 月 5 日(火) ～ 8 月 7 日(木)	追・再試験	
	8 月 25 日(月)		大学院入学試験（1次募集）
	9 月 8 日(月) ～ 9 月 12 日(金)	医学看護学合同教育科目集中講義 （次世代医療人育成論）	
	9 月 18 日(木)	解剖慰霊祭（予定）	
	9 月 19 日(金)	後期授業開始	
	10 月 24 日(金) ～ 10 月 26 日(日)	大学祭	
	11 月 22 日(土)		看護学科推薦入試（学校推薦型選抜） ^[注2]
	12 月 1 日(月)		大学院入学試験（2次募集）
	12 月 24 日(水) ～ 1 月 4 日(日)	冬期休暇	
令和8年	1 月 5 日(月)	後期授業再開	
	1 月 17 日(土) ～ 1 月 18 日(日)		大学入学共通テスト ^[注3]
	1 月 20 日(火) ～ 1 月 26 日(月)	後期試験	
	2 月 2 日(月) ～ 2 月 6 日(金)	医学看護学合同教育科目集中講義 （奈良学）	
	2 月 9 日(月) ～ 2 月 13 日(金)	追・再試験	
	2 月 25 日(水) ～ 2 月 26 日(木)		一般選抜（前期日程）試験 ^[注3]
	3 月 12 日(木) ～ 3 月 13 日(金)		一般選抜（後期日程）試験 ^[注3]
	3 月 16 日(月)	卒業式（予定）	
	3 月 17 日(火) ～ 入学式前日	春期休暇	

[注1] 夏期休暇期間中に集中講義、追・再試験及び2～4年生の臨地実習を行う。
ただし、4年生の臨地実習については、保健師課程履修者を対象とする。

[注2] 準備に当たる日は、授業終了以降、校舎内への立入禁止
入学試験当日は、終日校舎内への立入禁止

[注3] 入学試験及び準備に当たる日は、学内への立入禁止

令和7年度 看護学科 学事運営計画

令和7年

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 火	1 木	1 木	1 火	1 日	1 日	1 火	1 火	1 金	1 火	1 月	3年生 看護学実習開始 公立看護専門学校 (集中実習) 開始	1 火	1 土	1 土	1 月	1 月	【大学入学試】	1 木	元日	1 日	医学科推薦入試	1 日	
2 水	2 金	2 金	2 水	2 月	2 月	2 水	2 水	2 土	2 木	2 火		2 木	2 日	2 日	2 火	2 火		2 金	2 月	2 月	2 月	2 月	
3 木	在学ガイダンス	3 土	3 木	3 火	3 火	3 木	3 木	3 日	3 金	3 水		3 金	3 月	文化の日	3 水	3 水		3 土	3 土	3 火	奈良学	3 火	
4 金		4 日	4 金	4 水	4 水	4 金	4 金	4 月	4 土	4 木		4 土	4 火		4 木	4 木		4 日	4 日	4 水		4 水	保健師課程選抜試験 (予定)
5 土		5 月	5 土	5 木	5 木	5 土	5 土	5 火	5 金	5 金		5 日	5 水		5 金	5 金		5 月	授業期間	5 木		5 木	
6 日		6 火	6 日	6 金	6 金	6 日	6 日	6 水	6 土	6 土		6 日	6 木		6 土	6 土		6 火		6 金		6 金	
7 月	入学式	7 水	7 月	7 土	7 土	7 月	7 月	7 木	7 火	7 日		7 火	7 金		7 日	7 日		7 水	7 土	7 土		7 土	
8 火	新生活ガイダンス	8 木	8 火	8 日	8 日	8 火	8 火	8 金	8 水	8 月		8 水	8 土		8 月	8 月		8 木		8 日		8 日	
9 水		9 金	9 水	9 月	9 月	9 水	9 水	9 土	9 土	9 火		9 水	9 日		9 火	9 火		9 金		9 月		9 月	
10 木		10 土	10 木	10 火	10 火	10 木	10 木	10 日	10 金	10 金		10 金	10 月		10 水	10 水		10 土		10 火	後期選考試験期間	10 火	
11 金		11 日	11 金	11 水	11 水	11 金	11 金	11 月	11 土	11 土		11 土	11 火		11 木	11 木		11 日		11 水	建国記念の日	11 水	立入禁止日(※2)
12 土		12 月	12 土	12 木	12 木	12 土	12 土	12 火	12 金	12 日		12 日	12 水		12 金	12 金		12 月	成人の日	12 木		12 木	後期入試(注◆)
13 日		13 火	13 日	13 金	13 金	13 日	13 日	13 水	13 土	13 土		13 月	13 木		13 土	13 土		13 火		13 金		13 金	
14 月		14 水	14 月	14 土	14 土	14 月	14 月	14 木	14 火	14 日		14 火	14 金		14 日	14 日		14 水		14 土		14 土	
15 火		15 木	15 火	15 日	15 日	15 火	15 火	15 金	15 土	15 月		15 水	15 土		15 月	15 月		15 木		15 日		15 日	
16 水		16 金	16 水	16 月	16 月	16 水	16 水	16 土	16 火	16 火		16 土	16 日		16 火	16 火		16 金	立入禁止日(※2)	16 金		16 月	卒業式(予定)
17 木		17 土	17 木	17 火	17 火	17 木	17 木	17 日	17 金	17 土		17 金	17 月		17 水	17 水		17 土		17 火		17 火	春期試験開始
18 金		18 日	18 金	18 水	18 土	18 金	18 金	18 月	18 土	18 日		18 土	18 火		18 日	18 日		18 月		18 水		18 水	
19 土		19 月	19 土	19 火	19 火	19 土	19 土	19 水	19 日	19 金		19 日	19 水		19 月	19 金		19 月		19 木		19 木	
20 日		20 火	20 日	20 金	20 金	20 日	20 日	20 水	20 土	20 土		20 月	20 木		20 土	20 土		20 火		20 金	3年生 看護学実習 終了	20 金	春分の日
21 月		21 水	21 月	21 土	21 土	21 月	21 月	21 木	21 火	21 日		21 火	21 金	立入禁止日(※1)	21 日	21 日		21 水		21 土		21 土	
22 火		22 木	22 火	22 日	22 日	22 火	22 火	22 金	22 土	22 月		22 水	22 土		22 月	22 月		22 木	後期試験期間	22 日		22 日	
23 水		23 金	23 水	23 月	23 月	23 水	23 水	23 土	23 火	23 火		23 土	23 日		23 火	23 火		23 金		23 月	天皇誕生日	23 月	
24 木		24 土	24 木	24 火	24 火	24 木	24 木	24 日	24 金	24 水		24 金	24 月	振替休日	24 水	24 水		24 土		24 火	立入禁止日(※2)	24 火	
25 金		25 日	25 金	25 水	25 土	25 金	25 金	25 月	25 土	25 土		25 土	25 火		25 木	25 木		25 日		25 水	前入試	25 水	
26 土		26 月	26 土	26 火	26 火	26 土	26 土	26 日	26 日	26 金		26 日	26 水		26 金	26 金		26 月	後期試験期間	26 木		26 木	
27 日		27 火	27 日	27 金	27 金	27 日	27 日	27 水	27 土	27 土		27 月	27 木		27 土	27 土		27 火		27 金		27 金	
28 月		28 水	28 月	28 土	28 土	28 月	28 月	28 木	28 火	28 日		28 火	28 金		28 日	28 日		28 水		28 土		28 土	
29 火	昭和の日	29 木	29 火	29 日	29 日	29 火	29 火	29 金	29 土	29 月		29 水	29 土		29 月	29 月		29 木		29 日		29 日	
30 水		30 金	30 水	30 月	30 月	30 水	30 水	30 土	30 火	30 日		30 木	30 日		30 火	30 火		30 金	立入禁止日(※3)	30 金		30 月	
		31 土	31 土			31 木	31 木	31 日				31 金			31 水	31 水		31 土	医学科推薦入試	31 土		31 火	
月	3	3	5	3	3	2	2	13	2	2		3	3	2	2	4		4		2	13		
火	2	3	4	4	4	4	4	13	1	4		4	4	4	4	4		4		2	15		
水	4	4	4	4	4	3	3	15	1	5		5	5	4	3	3		3		2	計		
木	3	5	4	4	4	3	3	15	1	4		5	5	4	4	4		4		2	15		
金	3	5	4	4	4	3	3	15	2	4		4	4	4	3	3		3		2	15		

注 立入禁止日について

【】は大学院

(※1)・・・試験準備のため、授業終了以降、校舎への立入禁止

(※2)・・・試験準備のため、学内への立入禁止

(※3)・・・試験準備のため、13時以降、試験使用教室への立入禁止

注◆・・・3/12,13の後期入試は、医学科のみ

令和7年度看護学科時間割

<別紙>

【前期】

月					火					水					木					金						
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
1 年 生	人間発達論	健康運動学 A	生物学		人体機能学	看護学概論	病態医学Ⅰ	看護援助の基本		人体構造学	C o E P m g u n i p i s o c h s a e t f o r s i o v r e	医療に 関わる 倫理学 I A	情報科学	アジア文化論	化学	C o E P m g u n i p i s o c h s a e t f o r s i o v r e	哲学	国際情勢論								
		健康運動学 B					教育実践論 A	医療に 関わる 倫理学 I B																		
		①次世代医療人育成論を、9月8日(月)～9月12日(金)で開講 ②家族社会学を8月28日(木)・29日(金)で開講 ③健康診断を4月25日(金)に実施 ④B型肝炎ワクチンは、1回目を7月1日(火)、2回目を7月29日(火)～8月1日(金)に接種予定																								
2 年 生	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	精神看護学概論	微生物学		英語表現法 I A	英語表現法 I B	基礎薬理学			小児看護学概論	病態医学Ⅲ	成人看護学概論			健康障害と看護	母性看護学概論	病態医学Ⅲ	老年看護学概論	公衆衛生看護学概論	看護技術学Ⅱ	ヘルスアセスメント					
	①基礎看護学実習Ⅱの場外実習は、8月25日(月)～9月12日(金)に実施 ②健康診断を4月25日(金)に実施																									
	小児看護学援助論Ⅱ	老年看護学援助論Ⅱ			在宅看護学援助論	ヘルスプロモーションと 健康教育	成人看護学援助論Ⅲ (急性)	成人看護学援助論Ⅳ (慢性)		医療安全	母性看護学援助論Ⅱ	精神看護学援助論Ⅱ	保健統計学Ⅰ	保健統計学Ⅱ		公衆衛生概論										
①健康診断を4月25日(金)に実施																										
3 年 生	公衆衛生看護学管理論	産業保健活動論	学校保健活動論		国際看護論Ⅱ	国際看護論Ⅰ	看護管理論	保健医療福祉行政論Ⅰ	保健医療福祉行政論Ⅱ	看護研究特論	看護研究	看護研究特論	看護研究	看護研究特論	看護学Ⅰ 医療論	看護学Ⅱ 医療論	公衆衛生看護学 保健指導論Ⅰ	公衆衛生看護学 保健指導論Ⅱ	公衆衛生看護学 活動展開論	公衆衛生看護学 保健指導論Ⅲ	公衆衛生看護学 活動展開論	公衆衛生看護学 活動展開論	公衆衛生看護学 活動展開論	公衆衛生看護学 活動展開論	公衆衛生看護学 活動展開論	
	①総合実習・6月22日(月)～6月27日(金) ②保健師課程履修者・実習Ⅱ(市町村)は、5月～10月に地区踏査・現地OR・家庭訪問(継続訪問含む)を実施。実習Ⅰ(保健所)4大学合同ORは8月25日(火)で終日参加。(産業)は10～11月のうち2日間実習予定。(学校)は10～11月のうち2日間実習予定。 ③健康診断を4月25日(金)に実施																									

※ 非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※ 不合格となった科目については、次年度以降の時間割の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に開講

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

←前半または後半に開講される科目

←複数クラスに分かれて開講される科目

←選択科目

←対象学生のみ必修科目

【後期】

月					火					水					木					金																													
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																									
1 年 生	臨床心理学	健康運動学 A	健康運動学 B	日本国憲法	看護医学Ⅱ	看護技術学ⅠA	看護技術学ⅠB	看護医学Ⅰ	生化学	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論	看護過程論																								
																										看護医学Ⅱ	看護技術学ⅠA	看護技術学ⅠB																					
		基礎看護学実習Ⅰは11月～1月にかけて実施(臨地実習は、12月23日(火)、24日(水)、25日(木)に実施) ②奈良学を2月2日(月)～2月6日(金)で開講 ③B型肝炎ワクチンは、3回目を11月18日(火)～21日(金)に接種予定																																															
2 年 生	在宅看護学概論	家族看護学	英語表現法ⅡA	英語表現法ⅡB	母性看護学援助論Ⅰ	精神看護学援助論Ⅰ	成人看護学援助論Ⅰ(急性性)助産Ⅰ	看護倫理学	小児看護学援助論Ⅰ	成人看護学援助論Ⅱ(慢性性)助産Ⅱ	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	老年看護学援助論Ⅰ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ																								
																										看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	
																										看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ	看護学Ⅱ
3 年 生	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)																								
																										臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)
																										臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)
4 年 生	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)																								
																										臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)
																										臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)	臨地実習(グループ別に実施)
①保健師課程履修者：実習Ⅰ(保健所)と(併地)は9月22日(月)～10月3日(金)のうち各2日間で実習予定。 ②災害看護論は別途通知 ③緩和ケア論は別途通知																																																	

※ 非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※ 不合格となった科目については、次年度以降の時間の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に開講

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

←対象学生のみ必修科目

←選択科目

←履修される科目

←前半または後半に開講される科目

1 看護学科の概要

1) 設置の趣旨

近年、医療の高度化・専門化、急速な人口の高齢化をはじめ、看護をめぐる状況の急速な変化により、質の高い看護の提供が求められるとともに、介護保険サービス、子育て支援など、保健・福祉の分野においても、これまで以上に看護に対するニーズが高まっている。そのため、高度な専門知識・実践能力、豊かな人間性を備え、幅広い視野で問題に対応できる人材の育成が求められる。

本県においては、平成8年度から地域医療の中核機関である奈良県立医科大学に看護短期大学部を併設し、看護師及び助産師の養成を進めてきた。今後も引き続きその責務を果たし、さらに発展させていくには、豊かな人間性を育てる教育の強化を図るとともに、効率的なカリキュラムのもとで、看護学及び助産学の教育に保健学の分野も加えて教育し、専門教育をさらに充実させる必要がある。併せて、地域医療・福祉の向上に寄与するため、看護学の研究体制の充実強化も図る必要がある。

このような状況をふまえ、平成16年4月、奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科（3年制課程）及び専攻科助産学専攻（1年課程）を統合発展させる形で、奈良県立医科大学医学部看護学科を設置した。

2) 基本的な考え方

看護職の業務は、人間関係の信頼と人間愛にもとづき、人道主義の概念が基盤にあってなし得るもので、看護を受ける個人や家族、地域集団の健康に関する諸問題に対し、支援する職務でもある。看護職にある者は、自己の業務範囲である機能と役割を真摯に受けとめ、看護の知識と、熟練した技術を追求し、看護を実践する能力を持ち合わせる必要がある。

そのため、絶え間なく変化する社会のニーズに対応することが出来るように、常に幅広い知識と国際感覚を身につけ、保健・医療・福祉の各領域との連携を密に、地域社会に貢献し得る人材を育成する。

3) 学科の特色

本学は、奈良県中央の大和三山に囲まれた緑豊かな場所に位置し、利便性においても交通網に恵まれたのどかな地にあり、奈良県民の健康管理面の中枢機関として地域社会に貢献してきた。また、古くは、飛鳥時代の聖徳太子や奈良時代の光明皇后が病める人々に慈愛の看護を施されたといわれるなど、当地は看護の発祥の地とも言える。この歴史ある地に、この度設置された医学部看護学科は、高度医療に対応した看護実践能力の継承発展と、豊かな心の涵養を軸とした人間形成の開智に向け、大学全体が関わり、幅広く深い教養と総合的判断力を持った看護の専門職者として、積極的に社会に貢献しうる能力を持つ人材を育成する。

- (1) 卒業生全員が看護師の国家試験受験資格を取得するとともに、希望者は科目の選択により、保健師の国家試験受験資格を取得することができる。
- (2) 本学の教育研究機能の積極的活用を図り、県内における看護職者との教育・研究等の交流を通して、看護に関する生涯教育の拠点としての役割を担う。
- (3) 看護や保健の分野で公開講座を開催し、県民福祉の向上に寄与する。

4) 教育目標

絶え間なく変化する社会のニーズに対応することが出来るよう豊かな人間性に基づいた高い倫理観、国際的視点を持った旺盛な科学的探究心、看護の知識と修得した看護技術を対象者に応じて実践する能力を身につけ、保健・医療・福祉の各領域との連携を密に、地域社会に貢献し得る人材を育成する。

5) 入学定員、修業年限及び学位

	定員	修業年限	学位
入学定員	85人	4年	学士（看護学）

6) 取得できる資格

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（選択により取得可能）

2 看護学科の教育課程

本学の教育目標を達成するために、授業科目を、人間・社会の理解、国際理解、生活・環境の理解、健康の理解、看護学の基本、看護学の展開、看護学の発展と探究、公衆衛生看護学の8区分とし、教育課程を構成している。開設する科目、単位数、時間数及び履修年次については、15～24頁の看護学科教育課程のとおりである。

奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日。以下「学則」という。）第8条の規定により、奈良県立医科大学医学部看護学科の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目等)

第2条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表のとおりとする。

(科目の履修)

第3条 学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。

2 学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。

3 科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。

4 単位を修得した科目は、再び履修することはできない。

5 入学前に他の大学等において修得した単位の認定については「奈良県立医科大学入学前の既修得単位の認定に関する規程」による。

(履修科目の制限等)

第4条 看護学実習科目については、次の要件を満たさなければ、履修することができない

一 基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、「健康の理解」に含まれる人体構造学・人体機能学、「看護学の基本」に含まれる科目のうち、第1年次に開講される科目（看護学概論・看護援助の基本・看護技術学Ⅰ・フィジカルアセスメント・看護過程論・基礎看護学実習Ⅰ）をすべて修得済みあるいは修得見込みであること。また、原則として、第2年次に開講される科目（看護技術学Ⅱ・健康障害と看護・ヘルスアセスメント）を修得済みあるいは修得見込みであること。

二 第3年次後期から始まる各看護学実習科目を履修するためには、第3年次前期終了までに開講される必修科目のうち別表に示す科目をすべて修得していること。

ただし、別表の目的区分の「人間・社会の理解」「国際理解」「生活・環境の理解」「健康の理解」の必修科目において、5単位以内の未修得科目があっても、各看護学実習科目を履修できるものとする。また、教育課程の変更等でやむを得ない事由が生じた場合は別段の判断を行うことがある。

三 統合実習を履修するためには、第3年次後期までに開講されているすべての看護学実習科目を修得しなければならない。

ただし、未修得の看護学実習科目が1科目の場合は、別段の判断を行うことがある。

2 第4年次で開講する保健師課程に関する科目を選択できる学生は20人以内とし、履修方法及び選考方法等については、別に定める。ただし、公衆衛生看護学実習を履修するためには、第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師課程科目(公衆衛生看護学実習を除く。)をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

3 その他の科目についても、履修学生数等を定めることがある。

(単位の計算方法)

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

一 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

二 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、15時間をもって1単位とすることができる。

三 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(卒業の要件)

第6条 看護学科を卒業するためには、4年（転入学生、再入学生については別に定める期間）以上在学し、必修科目と選択科目を併せて令和3年度以前入学生にあつては128単位以上、令和4年度以降入学生にあつては131単位以上を修得しなければならない。

(単位認定試験等の受験資格)

第7条 学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定試験等を受験することはできない。

- 一 履修する科目の出席時間が、当該科目の授業時間数（公欠を許可された期間は含めないが、補講等が実施された場合は含む。）の3分の2（実習科目にあつては5分の4）以上の者
- 二 出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認めた者

(成績の評価)

第8条 成績の評価は、試験（定期試験、随時試験）の結果及び授業への取り組み状況等によって判定する。試験は、筆記、口述、レポート、実技等より行われる。成績の表示は100点を満点とし、次の基準により行う。

ただし、看護学実習科目の単位の認定については、別に実習要綱で定める。

100～80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

- 2 追試験は、定期試験の受験資格を有する者が、疾病その他のやむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった場合に、願い出により行う。
なお、追試験による評価及び成績の表示は、前項により行う。
- 3 前項の規定は、当該定期試験が開始されるまでに教育支援課に連絡した場合に適用する。
なお、適用を受け追試験を受けようとする者は、所定の追試験受験申請書に医師の診断書その他理由を証する書類を添えて、診断書による療養期間終了後すみやかに学長に提出しなければならない。
- 4 再試験は、定期試験が不合格となった者に対して、担当教員が認めた場合に限り、願い出により行うことがある。
ただし、再試験による成績の評価は、第1項により行うが、成績の表示は、次の基準により行う。

60点	60点未満
可	不可

- 5 前項の規定により再試験を受けようとする者は、所定の再試験受験申請書を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第9条 科目の単位認定は、成績の評価により、優、良及び可を「合格」、不可を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。

- 2 単位の認定は、授業科目の担当教員から提出された成績資料に基づき、成績判定会議で審議を行う。
- 3 成績判定会議は、看護学科教授をもって組織する。
- 4 単位の認定は、看護学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学科教授会議で報告するものとする。

(試験における不正行為)

第10条 試験において不正行為があつたときは、当該科目の試験を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(雑 則)

第11条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要領は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 3 項の規定は、平成 26 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

附 則

この要領は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 2 項の規定は、平成 27 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

附 則

この要領は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この要領は、令和 4 年 1 月 18 日から施行する。

2 第 8 条第 2 項に規定する追試験の成績表示は、令和 4 年 1 月 1 日から適用する。

附 則

この要領は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

別表 医学部看護学科の教育課程（令和6年度以降入学生）

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2 *	30	1	■							59	必修 13単位 選択 1単位以上
		医療に関わる倫理学Ⅰ	★ 2 *	30	1	■							61	
		臨床心理学	★ 2 *	30	1		■						63	
		教育実践論	★ 2 *	30	1	■							69	
		奈良学	★ 1 *	30	1		■						73	
		次世代医療人育成論	★ 1 *	30	1	■							74	
		カウンセリング論	1 *	30	2				■				131	
		情報科学	2 *	30	1	■							75	
		哲学	★	2	30	1	□						77	
		医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1		□					79	
		日本国憲法	※	2	30	1		□					81	
		家族社会学		1	15	1	□						83	
		国際情勢論		2	30	1	□						85	
		異文化論	★	2	30	1	□						-	
専門基礎分野	国際理解	English for Communicative Purposes	4 *	120	1	■	■						87	必修 8単位
		英語表現法Ⅰ	1 *	30	2			■					133	
		英語表現法Ⅱ	1 *	30	2				■				136	
		アジア文化論	★ 1 *	30	1	■							91	
		西洋文化論	★ 1 *	30	1		■						94	
	生活・環境の理解	微生物学	2 *	30	2			■					139	必修 8単位 選択 1単位以上 (生物学又は化学から選択)
		社会福祉と医療法規	★ 2 *	30	1		■						97	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	2	30	4							■	235	
		公衆衛生概論	1 *	15	3					■			197	
		保健統計学Ⅰ	1 *	15	3					■			199	
		生物学		1	15	1	□						99	
		化学		1	15	1	□						101	
		疫学		2	30	4						□	237	
		保健医療福祉行政論Ⅱ		2	30	4						□	239	
		保健統計学Ⅱ	●	1	15	3					□		201	
	健康の理解	健康科学	1 *	15	1	■	■						103	必修 23 単位
		健康運動学	1 *	45	1	■	■						105	
		人体構造学	2 *	30	1	■							106	
		人体機能学	2 *	30	1	■							108	
		生化学	2 *	30	1		■						110	
		栄養学	2 *	30	1		■						112	
		病態医学Ⅰ	2 *	30	1	■	■						114	
		病態医学Ⅱ	4 *	60	1		■						116	
		病態医学Ⅲ	4 *	60	2			■					141	
		基礎薬理学	1 *	15	2			■					144	
専門分野	看護学の基本	臨床薬理学	2 *	30	2				■				146	必修 14 単位
		看護学概論	1 *	15	1	■							118	
		看護倫理学	1 *	15	2				■				148	
		看護援助の基本	1 *	15	1	■							120	
		看護技術学Ⅰ	1 *	30	1		■						122	
		看護技術学Ⅱ	1 *	30	2			■					150	
		フィジカルアセスメント	1 *	15	1		■						124	
		健康障害と看護	1 *	15	2			■					152	
		ヘルスアセスメント	1 *	15	2			■					154	
		看護過程論	2 *	30	1		■						126	
		医療安全	1 *	15	3					■			203	
		基礎看護学実習Ⅰ	1 *	45	1	■	■						129	
		基礎看護学実習Ⅱ	2 *	90	2			■	■				156	

目的区分		授業科目の名称	単位数		時間数	学年	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
			必修	選択			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後			
専門分野	地域・在宅看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2					■				157	必修 63単位	
		在宅看護学援助論	2 *		60	3						■			205		
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3						■			209		
		在宅看護学実習	2		90	3							■		211		
	成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2				■					160		
		成人看護学援助論Ⅰ（急性）	1 *		30	2					■				163		
		成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	1 *		30	2					■				165		
		成人看護学援助論Ⅲ（急性）	1 *		30	3						■			213		
		成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	1 *		30	3						■			217		
		成人看護学実習Ⅰ（急性）	3		135	3							■		218		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3		135	3							■		219		
		老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2				■						167
			老年看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2					■					169
			老年看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3						■				220
	老年看護学実習		4		180	3							■		222		
	小児看護学	小児看護学概論	2 *		30	2				■					171		
		小児看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2					■				173		
		小児看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3						■			223		
		小児看護学実習	2		90	3							■		225		
	母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2				■					175		
		母性看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2					■				177		
		母性看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3						■			226		
		母性看護学実習	2		90	3							■		228		
	精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2				■					179		
		精神看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2					■				182		
		精神看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3						■			229		
		精神看護学実習	2		90	3							■		232		
	看護学の発展と探求	応用看護学	1 *		15	4								■	241		
		看護管理論	1		15	4								■	242		
		リハビリテーション看護	1 *		15	4								■	244		
		家族看護学	2 *		30	2				■					185		
		看護研究特論	1		30	4							■		246		
		看護研究	2		60	4								■	248		
		統合実習	2		90	4							■		249		
		災害看護論	1		15	4								■	251		
		チーム医療論	★ 1		30	4								■	253		
		国際看護論Ⅰ	1		15	4								■	255		
		国際看護論Ⅱ		1	30	4								□ □	257		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2				■					187		
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2 *		30	2				■					189		
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2					□				191		
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2					□				193		
		公衆衛生看護学活動展開論		4	60	4							□		259		
		公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ		2	30	4							□		262		
		公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ		2	30	4							□		264		
		産業保健活動論		1	15	4								□	266		
		学校保健活動論		1	15	4								□	268		
		公衆衛生看護管理論		2	30	4								□	270		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	90	4								□ □	272		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	135	4								□ □	273		
合計			129	39			開講時期を■または□で表示。（■は必修、□は選択）								131単位以上 必修 129単位 選択 2単位		

卒業に必要な単位数 131単位（認定単位を含む）

（注）

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（25単位）。
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計4単位）を修得しておかなければならない。
- ・したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は156単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表 医学部看護学科の教育課程 (令和5年度入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2 *	30	1	■							59	必修 13単位 選択 1単位以上
		医療に関わる倫理学Ⅰ	★ 2 *	30	1	■							61	
		臨床心理学	★ 2 *	30	1		■						63	
		教育実践論	★ 2 *	30	1	■							69	
		奈良学	★ 1 *	30	1		■						73	
		次世代医療人育成論	★ 1 *	30	1	■							74	
		カウンセリング論	1 *	30	2				■				131	
		情報科学	2 *	30	1	■							75	
		哲学	★	2	30	1	□						77	
		医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1		□					79	
		日本国憲法	※	2	30	1		□					81	
		家族社会学		1	15	1	□						83	
		国際情勢論		2	30	1	□						85	
		異文化論	★	2	30	1	□						-	
専門基礎分野	国際理解	臨床英語Ⅰ	2 *	60	1	■							-	必修 8単位
		臨床英語Ⅱ	2 *	60	1		■						-	
		英語表現法Ⅰ	1 *	30	2			■					133	
		英語表現法Ⅱ	1 *	30	2				■				136	
		アジア文化論	★ 1 *	30	1	■							91	
		西洋文化論	★ 1 *	30	1		■						94	
	生活・環境の理解	微生物学	2 *	30	2			■					139	必修 8単位 選択 1単位以上 (生物学又は化学から選択)
		社会福祉と医療法規	★ 2 *	30	1		■						97	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	2	30	4						■	■	235	
		公衆衛生概論	1 *	15	3					■			197	
		保健統計学Ⅰ	1 *	15	3					■			199	
		生物学		1	15	1	□						99	
		化学		1	15	1	□						101	
		疫学		2	30	4						□	237	
		保健医療福祉行政論Ⅱ	2	30	4							□	239	
		保健統計学Ⅱ	● 1	15	3					□			201	
	健康の理解	健康科学	1 *	15	1	■	■						103	必修 23 単位
		健康運動学	1 *	45	1	■	■						105	
		人体構造学	2 *	30	1	■							106	
		人体機能学	2 *	30	1	■							108	
		生化学	2 *	30	1		■						110	
		栄養学	2 *	30	1		■						112	
		病態医学Ⅰ	2 *	30	1	■	■						114	
		病態医学Ⅱ	4 *	60	1		■						116	
		病態医学Ⅲ	4 *	60	2			■					141	
		基礎薬理学	1 *	15	2			■					144	
		臨床薬理学	2 *	30	2				■				146	
専門分野	看護学の基本	看護学概論	1 *	15	1	■							118	必修 14 単位
		看護倫理学	1 *	15	2				■				148	
		看護援助の基本	1 *	15	1	■							120	
		看護技術学Ⅰ	1 *	30	1		■						122	
		看護技術学Ⅱ	1 *	30	2			■					150	
		フィジカルアセスメント	1 *	15	1		■						124	
		健康障害と看護	1 *	15	2			■					152	
		ヘルスアセスメント	1 *	15	2			■					154	
		看護過程論	2 *	30	1		■						126	
		医療安全	1 *	15	3					■			203	
		基礎看護学実習Ⅰ	1 *	45	1	■	■						129	
		基礎看護学実習Ⅱ	2 *	90	2			■	■				156	

目的区分		授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な 単位数
			必修	選択		学年	1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後					
専門分野	地域・在宅看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2				■				157	必修 63単位
		在宅看護学援助論	2 *		60	3					■			205	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3					■			209	
		在宅看護学実習	2		90	3						■		211	
	成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2			■					160	
		成人看護学援助論Ⅰ（急性）	1 *		30	2				■				163	
		成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	1 *		30	2				■				165	
		成人看護学援助論Ⅲ（急性）	1 *		30	3					■			213	
		成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	1 *		30	3					■			217	
		成人看護学実習Ⅰ（急性）	3		135	3						■		218	
		成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3		135	3						■		219	
		老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2			■					
	老年看護学援助論Ⅰ		1 *		30	2				■				169	
	老年看護学援助論Ⅱ		1 *		30	3					■			220	
	老年看護学実習		4		180	3						■		222	
	小児看護学	小児看護学概論	2 *		30	2			■					171	
		小児看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				173	
		小児看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			223	
		小児看護学実習	2		90	3						■		225	
	母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2			■					175	
		母性看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				177	
		母性看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			226	
		母性看護学実習	2		90	3						■		228	
	精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2			■					179	
		精神看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				182	
		精神看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			229	
		精神看護学実習	2		90	3						■		232	
	看護学の発展と探求	応用看護学	1 *		15	4							■	241	
		看護管理論	1		15	4							■	242	
		リハビリテーション看護	1 *		15	4							■	244	
		家族看護学	2 *		30	2				■				185	
		看護研究特論	1		30	4							■	246	
		看護研究	2		60	4							■	248	
		統合実習	2		90	4							■	249	
		災害看護論	1		15	4							■	251	
		チーム医療論	★ 1		30	4							■	253	
		国際看護論Ⅰ	1		15	4							■	255	
		国際看護論Ⅱ		1	30	4							□ □	257	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2			■					187	
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2 *		30	2			■					189	
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2				□				191	
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2				□				193	
		公衆衛生看護学活動展開論		4	60	4						□		259	
		公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ		2	30	4						□		262	
		公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ		2	30	4						□		264	
		産業保健活動論		1	15	4						□		266	
		学校保健活動論		1	15	4						□		268	
		公衆衛生看護管理論		2	30	4						□		270	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	90	4						□ □		272	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	135	4						□ □		273	
合計			129	39			開講時期を■または□で表示。（■は必修、□は選択）								131単位以上 必修 129単位 選択 2単位

卒業に必要な単位数 131単位（認定単位を含む）

（注）

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（25単位）。
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計4単位）を修得しておかなければならない。
- ・したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は156単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表 医学部看護学科の教育課程 (令和4年度入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2 *	30	1	■							59	必修 13単位 選択 1単位以上
		医療に関わる倫理学Ⅰ	★ 2 *	30	1	■							61	
		臨床心理学	★ 2 *	30	1		■						63	
		教育実践論	★ 2 *	30	1	■							69	
		奈良学	★ 1 *	30	1		■						73	
		次世代医療人育成論	★ 1 *	30	1	■							74	
		カウンセリング論	1 *	30	2				■				131	
		情報科学	2 *	30	1	■	■						75	
		哲学	★	2	30	1	□						77	
		医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1		□					79	
		日本国憲法	※	2	30	1		□					81	
		家族社会学		1	15	2			□				83	
		国際情勢論		2	30	1	□						85	
		異文化論	★	2	30	1	□						-	
専門基礎分野	国際理解	臨床英語Ⅰ	2 *	60	1	■							-	必修 8単位
		臨床英語Ⅱ	2 *	60	1		■						-	
		英語表現法Ⅰ	1 *	30	2			■					133	
		英語表現法Ⅱ	1 *	30	2				■				136	
		アジア文化論	★ 1 *	30	1	■							91	
		西洋文化論	★ 1 *	30	1		■						94	
	生活・環境の理解	微生物学	2 *	30	2			■					139	必修 8単位 選択 1単位以上 (生物学又は化学から選択)
		社会福祉と医療法規	★ 2 *	30	1		■						97	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	2	30	4						■	■	235	
		公衆衛生概論	1 *	15	3					■			197	
		保健統計学Ⅰ	1 *	15	3					■			199	
		生物学		1	15	1	□						99	
		化学		1	15	1	□						101	
		疫学		2	30	4						□	237	
	健康の理解	保健医療福祉行政論Ⅱ	2	30	4							□	239	必修 23単位
		保健統計学Ⅱ	● 1	15	3					□			201	
		健康科学	1 *	15	1	■	■						103	
		健康運動学	1 *	45	1	■	■						105	
		人体構造学	2 *	30	1	■							106	
		人体機能学	2 *	30	1	■							108	
		生化学	2 *	30	1		■						110	
		栄養学	2 *	30	1		■						112	
専門分野	看護学の基本	病態医学Ⅰ	2 *	30	1	■	■						114	必修 14単位
		病態医学Ⅱ	4 *	60	1		■						116	
		病態医学Ⅲ	4 *	60	2			■					141	
		基礎薬理学	1 *	15	2			■					144	
		臨床薬理学	2 *	30	2				■				146	
		看護学概論	1 *	15	1	■							118	
		看護倫理学	1 *	15	2				■				148	
		看護援助の基本	1 *	15	1	■							120	
		看護技術学Ⅰ	1 *	30	1		■						122	
		看護技術学Ⅱ	1 *	30	2			■					150	
		フィジカルアセスメント	1 *	15	1		■						124	
		健康障害と看護	1 *	15	2			■					152	
		ヘルスアセスメント	1 *	15	2			■					154	
		看護過程論	2 *	30	1		■						126	
		医療安全	1 *	15	3					■			203	
		基礎看護学実習Ⅰ	1 *	45	1	■	■						129	
		基礎看護学実習Ⅱ	2 *	90	2			■	■				156	

目的区分		授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次						頁	卒業に必要な 単位数			
			必修	選択		学年	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前			3年 後	4年 前	4年 後
専門分野	地域・在宅看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2				■					157	必修 63単位
		在宅看護学援助論	2 *		60	3					■			205		
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3					■			209		
		在宅看護学実習	2		90	3						■		211		
	成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2			■					160		
		成人看護学援助論Ⅰ（急性）	1 *		30	2				■				163		
		成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	1 *		30	2				■				165		
		成人看護学援助論Ⅲ（急性）	1 *		30	3					■			213		
		成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	1 *		30	3					■			217		
		成人看護学実習Ⅰ（急性）	3		135	3						■		218		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3		135	3						■		219		
		老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2			■					167	
			老年看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				169	
	老年看護学援助論Ⅱ		1 *		30	3					■			220		
	老年看護学実習		4		180	3						■		222		
	小児看護学	小児看護学概論	2 *		30	2			■					171		
		小児看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				173		
		小児看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			223		
		小児看護学実習	2		90	3						■		225		
	母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2			■					175		
		母性看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				177		
		母性看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			226		
		母性看護学実習	2		90	3						■		228		
	精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2			■					179		
		精神看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				182		
		精神看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			229		
		精神看護学実習	2		90	3						■		232		
	看護学の発展と探求	応用看護学	1 *		15	4							■	241		
		看護管理論	1		15	4							■	242		
		リハビリテーション看護	1 *		15	4							■	244		
		家族看護学	2 *		30	2			■					185		
		看護研究特論	1		30	4						■		246		
		看護研究	2		60	4							■	248		
		統合実習	2		90	4						■		249		
		災害看護論	1		15	4							■	251		
		チーム医療論	★ 1		30	4							■	253		
		国際看護論Ⅰ	1		15	4							■	255		
		国際看護論Ⅱ		1	30	4							□ □	257		
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2			■					187	
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ		2 *		30	2			■					189		
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ		●	2	30	2				□				191		
	公衆衛生看護学活動論Ⅲ		●	1	15	2				□				193		
	公衆衛生看護学活動展開論			4	60	4						□		259		
	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ			2	30	4						□		262		
	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ			2	30	4						□		264		
	産業保健活動論			1	15	4						□		266		
	学校保健活動論			1	15	4						□		268		
公衆衛生看護管理論			2	30	4						□		270			
公衆衛生看護学実習Ⅰ			2	90	4						□ □		272			
公衆衛生看護学実習Ⅱ			3	135	4						□ □		273			
合計			129	39			開講時期を■または□で表示。（■は必修、□は選択）							131単位以上 必修 129単位 選択 2単位		

卒業に必要な単位数 131単位（認定単位を含む）

（注）

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（25単位）。
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計4単位）を修得しておかなければならない。
- ・したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は156単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表 医学部看護学科の教育課程（令和2、3年度入学生）

目的区分		授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な 単位数		
			必修	選択		学年	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前			4年 後	
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2 *		30	1	■								59	必修 14単位 選択 1単位以上	
		医療に関わる倫理学Ⅰ	★	2 *	30	1	■								61		
		臨床心理学	★	2 *	30	1		■							63		
		教育実践論	★	2 *	30	1	■								69		
		奈良学	★	1 *	30	1		■							73		
		次世代医療人育成論	★	1 *	30	1	■								74		
		カウンセリング論		1 *	30	2				■					131		
		社会福祉と医療法規	★	2 *	30	1		■							97		
		保健医療福祉行政論Ⅰ		1 *	15	3					■				235		
		保健医療福祉行政論Ⅱ	●		2	30	3					□			239		
		哲学	★		2	30	1	□							77		
		医療に関わる倫理学Ⅱ	★		2	30	1		□						79		
		日本国憲法	※		2	30	1		□						81		
		家族社会学			1	15	2			□					83		
		国際情勢論			2	30	1	□							85		
		異文化論	★		2	30	1	□							-		
	国際理解	臨床英語Ⅰ	2 *		60	1	■								-	必修 8単位	
		臨床英語Ⅱ	2 *		60	1		■							-		
		英語表現法Ⅰ	1 *		30	2			■						133		
		英語表現法Ⅱ	1 *		30	2				■					136		
		アジア文化論	★	1 *	30	1	■								91		
		西洋文化論	★	1 *	30	1		■							94		
専門基礎分野	生活・環境の理解	微生物学	2 *		30	2			■						139	必修 4 単位	
		疫学		2	30	4							□		237		
		公衆衛生概論	1 *		15	3					■				197		
		保健統計学Ⅰ	1 *		15	3					■				199		
		保健統計学Ⅱ	●	1	15	3					□				201		
		生物学		1	15	1	□								99	選択 1 単位以上 (生物学または化学から選択)	
		化学		1	15	1	□								101		
		情報科学	※	2	30	1	□	□							75		
		健康科学	1 *		15	1	■	■							103		必修 23 単位
		健康運動学	1 *		45	1	■	■							105		
人体構造学	2 *		30	1	■								106				
人体機能学	2 *		30	1	■								108				
生化学	2 *		30	1		■							110				
栄養学	2 *		30	1		■							112				
病態医学Ⅰ	2 *		30	1	■	■							114				
専門基礎分野	健康の理解	病態医学Ⅱ	4 *		60	1		■							116	必修 23 単位	
		病態医学Ⅲ	4 *		60	2			■						141		
		基礎薬理学	1 *		15	2			■						144		
		臨床薬理学	2 *		30	2				■					146		
		看護学概論	1 *		15	1	■								118		必修 13 単位
		看護倫理学	1 *		15	2					■				148		
		看護援助の基本	1 *		15	1	■								120		
		看護技術学Ⅰ	1 *		30	1		■							122		
		看護技術学Ⅱ	1 *		30	2			■						150		
		フィジカルアセスメント	1 *		30	1		■							124		
健康障害と看護	1 *		15	2			■						152				
ヘルスアセスメント	1 *		15	2			■						154				
看護過程論	2 *		30	1		■							126				
専門分野	看護学の基本	基礎看護学実習Ⅰ	1 *		45	1	■	■						129			
		基礎看護学実習Ⅱ	2 *		90	2			■	■				156			

目的区分		授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数		
			必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前			4年後	
専門分野	看護学の展開	成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2			■					160	必修 42 単位	
			成人看護学援助論Ⅰ（急性）	1 *		30	2				■				163		
			成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	1 *		30	2				■				165		
			成人看護学援助論Ⅲ（急性）	1 *		30	3					■			213		
			成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	1 *		30	3					■			217		
			成人看護学実習Ⅰ（急性）	3		135	3						■		218		
			成人看護学実習Ⅱ（慢性）	3		135	3							■	219		
		老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2			■					167		
			老年看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				169		
			老年看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			220		
			老年看護学実習	4		180	3						■		222		
		小児看護学	小児看護学概論	2 *		30	2			■					171		
			小児看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				173		
			小児看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			223		
			小児看護学実習	2		90	3							■	225		
		母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2			■					175		
			母性看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				177		
			母性看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			226		
			母性看護学実習	2		90	3							■	228		
		精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2			■					179		
			精神看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				182		
			精神看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			229		
			精神看護学実習	2		90	3							■	232		
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2			■					187		
			公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2 *		30	2			■					189		
			公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2				□				191		
			公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2				□				193		
			公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□		259		
			公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ		2	60	4						□		262		
			公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ		1	30	4						□		264		
			産業保健活動論		1	15	4							□	266		
			学校保健活動論		1	15	4							□	268		
			公衆衛生看護管理論		2	30	4							□	270		
			公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	90	4							□	272		
			公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	135	4							□	273		
	看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	4							■	241		必修 22 単位
			看護管理論	1		15	4							■	242		
			リハビリテーション看護	1 *		15	4							■	244		
			家族看護学	2 *		30	2				■				185		
		統合看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2				■				157		
			在宅看護学援助論	2 *		60	3					■			205		
			在宅看護学実習	2		90	3						■		211		
			看護研究特論	1		30	4							■	246		
			看護研究	2		60	4							■	248		
			ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3					■			209		
			統合実習	2		90	4							■	249		
			災害看護論	1		15	4							■	251		
			チーム医療論	★	1	30	4							■	253		
			医療安全	1 *		15	3					■			203		
			国際看護論Ⅰ	1		15	4							■	255		
			国際看護論Ⅱ		1	30	4							□	257		
合計		126	38		開講時期を■または□で表示。（■は必修、□は選択）								128単位以上 必修 126単位 選択 2単位				

卒業に必要な単位数 128 単位（認定単位を含む）

（注）

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（22単位）。
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計6単位）を修得しておかなければならない。
したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表 医学部看護学科の教育課程（平成30年・31年度入学生）

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数
		必修	選択		学年	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	
基礎分野	人間・社会の理解	人間発達論	2 *	30	1	■							59	必修 14単位 選択 1単位以上
		医療に関わる倫理学Ⅰ	★ 2 *	30	1	■							61	
		臨床心理学	★ 2 *	30	1	■	■						63	
		教育実践論	★ 2 *	30	1	■							69	
		奈良学	★ 1 *	30	1	■	■						73	
		次世代医療人育成論	★ 1 *	30	1	■							74	
		カウンセリング論	1 *	30	2			■					131	
		社会福祉と医療法規	★ 2 *	30	1	■							97	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1 *	15	3					■			235	
		保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3				□			239	
		哲学	★	2	30	1	□						77	
		医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1	□						79	
		日本国憲法	※	2	30	1	□						81	
		家族社会学		1	15	3		□					83	
		国際情勢論		2	30	1	□						85	
		異文化論	★	2	30	1	□						-	
専門基礎分野	国際理解	臨床英語Ⅰ	2 *	60	1	■							-	必修 8単位
		臨床英語Ⅱ	2 *	60	1	■	■						-	
		英語表現法Ⅰ	1 *	30	2			■					133	
		英語表現法Ⅱ	1 *	30	2				■				136	
		アジア文化論	★ 1 *	30	1	■							91	
		西洋文化論	★ 1 *	30	1	■							94	
	生活・環境の理解	微生物学	2 *	30	2			■					139	必修 4 単位 選択 1 単位以上 (生物学または化学から選択)
		疫学		2	30	4						□	237	
		公衆衛生概論	1 *	15	3					■			197	
		保健統計学Ⅰ	1 *	15	3					■			199	
		保健統計学Ⅱ	●	1	15	3				□			201	
		生物学		1	15	1	□						99	
		化学		1	15	1	□						101	
		情報科学	※	2	30	1	□	□					75	
	健康の理解	健康科学	1 *	15	1	■	■						103	必修 23 単位
		健康運動学	1 *	45	1	■	■						105	
		人体構造学	2 *	30	1	■							106	
		人体機能学	2 *	30	1	■							108	
		生化学	2 *	30	1		■						110	
		栄養学	2 *	30	1		■						112	
		病態医学Ⅰ	2 *	30	1	■	■						114	
		病態医学Ⅱ	4 *	60	1		■						116	
		病態医学Ⅲ	4 *	60	2			■					141	
		基礎薬理学	1 *	15	2			■					144	
		臨床薬理学	2 *	30	2				■				146	
専門分野	看護学の基本	看護学概論	1 *	15	1	■							118	必修 13 単位
		看護倫理学	1 *	15	2				■				148	
		看護援助の基本	1 *	15	1	■							120	
		看護技術学Ⅰ	1 *	30	1		■						122	
		看護技術学Ⅱ	1 *	30	2			■					150	
		フィジカルアセスメント	1 *	30	1		■						124	
		健康障害と看護	1 *	15	2			■					152	
		ヘルスアセスメント	1 *	15	2			■					154	
		看護過程論	2 *	30	1		■						126	
		基礎看護学実習Ⅰ	1 *	45	1	■	■						129	
		基礎看護学実習Ⅱ	2 *	90	2			■	■				156	

目的区分			授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次						頁	卒業に必要な 単位数			
				必修	選択		学年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後			4年 前	4年 後	
専門分野	看護学の展開	成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2			■					160	必修 42 単位	
			成人看護学援助論Ⅰ(急性)	1 *		30	2				■				163		
			成人看護学援助論Ⅱ(慢性)	1 *		30	2				■				165		
			成人看護学援助論Ⅲ(急性)	1 *		30	3					■			213		
			成人看護学援助論Ⅳ(慢性)	1 *		30	3					■			217		
			成人看護学実習Ⅰ(急性)	3		135	3						■		218		
			成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3		135	3							■	219		
		老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2			■					167		
			老年看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				169		
			老年看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			220		
			老年看護学実習	4		180	3						■		222		
		育成看護学	小児看護学概論	2 *		30	2			■					171		
			小児看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				173		
			小児看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			223		
			小児看護学実習	2		90	3						■		225		
			母性看護学概論	2 *		30	2			■					175		
			母性看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				177		
			母性看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			226		
			母性看護学実習	2		90	3						■		228		
		精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2			■					179		
			精神看護学援助論Ⅰ	1 *		30	2				■				182		
			精神看護学援助論Ⅱ	1 *		30	3					■			229		
			精神看護学実習	2		90	3						■		232		
		広域看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2			■					187		
			公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2 *		30	2			■					189		
			公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2				□				191		
			公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2				□				193		
			公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□		259		
			公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ		2	60	4						□		262		
			公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ		1	30	4						□		264		
			産業保健活動論		1	15	4						□		266		
			学校保健活動論		1	15	4						□		268		
			公衆衛生看護管理論		2	30	4						□		270		
			公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	90	4						□	□	272		
			公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	135	4						□	□	273		
	看護学の発展と探究		応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	4							■		241
		看護管理論		1		15	4							■	242		
		リハビリテーション看護		1 *		15	4							■	244		
		家族看護学		2 *		30	2				■				185		
		統合看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2				■				157		
			在宅看護学援助論	2 *		60	3					■			205		
			在宅看護学実習	2		90	3						■		211		
			看護研究特論	1		30	4							■	246		
			看護研究	2		60	4							■	248		
			ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3					■			209		
			統合実習	2		90	4							■	249		
			災害看護論	1		15	4							■	251		
			チーム医療論	★	1	30	4							■	253		
			医療安全	1 *		15	3					■			203		
			国際看護論Ⅰ	1		15	4							■	255		
			国際看護論Ⅱ		1	30	4							□	□		257
合計				126	38		開講時期を■または□ で表示。(■は必修、□ は選択)										128単位以上 必修 126単位 選択 2単位

卒業に必要な単位数 128 単位（認定単位を含む）

(注)

・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（22単位）。

なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計6単位）を修得しておかなければならない。

したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。

・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。

・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。

・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

看護学科4年一貫教育カリキュラム表

奈良県と共同で策定した「奈良県立医科大学の将来像」において、「教育の理念と方針」を定め、これに基づき、「良き医療人育成プログラム」、「看護マインド育成プログラム」、「地域基盤型医療教育プログラム」、「研究マインド育成プログラム」、「臨床英語強化プログラム」からなる本学独自の4年一貫教育カリキュラムを平成28年度に導入した。

＜奈良県立医科大学の将来像＞

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/documents/shoraizo.pdf>

＜良き医療人育成プログラム＞

No.	授 業 科 目	区分	1年		2年		3年		4年		授業時間数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	教育実践論	必修	○								30
2	次世代医療人育成論		○								30
3	アジア文化論		○								30
4	西洋文化論			○							30
5	奈良学（※注1）			○							30
6	医療安全（※注2）						○				15
7	チーム医療論（※注2）								○		30
8	看護管理論（※注2）								○		15
合計											210

（※注1） ＜地域基盤型医療教育プログラム＞No. 2と同一授業科目

（※注2） ＜看護マインドの育成プログラム＞No. 9、No. 10、No. 12と同一授業科目

＜看護マインドの育成プログラム＞

No.	授 業 科 目	区分	1年		2年		3年		4年		授業時間数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	臨床心理学	必修		○							30
2	基礎看護学実習Ⅰ		○	○							45
3	健康障害と看護				○						15
4	ヘルスアセスメント				○						15
5	カウンセリング論					○					30
6	看護倫理学（※注1）					○					15
7	家族看護学					○					30
8	在宅看護学援助論（※注2）						○				60
9	医療安全（※注3）						○				15
10	チーム医療論（※注3）								○		30
11	統合実習								○		90
12	看護管理論（※注3）								○		15
合計											390

（※注1） ＜研究マインドの育成プログラム＞No. 1と同一授業科目

（※注2） ＜地域基盤型医療教育プログラム＞No. 4と同一授業科目

（※注3） ＜良き医療人育成プログラム＞No. 6、No. 7、No. 8と同一授業科目

＜地域基盤型医療教育プログラム＞

No.	授 業 科 目	区分	1年		2年		3年		4年		授業時間数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	社会福祉と医療法規	必修		○							30
2	奈良学(※注1)			○							30
3	公衆衛生看護学活動論Ⅰ				○						30
4	在宅看護学援助論 (※注2)						○				60
5	ヘルスプロモーションと健康教育						○				30
6	災害看護論									○	15
合計											195

(※注1) ＜良き医療人育成プログラム＞No. 5と同一授業科目

(※注2) ＜看護マインドの育成プログラム＞No. 8と同一授業科目

＜研究マインドの育成プログラム＞

No.	授 業 科 目	区分	1年		2年		3年		4年		授業時間数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	看護倫理学（※注1）	必修				○					15
2	看護研究特論								○		30
3	看護研究									○	60
合計											105

(※注1) ＜看護マインドの育成プログラム＞No. 6と同一授業科目

＜臨床英語の強化プログラム＞

No.	授 業 科 目	区分	1年		2年		3年		4年		授業時間数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1	English for Communicative Purposes	必修	○	○							120
2	英語表現法Ⅰ				○						30
3	英語表現法Ⅱ					○					30
4	Advanced Clinical English	自由									-
合計											180

●…より該当
○…該当

ディプロマポリシー

倫理観、態度、意欲

生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観を持ち、自ら学習し成長し続ける姿勢を身につけている。

創造性、探究力、国際的視野

幅広い教養と国際的視点から看護に関する課題を探究できる。

知識、批判的思考力

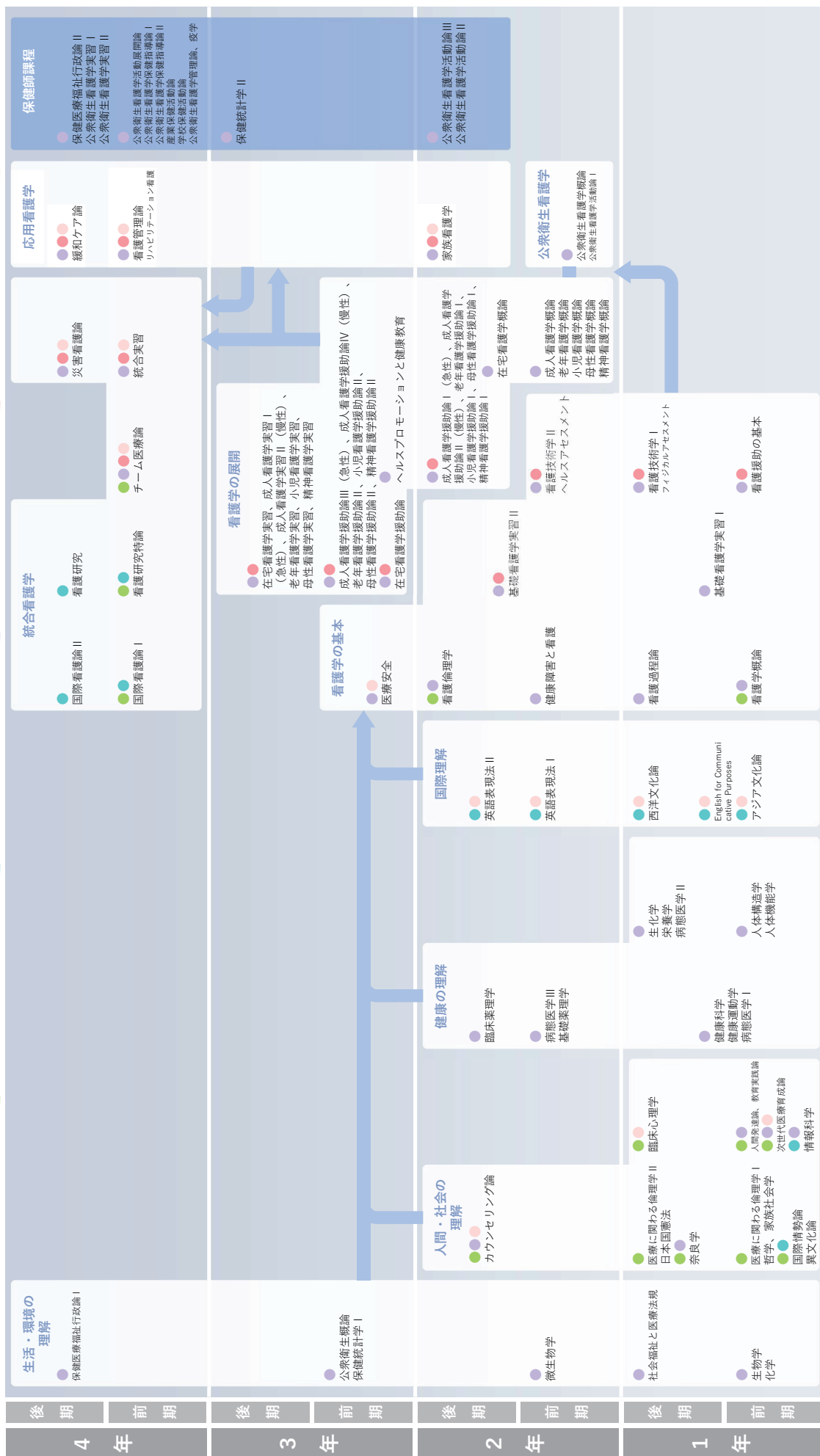
対象者の健康・環境に関する知識を修得し、諸問題を科学的根拠や批判的思考に基づいて検討できる。

実践力、応用力、共感能力

対象者の健康状態と生活を的確にとらえ、人へのきこえない思いやりをもって看護実践を提供できる実践力を身につけている。

コミュニケーション能力、チームマネジメント

地域社会における健康課題を把握し、保健医療における関係職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントができる。





卒業時達成
レベル

A

B

C

D

-

100%

80%

60%

30%

0%

1

倫理観、態度、意欲

生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観を持ち、自ら学習し成長し続ける姿勢を身につけている。

- 1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
- 2 実施する看護を説明し意思決定を支援する能力
- 3 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
- 4 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力

基盤となる倫理観と姿勢を示すことができる

基盤となる倫理観と姿勢の重要性が理解できる

基盤となる倫理観と姿勢に関心をもつ

基盤となる倫理観と姿勢を意識している

修得の機会がない

2

創造性、探究力、国際的視野

幅広い教養と国際的視点から看護に関する課題を探究できる。

- 5 国際的視点から看護の対象となる人を理解する基本能力
- 6 健康課題を発見し、科学的探究心を持ち、必要な方法論に基づいて研究する能力
- 7 研究で得られた結果を明確に理解し、説明する能力
- 8 社会の動向と科学技術の発展を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力

基盤となる（看護に関する）課題を創造できる

基盤となる課題を検討できる

基盤となる課題に関心をもつ

基盤となる課題を意識する

修得の機会がない

3

知識、批判的思考力

対象者の健康、環境に関する知識を修得し、諸問題を科学的根拠や批判的思考に基づいて検討できる。

- 9 看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力
- 10 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力
- 11 人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力
- 12 人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力
- 13 根拠に基づいた看護を提供する能力
- 14 計画的に看護を実践する能力
- 15 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力
- 16 個人と家族の生活をアセスメントする能力
- 17 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力

修得した課題・問題解決方法を活用できる

修得した知識を基に課題・問題の解決方法が検討できる（アセスメントできる）

修得した知識を基に課題・問題の解決のための検討方法が理解できる（アセスメント方法が理解できる）

基盤となる知識を修得している

修得の機会がない

4

実践力、応用力、共感能力

対象者の健康状態と生活を的確にとらえ、人への尽きない関心と思いやりをもって看護技術を提供できる実践力を身につけている。

- 18 看護援助技術を適切に実施する能力
- 19 健康の保持増進と疾病を予防する能力
- 20 急激な健康破綻と回復過程にある人を援助する能力
- 21 慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力
- 22 エンドオブライフにある人と家族を援助する能力
- 23 安全なケア環境を提供する能力

基本となる技術を活用できる

基本となる技術を適切に実施できる

基本となる技術を正確に実施できる

基本となる技術を手順通りに実施できる

修得の機会がない

5

コミュニケーション能力、チームマネジメント

地域社会における健康課題を把握し、保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントができる。

- 24 援助的関係を形成する能力
- 25 地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力
- 26 保健医療福祉における看護の質を改善する能力
- 27 地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力
- 28 保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力

基盤となる協働やマネジメントの姿勢を示すことができる

基盤となる協働やマネジメントの重要性が理解できる

基盤となる協働やマネジメントに関心をもつ

基盤となる協働やマネジメントを意識する

修得の機会がない

– 32 –



目的 区分	基礎分野															専門基礎分野															専門分野					1 年次到達度目標（％）
	人間・社会の理解															国際理解	生活・ 環境の理解		健康の理解										看護学の基本							
																													基礎看護学							
授業科目の名称	人間発達論	医療に関わる倫理学Ⅰ	臨床心理学	教育実践論	奈良学	次世代医療人育成論	情報科学	医療に関わる倫理学Ⅱ	哲学	日本国憲法	家族社会学	国際情勢論	異文化論	English for Communicative Purposes	アジア文化論	西洋文化論	社会福祉と医療法規	生物学	化学	健康科学	健康運動学	人体構造学	人体機能学	生化学	栄養学	病態医学Ⅰ	病態医学Ⅱ	看護学概論	看護援助の基本	看護技術学Ⅰ	フィジカルアセスメント	看護過程論	基礎看護学実習Ⅰ			
1 倫理観、態度、意欲	1	C	C			C		D	C	C	D	D	D				D				D	C					C							23		
	2		C	D			D		D	D	D	D	D									D					C							15		
	3	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D			D				D	D	D					C							35		
	4				D	D	D		D	D										D	D	D						D					D		20	
2 創造性、探究力、	5			D		D	D					D	D	D	D	D				D														26		
	6			D				D						D																					9	
	7							D				D								D															11	
	8							D			B	D								D															10	
3 知識、批判的思考力	9	C															C	D	D	C	C	C	C	D	D	C	C	C	C	C	C	C	C	29		
	10	C			D	D	D	D									D	D	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	C	C	C	32		
	11	C	D	D	D	D	D	D	D		D					D	C	D	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	24		
	12	C		D	D	D	D	D			C	C		D			D	C	D	D	D	D	C	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	22		
	13	C			D	D	D	D												D	D	C	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C	22		
	14	D			D	D	D	D												D	D	D	D	D	D	D	C	C	C	C	C	C	C	20		
	15	C		D	D	D	D	D												D	D	D	D	D	D	D	C	C	C	C	C	C	C	21		
	16	D		D	D	D	D	D				C					D			D	D	D	D	D	D	D	C	C	C	C	C	C	C	20		
	17	D			D	D	D	D													D	D	D	D	D	D	C	C	C	D	D	D	D	17		
	4 実践力、応用力、共感能力	18																				D				D			C	C	C				9	
19																					D	D			D			C	C	C				10		
20				D																														1		
21				D																														1		
22				D													D																	4		
23																					D	D						C	C	C				9		
24			D	D			D				D	C			D	C	C	C			D													18		
5 コミュニケーション能力、	25					D					D	C																						3		
	26					D														D														6		
	27					D																												3		
	28					D										C	C				D													11		

目的 区分	基礎分野			専門基礎分野			専門分野																				2 年次到達度目標（％）	
	人間・社会の理解	国際理解	生活・環境の理解	健康の理解			看護学の基本						看護学の展開										看護学の発展と展望	公衆衛生看護学				
							基礎看護学						保健・衛生看護学	成人看護学			老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学								
授業科目の名称	カウンセリング論	英語表現法Ⅰ	英語表現法Ⅱ	微生物学	病態医学Ⅲ	基礎薬理学	臨床薬理学	看護倫理学	看護技術学Ⅱ	健康障害と看護	ヘルスアセスメント	基礎看護学実習Ⅱ	在宅看護学概論	成人看護学概論	成人看護学援助論Ⅰ（急性）	成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	老年看護学概論	老年看護学援助論Ⅰ	小児看護学概論	小児看護学援助論Ⅰ	母性看護学概論	母性看護学援助論Ⅰ	精神看護学概論	精神看護学援助論Ⅰ	家族看護学	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	
確								B					C			B	D		B		C							48
する		D						B					C			B					C							38
上さ		D						B					C															50
展さ								B				C	C															37
理解			C	C																	C							49
ら、													C			C												27
説明																												11
て看													B															25
理解				D	C	C	C	C	C	C	C		A	A		C	A		A		A		A			B		72
に活	D			C	C	C	C	C	C	C	C	C	A	A		C	A		A		A		A			B		77
へに	D			C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	B	60
セス	D			C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	B	59
展さ	D				C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	C	B	C	B	C	B	C	C	C	C	B	59
展さ	D				C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	C	B	C	B	C	B	C	C	C	C	B	58
メン	D				C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B	60
能力	D				C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	60
する	D				C	C	C	D	D	D	D	D	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B	57
展さ									C		C	C			B	B		B		B		B		B				36
展さ									C		C	C			B	B		B		B		B		B	C			39
援助															B	B		B		B		B		B	C			28
援助																B		B		B		B		B	C			26
力す																B		B		B				B	C			29
展さ									C			B			B	B		B		B		B		B	C			37
展さ	D	B	B										C			B		D						C				43
支	D												C											C				18
する	D												C											C				23
生図	D												C															13
少連	D	C	C										C															25



3年次目標到達レベル

… 保健師国家試験受験資格取得に必要な科目

目的 区分				専門基礎分野		専門分野																		3 年次到達度目標（％）
				生活・環境の理解		看護学の 基本	看護学の展開																	
						基礎看護学	地域・在宅看護学		成人看護学				老年看護学		小児看護学		母性看護学		精神看護学					
							在宅看護学援助論	ヘルスプロモーションと健康教育	成人看護学援助論Ⅲ（急性）	成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	成人看護学実習Ⅰ（急性）	成人看護学実習Ⅱ（慢性）	老年看護学援助論Ⅱ	老年看護学実習	小児看護学援助論Ⅱ	小児看護学実習	母性看護学援助論Ⅱ	母性看護学実習	精神看護学援助論Ⅱ	精神看護学実習				
授業科目の名称				公衆衛生概論	保健統計学Ⅰ	保健統計学Ⅱ	医療安全	在宅看護学援助論	在宅看護学実習	成人看護学援助論Ⅲ（急性）	成人看護学援助論Ⅳ（慢性）	成人看護学実習Ⅰ（急性）	成人看護学実習Ⅱ（慢性）	老年看護学援助論Ⅱ	老年看護学実習	小児看護学援助論Ⅱ	小児看護学実習	母性看護学援助論Ⅱ	母性看護学実習	精神看護学援助論Ⅱ	精神看護学実習			
1 倫理観、態度、意欲	看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力							B	A	B		A								B				76
	実施する看護を説明し意思決定を支援する能力							B	A	B		A			D									67
	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力							B	A															67
	看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力							B	A								B							60
2 創造性、探究力、	国際的視点から看護の対象となる人を理解する基本能力									C														56
	健康課題を発見し、科学的探究心を持ち、必要な方法論に基づいて研究する能力							C					C											45
	研究で得られた結果を明確に理解し、説明する能力							C					C											33
	社会の動向と科学技術の発展を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力							B					C											50
3 知識、批判的思考力	看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力			C	C	C	C	B	B	A			A											91
	人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力			D	D	D	C	B	B	B			A											92
	人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力			C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	89
	人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力			C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	89
	根拠に基づいた看護を提供する能力					C	C	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	88
	計画的に看護を実践する能力					D	C	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	89
	健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力					D	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	91
	個人と家族の生活をアセスメントする能力					D	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	89
	地域の特性と健康課題をアセスメントする能力					D	D	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	90
4 実践力、応用力、共感能力	看護援助技術を適切に実施する能力							B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	82
	健康の保持増進と疾病を予防する能力							B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	83
	急激な健康破綻と回復過程にある人を援助する能力							B		B	B		B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	82
	慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力							B		B		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	77
	エンドオブライフにある人と家族を援助する能力							B		B		B		B	B	B					B	B		72
	安全なケア環境を提供する能力							B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	82
5 コミュニケーション能力、	援助的関係を形成する能力							B		A			A		D					B				67
	地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力							B		A			A											46
	保健医療福祉における看護の質を改善する能力							B		B														40
	地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力							B		B			B											40
	保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力						B	B		B			A	D			B		B					60

目的 区分		専門基礎分野		専門分野																			卒業時到達目標（％）				
		生活・環境の理解		看護学の発展と探求										公衆衛生看護学													
				応用看護学					統合看護学																		
				授業科目の名称	保健医療福祉行政論Ⅰ	疫学	保健医療福祉行政論Ⅱ	緩和ケア論	看護管理論	リハビリテーション看護	看護研究特論	看護研究	統合実習											災害看護論	チーム医療論	国際看護論Ⅰ	国際看護論Ⅱ
1倫理観、態度、意欲	1	看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力				A			A	B		B									B						100
	2	実施する看護を説明し意思決定を支援する能力				A				B		B	A	B							B						100
	3	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力								A			B	A	B						B						100
	4	看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力				A			A			B	A	B							B						100
2創造性、探究力、幅広い教養と国際的視点から看護に関する課題を探究できる。	5	国際的視点から看護の対象となる人を理解する基本能力				C			A	A			B	B							B						100
	6	健康課題を発見し、科学的探究心を持ち、必要な方法論に基づいて研究する能力							A	A		B		B	B						B						100
	7	研究で得られた結果を明確に理解し、説明する能力							A	A		B		B	B						B						100
	8	社会の動向と科学技術の発展を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力							A	A				B	B						B						100
3知識、批判的思考力 対象者の健康、環境に関する知識を修得し、諸問題を科学的根拠や批判的思考に基づいて検討できる。	9	看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力	C	D	C	A				B											B						100
	10	人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	D	C	D	A				B											B						100
	11	人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力	C	C	C	A		B		B	A	B				B	A	B	B	A	B	B	B				100
	12	人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力	C	C	C	A		B		B	A	B				B	A	B	B	A	B	B	B				100
	13	根拠に基づいた看護を提供する能力		D	C	A	B	B		A	A					B	A	B	B	A	B	B	B				100
	14	計画的に看護を実践する能力		D	D	A	B	B			A		C			B	A	B	B	A	B	B	B				100
	15	健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力		D	D	A		B			A	B				B	A	B	B	A	B	B	B				100
	16	個人と家族の生活をアセスメントする能力		D	D	A		B			A	B	B			B	A	B	B	A	B	B	B				100
	17	地域の特性と健康課題をアセスメントする能力		C	D	A		B			A	B				B	A	B	B	A	B	B	B				100
4実践力、応用力、共感能力 対象者の健康状態と生活を的確にとらえ、人への尽きない関心と思いやりをもって看護技術を提供できる実践力を身につけている。	18	看護援助技術を適切に実施する能力					B	B			A	B	B								B			A	A		100
	19	健康の保持増進と疾病を予防する能力						B	B			A	B	B							B						100
	20	急激な健康破綻と回復過程にある人を援助する能力						B	B			A	B								B						100
	21	慢性・不可逆的健康課題を有する人を援助する能力					B	B	B			A	B								B			A	A		100
	22	エンドオブライフにある人と家族を援助する能力					B	B	B			A	B								B						100
	23	安全なケア環境を提供する能力						B	B			A	B	B							B			A	A		100
5コミュニケーション能力、 地域社会における健康課題を把握し、保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントができる。	24	援助的関係を形成する能力					A	B	B			A	B	A			A				B						100
	25	地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力					A	B	B			A	B	A							B						100
	26	保健医療福祉における看護の質を改善する能力					A	B	B			A	B	A							B						100
	27	地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力					A	B	B			A	B	A							B						100
	28	保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力					A	A	A			A	A	A							B						100

保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領

保健師課程アドミッションポリシー

1. 保健師として働きたいという気持ちを強く持っている人
2. 奈良県の保健活動に貢献する意思を有し、へき地の保健活動に強い関心を持っている人
3. 保健師として求められる対人関係能力とコミュニケーション能力を有する人
4. 単独実習及びへき地実習が可能な自律性を持っている人

奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領 第4条第2項の選考方法等に関する要領（抜粋）

（趣旨）

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領（平成16年4月1日施行）第4条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち公衆衛生看護学に係る選択科目（以下「保健師科目」という。）の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

（保健師科目の定義）

第2条 保健師科目の名称及び単位数、時間数は別表1のとおりとする。

（履修の制限等）

第3条 第2条に定める保健師科目のうち、第4年次に開講する科目を履修しようとする者は、第3年次後期までに開講される卒業に必要な必修科目、選択科目の単位をすべて修得していなければならない。

- 2 第2条に定める公衆衛生看護学実習5単位を履修するためには、平成30年度以降の入学生は第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師科目（公衆衛生看護学実習を除く。）をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

（履修許可人数）

第4条 保健師科目の履修を許可する人数は20人以内とする。

（選考の時期等）

第5条 第2条の科目履修者の選考は別表2の選考方法により、第3年次後期の看護学臨地実習終了後に行うものとする。

（履修志願手続き）

第6条 第2条の科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに学長に申請するものとする。

附 則

この要領は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1

(平成 30 年度～令和 3 年度入学生の保健師科目及び単位数)

科 目	年次	単位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健医療福祉行政論Ⅱ *	3	2
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	1
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	22

＊・・・3 年次末の選抜試験を受け保健師課程の履修を希望する者は、保健師課程選考前に
＊印がある科目を履修しなければならない。

(令和 4 年度以降入学生の保健師科目及び単位数)

科 目	年次	単位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
保健医療福祉行政論Ⅱ	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	4
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	2
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	25

＊・・・3 年次末の選抜試験を受け保健師課程の履修を希望する者は、保健師課程選考前に
＊印がある科目を履修しなければならない。

別表 2

(平成 30 年度～令和 3 年度入学生の選考方法)

選考方法	内 容
成績評価	以下を成績評価の対象科目とする。 ・1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目 ・保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」 「保健医療福祉行政論Ⅱ」
実習評価	以下を実習評価の対象科目とする ・1 年次から 3 年次に履修する全ての看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、 小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習
面接試験	・面接試験（個別）
評価方法	・成績評価を 60 点、実習評価を 20 点、面接試験を 20 点、合計 100 点とし、合計得点の上位者から選考する。

(令和 4 年度以降入学生の選考方法)

選考方法	内 容
成績評価	以下を成績評価の対象科目とする。 ・1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目 ・保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」
実習評価	以下を実習評価の対象科目とする ・1 年次から 3 年次に履修する全ての看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、 小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習
面接試験	・面接試験（個別）
評価方法	・成績評価を 60 点、実習評価を 20 点、面接試験を 20 点、合計 100 点とし、合計得点の上位者から選考する。

(令和 6 年度以降入学生の選考方法)

選考方法	内 容
成績評価	以下を成績評価の対象科目とする。 ・1 年次から 3 年次に履修する全ての必修科目 ・保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」
面接試験	・面接試験（個別）
評価方法	・成績評価は素点で加算し、合計点数を算出する。 ・面接試験は面接委員の可否で決定する。 ・面接試験に合格した者で、成績評価の上位者から選考する。

卒業に必要な単位数

入学年度によって、卒業に必要な単位数が異なります。
詳細は下表のとおりです。

1 平成30年度～令和3年度入学生

区分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解	27	14 (14)	1 (3)	15 (17)
国際理解	8	8 (8)	0 (0)	8 (8)
生活・環境の理解	11	4 (4)	1 (4)	5 (8)
健康の理解	23	23 (23)	0 (0)	23 (23)
看護学の基本	13	13 (13)	0 (0)	13 (13)
看護学の展開	59	42 (42)	0 (17)	42 (59)
看護学の発展と探究	23	22 (22)	0 (0)	22 (22)
合計	164	126 (126)	2 (24)	128 (150)

※ () は保健師課程
() は看護師課程と異なる部分

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ・Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修16単位のうち、疫学の2単位は「生活・環境の理解」、その他の14単位は「看護学の展開」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲの計6単位を修得しておかなければならない。

したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。

2 令和4年度以降入学生

区分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解	24	13 (13)	1 (1)	14 (14)
国際理解	8	8 (8)	0 (0)	8 (8)
生活・環境の理解	15	8 (8)	1 (6)	9 (14)
健康の理解	23	23 (23)	0 (0)	23 (23)
看護学の基本	14	14 (14)	0 (0)	14 (14)
看護学の展開	46	46 (46)	0 (0)	46 (46)
看護学の発展と探究	14	13 (13)	0 (0)	13 (13)
公衆衛生看護学	24	4 (4)	0 (20)	4 (24)
合計	168	129 (129)	2 (27)	131 (156)

※ () は保健師課程
() は看護師課程と異なる部分

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、保健医療福祉行政論Ⅱ、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ・Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修21単位のうち、疫学、保健医療福祉行政論Ⅱの4単位は「生活・環境の理解」、その他の17単位は「公衆衛生看護学」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2年または3年次開講の保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲの計4単位を修得しておかなければならない。

したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は156単位となる。

奈良県立医科大学医学部看護学科における成績評価異議申立てに関する要領

(目 的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科に在籍する学生（以下、「学生」という。）が履修するすべての科目について、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条に規定する成績評価に対する異議申立てに関し必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2条 学生は、成績に対して確認すべき事項がある場合は、授業科目担当教員に、直接確認することができるものとする。

(確認依頼受付期間)

第3条 前条による確認依頼の受付期間は、成績開示日から起算して、3日以内（日曜日若しくは土曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日及び12月29日から翌年1月3日までの日を除く。以下、第4条1項、第6条において同じ。）とする。

(確認に伴う措置)

第4条 第2条による確認依頼を受けた授業科目担当教員は、学生から確認依頼があった日から起算して、3日以内に確認結果を回答するものとする。

2 前項の回答に当たっては、授業科目担当教員が直接当該学生に確認結果を回答するものとする。

(異議申立て)

第5条 前条の規定による確認結果に異議がある学生で、次の各号に掲げる事項に該当する場合は、別に定める「成績に対する異議申立書」（以下「異議申立書」という。）を学長あてに提出することにより、異議申立てができるものとする。

(1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの

(2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの

2 前項の異議申立書は教育支援課を通じて提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第6条 前条による異議申立ての受付期間は、当該学生が第4条による回答を受理した日から起算して、3日以内とする。

(受 理)

第7条 学長は、第5条による異議申立書を受理した場合は、医学部教務委員会において当該異議申立ての審査を行うものとする。

2 学長は、異議申立てを受理する事由に該当せず、異議申立てを却下する場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

(審査結果の報告及び対応)

第8条 医学部教務委員会は、当該異議申立ての審査を行い、その結果を学長に報告し、学長が決定するものとする。

2 教育支援課は、当該学生及び当該授業科目担当教員に当該結果を成績に対する異議申立てに関

する回答書により通知する。この場合において、異議申立てを容認する結果であった場合は、授業科目担当教員に成績について変更する措置を行わせるものとする。

3 異議申立てへの回答に対して再異議申立ては認めない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、必要な要領は別に定める。

附 則

この要領は令和4年4月1日から施行する。

奈良県立医科大学医学部公欠規程

平成28年2月4日制定

（目的）

第1条 この規程は、奈良県立医科大学学則第25条に規定する学生の欠席について、奈良県立医科大学がやむを得ないと認める理由（以下「理由」という。）による欠席（以下「公欠」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

（公欠の定義）

第2条 公欠とは、学生が次条に規定する理由により講義、実習等を欠席した場合、これを単位認定、科目修得及び履修要件における欠席扱いとしない取扱いをいう。

（公欠の理由）

第3条 公欠を認める理由は、次の各号に掲げるものとする。

- （1）学生が学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は健康管理センター長が学生の出席停止措置が必要であると認めた場合
- （2）気象警報の発表、交通機関の運休等により学生の通学が困難であると認められた場合
- （3）学生の親族が死亡した場合（忌引）
- （4）学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- （5）学生がカリキュラム履修や教員の指導下で実施している自主的研究において、教員が必要と認める学会等に参加する場合
- （6）その他学長が必要と認めた場合

（公欠の基準）

第4条 前条第1号及び第3号における公欠の基準については、別表第1に定めるとおりとする。

（公欠の手続）

第5条 公欠の適用を受けようとする学生は、公欠届（別紙様式）に別表第2に定める書類を添えて、学長に提出するものとする。

- 2 学長は、前項の規定により公欠届の提出があったときは、その内容を第3条及び第4条の基準に基づき審査し、公欠として適正と認める場合はこれを許可する。
- 3 公欠の申出時期は、原則として別表第2のとおりとする。ただし、学長が別に定める場合はこの限りではない。
- 4 公欠の許可について、公欠届の内容及び理由によりやむを得ないと認められる場合には、学長は公欠希望日に遡ってこれを認めることができるものとする。

(公欠時の講義、実習等の取扱い)

第6条 教員は、公欠を許可された学生に対し、講義、実習等の履修において、補講、個別指導等の実施により当該学生が不利とならないよう配慮を行うものとする。

ただし、実習等については、公欠を許可されても、追実習、評価及び単位認定ができない場合がある。

(公欠時の定期試験等の取扱い)

第7条 公欠を許可された期間は、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第3項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第7条に規定する定期試験等の受験に係る授業時間数には含めないものとする。ただし、前条に規定する補講等が実施された場合は、当該時間数に含めるものとする。

2 公欠を許可された学生に対する定期試験等の取扱いにおいて、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第4項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条第2項に規定する疾病その他やむを得ない理由については、第3条各号を適用するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

感染症について(第3条第1号関係)

	対象疾病	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、MERS、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清型がH5N1、H7N9であるものに限る)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザH5N1を除く)	発症後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	症状により本学健康管理センター医師、その他医師が感染のおそれがないと認めるまで
	感染性胃腸炎(ノロ・ロタ等)	症状のある間が主なウィルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が消失してから48時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他感染症	症状により本学健康管理センター医師、その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで

忌引について(第3条第3号関係)

親等	対象範囲	日数(土日・祝祭日を含む)
	配偶者	最長7日
1親等	父母、子	最長7日
2親等	祖父母、兄弟姉妹、孫	最長3日

別表第2（第5条関係）

手続方法について

以下の理由により欠席する場合は、公欠届及び以下の添付書類を提出すること。

欠席理由	添付書類	申出時期
感染症等(第3条第1号)	医師の診断書	診断書による療養期間終了後すみやかに
忌引(第3条第3号)	会葬の案内状、礼状等	事後1週間以内
裁判員制度(第3条第4号)	用務内容が記載された書類	招集日の1週間前まで
学会等参加(第3条第5号)	学会等の概要がわかる書類	学会等参加の1週間前まで
その他(第3条第6号)	理由が証明できる書類	事後1週間以内

※(第3条第2号関係)

気象警報の発表、交通機関の運休等社会的要因によるものについては、添付書類の提出は不要とする。

公 欠 届

年 月 日

氏 名 _____

[illegible]

— 50 —

暴風警報等発表時における授業の措置について

(平成26年1月8日 医学科・看護学科学務委員会等 決定)

台風等の接近に伴い奈良県北西部に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されたときの授業の取扱いは原則として次のとおりとする。

【共通事項】

- (1) 午前7時現在「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されているときは、午前の授業は休講とする。
- (2) 午前11時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されたときは、午後の授業のみ行う。
- (3) 午前11時以降も「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されないときは、当日の授業は休講とする。ただし、大学院は下記(7)によることとする。
- (4) 午前11時以降の授業時間中に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合は、当該授業終了後はすべて休講とし、速やかに帰宅させることとする。
 - ① 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合のクラブ活動等の課外活動は、禁止とする。
 - ② 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合の図書館及び自習室等の学内における学生の自習については、禁止とする。

【医学科】

- (5) 医学科の学内及び学外実習については、上記(1)～(4)を原則とし、当該実習施設の指導者の判断に基づき決定することとする。

【看護学科】

- (6) 看護学科の臨地実習については、原則上記(1)～(4)のとおりとする。ただし、学外で実習を行っている場合の措置については、当該実習担当教員が実習先の指導者と協議し、原則として実習を中止し帰宅させる。ただし、台風等の接近に伴い帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

【大学院】

- (7) 大学院については、午後4時までに「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除された場合は、午後6時以降の授業を行う。午後4時以降も解除されない場合は、終日休講とする。
- (8) 実習については、上記(6)に準ずるものとする。

*なお、状況によって警報発表の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

地震発生等災害時における授業の措置について

地震発生等災害時における授業の取扱は原則として次のとおりとする。

1. 講義

- ①教育支援課が被害状況、交通機関の運行状況等の情報収集を行い医学部長に報告
- ②医学部長が①を確認し、授業の実施、今後の方針等を判断（必要に応じて看護学科長（看護学科長と連絡が取れない場合は、看護教育部長）と協議）
なお、医学部長と連絡が取れない場合は、事務局長が判断
- ③教育支援課は医学部長の判断を教務システム及び大学ホームページに掲載し、周知

休講とする判断の目安

○近鉄大阪線及び橿原線が同時に運休した場合

※ 交通機関の運休等により登校できない場合は、公欠扱いとする。

2. 実習

当該実習の担当教員、領域長及び指導者と協議し、必要に応じて実習を中止し帰宅させる。ただし、帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

※「暴風警報等発表時における授業の措置について」に準じる。

【災害等発生時 教育支援課 緊急連絡先】

- ① 0744-22-3051（大学代表番号）
- ② 0744-22-9844（四条キャンパス直通）
- ③ 0744-29-8805（畝傍山キャンパス直通）
- ④ 0744-29-8917（畝傍山キャンパス直通）

※医学科 2～6 年生は①②、医学科 1 年生及び看護学科生は①③④の番号にご連絡ください。

試験に関する諸注意

1 試験の注意事項

- ① 学生証不携帯の場合は、受験不可のため、教育支援課で仮学生証の発行を受けること。
- ② 携帯電話、スマートフォン、タブレット、アップルウォッチ等の電子通信機器の使用は禁止のため、電源を切りカバンの中へ入れること。試験中にこれらの機器の音声やアラームが聞こえた場合、カバンの中に入っていることも不正行為とみなす。
- ③ 机の上には、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴムなど）、時刻表示機能のみの時計、メガネ、学生証、特別に持込を許可された物以外は置かないこと。
- ④ その他、試験監督者の禁止するものを持ち込んではいならない。
- ⑤ 試験中に質問がある場合は挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
- ⑥ 試験中における私語及び物品の貸借は一切禁止する。
- ⑦ 次の場合、当該試験は無効とする。
 - ・ 答案を提出しない場合
 - ・ 学籍番号・氏名等の記入がない場合
 - ・ 試験監督者の指示に従わない場合
- ⑧ やむを得ず欠席する場合は、試験開始までに教育支援課に連絡を入れること。無断欠席した場合は、追再試験の受験資格を失う。

2 遅刻・退室等について

- ① 試験開始後、入室限度時刻を経過した遅刻者は受験できない。
※遅刻し、かつ、学生証を忘れた場合は、仮学生証の発行を終えて試験室へ入室した時間が入室限度時間内かどうかで受験の可否が判断される。
- ② 公共交通機関の遅延で遅刻した学生については、別途協議のうえ対応する。
- ③ 試験開始後、入室限度時刻までは退出できない。
- ④ 一度退出した者は、再び入室できない。
- ⑤ 体調不良・トイレ等で一時退室した場合、試験時間の延長は行わない。

3 不正行為について

- (1) 試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。
 - ア 書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に参照すること。
 - イ 他人の答案をのぞき見たり、答案を見せ合うこと。
 - ウ 音声や動作等により解答に役立つ情報を伝え合うこと。
 - エ 机などに解答に役立つメモ等を残すこと。
 - オ その他、前記行為に類する行為
- (2) 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に机の下部棚などに置くことは、実際に参照したかどうかを問わず、不正行為と見なす。
- (3) その他、不正行為に関する試験監督者の注意や指示に反する行為は、不正行為と見なす場合がある。

4 不正行為を行った者に対する処分

試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合には、学則第41条による懲戒処分を行う。

出席確認端末について

1 導入教室

キャンパス名	棟	諸室
畝傍山キャンパス	講義棟	情報処理 PC ルーム 101、医看合同講義室 108 多目的中講義室 104・105、中講義室 201～204 大講義室 206
	実習研究棟	成人・老年看護学実習室、基礎看護学実習室、 母性・小児看護学実習室、在宅・老年看護学実習室
四条キャンパス	基礎医学棟	第1・第2講義室、生化学実習室、生理学・薬理学実習室、 組織実習室、小講義室
	臨床講義棟	第1・第2講義室

2 操作手順

- ・出席確認端末では、授業開始前の 10 分間(授業開始時刻は含まない)に学生証をかざした場合のみ「出席」と記録されます。

(例) 1 時間目 (9 : 00 開始) の場合は 8 : 50 から 8 : 59

- ・端末に学生証をかざし、電子音が鳴り画面に「学籍番号」と「氏名」が表示されると読取り完了です。

3 注意事項

- ・出席確認方法は科目によって異なりますので、各教員の指示に従ってください。
- ・端末に記録が残されていない場合は欠席扱いになるので注意してください。
- ・学生証を忘れた場合は、欠席扱いとなるので注意してください。
- ・動作確認できない場合や操作に不安がある場合は、再度端末にカードをかざしてください。
- ・教務システムで各自の出席状況を確認できますが、実際の出席数を反映しているかどうかは、科目責任者に確認してください。
- ・なお、他人の学生証を端末に通す等の不正行為をすれば、学則第 41 条の規定により、けん責、停学又は退学処分の対象になるので十分注意してください。

〈参考〉奈良県立医科大学学則（抜粋）

（懲戒処分）

第 41 条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は、次の各号の一に該当する者に対してのみ行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣行で成業見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

健康管理

(1) 学生相談

学生が学生生活を送るうえでの様々な相談に応じるため、臨床心理士による学生カウンセリングルームを週1回開設しています（予約制）。

カウンセリングを希望する場合は、教育支援課又は教員（学生生活相談担当教員、アドバイザー教員、研究指導教員など）を通じて申込んでください。

申し込みする場合、希望のカウンセリング日を伝えてください。カウンセラーと日程調整を行います。

なお、相談内容の秘密は固く守られます。

(2) 健康相談

学生が健康上の相談をしたい場合は、校医による健康相談を受けることができます。教育支援課又は健康管理センターに申込み、日程調整をしてください。

(3) 健康管理

健康状態について、常に自己管理を心がけてください。登校中、又は学内において体調が思わしくない場合は、教育支援課に欠席を届け出たうえで早めに帰宅して静養するなり、医療機関を受診するなどしてください。帰宅が難しいほど不調の場合は、教育支援課に連絡し(5)の健康管理センターの指示に従ってください。

(4) 定期健康診断

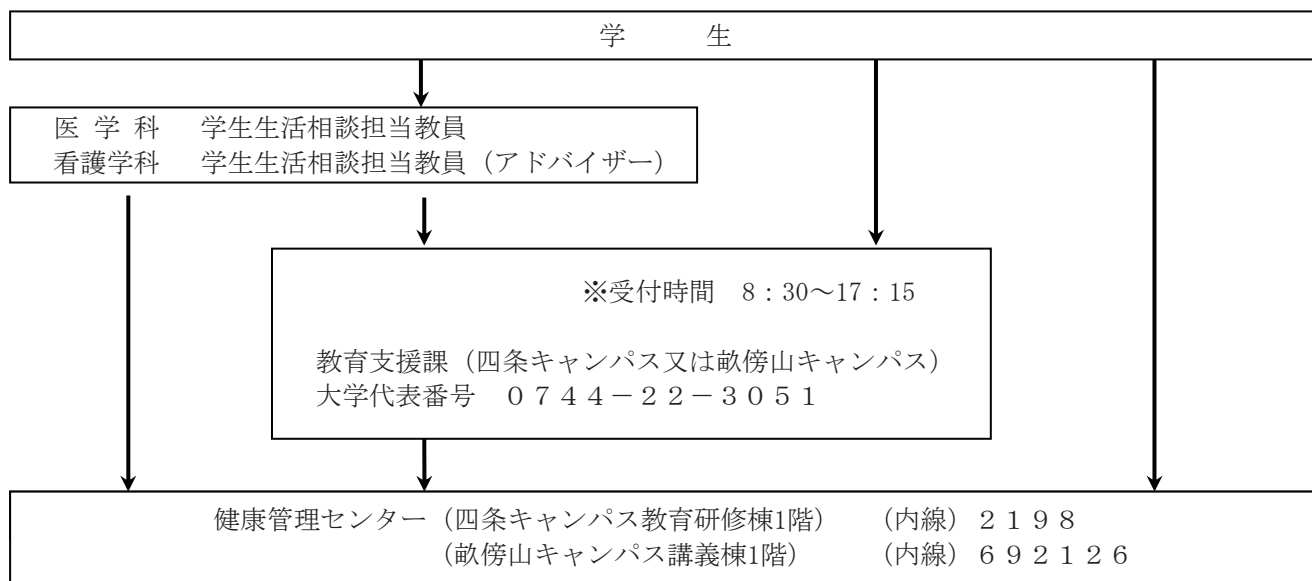
学校保健安全法により、定期健康診断の実施が義務付けられています。

各学年とも毎年1回、4月以降に実施する定期健康診断を受けなければなりません。定期健康診断を受診できなかった学生は、定期健康診断項目について自己責任で受診し(5)の健康管理センターに結果の写しを提出してください。

また、医学科1年生、編入2年生、看護学科1年生・看護学研究科1年を対象に結核感染防止のためのIGRAs検査、麻疹（はしか）・風疹（三日ばしか）・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・水痘（水ぼうそう）の4種感染症抗体価検査及びB型肝炎抗原抗体検査を実施します。さらに、B型肝炎抗原抗体検査の結果、ワクチン接種対象とされた方にはB型肝炎ワクチン接種を実施します。健康診断結果は今後必要となることがあります。大切に保管しコピーをして活用してください。

(5) 健康管理センター（四条キャンパス及び畝傍山キャンパスに各1か所設置しています）

学内において緊急を要する怪我・発病等の場合は、下記により健康管理センターに連絡してください。応急対応やベッドでの休憩などが可能です。必要に応じて医療機関を案内します。なお、健康保険証は常に携帯しておくことをお勧めします。



(6) 附属病院の受診を希望される方へ

本大学の附属病院を受診される場合、他院もしくは健康管理センターの発行する紹介状を持参されると選定療養費が免除されます。

健康管理センターにて紹介状の発行を希望される方は、平日午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分までに健康管理センターに行き、受診理由等を記載してください。

なお、緊急の場合を除き附属病院の受付時間（平日午前 8 時 30 分～午前 11 時）外は受診することはできません。また、診療科により外来診療を行っていない曜日があるため、事前に調べておいてください。

(7) 感染症対策

感染性の疾患にかかった場合、速やかに医療機関を受診し、教育支援課に連絡してください。診断が出るまでは登校を控え、診断が出た場合は医師の指示に従ってください。併せて、診断結果を教育支援課に連絡してください。欠席しても公欠が認められますので、登校後に診断書と公欠届を提出してください。

なお、新型コロナウイルス感染症については発症日を 0 日目とし有症状 7 日間、無症状 5 日間の出席停止としています。

ただし大学からの対応方針が状況に応じて更新されているので、最新の情報を把握してそれに従ってください。

主な感染症の出席停止期間

（その他の疾患でも教育支援課又は健康管理センターの指示に従って下さい）

感染症の種類	出席停止期間（登校基準）
インフルエンザ （※）	発症した後（発熱の翌日を 1 日目として）5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで。
百日咳	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	耳下腺等の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
麻疹（はしか）	発疹に伴う発熱が解熱した後 3 日を経過するまでは出席停止。ただし、病状により感染力が強いと認められたときは、さらに長期に及ぶ場合もある。
風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで。
水痘（水ぼうそう）	すべての発疹がかさぶたになるまで。
感染性胃腸炎 （ノロ・ロタ等）	下痢、嘔吐症状が消失してから 48 時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
B 型肝炎	急性肝炎の急性期でない限り登校は可能。HBV キャリアの登校を制限する必要はない。ただし、血液に触れる場合は手袋を着用するなど、予防策を守ることが大切。
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により校医等において感染の恐れがないと認めるまで。

（※）鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9 など）及び新型インフルエンザ等感染症は別途対応。

附属病院での実習時には、B 型肝炎、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体価およびワクチン接種記録の提出が求められます。また、学外の実習受け入れ施設でもワクチン接種を済ませていることを要件とする場合があります。海外留学時にも抗体検査結果やワクチン接種記録が求められます。実習に参加できない事態を避けるため、定期健康診断においてワクチン接種が必要とされた者は、必ずワクチン接種を済ませておいてください。またワクチン接種記録は速やかに健康管理センターに報告するとともに、医療機関に勤める際にも必要になりますので自己管理してください。

3 1 年次開講科目の授業内容

講義科目名称： 人間発達論

授業コード： K080010

英文科目名称： Human Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作		
概要	人間をより現実的に理解するために、身体・心理・社会的側面の統合体とし、人間が発達し続ける存在であるという観点から捉えようとする。つまり、身体的・心理的・社会的存在としての人間を発達という観点から全体として理解することを学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 人間が生涯発達し続けることを理解し、人間のライフステージを説明できる。 ☐ 自らの発達段階を説明し、自らの専門性の向上について計画できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 人間を身体・心理・社会的側面からライフステージ毎に説明できる。 ☐ 発達理論について理解し、説明できる。 ☐ 各ライフステージにおける人間の発達に影響を及ぼす因子について説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■授業参加度（10％）《1》 ■レポート（90％）《1, 3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月14日（月） 1限 人間発達学とその意義	講義	太田
	第2回 2025年4月21日（月） 1限 発達における共通性（スキヤモンの発育曲線） 発達に影響を及ぼす因子	講義	太田
	第3回 2025年4月28日（月） 1限 発達理論（歴史的展開） ゲゼル、フロイトの発達理論	講義	太田
	第4回 2025年5月12日（月） 1限 エリクソンの発達理論	講義	太田
	第5回 乳幼児期の身体的発達 （歯、骨、脳、反射、排泄、運動）	講義	太田
	第6回 乳幼児期の心理・社会的側面の発達 1 （マラーの発達理論、ボウルビイの愛着理論）	講義	太田
	第7回 乳幼児期の心理・社会的側面の発達 2 （ピアジェの認知発達理論、遊びの発達、言語の発達）	講義	太田
	第8回 乳幼児の発達の評価、発達に関わる健康上の問題 児童虐待	講義	太田
	第9回 学童期の身体的発達、心理的発達、子どもの問題行動	講義	太田

	第10回	講義	太田
	思春期の身体的発達、心理・社会的発達 発達に関わる健康上の問題（不登校、摂食障害、対人恐怖）		
	第11回	講義	太田
	青年期の身体的発達、心理・社会的発達		
	第12回	講義	太田
	成人期の身体的発達 成人期の心理・社会的発達（レビンソンの発達理論）		
	第13回	講義	太田
	成人期のストレス ストレスの病態生理、心身症		
	第14回	講義	太田
	老年期の身体的発達、老年期の心理・社会的発達		
	第15回	講義	太田
	まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそってテキスト「人間発達論ノート」を読み、自分が重要だと考えるキーワードを各回3つ抽出する。 事後学修：授業で取り上げたテーマに関して、これまでの生活での体験や見聞きした事柄などに照らし合わせ、それに対する自分の考えを整理しておく。		
テキスト	「人間発達論ノート」を配布する。参考資料を配布する。		
参考書	舟島なをみ・望月美知代 「看護のための人間発達学 第5版」 医学書院		
学生へのメッセージ等	人間を統合的に理解し、発達の観点から捉えてみると、自分自身のこともよく理解できるようになる。また、病気・疾患だけに目を向けるのではなく病を抱える人をどのように理解するかが重要であることを学んでもらいたい。		

講義科目名称： 医療に関わる倫理学 I

授業コード： K16002A K16002B

英文科目名称： Medical Ethics I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	必修
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	医療行為は患者の身体や生命、患者や患者の家族の人生に深く関わる。それだけに医療行為に携わる者には、医学・看護学に関する専門的な知識や技術だけでなく、人間に対する深い認識や高い倫理的意識をもつことが求められる。 本講義では、現代医療が抱える諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 □医療倫理・研究倫理の重要性を理解し、倫理的に適切な行動について説明できる。 □医療現場で直面する倫理的問題について、倫理的な考え方に依拠して自分で対応策を立てることができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □社会と看護の関係を理解し、人々の行動について説明できる。 □生と死に関わる倫理的問題を理解し、自身の考えを述べることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □多様な人生観・価値観を理解し、医療現場における倫理的葛藤への対処について説明できる。		
評価方法	ミニッツペーパー（100％）《1, 3, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 倫理学と医療倫理学	講義	池邊
	第2回 人間の尊厳と医療	講義	池邊
	第3回 インフォームド・コンセント（1） — 一定義 —	講義	池邊
	第4回 インフォームド・コンセント（2） — 歴史的経緯 —	講義	池邊
	第5回 患者の権利	講義	池邊
	第6回 研究倫理	講義	池邊
	第7回 輸血拒否	講義	池邊
	第8回 守秘義務	講義	池邊
	第9回 生殖医療の倫理的諸問題（1） — 社会問題としての不妊 —	講義	池邊
	第10回 生殖医療の倫理的諸問題（2） — 人工授精と体外受精 —	講義	池邊

	第11回 生殖医療の倫理的諸問題（3） —代理出産—	講義	池邊
	第12回 出生前診断の倫理的諸問題	講義	池邊
	第13回 移植医療の倫理的諸問題（1） —脳死—	講義	池邊
	第14回 移植医療の倫理的諸問題（2） —臓器移植—	講義	池邊
	第15回 エンド・オブ・ライフケアの倫理的諸問題	講義	池邊
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。		
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。		
参考書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	明確な問題意識を持って講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。		

講義科目名称： 臨床心理学A

授業コード： K16003A

英文科目名称： Clinical Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／近池 操		
概要	理論と実践の研究を統合して人の社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 人の発達・成長のあり方の理解を通して、看護学生として倫理に基づいた相応しい行動を認識できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 臨床心理の実践に求められる様々な知見や研究を理解できる。 3 知識、批判的思考力 □対人援助職として、身に着けるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 □心理学的な問題を抱えた人の理解と援助についてアセスメントする能力を習得する。 4 実践力、応用力、共感能力 □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 □上記のものに対する具体的な援助方法・技術・姿勢について理解できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。		
評価方法	受講態度（提出物なども含む）（40％）《1, 2, 3, 4, 5》 定期試験（60％）《1, 2, 3, 4, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月22日（月） 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史 心理学の起源から脳科学の進歩までの歴史を理解する。	講義	近池m操
	第2回 2025年9月29日（月） 人の心の理解 知覚と認知 記憶 認知機能と記憶のしくみを理解する。	講義	近池操
	第3回 2025年9月29日（月） 人の行動 学習 動機 意欲 生物学的視点から、動物の行動形成について学び、進化の過程で獲得した人の適応的行動について理解する。	講義	近池操
	第4回 2025年9月29日（月） 日程調整中 発達心理学 愛着理論 人の感情の発達と人間関係の形成について理解する。	講義	近池操
	第5回 2025年10月6日（月） 発達心理学 ピアジェとエリクソン 人の認知機能の発達と社会性の発達について理解する。	講義	近池操
	第6回 2025年10月20日（月） 深層心理学 精神分析的理解と実践 精神分析理論の展開と、精神分析療法の実践について理解する。	講義	近池操
	第7回 2025年10月27日（月） 日程調整中 臨床心理研究法とアセスメント 1 心理検査実習（質問紙法）をして、人の特性について理解を深める。	講義	近池操
	第8回 2025年11月10日（月） 臨床心理研究法とアセスメント 2 心理検査実習（投影法）をして、心理とその表現について理解する。 自己への理解を深め、人それぞれに個性があることを理解する。	講義	近池操
	第9回 2025年11月17日（月） 心理学的テーマ 不安からおこる症状について 不安からおこる様々な症状と、その治療について理解する。	講義	近池操
	第10回 2025年12月1日（月）	講義	近池操

	臨床心理学テーマ 依存症・摂食障害について 依存症や摂食障害の問題と、その回復について理解する。		
第11回	2025年12月8日（月） 臨床心理学的テーマ 発達の領域とその障害 神経発達症の特性とその支援について理解する。	講義	近池操
第12回	2025年12月15日（月） 臨床心理学的テーマ 精神病への理解 統合失調症の症状と支援について理解する。	講義	近池操
第13回	2025年12月22日（月） 臨床心理学的治療 認知療法 1 ものの受け止め方を検討して、適応的な思考を組み立てていく ことを理解する。	講義	近池操
第14回	2026年1月5日（月） 臨床心理学的治療 認知療法 2 行動活性化や認知再構成法について理解する。 自動思考記録表作成の実習をする。	講義	近池操
第15回	2026年1月19日（月） 臨床心理実践に求められるもの 連携・守秘義務・倫理・スー パービジョン・研究 治療者の持つべきことのありかた、態度・コミュニケーション について理解する。 怒りのコントロールの大切さを理解する。	講義	近池操
授業外学修（事前 学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う。		
テキスト	特になし。資料を授業中に配布します。		
参考書	特になし。資料を授業中に配布します。		
学生へのメッセー ジ等	人の発達・成長・心のありかたに興味を持って、授業に積極的に参加することを望みます。 不適応や心の病気への理解を深め、自分自身の心の健康の維持にも留意していくことを望みます。		

講義科目名称： 臨床心理学B

授業コード： K16003B

英文科目名称： Clinical Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／須磨 知美		
概要	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 人の発達・成長のあり方の理解を通して、看護学生として倫理に基づいた相応しい行動を認識できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 臨床心理学の実践に求められるさまざまな知見や研究を理解できる。 3 知識、批判的思考力 □対人援助職として、身に着けるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 □心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、アセスメントする能力を修得する。 4 実践力、応用力、共感能力 □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 □上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。		
評価方法	■受講態度（提出物なども含む）（40％）《1, 2, 3, 4, 5》 ■定期試験（60％）《1, 2, 3, 4, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月22日（月） 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史 受講にあたっての留意点。臨床心理学とは、臨床心理学の歴史と現代的意義について学ぶ。	講義	須磨
	第2回 2025年9月29日（月） 人の心の理解 「知覚、認知」 知覚の機能、認知の機能と記憶のしくみを理解する。	講義	須磨
	第3回 2025年10月6日（月） 人の心の理解 「人の行動、学習、発達」 学習の理論、動機、ピアジェとエリクソン、生来的な気質や後天的に体験を通して学習について学ぶ。	講義	須磨
	第4回 2025年10月20日（月） 人の心の理解「アタッチメント（愛着）」 心身機能の発達とアタッチメントの発達、コミュニケーションのあり方、対人関係への影響について学ぶ。	講義	須磨
	第5回 2025年10月27日（月） 臨床心理学的アセスメント「質問紙法、認知機能検査、高次脳機能検査」 心理学的検査の仕組みを理解する。認知機能障害について学び、認知機能の評価方法について学ぶ。	講義	須磨
	第6回 2025年11月10日（月） 臨床心理学的アセスメント「発達検査、知能検査、性格検査」 さまざまな心理検査について概要を学ぶ。実際に性格検査を体験し、その検査のメリット・デメリット、限界について考える。	講義	須磨
	第7回 2025年11月17日（月） 臨床心理学的テーマ 「精神分析理論、認知行動療法、傾聴」 さまざまな理論について概要を学ぶ。話を聴くことと、傾聴の違いについて体験的に学ぶ、	講義	須磨
	第8回 2025年12月1日（月） 臨床心理学的テーマ 「精神疾患、抑うつ」の仕組み、不安からおこる症状や行動化」 さまざまな精神疾患について概要を学ぶ。抑うつと不安の起こる状態の違いを学ぶ。依存、自傷、摂食障害の問題とその回復について理解する。	講義	須磨

	第9回	2025年12月8日（月） 臨床心理学的テーマ 「チーム医療で臨床心理学的視点」 チーム医療で生じる葛藤や職種による視点の違いについて理解する。グループワークを通して、違う視点の意見を尊重し、チーム医療を円滑に進める体験を通して、他者の考えを推察することについて考える。	講義	須磨
	第10回	2025年12月15日（月） 臨床心理学的テーマ 「疾病別で生じる心理状態」 糖尿病や、心不全、癌、四肢切断など、身体疾患の症状にともない生じる心理反応について。正常な反応と治療が必要な反応との違いについて学ぶ。	講義	須磨
	第11回	2025年12月22日（月） 臨床心理学的テーマ 「喪失への心的反応、悲嘆」 身体の一部を失う場合、QOLを失う場合、死別への予期悲嘆、家族の悲嘆などさまざまな場面で生じる悲嘆反応を学び、反応の背景にある気持ちを推察できるようになる。	講義	須磨
	第12回	2026年1月5日（月） 臨床心理学的テーマ 「災害、被害、事故、トラウマ」 被災者支援のあり方、災害派遣医療チームについて学ぶ。事故や事件の被害者支援・加害者支援の実践について学ぶ。外傷的な出来事に直面した際の支援者が陥りやすい心理的危機について学ぶ。	講義	須磨
	第13回	2026年1月19日（月） 臨床心理学的テーマ 「医療従事者のメンタルヘルス」 感情疲労など医療従事者に生じやすいメンタル不全やサポートを得にくい状態について学び、セルフマネジメントについて考える。	講義	須磨
	第14回	補講 臨床心理学的テーマ 「学校でのメンタルヘルス、発達障害、虐待、不登校」 スクールカウンセラーの活動の実践、医療との連携について学ぶ。発達障害や虐待、不登校の理解と支援のアプローチについて学ぶ。	講義	須磨
	第15回	補講 臨床心理学的テーマ 「コミュニケーション技法」 自身のコミュニケーション特徴を知り、アサーションや、アンガーマネジメントなど対人コミュニケーションスキルについて学ぶ。	講義	須磨
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う。			
テキスト	資料を授業中に配布します。			
参考書	資料を授業中に配布・紹介します。			
学生へのメッセージ等	自分自身や臨床の現場で出会う人の背景として、発達・成長・心のありかたが関連していることを理解し、興味を持って、授業に積極的に参加することを望みます。 不適応や心の病気への理解を深め、自分自身の心の健康の維持にも留意していくことを望みます。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／宿谷 仁美		
概要	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助方法・技術・姿勢・倫理について学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 人の発達・成長のあり方の理解を通して、看護学生として倫理に基づいたふさわしい行動を認識できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 臨床心理学の実践に求められるさまざまな知見や研究を理解できる。 3 知識、批判的思考力 □対人援助職として、身に着けるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 □心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、アセスメントする能力を習得する。 4 実践力、応用力、共感能力 □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理かいと共感を深めることができる。 □上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢について理解できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。		
評価方法	受講態度（提出物なども含む）（40％）《1, 2, 3, 4, 5》 定期試験（60％）《1, 2, 3, 4, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月22日（月） オリエンテーション、臨床心理学とは 受講にあたっての留意点。臨床心理学とは、臨床心理学の歴史と現代的意義について学ぶ。	講義	宿谷
	第2回 2025年9月29日（月） 人の心の理解「知覚、認知」 知覚の機能、認知の機能について学び、人はいかに見ているように見えていないか、聞いているように聞いているかについて学術的に理解する。	講義	宿谷
	第3回 2025年10月6日（月） 人の心の理解「学習、発達とパーソナリティ」 学習の理論、生来的な気質や後天的に体験を通して学習し形成される人のパーソナリティについて学ぶ。	講義	宿谷
	第4回 2025年10月20日（月） 人の心の理解「アタッチメントとコミュニケーション」 心身機能の発達とアタッチメントの発達、コミュニケーションのあり方について学ぶ。	講義	宿谷
	第5回 2025年10月27日（月） 臨床心理学的アセスメント「心理検査：質問紙法」 臨床心理学的アセスメントと医療的診断との違いについて学ぶ。心理学的アセスメントの一つとして、質問紙法を体験し、その検査メリット・デメリットについて考える。また、検査を基に、自分自身のあり方について考える。	講義	宿谷
	第6回 2025年11月10日（月） 臨床心理学的アセスメント「心理検査：発達検査、知能検査、性格検査」 さまざまな心理検査について概要を学ぶ。実際に性格検査を体験し、その検査のメリット・デメリット、限界について考える。また、検査を基に、自分自身のあり方について考える。	講義	宿谷
	第7回 2025年11月13日（木） 臨床心理実践に求められるもの「心理的援助の枠組み、構造、倫理」 さまざまな心理的援助、心理療法、心理治療のための枠組みや構造、倫理的課題について学ぶ。	講義	宿谷
	第8回 2025年11月17日（月）	講義	宿谷

	臨床心理学的援助「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ①」 人の心のしくみと働きについての理論について学ぶ。		
第9回	2025年12月1日（月） 臨床心理学的援助「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ②」 人の心のしくみについての精神分析理論、自我機能、病態水準、防衛機制について学ぶ。	講義	宿谷
第10回	2025年12月4日（木） 臨床心理学的援助「認知・行動療法、マインドフルネス」 認知療法の基本、自動思考、マインドフルネス、海外の研究について学ぶ。	講義	宿谷
第11回	2025年12月8日（月） 臨床心理学におけるテーマ「精神的な問題と身体症状、職場のメンタルヘルス」 働く人を取りまく環境とそれが人の心身に与える影響について学ぶ。ストレス、ストレッサーが人の心身機能に与える影響、ストレスチェック制度のあり方とその課題（医療者の役割）、対人援助者が陥りやすい心理について学ぶ。	講義	宿谷
第12回	2025年12月15日（月） 臨床心理学におけるテーマ「学校のメンタルヘルス、ひきこもり、発達障害」 スクールカウンセラーの活動の実際、子どもの心をはぐくむ学校教育・システムのあり方、医療との連携について学ぶ。昨今のひきこもりや発達障害の理解と支援のアプローチについて学び、医療においてできる治療や支援について学ぶ。	講義	宿谷
第13回	2025年12月22日（月） 臨床心理学におけるテーマ「虐待、DV、離婚」 虐待やDVが人の心のあり方に及ぼす影響について学ぶ。両親の不仲や離婚が子どもの心のあり方に及ぼす影響について学び、医療においてできる治療や支援について考える。	講義	宿谷
第14回	2026年1月5日（月） 臨床心理学におけるテーマ「被災者支援、被害者／加害者支援」 被災者支援のあり方、災害派遣医療チームの職責について学ぶ。事故や事件の被害者支援・加害者支援の実際について学ぶ。外傷的な出来事に直面した際の支援者が陥りやすい心理的危機について学ぶ。	講義	宿谷
第15回	2026年1月19日（月） 臨床心理学におけるテーマ「精神病、依存症」 統合失調症、うつや躁鬱病、依存症、器質性疾患、摂食障害などさまざまな精神疾患と治療・援助アプローチの概要について学ぶ。	講義	宿谷
授業外学修（事前学修・事後学修）	・事前学習：各単元のテーマに関連した書籍や時事ニュース等を読む。 ・事後学習：学習した内容をふまえ、日常の中での自分のこころの動きや人との関係に目を向ける。事件や事故、災害、医療的な問題（身体や精神の病気、障害、中途障害、緩和ケア、不妊治療など）、時事問題（教育、福祉、いじめ、ハラスメント、DV、不登校、発達障害、メンタルヘルス、自殺、ジェンダーバイアス、マイクロアグレッション等）に積極的に目を向け、そうした事態に伴う人の心や苦悩、痛みに関して調べる。学習した内容をふまえ、課題に取り組み、提出物を出す。		
テキスト	資料は授業の際に配布します。 配布したものは、掲示板にもアップします。		
参考書	資料は授業の際に配布・紹介します。		
学生へのメッセージ等	自分を含めた人の発達・成長・心のあり方に興味関心を持って、授業に積極的に参加することを望みます。		

講義科目名称： 教育実践論

授業コード： K16004A K16004G

英文科目名称： Theory of Teaching Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／杉野 竜美		
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 医療者として医療倫理に基づき、生涯にわたる自己学習の重要性を理解できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 医療者として身に付けるべき人の成長や発達についての基礎を理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■毎回実施するワークシートand/or課題and/orミニッツペーパー 60%（5点×12回）《1、3》 ■プレゼンテーション 20%（10点×2回）《1、3》 ■最終授業における試験 20%《1、3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 A2クラス1限・B2クラス2限 オリエンテーション 医療従事者における教育実践学を学ぶ意義	講義	杉野
	第2回 A2クラス1限・B2クラス2限 社会の中の医療と教育 機能化された社会の特徴・課題	講義	杉野
	第3回 A2クラス1限・B2クラス2限 教育とは何か① 人として生きるための教育の役割	講義	杉野
	第4回 A2クラス1限・B2クラス2限 教育とは何か② 「教育の概念」の整理	講義	杉野
	第5回 A2クラス1限・B2クラス2限 人間の発達 子ども観の形成／「発達」という見方	講義	杉野
	第6回 A2クラス1限・B2クラス2限 社会教育・生涯教育 学びの継続／社会教育プログラムをデザインする	講義	杉野
	第7回 A2クラス1限・B2クラス2限 プレゼンテーション：社会教育プログラム	講義	杉野
	第8回 A2クラス1限・B2クラス2限 「教授・学習」学ぶということ、教えるということ 他者との関わり／コミュニケーション／リーダーシップ論	講義	杉野
	第9回 A2クラス1限・B2クラス2限 個別指導の方法 経験学習の支援／コーチング	講義	杉野
	第10回 A2クラス1限・B2クラス2限 集団研修の方法 講義法の長所と課題／協同学習／研修運営の技法	講義	杉野
	第11回 A2クラス1限・B2クラス2限 教育評価 目標の設定／教育評価の方法／研修&評価をデザインする	講義／グループワーク	杉野
	第12回 A2クラス1限・B2クラス2限	プレゼンター	杉野

	プレゼンテーション&評価：集団研修プログラム	シヨン／講義	
	第13回 A2クラス1限・B2クラス2限 インクルーシブ教育（イタリアの例）	講義	杉野
	第14回 A2クラス1限・B2クラス2限 多文化ソーシャルワークにおける課題（医療分野・教育分野）	講義	杉野
	第15回 A2クラス1限・B2クラス2限 現代社会における教育 授業内試験	講義	杉野
授業外学修（事前学修・事後学修）	各階授業の最後に、次回の授業テーマを示しますので、関連事項を想像することを事前学修とします。授業内で完了できない課題は事後学修とします。		
テキスト	なし		
参考書	授業内で随時紹介します。		
学生へのメッセージ等	知識や技能を獲得するだけでなく、「これらを使って何を考えるか」「何ができるか」という意識をもって授業に参加してください。		

講義科目名称： 教育実践論

授業コード： K16004B K16004H

英文科目名称： Theory of Teaching Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター） / 板橋 孝幸		
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 医療者として医療倫理に基づき、生涯にわたる自己学習の重要性を理解できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 医療者として身に付けるべき人の成長や発達についての基礎を理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	授業の振り返り：30% 《1,3》 レポート、プレゼンテーション：30% 《1,3》 最終試験：40% 《1,3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション	講義	板橋
	第2回 教育における理念と目的	講義	板橋
	第3回 教授論①：人に教えるということ	講義	板橋
	第4回 教授論②：教育における目標と評価	講義	板橋
	第5回 教授論③：よりよい患者教育を行うためには	講義	板橋
	第6回 学習論①：大学での学びと職業に就いてからの学びの違い	講義	板橋
	第7回 学習論②：生涯学習の意義と役割	講義	板橋
	第8回 学習論③：学び続ける医療従事者になるためには	講義	板橋
	第9回 教育の方法と技術①：課題の設定と解決の工夫（発表準備1回目含む）	講義・演習	板橋
	第10回 教育の方法と技術②：協同学習の要件と技法（発表準備2回目含む）	講義・演習	板橋
	第11回	講義・演習	板橋

	教育の方法と技術③：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 1回目		
	第12回 教育の方法と技術④：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 2回目	講義・演習	板橋
	第13回 教育の方法と技術⑤：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 3回目	講義・演習	板橋
	第14回 教育の方法と技術⑥：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 4回目	講義・演習	板橋
	第15回 まとめ	講義・演習	板橋
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業中に指示する。		
テキスト	なし		
参考書	木村元編『教育学』医学書院、2024年		
学生へのメッセージ等	グループによる話し合いを行うので、主体的に授業に取り組むことを期待する。		

講義科目名称： 奈良学

授業コード： K080060

英文科目名称： Nara study

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
教養教育部長			
添付ファイル			

全担当教員	教養教育部長／看護教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／外部講師
概要	1 実施期間 令和8年2月2日（月）～2月6日（金） 2 実施概要 奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、医学科生と看護学科生が合同で県内の地域医療機関を病院見学実習（early exposure）に行くことで県の医療状況を知り、県内の地域医療に対する意識の涵養を図る。 また、病院見学の内容も踏まえ、各医療機関の特性に沿って課題や改善策等についてグループディスカッションし、その内容を発表することで、県内医療機関の特性や役割についても学ぶ。
目標	1 倫理観、態度、意欲 奈良県の医療に貢献する医学生として相応しい行動を認識できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 － 3 知識、批判的思考力 □奈良の文化・歴史について学び、自然学習を通して奈良県の特色や地域性を理解する。 □奈良県の地域医療の現状と課題を理解することができる。 □奈良県の医療の現状と将来について議論し、課題を見つけその解決策を提案することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 － 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □多職種連携の重要性について理解することができる。 □県内医療機関への訪問や医療体験実習等を通じて、奈良県の医療への関心を深めることができる。 □奈良県の地域性や医療状況等を理解することができる。
評価方法	ミニッツペーパーの提出を含む受講態度（100%）《1, 3, 5》
授業計画	令和8年2月2日（月）～2月6日（金） 詳細については、後日、教務システムで通知します。
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内する。
テキスト	なし
参考書	なし
学生へのメッセージ等	みなさんは将来、奈良県の医療に貢献するものと期待されています。 本講義の受講を機に、奈良県の文化・歴史・自然、そして保健・医療・福祉の現状と課題に興味をもち、主体的に学習し続けることを願っています。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
看護教育部長			
添付ファイル			

全担当教員	看護教育部長／教養教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／外部講師
概要	1 実施期間 令和7年9月8日（月）～12日（金） 2 実施内容 (1) 知的生産技術 チーム医療を担う医療人として求められる「能動的な情報収集力」、「他者と協力して学び合う力」、「論理的思考力」及び「批判的思考力（クリティカル・シンキング）」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。 (2) コミュニケーション 多様性が増す昨今において、医療人として、他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶことが必要である。 また、自分と他者の違いを理解するための「ソーシャルスタイル理論」や、人間関係を構築する上でのステップなどを学び、それぞれが今後のコミュニケーションレベルアップに必要な課題を自覚し、日常の中で恒常的にトレーニングできる状態を目指す。 さらに、医療者と患者コミュニケーションの基本的な姿勢、視点を身につける。 (3) 人権教育 男性も女性も自分らしく力を発揮し、一人一人の幸せを実現できる社会である男女共同参画について学ぶ。 障がい者や性同一性障害者、性的マイノリティに対する社会の障壁について考えるとともに、偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会を実現していこうとする態度を身に付ける。
目標	1 倫理観、態度、意欲 □協同学習の考え方を理解し、他者と学び合う際に注意すべき点について、認識できる。 □情報リテラシーを理解し、情報を適切に収集及び活用する力を修得できる。 □他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考え、気持ちなどを理解できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 □開発途上国のジェンダー格差の現状について認識できる。 3 知識、批判的思考力 □コミュニケーションの仕組みについて説明できる。 □理論に基づき医療現場で求められるコミュニケーション力や思考力を修得できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □自分と他者の違い、苦手なタイプを理解し、相手に合わせたコミュニケーションの取り方が実践できる。 □男女共同参画や共生社会等の現状や取り組み内容を認識できる。
評価方法	ミニッツペーパーの提出を含む受講態度（100%）《1, 2, 3, 5》
授業計画	令和7年9月8日(月)～9月12日（金） 詳細については、後日、教務システムで通知します。
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う。
テキスト	なし
参考書	なし
学生へのメッセージ等	この科目は、後期に開講する「奈良学」と同様に本学独自の科目として医学看護学合同で開講します。 医療人としての基礎能力を修得できるよう多彩なゲストスピーカーをお招きし、グループワークも取り入れて構成していますので感性や価値観への刺激を体験することになると思います。積極的に参加しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	必修
担当教員			
城戸 楓			
添付ファイル			

全担当教員	城戸 楓		
概要	PCやスマートフォンを含むICT機器を使うことができる技能（ICTリテラシー）は現代社会において必須の知識・技術である。本授業では、PCを中心に、ICT機器の使い方を理解しながら、将来において自分がやりたいことを自由に活用できるようなICTリテラシーの向上を目指す		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 ☐ 看護専門職者として必要なPCのスキルを獲得する ☐ PCを用いて、データ処理ができる ☐ 自身の探求に必要な作業を、PCを用いて行うことができる（調査アンケートのWeb上での作成と実施） 3 知識、批判的思考力 ☐ 多角的な視点を持って調査アンケートの構築ができる ☐ 調査アンケートの結果を客観的に分析することができる 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	授業への参加・態度（30%）《2,3》 課題提出（50%）《2,3》 グループ発表（20%）《2,3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション "授業の進め方の説明・ICT機器の説明と歴史変遷 PC機器の基本的な使い方"	講義	城戸
	第2回 調査設計1 "心理テストやアンケート調査についての理解 ネットワーク技術についての理解と利用"	講義	城戸
	第3回 調査設計2 "心理テストの作成とオンライン調査の準備 アンケートフォームの使い方・ファイル共有の使い方"	実習	城戸
	第4回 調査の集計1 "情報セキュリティについての理解 エクセルの基本的な使い方とデータの基礎集計"	実習	城戸
	第5回 調査の集計2 "エクセルの使い方2 関数の使い方・グラフの作成・ピボットテーブル"	実習	城戸
	第6回 発表資料の作り方 "パワーポイントの使い方 発表用資料作成のポイントについての理解"	実習	城戸
	第7回 グループワーク1 "ワードの使い方（配布用資料の作成） グループ発表資料作成1"	実習	城戸
	第8回 グループワーク2 "様々な調査の体験（心理テスト・アンケート調査） グループ発表資料作成2"	実習	城戸
	第9回	実習	城戸

	プレゼンテーション "分析結果の発表 分析に用いる統計手法の導入"		
	第10回 調査設計 3 "新規の心理テストの作成 統計的な検定を念頭に入れた尺度設計についての理解"	実習	城戸
	第11回 プログラミング "初歩的な統計概念の理解 プログラミングソフトRの使用"	実習	城戸
	第12回 調査結果の分析 "Rを用いた統計分析 調査結果の発表資料の作成"	実習	城戸
	第13回 グループワーク 3 "グループ発表資料作成 本授業のまとめ"	実習	城戸
	第14回 プレゼンテーション "分析結果の発表 PC以外の様々なICT機器の紹介"	実習	城戸
	第15回 予備日 予備日	実習	城戸
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う。		
テキスト	特になし（教材用資料は当日配付）		
参考書	特になし		
学生へのメッセージ等			

講義科目名称： 哲学

授業コード： K080070

英文科目名称： Philosophy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	哲学的思索は、世界や人間の根本原理を追求する営みである。それゆえ、現実と遊離したところで行われる「机上の空論」という印象を抱く人がいるかもしれない。しかし、哲学が理念として描く事柄は、現実の日常生活から抽出した事柄である。哲学的思索の出発点は今ここに生きる「私」であり、「私を取り巻く現実」である。 本講義では以下に列挙した主題について、主として西洋の哲学思想を手がかりにしながら考えていくことにする。		
目標	- 倫理観、態度、意欲 □人の生と死に深く関わる看護師にふさわしい哲学的教養を身につける。 □看護師の職責を自覚し、人間としてよりよく生きる道を探究することができる。 □答えのない問いについて考え続けることができる。 - 創造性、探究力、国際的視野 - - 知識、批判的思考力 □哲学と看護の関わりを理解し、自身の考えを述べることができる。 □さまざまな哲学思想を理解し、人々の行動について説明できる。 - 実践力、応用力、共感能力 - - コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■ 受講態度（40％）《1, 3》 ■ レポート（60％）《1, 3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 哲学とは何か	講義・演習	池邊
	第2回 私とは	講義・演習	池邊
	第3回 他者とは	講義・演習	池邊
	第4回 アイデンティティとは	講義・演習	池邊
	第5回 人間は資源か	講義・演習	池邊
	第6回 反出生主義	講義・演習	池邊
	第7回 生の肯定	講義・演習	池邊
	第8回 生きることの意味	講義・演習	池邊
	第9回 友情	講義・演習	池邊
	第10回 愛の諸相	講義	池邊

	第11回 自由意志	講義・演習	池邊
	第12回 人格の同一性	講義・演習	池邊
	第13回 心と身体	講義・演習	池邊
	第14回 死と不死	講義・演習	池邊
	第15回 働くということ	講義・演習	池邊
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。		
テキスト	使用しない。随時、プリントを配布する。		
参考書	盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	哲学には絶対に正しいといえる答えはありません。大切なのは「自分で考えること」です。 受講者数にもよりますが、ディスカッション中心の講義を行う予定です。 講義で取り上げる主題は受講者数、受講者の要望などに応じて、適宜、変更します。 積極的に問題提起されることを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	生命科学や医療技術の発達に伴って、技術的に可能なことと倫理的に容認されることの間にどのような折り合いをつけていけばよいのかが問われる場面が多々生じている。われわれは今日、従来の生命観や価値観を問い直すことを余儀なくされている。 本講義では「医療に関わる倫理学Ⅰ」に引き続き、現代医療をめぐる倫理的諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 □医療倫理・研究倫理の重要性を理解し、倫理的に適切な行動について説明できる。 □医療現場で直面する倫理的問題について、倫理学的な考え方に依拠して自分で対応策を立てることができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □社会と看護の関係を理解し、人々の行動について説明できる。 □生と死に関わる倫理的問題を理解し、自身の考えを述べることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □多様な人生観・価値観を理解し、医療現場における倫理的葛藤への対処について説明できる。		
評価方法	ミニッツペーパー（100％）《1, 3, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 パンデミックの倫理学	講義	池邊
	第2回 医学研究の倫理（1） —歴史的経緯—	講義	池邊
	第3回 医学研究の倫理（2） —被験者保護—	講義	池邊
	第4回 動物実験の倫理	講義	池邊
	第5回 人工妊娠中絶とパーソン論（1） —パーソン論とは—	講義	池邊
	第6回 人工妊娠中絶とパーソン論（2） —パーソン論の展開—	講義	池邊
	第7回 重症新生児治療の差し控えと中止	講義	池邊
	第8回 エンハンスメントの倫理的諸問題	講義	池邊
	第9回 ナラティブと医療（1） —E B MとN B M—	講義	池邊
	第10回 ナラティブと医療（2） —ナラティブ・メディスン—	講義	池邊

	第11回 痛み（１） —痛みと人間—	講義	池邊
	第12回 痛み（２） —痛みと医療—	講義	池邊
	第13回 死生観の諸相	講義	池邊
	第14回 緩和ケア	講義	池邊
	第15回 スピリチュアル・ケア	講義	池邊
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。		
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。		
参考書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。		

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード： K110120

英文科目名称： The Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	選択
担当教員			
河野 秀壽命			
添付ファイル			

全担当教員	河野 秀壽命		
概要	憲法の講義とは、往々にして難しい専門用語と論理を多用することが一般的である。しかし日本人としてこの変動期に生きるためには、法学的思考・表現方法の習得は必然の前提となる。われわれの学ぶべきは、憲法の原理であり形成過程の歴史である。判例解釈を必要最小限にしていく。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護専門者には、我欲を抑え、患者の回復を第一に考え、奉仕し行動に努める使命感が求められる。患者に寄り添い、安心を与えることは、優しさだけではだめで、患者を思う厳しさも必要である。それこそ高い倫理観と態度と強い意志が求められる。それを育てる為には、人への深い理解と人の行為の愚かしさを学ぶ必要があり、歴史的な知識が参考になり、憲法こそがそれを与えるものである。 2 創造性、探究力、国際的視野 医療・看護の技術・知識の発達は日進月歩であり、新しいものを積極的に学び、自己を発展させなければいけない。この知識はまさに国際的視野での摂取が求められる。 3 知識、批判的思考力 知識は新しいものが正しいものではない。何が正しく適正なものであるかを判断する能力、まさに批判的思考力が求められ、自己判断の絶対性の主張は誤りの元である。看護の基本・本質を守りながら真摯な探究心が要求される。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 看護は医者と看護者とのチームプレイであり、如何に円滑に効率的に患者を救い得るにかかっている。ここで要求される第一に相互のコミュニケーション能力であり、相互理解と全体的判断である。それを学び、育てる為に私の講義がその手助けになりうると思い、行う。		
評価方法	定期試験（50%）《2,3》、提出物（20%）《1》、受講態度（30%）《5》で総合評価を行う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 はじめに なぜに憲法を学ぶのか 日常生活での憲法	講義	河野
	第2回 第1章 憲法の特徴とその構造 近代憲法の本質とその歴史的発展	講義	河野
	第3回 第2章 1. 大日本帝国憲法の形成とその原理 憲法形成の苦しみとその矛盾	講義	河野
	第4回 2. 日本国憲法制定過程 歴史的反省の上の憲法形成過程	講義	河野
	第5回 第3章 憲法の基本原則 1. 国民主権 象徴天皇制と国民主権原理について	講義	河野
	第6回 2. 恒久平和主義 わが国憲法（平和憲法）の最大特徴	講義	河野
	第7回	講義	河野

	3. 民主主義 民主主義と人権と平和の相互関係		
	第8回	講義	河野
	第4章 基本的人権 1. 基本的人権の理論 近代人権意識のヨーロッパ的発展		
	第9回	講義	河野
	2. 自由権の内容 精神・肉体・財産の自由について		
	第10回	講義	河野
	3. 社会権の形成 20Cの人権思想の転換について		
	第11回	講義	河野
	第5章 統治構造 1. 国会の構造とその種類 国権の最高機関性について		
	第12回	講義	河野
	2. 議院内閣制 議院内閣制の発展とその問題点		
	第13回	講義	河野
	第6章 裁判所 わが国裁判所の問題点への指摘 1. 司法権の意味（三権分立論） 司法権独立の意義とは		
	第14回	講義	河野
	2. 弁護制度・裁判員制度 わが国司法制度の改善点について		
	第15回	講義	河野
	まとめ 憲法の意義 憲法の目的意義についての再認識を		
授業外学修（事前学修・事後学修）	ネットの情報だけに頼るのではなく、新聞を読んでください。特に一紙だけではなく、比較して読むこと。		
テキスト	担当者からレジュメを配布する。		
参考書	小林直樹『憲法講義（上・下）』 長谷部恭男『憲法』 『あたらしい憲法のはなし』（童話屋）		
学生へのメッセージ等	皆様方へ、講義に出て教師の声を真剣に聞いてください。学ぶ楽しさ、苦しさの経験こそ学生の特権です。そして法とは人間を「自由」にするためのものであり、「支配」の道具ではないことを学んでください。多くの皆様の参加を望みます。		

講義科目名称： 家族社会学

授業コード： K080150

英文科目名称： Family Sociology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
藤間 公太			
添付ファイル			

全担当教員	藤間 公太		
概要	家族は多くの人にとって身近な集団であるが、それ故に客観的に議論することが難しい側面がある。この授業では、家族をめぐるさまざまな事象を社会的な視点から検討する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護専門職者として、家族を取り巻く社会の状況を適切に説明できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 問題関心に基つき家族に関する統計資料や先行研究を適切に渉猟できる。 3 知識、批判的思考力 家族をめぐる「常識」を批判的に問い返すことができる。 4 実践力、応用力、共感能力 － 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント －		
評価方法	期末レポート（80%）《2, 3》 受講態度（20%）《1》		
授業計画	授業内容		授業形態
	第1回	2025年8月28日（木） 2限 ジェンダー	講義
	第2回	2025年8月28日（木） 3限 セクシュアリティ	講義
	第3回	2025年8月28日（木） 4限 結婚	講義
	第4回	2025年8月28日（木） 5限 離婚、再婚	講義
	第5回	2025年8月29日（金） 2限 子どもの貧困	講義
	第6回	2025年8月29日（金） 3限 児童虐待	講義
	第7回	2025年8月29日（金） 4限 社会的養護	講義
	第8回	2025年8月29日（金） 5限 介護	講義
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回のテーマについて、関心がある具体的な事例などについて調べておく。 事後学修：授業中に紹介した文献も参照しながら、授業内容について理解を深める。		
テキスト	指定しない。		
参考書	落合恵美子編 『どうする日本の家族政策』（ミネルヴァ書房、2021年）ISBN: 978-4623092819 西野理子・米村千代編 『よくわかる家族社会学』（ミネルヴァ書房、2019年）ISBN:978-4623085514 西村純子・池田心豪編 『社会学で考えるライフ&キャリア』（中央経済グループパブリッシング、2023年）ISBN:978-4502464010		

学生へのメッセージ等	本講義は2日間の集中講義として行う。 授業各回の最後に、その回の内容についてコメントを書いてもらいます。そこに質問を書いていただいてもよいですが、可能な限り授業中に発言し、ご自身の疑問を全体にシェアするようにしてください。
-------------------	--

講義科目名称： 国際情勢論

授業コード： K080440

英文科目名称： International Affairs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	選択
担当教員			
古屋 哲			
添付ファイル			

全担当教員	古屋 哲		
概要	「世界」という言葉から、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。この講義では、おもに先住民や移民と呼ばれる人びとの声と姿をつうじて世界を考えてみます。「身近なもの」ではない世界にふれるために、文章を読んだり、映像番組を観たりします。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護の対象となる人びとが国際的で多様なバックグラウンドをもつことを考慮しつつ、その人びとの尊厳と権利を擁護し、また人びとにとって適切な言葉と方法で看護を説明し、意思決定を支援できるようになる。 2 創造性、探究力、国際的視野 看護の対象となる人びとが国際的で多様なバックグラウンドをもっていることを意識し、それを知り、理解することをつねに心がけ、努力するようになる。 3 知識、批判的思考力 － 4 実践力、応用力、共感能力 － 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント －		
評価方法	授業中に短い感想を聞かせて（あるいは書いて）ください。期末には簡単なレポートを提出してもらいます。それらを総合して評価します。率直な感想、意見を期待しています。評価配分は、おおむね、授業参加と途中のレポートを50%《1, 2》、期末レポートを50%《1, 2》とします。とくに、世界と人びとの暮らしを知ろう、考えようとする姿勢をくみ取って、評価します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月11日（金）	講義	古屋
	第2回 2025年4月18日（金）	講義	古屋
	イスラエル／パレスチナで起きていること（2）		
	第3回 2025年4月25日（金）	講義	古屋
	コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり（1）		
	第4回 2025年5月2日（金）	講義	古屋
	コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり（2）		
	第5回 2025年5月9日（金）	講義	古屋
	アマゾンの開発と先住民（1）		
	第6回 2025年5月16日（金）	講義	古屋
	アマゾンの開発と先住民（2）		
	第7回 2025年5月23日（金）	講義	古屋
	1990年代 ペルーの強制不妊手術（1）		
	第8回 2025年5月30日（金）	講義	古屋
	1990年代 ペルーの強制不妊手術（2）		
	第9回 2025年6月6日（金）	講義	古屋
	アメリカ合衆国の先住民（1）		
	第10回 2025年6月13日（金）	講義	古屋
	アメリカ合衆国の先住民（2）		
	第11回 2025年6月20日（金）	講義	古屋

	日本の外国人労働者導入政策（1）		
	第12回	2025年6月27日（金）	講義 古屋
	日本の外国人労働者導入政策（2）		
	第13回	2025年7月4日（金）	講義 古屋
	シリア難民、ラーマのつぶやき（1）		
	第14回	2025年7月11日（金）	講義 古屋
	シリア難民、ラーマのつぶやき（2）		
	第15回	2025年7月18日（金）	講義 古屋
	まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	● 事前学修・事後学修 ふだんから、新聞、雑誌、テレビ、映画、インターネットなどをつうじて、世界の話題に関心を向けてください。授業中に関連する文献や映画などを紹介しますので、それを読み、鑑賞してください。		
テキスト	とくにありません。		
参考書	授業中に指示します。		
学生へのメッセージ等	少し変わった海外旅行のつもりで、気軽に受講してください。		

講義科目名称: English for Communicative Purposes

授業コード:

英文科目名称: English for Communicative Purposes

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	4	必修
担当教員			
Mathieson Paul			
添付ファイル			

全担当教員	Paul Mathieson/Claire Murray/Rima Ghashut/Manuela Antoniu
概要	This course aims to develop students' English fluency and ability in each of the four skills (reading, writing, speaking, and listening) using a range of communicative classroom activities. In addition, students will be expected to develop their understanding and knowledge of English grammar and vocabulary, and also to improve their English presentation skills.
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 □ Understand a variety of English reading texts + speaking and writing exercises on general topics [Diploma Policy 2 創造性、探究力、国際的視野]; 3 知識、批判的思考力 □ Correctly use and understand intermediate-level English grammar and vocabulary [Diploma Policy 3 知識、比較的思考力]; 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □ Express their ideas and opinions on general topics fluently and confidently in spoken and written English (mistakes are okay) + prepare and give a final group presentation about issues of global importance [Diploma Policy 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント]; □ Prepare and give mini-presentations (in pairs) about each unit topic in English [Diploma Policy 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント].
評価方法	ATTENDANCE, CLASSWORK, AND HOMEWORK: • Attendance: Students are expected to attend all classes. However, students can miss up to two classes without penalty. Any additional missed classes will result in a 5% penalty from your final grade. (E.g.: 3 missed classes = - 5%, 4 missed classes = - 10%, 5 missed classes = - 15%, etc.) • Participate actively in class: Attendance and participation in class are part of your final grade. Students who sleep in class or who do not actively participate in class activities will be penalised. • Keep up with your classwork and homework: If you miss a class, it is your responsibility to find out what you missed (classwork, homework, etc). If you are absent from class, you will still be expected to do any homework that was set. ASSESSMENT: • Fluency Speaking = pass / fail * [Diploma Policy 3 + 5, Level D] • Fluency Writing = pass / fail * [Diploma Policy 3 + 5, Level D] • Fluency Reading = pass / fail * [Diploma Policy 2 + 3, Level D] • Extensive Reading Programme (Xreading) = 20% † (First Semester = 10% ; Second Semester = 10%) [Diploma Policy 2 + 3, Level D] • Vocabulary and Grammar Quizzes = 10% (First Semester = 5% ; Second Semester = 5%) [Diploma Policy 3, Level D] • Mini-presentations = 10% (First Semester = 5% ; Second Semester = 5%) [Diploma Policy 2 + 5, Level D] • Final Presentation = 10% [Diploma Policy 2 + 5, Level D] • Mid-term Test (First Semester) = 20% ‡ [Diploma Policy 2 + 3 + 5, Level D] • Final Exam (Second Semester) = 30% ‡ [Diploma Policy 2 + 3 + 5, Level D] • [Bonus = + 5% for each Special English Course completed (maximum of 2 Special English Courses)] * Students must meet the standards for the Fluency Speaking (2 x 5 minutes of English speaking), Fluency Writing (2 x 100 words or more in 10 minutes), and Fluency Reading (60% or above on the Fluency Reading Test) in BOTH the First Semester and the Second Semester in order to pass this course. † Students must read a minimum of 50,000 words in the First Semester and a minimum of 50,000 words in the

Second Semester.
→ 50,000+ words = 60% (6 points); 75,000+ words = 80% (8 points); 100,000+ words = 100% (10 points).
‡ The minimum pass score for the Mid-term Test (First Semester) and the Final Exam (Second Semester) is 50%.

ASSESSMENT FOR REPEAT STUDENTS (留年生の評価方法):

First Semester (前期)

- Fluency Speaking = pass / fail *
- Fluency Writing = pass / fail *
- Fluency Reading = pass / fail *
- Extensive Reading Programme (Xreading) = 20% †
- Vocabulary and Grammar Quizzes = 20%
- Mini-presentations = 20%
- Final Exam = 40% ‡
- [Bonus = + 5% for each Special English Course completed (maximum of 2 Special English Courses)]

Second Semester (後期)

- Fluency Speaking = pass / fail *
- Fluency Writing = pass / fail *
- Fluency Reading = pass / fail *
- Extensive Reading Programme (Xreading) = 20% †
- Vocabulary and Grammar Quizzes = 20%
- Mini-presentations = 10%
- Final Presentation = 10%
- Final Exam = 40% ‡
- [Bonus = + 5% for each Special English Course completed (maximum of 2 Special English Courses)]

* Students must meet the standards for the Fluency Speaking (2 x 5 minutes of English speaking), Fluency Writing (2 x 100 words or more in 10 minutes), and Fluency Reading (60% or above on the Fluency Reading Test), in order to pass this course.
† Students must read a minimum of 50,000 words (First Semester AND/OR Second Semester).
→ 50,000+ words = 60% (6 points); 75,000+ words = 80% (8 points); 100,000+ words = 100% (10 points).
‡ The minimum pass score for the Final Exam is 50%, and the minimum pass score for each section of the Final Exam is 40%.

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
(前) WEEK 1	Orientation Classes 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 9 April & Friday, 11 April	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 2	Unit 1: Hometown 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 16 April & Friday, 18 April	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 3	Unit 1: Hometown 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 23 April & Friday, 25 April	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 4	Unit 1: Hometown 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 30 April & Friday, 2 May [Vocabulary and Grammar Quiz 1]	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 5	Unit 2: Music 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 7 May & Friday, 9 May	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 6	Unit 2: Music 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 14 May & Friday, 16 May	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 7	Unit 2: Music 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 21 May & Friday, 23 May	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 8	Special Unit: Essay Writing 1 + 2 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 28 May & Friday, 30 May	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou
(前) WEEK 9	Unit 3: Books 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 4 June & Friday, 6 June	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoniou

(前) WEEK 10	Unit 3: Books 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 11 June & Friday, 13 June	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(前) WEEK 11	1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 18 June & Friday, 20 June	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(前) WEEK 12	Unit 4: Friends & Family 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 25 June & Friday, 27 June	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(前) WEEK 13	Unit 4: Friends & Family 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 2 July & Friday, 4 July	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(前) WEEK 14	Unit 4: Friends & Family 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 9 July & Friday, 11 July	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(前) WEEK 15	Review Classes 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 16 July & Friday, 18 July [Fluency Reading Test]	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(前) WEEK 16	Mid-term Exam Wednesday, 23 July	EXAM	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 1	Orientation 1:00 pm – 2:30 pm, Friday, 19 September	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 2	Unit 5: Travel 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 24 September & Friday, 26 September	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 3	Unit 5: Travel 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 1 October & Friday, 3 October	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 4	Unit 5: Travel 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 8 October & Friday, 10 October	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 5	Unit 6: School 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 15 October & Friday, 17 October	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 6	Special Lecture 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 22 October	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 7	Unit 6: School 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 29 October & Friday, 31 October	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 8	Unit 6: School 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 5 November & Friday, 7 November [Vocabulary and Grammar Quiz 6]	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 9	Special Unit: Essay Writing 1 + 2 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 12 November & Friday, 14 November	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 10	Unit 7: Food 1:00 pm – 2:30 pm, Wednesday, 19 November & Friday, 21 November	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 11	Unit 7: Food	Lectures	Mathieson Murray Ghashut

	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 26 November & Friday, 28 November [Vocabulary and Grammar Quiz 7]		Antoni
(後) WEEK 12	Unit 8: Nature 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 3 December & Friday, 5 December	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 13	Unit 8: Nature 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 10 December & Friday, 12 December	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 14	Review Classes 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 17 December & Friday, 19 December [Fluency Reading Test]	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 15	Final Presentations 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 7 January & Friday, 9 January	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 16	Final Presentations 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 14 January & Friday, 16 January	Lectures	Mathieson Murray Ghashut Antoni
(後) WEEK 17	Final Exam Wednesday, 21 January	EXAM	Mathieson Murray Ghashut Antoni
	Retest	EXAM	Mathieson Murray Ghashut Antoni
授業外学修（事前学修・事後学修）	This course uses a flipped classroom (反転学習) approach. This means that students are expected to come to class having (1) prepared for the topic (read the topic text, prepared for fluency speaking, etc) and (2) completed any homework that was set by their teacher. In addition, students are expected to do extensive reading (Xreading) OUTSIDE of class time.		
テキスト	1. Murphy, R. (2017). Grammar in Use - Intermediate. Cambridge University Press. ISBN: 9784889969238. 2. Xreading VL. XLearning Systems. ISBN: 9784865390704.		
参考書	Students are strongly advised to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class.		
学生へのメッセージ等	A large part of this course is participation based, so students are advised to come to all of the classes and to actively participate in class activities. Students also need to maintain good study habits from the beginning of the course, as English vocabulary and grammar patterns from the textbook and the reading texts will be included in the Final Exam.		

講義科目名称： アジア文化論

授業コード： K160200 K16020A K16020B
K16020C

英文科目名称： Asian Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／浅井 良純（韓国文化）／水野 杏紀（中国文化）／富岡 三智（インドネシア文化）
概要	〔浅井（韓国文化）〕 戦後、朝鮮半島では大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）という二つの国家として独立し、対立するなかで民族が分断された状態にある。また近年、日韓両政府はいわゆる「徴用工」や「慰安婦」などの問題を抱えている。さらに朝鮮半島問題を複雑にしているのは、それを取り巻く米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差しているためである。本講座では朝鮮半島問題について、南北関係やそれを取り巻く地政学的環境、そして文化的相違性に留意しながら考察する。 〔富岡（インドネシア文化）〕 インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱えながら、多様な民族・宗教・文化を擁し、「多様性の統一」を国是とする国である。日本と歴史的、政治的、経済的に関わりの深いインドネシアの文化を知ることを通して、多様な価値を認め合い共存を目指す社会について考える。 〔水野（中国文化）〕 中華文化圏とは中国、香港、台湾などの文化エリアを示す。本講義では、この文化圏の歴史、地理、気候、民族、言語、さらには暦法と習俗、飲食と養生、思想（諸子百家）、芸術文化などを学び、中華文化圏の特性を総合的に理解する。さらに学生の関心が高い医学との関連を踏まえた項目、たとえば現代中国の医療事情と、昨今高まる医療インバウンドと中国人の関連、中国人の不老長生の観念などを考察する。
目標	1 倫理観、態度、意欲 － 2 創造性、探究力、国際的視野 〔浅井（韓国文化）〕 朝鮮半島の地政学的特徴(米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差)を踏まえてこの地域の国際的視野を習得する。 〔富岡（インドネシア文化）〕 日本と異なる生活習慣があることを理解し、国際的視点から患者を理解する基本能力を身につけている。 〔水野（中国文化）〕 中国は日本の近隣に位置し、日本との交流は古えにさかのぼる。また多民族国家であり、広い国土を持ち、人口の圧倒的なパワーを持つ。こうした中国の文化や思想を学ぶことを通じ、その理解を深め、国際的視野を持つ人材となることを目指す。さらに、これらの学びから、幅広い教養を身につけ、物事を深く探求する力を醸成し、柔軟な創造力を体得することを目指す。 3 知識、批判的思考力 － 4 実践力、応用力、共感能力 － 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 〔浅井（韓国文化）〕 韓国の医療チームと交流のための文化的基礎知識（歴史・文化的相違性）を習得する。 〔富岡（インドネシア文化）〕 患者が属する社会や宗教の慣習を理解しコミュニケーションを取るための技能を説明できる。 〔水野（中国文化）〕 中国では古来、さまざまな共同体において、良好な人間関係を形成することを重視した。それは諸子百家の思想哲学にも流れている。それらを根幹とし、中国では豊かな文化をつくりだした。これらを学ぶことを通じ、多様な人びとの思考を理解して対応する、柔軟なコミュニケーション能力を身につける。さらに、自分の属するチームを目標達成に導き、人材育成につなげるマネジメント力を磨く。
評価方法	〔浅井（韓国文化）〕 ■受講評価（授業毎に提出するミニレポートの内容と回数）40% 《2・5》 ■試験（最終講義(5回目)の後半で到達度確認のための試験を行う）60%による総合評価 《2・5》 〔富岡（インドネシア文化）〕 ■各回（4回）のレポートの内容（20%） 《2・5》 ■5回目の授業で実施する確認テスト（80%） 《2・5》 〔水野（中国文化）〕 ■小テスト（初回から四回の授業最後に行いその理解度をみる）（40%） 《2・5》 ■期末試験（第五回の授業最後に行い総合的な理解度を評価する）（60%） 《2・5》

授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 朝鮮半島の地政学的構造と現代史（1）	講義	浅井（韓国文化）
	第2回 朝鮮半島の地政学的構造と現代史（2）	講義	浅井（韓国文化）
	第3回 日韓歴史問題の構造と認識（1）	講義	浅井（韓国文化）
	第4回 日韓歴史問題の構造と認識（2）	講義	浅井（韓国文化）
	第5回 日韓歴史問題の構造と認識（3）	講義	浅井（韓国文化）
	第6回 インドネシアの地理、歴史、言語、宗教	講義	富岡（インドネシア文化）
	第7回 インドネシアの様々な死生観	講義	富岡（インドネシア文化）
	第8回 インドネシアのイスラム	講義	富岡（インドネシア文化）
	第9回 インドネシアの現代史、日本との関わり	講義	富岡（インドネシア文化）
	第10回 インドネシアの観光と文化、確認テスト	講義	富岡（インドネシア文化）
	第11回 中華文化圏の特性（歴史、地理、気候、言語、民族、漢字）	講義	水野（中国文化）
	第12回 中華文化圏の暦法と歳時記（元旦、清明節、端午節、重陽節）	講義	水野（中国文化）
	第13回 中華文化圏の飲食と養生（四季の食養生、中国六大茶）	講義	水野（中国文化）
	第14回 中華文化圏の思想（諸子百家の思想、孔子、孟子、老子、荘子）	講義	水野（中国文化）
	第15回 中華文化圏の芸術（書画、絵画、民居、庭園）	講義	水野（中国文化）
授業外学修（事前学修・事後学修）	[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島の諸問題（北朝鮮の核・拉致問題、徴用工や慰安婦問題など）に関するニュースをチェックする。 [富岡（インドネシア文化）] 授業中に配布したプリントを復習し、授業で取り上げたトピックについて文献やインターネットで調べてみる。 [水野（中国文化）] 授業外学修については、授業内で案内を行う。		
テキスト	[浅井（韓国文化）] 特になし、また必要な資料は講義時に配布する。 [富岡（インドネシア文化）] 特に使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。 [水野（中国文化）] なし。最初にレジュメを配布する。		
参考書	[浅井（韓国文化）] 授業中に紹介する。 [富岡（インドネシア文化）] 授業中に紹介する。 [水野（中国文化）]		

学生へのメッセージ等	水野杏紀『易、風水、暦、養生、処世 東アジアの宇宙観』（講談社選書メチエ、講談社、2016年） 〔浅井（韓国文化）〕 朝鮮半島は日本に隣接する地域でありながら理解を難しくしている要因の一つが半島を取り巻く国際環境にあります。東アジア全体から朝鮮半島の諸問題を捉えなおしてみましょう。 注意：授業中、私語等で注意を受けた場合、評価対象から外れる場合があるので注意されたい。 〔富岡（インドネシア文化）〕 現在は海外に駐在・留学する日本人の数も、また日本に在留する外国人の数も増え、相互理解の必要性はますます高まっています。皆さんの職業人生において、異なる文化背景の人々とどのように接してゆくべきか、この講義を契機として考えてみてください。 〔水野（中国文化）〕 日本は中国と古くよりさまざまな交流があり、思想や文化、技術、芸術など多くのものが伝播し、これらはまた日本で独自の発展を遂げています。中国を理解することは日本を理解することにもつながります。そうした視点も踏まえながら、学んでほしいと思います。
-------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／池邊 寧（ドイツ文化）／勝井 伸子（アメリカ文化）／折井 穂積（フランス文化）
概要	〔池邊（ドイツ文化）〕 ナチ時代のドイツを取り上げ、ドイツ国民はなぜヒトラーを支持したのか、戦後ドイツがナチ時代とどう向き合ってきたのかについて考えていく。 〔勝井（アメリカ文化）〕 21世紀の現在の世界に大きな影響力を及ぼしているアメリカの文化を形成するヒーロー、フロンティア、移民といったいくつかの要素からアメリカ文化を理解することから、アメリカ人にとっての世界の見え方を理解し、また同時にアメリカ文化がグローバル化とともに世界に浸透しているということを改めて認識することで、世界の中で生きる視点を持つことを目的とする。 〔折井（フランス文化）〕 世界遺産や文化財に指定されている建造物をたどりながら、それらの背景となった歴史や文化を考察する。扱われる建造物は、古代の遺跡、ロマネスクやゴシックの聖堂、英仏百年戦争時代の古城、絶対王政期の宮殿、産業革命期の工場や社宅、大戦時の軍事施設、現代の新市街など。さらに、残り時間を利用して流行歌を紹介し、フランス語圏の現在を考える。扱われる内容は、パリとジャズ・マヌーシュ、カナダのフランス語圏、アフリカにルーツを持つ歌手、同性愛や認知症を主題とする歌など。幅広い知識と国際的な視野の獲得を目指す。
目標	1 倫理観、態度、意欲 〔池邊（ドイツ文化）〕 看護師の職責を自覚し、人間の多様性を尊重することができる。 〔勝井（アメリカ文化）〕 共感と想像力をもって異文化を理解し、自身の文化をも理解する態度を持つことができる。 〔折井（フランス文化）〕 － 2 創造性、探究力、国際的視野 〔池邊（ドイツ文化）〕 他国の歴史や文化を理解し、国際的な視野に立って医学・医療のあり方を考えることができる。 〔勝井（アメリカ文化）〕 アメリカの文化を探究心を持って学んだ知識を基にアメリカ文化について考察できる。 〔折井（フランス文化）〕 □広く世界に目を向け、常に共感をもって異文化に接することができる。 □他国の歴史や文化に触れることにより、自身の考えを相対化することができる。 3 知識、批判的思考力 〔池邊（ドイツ文化）〕 時代の流れや社会の状況のなかで医学・医療を捉え、説明できる。 〔勝井（アメリカ文化）〕 アメリカ文化を知り、自身の文化を相対化することができ、新たな視点を持つことができる。 〔折井（フランス文化）〕 － 4 実践力、応用力、共感能力 〔池邊（ドイツ文化）〕 － 〔勝井（アメリカ文化）〕 幅広い教養と深い洞察力を備えた医療人として共感をもって異文化に接することができる。 〔折井（フランス文化）〕 － 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 〔池邊（ドイツ文化）〕 ドイツ文化の特徴、日本文化との違いなどについて、自分の考えを提示することができる。 〔勝井（アメリカ文化）〕 アメリカ文化の特徴、日本文化との違いについて、自分の分析を論理的に言語化して伝えることができる。 〔折井（フランス文化）〕 －

	フランス文化の特徴、日本文化との違いなどについて、新たに発見したこと、疑問に感じたこと、自分なりに分析したことを、論理的な文章構成で伝えることができる。		
評価方法	[池邊（ドイツ文化）] ■ミニッツペーパー（100%）《1, 2, 3, 5》 [勝井（アメリカ文化）] ■授業中ミニレポート・貢献度（50%）《1, 2, 3, 4, 5》 ■期末レポート（50%）《1, 2, 3, 4, 5》 [折井（フランス文化）] ■小レポート（100%）《2, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ナチズムと現代	講義	池邊（ドイツ文化）
	第2回 ナチ時代の政策と生活	講義	池邊（ドイツ文化）
	第3回 ナチスに抵抗した人々	講義	池邊（ドイツ文化）
	第4回 ナチズムと優生思想	講義	池邊（ドイツ文化）
	第5回 ホロコースト	講義	池邊（ドイツ文化）
	第6回 アメリカ文化におけるヒーロー	講義	勝井（アメリカ文化）
	第7回 アメリカ文化の特質としてのフロンティア	講義	勝井（アメリカ文化）
	第8回 イデオロギーとしてのアメリカの農民	講義	勝井（アメリカ文化）
	第9回 アメリカの主流文化の形成と移民	講義	勝井（アメリカ文化）
	第10回 フロンティアの経験と暴力	講義	勝井（アメリカ文化）
	第11回 古代と中世	講義	折井（フランス文化）
	第12回 中世末期とルネサンス	講義	折井（フランス文化）
	第13回 ブルボン王朝時代	講義	折井（フランス文化）
	第14回 19世紀	講義	折井（フランス文化）
	第15回 20世紀	講義	折井（フランス文化）
授業外学修（事前学修・事後学修）	[池邊（ドイツ文化）] 講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。 [勝井（アメリカ文化）] 5回目授業終了後3週間以内に最終レポート提出 提出は教務システム [折井（フランス文化）] 事後学習：学習した内容を踏まえてレポートを作成し、期間内に提出してください。		
テキスト	[池邊（ドイツ文化）] 使用しない。随時、プリントを配布する。 [勝井（アメリカ文化）] 使用しない [折井（フランス文化）]		

	使用しない
参考書	[池邊（ドイツ文化）] 講義中に随時紹介する。 [勝井（アメリカ文化）] 使用しない [折井（フランス文化）] 使用しない
学生へのメッセージ等	[池邊（ドイツ文化）] 他国のこと、昔のことと突き放さず、自分に引きつけて受講してください。 [勝井（アメリカ文化）] 今まで特に意識していなかったことを前景化する＝意識化することで、世界の見え方が変わる！という経験を一緒に味わえればと思います。授業中の質問やコメントは貢献度として評価しますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。 [折井（フランス文化）] 授業で扱われるのは文化史の一断面に過ぎません。そこに留意し、これから自分自身で考える際の参考にしてください。

講義科目名称： 社会福祉と医療法規

授業コード： K16008A K16008B

英文科目名称： Social Welfare and Medical Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター）／谷 直之／倉持 史朗		
概要	（倉持） 本講義の目的は、「社会福祉」に含まれる制度や実践の理解、および、「社会福祉」の価値や視点を理解することである。社会福祉に関する制度や社会福祉が対象とする諸問題と実践内容を取り上げることを通して、社会福祉の今日的意義と医療とのかかわりについて考えることを目指す。 （谷） 法とは何かを理解し、法的視点から、医療（倫理）、保健衛生、福祉の概要と諸問題について理解を深める。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 － 2 創造性、探究力、国際的視野 － 3 知識、批判的思考力 看護の対象者の健康、環境に関し、社会福祉および医療法規の基本的知識を修得し、それを基に、課題・問題点の解決のための検討方法を理解する。 4 実践力、応用力、共感能力 － 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント －		
評価方法	（倉持） ■期末試験 90% ≪ 3 ≫ ■授業への参加姿勢 10% ≪ 3 ≫ （谷） ■受講態度（10%）≪ 3 ≫ ■小レポート等（30%）≪ 3 ≫ ■期末レポート（60%）≪ 3 ≫ ※評価点数は『社会福祉』の評価点（100点を満点）×2/3+『医療法規』の評価点（100点を満点）×1/3で算出し、60点以上を合格とする。この評価点とは、試験、レポート、出席を含む平常評価すべてを総合した最終的な評価点であって、筆記試験の点数を指しているわけではない。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 （医法1）法学オリエンテーション ①法とは何か？法と倫理 ②自然法論と法実証主義 ③パターナリズムと自己決定権	講義	谷
	第2回 （福祉1）オリエンテーション	講義	倉持
	第3回 （福祉2）社会福祉の価値と理念	講義	倉持
	第4回 （医法2）医事法制医療法・医療職の資格法 ①医療法の目的・理念と医療施設 ②医療職の資格要件と業務規程	講義	谷
	第5回 （福祉3）社会福祉に関する制度 －社会保障・社会福祉の体系－ 社会福祉の実践 －障がい児・者福祉－	講義	倉持
	第6回 （福祉4）社会福祉支援（ソーシャルワークの視点）	講義	倉持

	第7回 (医法3) 医療従事者の法的責任 ①医療契約 ②医療過誤 ③法的責任 *刑事上の責任 *民事上の責任 *行政上の責任	講義	谷
	第8回 (福祉5) 社会福祉の実践 －子ども家庭福祉①子どもの貧困－	講義	倉持
	第9回 (福祉6) 社会福祉の実践 －子ども家庭福祉②児童虐待－	講義	倉持
	第10回 (福祉7) 社会福祉の実践 －婦人保護事業・DV－	講義	倉持
	第11回 (医法4) 医療倫理 ①法と医療倫理 ②出産前診断・人工妊娠中絶 ③移植医療	講義	谷
	第12回 (福祉8) 医療現場における社会福祉の実践 －MSW・PSW等－	講義	倉持
	第13回 (福祉9) 医療現場における社会保障	講義	倉持
	第14回 (福祉10) 医療現場における社会保障	講義	倉持
	第15回 (医法5) 薬機法・感染症法と薬害訴訟 ①薬機法の目的と概要 ②感染症法の目的と概要 ③薬害・薬禍問題 (B型肝炎)	講義	谷
授業外学修 (事前学修・事後学修)	授業外学修については、授業内で案内を行う。		
テキスト	(倉持) 特に指定しない。プリント・資料などを配布する。 (谷) 「姫嶋瑞穂『医事法学入門 (第2版)』」成文堂、2021年		
参考書	(倉持) 授業中に適宜紹介する。 (谷) 必要に応じて適宜指示する。		
学生へのメッセージ等	(倉持) 社会福祉は生活を支える制度であり実践です。皆さんが向き合っていく人達はたとえ同じような病気や症状をみせていても、それぞれに異なる生活歴や環境の中で生きている「固有の存在」です。そのような人間観を持つことが、現代社会において医療・保健・福祉が協働していく意義を理解いただけたと思います。 (谷) 法律というと、難解で自分とは縁遠いもの、と思われがちですが、小説やドラマで頻繁に取り上げられているように、実は、私たちの生活、とりわけ、医師・看護師の業務とは密接に関連しています。法を守ること、第一に患者さんを守ることであり、同時に自分自身や自分の同僚を守ること。興味関心を持って受講されることを望みます。		

講義科目名称： 生物学

授業コード： K080220

英文科目名称： Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
裏山 悟司			
添付ファイル			

全担当教員	裏山 悟司		
概要	生命の捉え方・生命活動の様式について、将来の専門教育課程で学ぶための基礎知識を習得することを目的とする。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 生命科学の基礎的な現象を理解することにより、将来学ぶ様々な疾患についてより深く理解することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	定期試験（80%） 《3》 授業態度/小テスト（毎回実施）/課題（20%） 《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス/細胞とは ・生物が細胞からできていることを理解する。 ・細胞がどのような物質でつくられているかについて理解する。 ・遺伝情報がDNAに存在していることを理解する。 ・DNAの複製について理解する。	講義	裏山
	第2回 遺伝情報の複製 ・遺伝情報の複製の仕組みについて理解する。	講義	裏山
	第3回 遺伝情報の発現 ・遺伝情報の発現の仕組みについて理解する。	講義	裏山
	第4回 細胞内呼吸(1) ・生体内での代謝活動を営む酵素の働きや性質を理解する。 ・グルコースからATPを産生する代謝系について理解する。	講義	裏山
	第5回 細胞内呼吸(2) / 体細胞分裂 ・グルコース以外の糖質、脂質、タンパク質からATPを産生する代謝系について理解する。 ・体細胞分裂について理解する。	講義	裏山
	第6回 減数分裂 ・減数分裂について基本を理解する。	講義	裏山
	第7回 減数分裂/生体防御機構/生命維持機構 ・ヒトの精子形成機構、卵形成機構について知る。 ・ヒトの初期発生を知る。 (授業の進捗状況では一部、または全てを実施しない可能性有り) ・細胞間情報伝達システム、生体防御機構や生体維持機構といった、多細胞生物の自己維持機構について一端を知る(授業の進捗状況では一部、または全てを実施しない可能性有り)。	講義	裏山
	第8回 まとめ	講義	裏山

	復習回;シラバス上では第8回に記載しているが、必要に応じて第4回以降で実施。なお、進捗状況に遅れがあれば、通常授業を実施。	
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業前に教科書(実施単元)を一読することが望ましいでしょう。また、授業後にも忘れないうちに教科書や資料に一度目を通すことをお勧めします。	
テキスト	・やさしい基礎生物学（第2版；2025年1月時点）／南雲保 編／羊土社 ※読みやすいテキストです。毎回の授業前に簡単に目を通して置いて下さい。 ※選択確定前の授業では無理に準備をしておく必要はありません。	
参考書	特にありませんが、高校の生物基礎/生物の教科書を持っていれば、参考になります。	
学生へのメッセージ等	・高校生物を取っていない学生でも理解できるように、基礎的な部分に重点をおいた講義にしますが、やはり予習復習は大事です。簡単で良いのでお願いします。 ・本講義の選択を検討している学生は、第1回目から受講して下さい(第1回目にも出席点を付与します)。 ・上述のテキスト(やさしい基礎生物学の第2版)を選択確定時には準備しておいてください。前期の選択科目という性質上、例年、準備に手間取りますが、あわてる必要はありません。 ・各授業回での計画はあくまで目安です。学生さんの習熟状況により、進行速度が変わります。場合によっては、後半の項目で未実施となる項目が出てくる可能性があります。 ・質問があれば、urayama 【】 naramed-u.ac.jp までご連絡ください。その際は名前を名乗ってくださいね。 ※括弧をアットマークに変換してください。	

講義科目名称： 化学

授業コード： K080230

英文科目名称： Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	選択
担当教員			
山本 恵三			
添付ファイル			

全担当教員	山本 恵三		
概要	化学は看護学を修める学生にとっても基本的で重要な科目である。特に専門基礎分野（健康の理解）を深く理解するためには、土台となる化学的知識が不可欠である。また、最近の看護・医療の急激な発展に関する知識を理解する上で、化学的思考は重要となる。本講義では、原子・分子の構造から、糖質・タンパク質の構造といった生体にかかわる分子の化学的基礎的知識を講義する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 原子・分子の構造が理解できる。 ☐ 糖液の濃度の計算ができる。 ☐ 生体分子の構造と機能が理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■小テスト (20%) 《3》 ■期末試験 (80%) 《3》		
授業計画	授業内容		授業形態
	第1回	2025年4月11日（金） 第1章 化学をなぜ勉強するのか？ 原子の構造と放射能	講義
	第2回	2025年4月18日（金） 第2, 3章 原子の電子構造 周期表と元素	講義
	第3回	2025年5月2日（金） 第4, 5章 化学結合と分子 物質の量 酸・塩基	講義
	第4回	2025年5月9日（金） 第8章 有機化合物の構造	講義
	第5回	2025年5月16日（金） 第9章 異性体と立体化学	講義
	第6回	2025年5月23日（金） 第10章 有機化学反応	講義
	第7回	2025年5月30日（金） 第12章（前半） 糖質の化学、グルコースの構造式の決定 教科書の内容以上の講義をします。プリントを勉強してください。。	講義
	第8回	2025年6月6日（金） 第13章 アミノ酸とタンパク質の構造と機能 教科書の内容以上の講義をします。プリントを勉強してください。	講義

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に授業内容に関する教科書の個所を読み、講義に臨むこと。 各授業後に行った小テストの内容について復習し、理解しておくこと。 講義内容に準じた部分の、教科書の演習問題を行うこと。
テキスト	コ・メディカル化学 改訂版（裳華房） 各授業についてプリントを配布します。
参考書	なし
学生へのメッセージ等	化学は難しいものではありません。高校で化学を履修しなかった学生の履修を奨励します。化学的視点で身の回りを見ると、今までと違ったものが見えてくると思います。

講義科目名称： 健康科学

授業コード： K08025A K08025B

英文科目名称： Health Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

全担当教員	石指 宏通		
概要	生命活動の基礎的機序ならびに運動時の生理学的な生体変化についての知識を身につけるとともに、将来、医療現場及び地域での活躍が期待される者として、運動が健康の保持・増進や疾病予防に果たす役割を認識する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 自己の目標を設定し、生涯にわたり向上を図るために学習し、研鑽することができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 科学的研究で明らかになった新しい知見を理解し、説明できる。 3 知識、批判的思考力 □運動・スポーツが健康に果たす役割について説明できる。 □身体諸機能（神経系・骨格系・呼吸循環系・消化系）の正常機能と構造を理解し、それらに及ぼす運動の影響について説明できる。 □運動・スポーツ時に発生し得る事故について、その予防法を応急処置が説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 医学生として、共感的態度で他者に敬意をはらったコミュニケーションができる。		
評価方法	平常点（40％）《1,5》： 授業への出席はもちろんのこと、積極的な取り組みを重視する。 レポート課題（20％）《2,3》： 一回ごとの授業での内容の理解度を重視して評価する。 定期試験（40％）《2,3》： 8回の授業を通して得た知識の理解度を総合的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 健康と体力 1) 平均寿命と健康寿命 2) 健康づくりと運動 3) 体力測定の方法と評価	講義	石指
	第2回 運動に関わるからだの解剖学的・生理学的仕組み① 1) 運動と骨格筋 2) 運動と神経・内分泌 3) 運動と呼吸・循環器	講義	石指
	第3回 運動に関わるからだの解剖学的・生理学的仕組み② 4) 運動と代謝 5) 運動と水分摂取（体温調節）	講義	石指
	第4回 年齢に適した運動 1) 発育と運動 2) 加齢と運動	講義	石指
	第5回 生活習慣病とその予防① 1) 肥満と運動 2) 糖尿病と運動	講義	石指
	第6回 生活習慣病とその予防② 3) 高血圧と運動 4) 高脂血症と運動	講義	石指
	第7回 運動処方 1) 運動のもつ有効性と危険性 2) 運動負荷試験の意義と実際	講義	石指
	第8回 運動障害と予防 1) 内科的障害	講義	石指

	2) 外科的障害		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修課題：関連図書・資料などで予習する。 事後学修課題：ノート、配布資料を整理して授業内容の復習する。		
テキスト	授業ごとに資料を配布する。		
参考書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義と実技を別々に捉えるのではなく、生涯にわたる健康保持の基本姿勢を身に付けてほしい。		

講義科目名称： 健康運動学

授業コード： K08026A K08026B

英文科目名称： Sports Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

全担当教員	石指 宏通
概要	生涯にわたって断続的・計画的にスポーツを享受し続けることができるように、日常的なスポーツ実施による行動体力および防衛体力への将来的影響を予測し、いつまでもスポーツを楽しみながら実施できる姿勢を養う。
目標	1 倫理観、態度、意欲 各種スポーツの実践を通して、スポーツに対する関心や主体的に取り組む意欲を高め、スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を説明できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 3 知識、批判的思考力 スポーツ活動の身体に及ぼす有効性と危険性を説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 既存のスポーツに固執することなく、能力差やハンディキャップの有無に応じてルール等を改変し、新たな実践方法を考えることができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考えることができる。
評価方法	平常点（80％）《1,4,5》： 出席はもちろんのこと、実技で行うゲーム等への積極的な参加、仲間との協力など取り組む姿勢を重視して評価する。 レポート課題（20％）《3》： 生涯スポーツに向けて、運動の有効性と危険性が理解されているかを評価する。
授業計画	第1回～第2 2回共通、授業形態…実技、担当者…石指 体力テスト・運動能力テスト バレーボール バスケットボール テニス バドミントン 卓球などの種目を適時実施する。 また、 テーピング等の応急処置 運動負荷検査法の実習を実施する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修課題：実技で行うスポーツについて関連図書・資料などでルールや楽しみ方について考える。 事後学修課題：次に行うための改変すべきルールや協力体制等を考える。
テキスト	参考資料を配布する。
参考書	授業中に紹介する。
学生へのメッセージ等	各自が運動に適した服装、シューズを用意すること。 生涯にわたってスポーツを継続する姿勢を身に付けてほしい。

講義科目名称： 人体構造学

授業コード： K080270

英文科目名称： Human Anatomy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	必修
担当教員			
井上 浩一 服部 剛志			
添付ファイル			

全担当教員	井上 浩一/堀井 謹子/東 超（解剖学第1） 服部 剛志/辰巳 晃子（解剖学第2）		
概要	正常な人体構造の学びを通し、看護を実践する基礎を身につける。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 人命の尊厳と死について深慮し、人体解剖実習のために献体して下さった方の崇高な精神を学ぶ。 ☐ 看護学生としてふさわしい態度で授業に参加し、教員などに接することができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 人体の正常構造を系統的に理解する。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 看護を実践するための解剖学的な背景を学修する。 ☐ 看護学生として解剖慰霊祭などを通して共感的態度を学ぶ。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■受講態度(レポート提出含む)(10%) 《1, 4》 ■定期試験(90%) 《3, 4》 評価基準：教科書の内容に加えて、講義内容についても定期試験で問う。解剖学の講義ではあるが、解剖学を中心とした解剖生理学についての全般的な理解が出来ているか否かを基準とする。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月9日（水） 2限目 10:40~12:10 人体構造学総論	講義	辰巳
	第2回 2025年4月16日（水） 2限目 10:40~12:10 呼吸器	講義	辰巳
	第3回 2025年4月23日（水） 2限目 10:40~12:10 心・循環器	講義	井上
	第4回 2025年4月30日（水） 2限目 10:40~12:10 泌尿器	講義	辰巳
	第5回 2025年5月7日（水） 2限目 10:40~12:10 感覚器	講義	辰巳
	第6回 2025年5月14日（水） 2限目 10:40~12:10 神経系1	講義	服部
	第7回 2025年5月21日（水） 2限目 10:40~12:10 神経系2	講義	服部
	第8回 2025年5月28日（水） 2限目 10:40~12:10 骨・骨格筋 1	講義	東
	第9回 2025年6月4日（水） 2限目 10:40~12:10 骨・骨格筋 2	講義	東
	第10回 2025年6月11日（水） 2限目 10:40~12:10 消化器 1	講義	井上
	第11回 2025年6月18日（水） 2限目 10:40~12:10 消化器 2	講義	井上

	第12回	2025年6月25日（水） 内分泌	2限目 10:40~12:10	講義	堀井
	第13回	2025年7月2日（水） 生殖器	2限目 10:40~12:10	講義	堀井
	第14回	2025年7月9日（水） 発生概論	2限目 10:40~12:10	講義	井上
	第15回	肉眼解剖見学実習 医学科2年生が実習中の人体解剖学実習室を訪れ、人体、各器官に触れ人体構造を知る。	3限目 13:00~14:30	実習	教員全員
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマにそった教科書の部分を精読してから講義に臨むこと。 事後学修：授業で取り上げたテーマに関して、自分で試験問題（多肢選択）を複数個作成することで重要ポイントを復習する。				
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学－人体の構造と機能〔1〕（医学書院）				
参考書	入門人体解剖学：藤田恒夫著（南江堂）、イラスト解剖学：村松譲児（中外医薬社）、ラングマン人体発生学（医学書院）				
学生へのメッセージ等	解剖学は生理学と共にこれから学ぶ医学の基礎となる基幹科目です。解剖生理学の理解にはテキストを繰り返し良く読むことが一番重要です。その上で講義を聞くと知識が系統的に整理されます。 医学科の肉眼解剖実習に参加する機会を設けます。ご遺体を医学教育にささげてくれた方々に対する感謝の念を持ち学修してください。				

講義科目名称： 人体機能学

授業コード： K080280

英文科目名称： Human Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	2	必修
担当教員			
眞部 寛之			
添付ファイル			

全担当教員	眞部 寛之（第9回-第15回）／坂野 公彦（第1回-第8回）		
概要	人体の生理機能について学習し、人体の内部環境の恒常性（ホメオスタシス）の維持機構、及び、神経系による感覚と運動の統御機構を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 循環・呼吸・消化といった生命活動の恒常性の維持に必須な機能の制御機構や、脳や神経の仕組みや機能を理解し、適切に評価（アセスメント）できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	定期試験（90%）《3》 小テストもしくはレポート課題（10%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 体液・ホメオスタシス	講義	坂野
	第2回 消化 1	講義	坂野
	第3回 消化 2	講義	坂野
	第4回 呼吸	講義	坂野
	第5回 血液 1	講義	坂野
	第6回 血液 2	講義	坂野
	第7回 循環 1	講義	坂野
	第8回 循環 2	講義	坂野
	第9回 腎臓	講義	眞部
	第10回 体液調節と自律神経	講義	眞部
	第11回 内分泌系 1	講義	眞部

	第12回	講義	眞部
	内分泌系 2		
	第13回	講義	眞部
	神経伝達機構		
	第14回	講義	眞部
	感覚器と感覚系		
	第15回	講義	眞部
	骨格筋と運動系		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：事前配布した講義資料および各回の講義内容に該当するテキストの箇所を読んでおく。 事後学修：講義中もしくは講義後に、講義内容に沿った小テストもしくはレポート課題を行う（小テストもしくはレポート課題を成績評価に使用する）。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院		
参考書	特になし		
学生へのメッセージ等	生理学は人体のしくみを、分子、細胞、及び、システムのレベルから理解することを目指します。		

講義科目名称： 生化学

授業コード： K080290

英文科目名称： Biochemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
中村 修平			
添付ファイル			

全担当教員	中村 修平／堀川 誠／井本ひとみ／牧野 舞／志摩 喬之／広中安佐子(非常勤講師)		
概要	生体の恒常性の維持に必要とされる生体基本物質の構造と機能並びにそれらの代謝に関する知識を習得し、将来の看護の実践のための糧とする。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □生体基本物質(糖質、脂質、タンパク質、核酸)の構造と機能ならびに酵素の反応機構と調節機構を説明できる。 □生体恒常性維持に必要なエネルギー獲得をはじめとした生体基本物質の代謝経路の働きと相互関連性を説明できる。 □遺伝情報の伝達により生命現象が営まれていることを理解し、生体基本物質の異常や細胞内情報伝達の破綻が病因となることを理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	試験(100%)《3》：学期末試験(筆記試験)で合格基準点(60点以上)に達すること。試験では生化学的知識(理解)と生化学的思考力を問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月24日(水) 生化学を学ぶための基礎知識	講義	中村
	第2回 2025年10月1日(水) 代謝の基礎と酵素・補酵素ー酵素	講義	牧野
	第3回 2025年10月8日(水) 代謝の基礎と酵素・補酵素ービタミンと補酵素	講義	牧野
	第4回 2025年10月15日(水) 糖質の構造と機能	講義	広中
	第5回 2025年10月22日(水) 糖質代謝-1	講義	広中
	第6回 2025年10月29日(水) 糖質代謝-2	講義	広中
	第7回 2025年11月6日(木) 脂質の構造と機能	講義	堀川
	第8回 2025年11月12日(水) 脂質代謝	講義	堀川
	第9回 2025年11月19日(水) タンパク質の構造と機能	講義	志摩
	第10回 2025年11月26日(水) タンパク質代謝	講義	中村

	第11回	2025年12月3日（水）	講義	堀川
		ポルフィリン代謝と異物代謝		
	第12回	2025年12月10日（水）	講義	井本
		遺伝子と核酸		
	第13回	2025年12月17日（水）	講義	志摩
		遺伝子の複製・修復・組換え		
	第14回	2026年1月7日（水）	講義	井本
		転写・翻訳と翻訳後修飾		
	第15回	2026年1月14日（水）	講義	中村
		シグナル伝達・がん		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマにそって教科書を読み(各回1章づつ)、内容を理解しておく。また理解できない部分がある場合は、何処が理解できないのかを明確にして講義に臨む。 事後学習：各回の授業内容と関連のある他の講義科目（主に生物学、化学、健康科学、人体構造学、人体機能学、栄養学、病態医学Ⅰ、病態医学Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学）との関連性を整理しておく。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 2 人体の構造と機能[2] 生化学（医学書院）並びに共有するレジメを使用			
参考書	リッピンコットイラストレイテッド生化学〔原書8版〕（丸善）、カラー生化学(西村書店)、シンプル生化学（南江堂）、レーニンジャーの新生化学(廣川書店)、エッセンシャル細胞生物学(南江堂)			
学生へのメッセージ等	講義で知りうる詳細な内容全体を暗記するのではなく、基本的項目や重要項目について十分理解できるように努めて欲しい。 他科目の講義や本等で知り得た病気についても、生化学的観点から考察する習慣を身につけて欲しい。			

講義科目名称： 栄養学

授業コード： K080300

英文科目名称： Nutrition Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
小島 ゆかり			
添付ファイル			

全担当教員	小島 ゆかり		
概要	食は健康の保持・増進に関わる重要な要素の一つである。栄養素の摂取状況は生活習慣病などの疾病の予防・改善に大きく関わっている。そこで本授業では、栄養素の働きや消化・吸収過程といった基礎的なことを学んだ上で、食事と疾病との関わりなどについて学習することを目的とする。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □食品中の栄養素がヒトの体内でどのように働くか、また、どのように消化・吸収・代謝されるかを理解することができる。 □食事療法についてアセスメント方法を理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □看護専門職者として、患者の健康状態や疾病予防について「食」の分野から検討し適切な栄養管理を実施することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■受講態度 (20%) ≪3, 4≫ ■授業内課題 (20%) ≪3, 4≫ ■定期試験 (60%) ≪3, 4≫ 評価基準：授業内課題は授業テーマの内容を理解できているか、また課題については自分の考えをまとめて文章にできるかを評価する。定期試験は授業で学習したことを理解できているかを評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月19日 (金) 授業ガイダンス 栄養学とは	講義	小島
	第2回 2025年9月26日 (金) 栄養学概論	講義	小島
	第3回 2025年10月3日 (金) 栄養素の種類とはたらき(1) 炭水化物	講義	小島
	第4回 2025年10月10日 (金) 栄養素の種類とはたらき(2) たんぱく質、脂質	講義	小島
	第5回 2025年10月17日 (金) 栄養素の種類とはたらき(3) ビタミン、ミネラル	講義	小島
	第6回 2025年10月24日 (金) 栄養素の消化・吸収	講義	小島
	第7回 2025年11月7日 (金) 栄養素の代謝	講義	小島
	第8回 2025年11月14日 (金) エネルギー代謝	講義	小島
	第9回 2025年11月21日 (金) 日本人の食事摂取基準 (2025年版)	講義	小島
	第10回 2025年11月28日 (金) ライフステージと栄養(1) 成長期の栄養	講義	小島

	第11回	2025年12月5日（金） ライフステージと栄養(2) 成人期・高齢期の栄養	講義	小島
	第12回	2025年12月12日（金） 栄養ケア・マネジメント	講義	小島
	第13回	2025年12月19日（金） 食事療法(1) 肥満、循環器疾患、消化器疾患患者の食事療法	講義	小島
	第14回	2026年1月9日（金） 食事療法(2) 栄養・代謝疾患患者の食事療法	講義	小島
	第15回	2026年1月16日（金） 総まとめ 遠隔で実施	講義	小島
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマに沿ったテキストの内容と配布資料（ポータルサイトを通して配信）を熟読し、講義に臨むこと。 事後学習：授業で学習した内容を復習し、まとめておくこと。			
テキスト	・系統看護学講座 「専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 3」 医学書院 ・新食品成分表編集委員会 「新食品成分表」 東京法令出版			
参考書	なし			
学生へのメッセージ等	この授業では、健康な生活を送るためには「食」が、いかに重要かを学びます。まずは自分自身の食生活と健康に向き合ってください。そして将来、看護専門職者として看護の視点から患者の栄養状態を正しく評価し、適切な栄養管理ができるよう正しい知識と技術を身につけてください。			

講義科目名称： 病態医学Ⅰ

授業コード： K080310

英文科目名称： Clinical MedicineⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	2	必修
担当教員			
吉澤 明彦			
添付ファイル			

全担当教員	吉澤明彦/武田麻衣子/内山智子/佐々木翔/松岡未奈巳/新田勇治/岡田文美/畠山金太/西川武		
概要	疾病の基本概念を理解するために、病態の成り立ちを器官、組織の変化を通して修得し、看護師として必要な基本的な病理学的知識を身につける。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 病因論を通して疾病の成り立ちを理解する 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	筆記テスト(100%)《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年6月17日 (火) 総論 病理学とは	講義	吉澤
	第2回 2025年6月24日 (火) 先天異常・代謝障害、循環障害	講義	武田
	第3回 2025年7月1日 (火) 炎症・免疫と膠原病・感染症	講義	武田
	第4回 2025年7月8日 (火) 腫瘍、老化・死	講義	内山
	第5回 2025年7月15日 (火) 各論 循環器系の疾患	講義	畠山
	第6回 2025年10月1日 (水) 消化管系の疾患	講義	松岡
	第7回 2025年10月8日 (水) 血液・造血器系の疾患	講義	吉澤
	第8回 2025年10月15日 (水) 呼吸器系の疾患	講義	武田
	第9回 2025年10月22日 (水) 肝・胆・膵の疾患	講義	新田
	第10回 2025年10月29日 (水) 腎・泌尿器・男性生殖器系の疾患	講義	岡田
	第11回 2025年11月5日 (水) 乳腺・内分泌系の疾患	講義	松岡
	第12回 2025年11月12日 (水)	講義	佐々木

	脳、神経、筋肉の疾患		
	第13回 2025年11月19日（水）	講義	内山
	婦人科系の疾患		
	第14回 2025年11月26日（水）	講義	佐々木
	骨関節の疾患、耳、眼、皮膚の疾患		
	第15回 2025年12月1日（月）	講義	西川
	病理検査とは		
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う。		
テキスト	系統看護学講座、専門基礎4 病理学、医学書院		
参考書	わかる病理学 第2版 小西登編 恒心社出版		
学生へのメッセージ等	病気の成り立ちを理解することは、看護に携わる際に極めて重要な知識となるので十分に修得してほしい。		

講義科目名称： 病態医学Ⅱ

授業コード： K080320

英文科目名称： Clinical Medicine Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	4	必修
担当教員			
山内 基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内 基雄、庄 雅之、鶴屋 和彦、河村 健二、横谷 倫世、眼科専門医、耳鼻咽喉頭頸部外科専門医、整形外科専門医		
概要	各種疾患の臨床病態を学習し、臨床的に系統別疾患概念の理解を深め、「疾病のしくみ」を把握する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 各種疾患の病態生理を学習し、「疾病のしくみ」を理解できる。 ☐ 「疾病のしくみ」を理解した上で対象者の健康を包括的に理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	☐ 中間試験 2回 (60%) ≪3≫ ☐ 期末試験 1回 (40%) ≪3≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンスと病態医学Ⅱ総論	講義	山内
	第2回 呼吸器 1	講義	山内
	第3回 呼吸器 2	講義	山内
	第4回 呼吸器 3	講義	山内
	第5回 循環器 1	講義	山内
	第6回 循環器 2	講義	山内
	第7回 循環器 3	講義	山内
	第8回 消化器 1	講義	山内
	第9回 消化器 2	講義	山内
	第10回 消化器 3	講義	山内
	第11回 代謝 1	講義	山内

	第12回	講義	山内
	代謝 2		
	第13回	講義	山内
	内分泌 1		
	第14回	講義	山内
	内分泌 2		
	第15回	講義	鶴屋
	腎・泌尿器 1		
	第16回	講義	山内
	腎・泌尿器 2		
	第17回	講義	山内
	脳神経 1		
	第18回	講義	山内
	脳神経 2		
	第19回	講義	山内
	脳神経 3		
	第20回	講義	眼科専門医
	眼科 1		
	第21回	講義	眼科専門医
	眼科 2		
	第22回	講義	耳鼻咽喉頭頸部外科専門医
	耳鼻咽喉・頭頸部外科 1		
	第23回	講義	耳鼻咽喉頭頸部外科専門医
	耳鼻咽喉・頭頸部外科 2		
	第24回	講義	河村
	整形外科特別講義		
	第25回	講義	整形外科専門医
	整形外科 1		
	第26回	講義	整形外科専門医
	整形外科 2		
	第27回	講義	整形外科専門医
	整形外科 3		
	第28回	特別講義	庄
	消化器総合外科特別講義		
	第29回	特別講義	横谷
	消化器総合外科（乳腺疾患）特別講義		
	第30回	講義	山内
	病態医学Ⅱ 総括		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそって教科書を読み、予習しておく。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
テキスト	医学書院「系統看護学講座 専門分野 成人看護学」の循環器・呼吸器・消化器・内分泌代謝・脳神経・腎泌尿器・眼科・耳鼻咽喉科・整形外科（運動器）領域		
参考書	文光堂 わかりやすい内科学 第5版 南江堂 看護のための臨床病態学 第5版		
学生へのメッセージ等	授業内容が多く、範囲が膨大であるが挫折せずにがんばりましょう。		

講義科目名称： 看護学概論

授業コード： K090400

英文科目名称： Introduction to Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子		
概要	自己成長、健康状態、生活について観察し、グループワークで共有し、看護学における基礎となる主要概念（人間、生活、健康、環境、看護）について学習する。 自己の看護観を育むために、看護実践や歴史について探索し、看護行為や看護倫理や看護の専門性について学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 看護専門職としての価値と専門性を発展させる視点を理解し、自己の看護に対する考えについて説明できる。 ☐ 時代の変遷における看護の社会的な役割・機能について述べるができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護の対象となる人を生活者として捉え、看護を構成する5つの主要概念（人間・生活・健康、環境、看護）について理解し、記述することができる。 ☐ 健康状態と環境の変化について理解し、保健・医療・福祉に携わる人々の役割機能と看護活動について記述することができる。 ☐ 看護実践における気づきと援助の人間関係構築の視点について理解し、看護実践する際の基盤となる要素について記述できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■ 3 課題レポート（60%）《1, 3》 ■ 小テスト（30%）《1, 3》 ■ グループワーク・発表会の参加度・態度（10%）《1, 3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月15日（火） 看護の役割・機能、その対象を捉える視点（人・健康・生活・環境）について 【事後課題：課題①】自己の看護に対する考えについて本科目を学びながら気づき・構築していく。	講義	松田
	第2・3回 人の発達段階とその環境の変化と看護活動 【事前課題：課題②】 1) 「人の発達段階」について提示する自己の成長を観察し、課題②の用紙に記入する。 2) テキストの該当ページを読む。 【学習内容】 1) グループワークとその発表：事前課題の共有 2) 講義 【課題②提出】授業の学びを記載し、課題②を提出する。 【事後学習】人の発達段階と課題についてテキストを読み返し、人の発達に関心を寄せる。	講義・演習	松田
	第4回 健康状態と健康行動および生活 【事前課題：課題③】 1) 健康状態と健康行動および生活の場所について自己を観察し、課題③の用紙に記述する。 2) 配布文献（健康観の多様性と看護）を読む。 【学習内容】 1) グループワークと一部発表：事前課題の共有とその発表 2) 講義 【事後学習】日頃の自己の健康行動を意識し生活する。対象者への健康を捉える視点を復習する。	講義・演習	松田

	【課題③提出】授業の学びを記入し、課題を提出する。		
第5回	看護の歴史について 【事前課題】 1) 配布資料の看護覚え書の解説資料(ナイチンゲールに関する箇所のみ)、テキストの該当ページを読み、自己ノートに看護において大切な視点を記述する。 【学習内容】 1) 「ナイチンゲール『看護覚え書』より病気は回復過程である」のビデオを視聴し、下記の視点について学び、記述する ① ナイチンゲールの看護における功績 ② 看護覚え書(換気と保湿、小管理、物音、変化、からだの清潔)のビデオを視聴し、看護において大切な視点(療養者をどのように捉えることが重要か、そのような看護が重要か) 【事後学習】 配布資料の看護覚え書の解説資料(ナイチンゲールに関する箇所のみ)、テキストの該当ページを読み、看護に対する考えを整理し、記録する。	講義・演習	松田
第6回	小テスト/看護の歴史について 【学習内容】 1) 「ナイチンゲール『看護覚え書』より病気は回復過程である」のビデオを視聴を通して下記の点について、共有する。 ① ナイチンゲールの看護における功績 ② 看護覚え書(換気と保湿、小管理、物音、変化、からだの清潔)のビデオを視聴し、看護において大切な視点(療養者をどのように捉えることが重要か、そのような看護が重要か) ①②の内容を踏まえて、なぜそうに考えたかなど自己の考えをメンバーと共有する。 2) 講義 【事後学習】看護の歴史に関心を持ち、復習しておく。	講義・演習	松田
第7・8回	看護倫理と看護専門職/看護実践と看護理論 【事前課題】テキストの該当ページ(看護倫理綱領、看護倫理、看護理論)を読む。 【学習内容】 7回目 * 講義開始時小テスト実施 1) ビデオを看護倫理、看護の役割等の視点で視聴し、看護倫理綱領と照らし、看護の役割について考えを記述する。 2) グループワーク: 1)を共有し、発表する。 3) 講義 8回目 1) 7回目のビデオ内容から、看護理論やマズローの自己実践論の理論を活用し、人のニーズを解釈し、看護の役割について考える。 2) グループワーク 3) 講義: 看護実践と看護理論の活用 【事後課題】 ・ 看護理論のテキスト部分を読み、看護実践における看護理論について学習を深める。 ・ 看護における倫理と法、看護職の倫理綱領を読み、看護職の役割について学びを深める。 【課題①提出】「自己の看護に対する考え」提出先: 教務システム	講義・演習	松田
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修: 単元のテーマに沿って教科書を読む。目標を達成するための課題レポートを出題するため、課題に取り組むこと 事後学修: 各単元で取り上げた内容について自己の考えを整理しておく。 なお、看護に対する考えを記入する自己ノートを準備する。		
テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学①看護学概論 メヂカルフレンド社		
参考書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	日頃の生活を振り返り、健康や生活に関心をもっていきましょう。講義を通して自己の看護に対する考えを深めていきましょう。		

講義科目名称： 看護援助の基本

授業コード： K160430

英文科目名称： Foundations of Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/白田 梨奈/浅野 沙奈絵/多川 聖子		
概要	全ての看護援助に共通する基本的な姿勢や態度について学び、対象者の安全・安楽・自立に向けた看護実践の基本となるコミュニケーションやボディメカニクス、手指衛生、療養環境の調整などの知識や技術を修得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護学生としてふさわしい基本能力である態度・姿勢を身に付ける重要性を説明できる。 ☐ 対人関係構築のためのコミュニケーションの技術を説明できる。 ☐ 患者・医療従事者の安全を守る技術としてのボディメカニクスの原理を説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 感染予防における基礎知識を理解し、適切な感染予防の技術を正確に実施できる。 ☐ 療養環境の調整の目的・方法を正しく説明し手順通り実施できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■定期試験 (60%) ≪3, 4≫ ■演習課題 (20%) : 感染予防、環境調整≪3, 4≫ ■技術確認 (20%) : 感染予防≪4≫ チェックリストを用いて評価を行う		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年6月3日 (火) ガイダンス／看護援助とは ・看護実践の構成要素 (知識、技術、態度) ・看護に共通する基本的な援助技術	講義	升田・白田・浅野・多川
	第2回 2025年6月10日 (火) 人間関係を成立・発展させるための技術 ・対象者との信頼関係、援助関係の形成 ・コミュニケーションの目的と構成要素、基本的な技法 ・コミュニケーションに必要な能力と態度 【グループワーク】看護師役・患者役にわかれ、様々なシチュエーションでのコミュニケーションの取り方を体験する。	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
	第3回 2025年6月17日 (火) 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 ・看護における安全・安楽について ・ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 【グループワーク】ボディメカニクスを活用し、構えや物を持ち上げる動作を行い、留意点について確認する。	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
	第4回 2025年6月24日 (火) 感染予防を推進する技術 ・感染の成立と予防に関する基礎知識 ・標準予防策 (スタンダードプリコーション) と感染経路別予防策 ・感染性廃棄物の取り扱い	講義	升田・白田・浅野・多川
	第5回 2025年7月1日 (火) 感染予防を推進する技術 【演習項目】手指衛生、個人防護具の着脱 【演習課題①】 【事前課題】該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の根拠・留意点を所定の用紙に記載する。 【事後課題】授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、自己の課題を考え、所定の用紙に記載する。 【技術確認】手指衛生 【技術確認課題】チェックリストの評価を踏まえて自己の援助を振り返り、改善策を考え、所定の用紙に記載する。	演習	升田・白田・浅野・多川

	<課題の提出>演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。		
	第6回 2025年7月8日（火） 快適な環境を作る技術 ・患者をとりまく環境に関する基礎知識 ・快適な療養環境の調整と整備	講義	升田・浅野・白田・多川
	第7・8回 2025年7月15日（火） 快適な環境を作る技術 【演習項目】環境整備、ベッドメイキング [演習課題②] 【事前課題】該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の根拠・留意点を所定の用紙に記載する。 【事後課題】授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、自己の課題を考え、所定の用紙に記載する。 <課題の提出>演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・浅野・白田・多川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元のテキストや参考書の該当箇所を精読する。事前課題が提示された場合は課題に取り組む。 事後学修：各授業で事後課題が提示された場合は課題に取り組む。各単元の講義・演習内容を各自で復習し、自己学習ノート等にまとめ、整理する。		
テキスト	松尾ミヨ子，他 「ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」（メディカ出版） 松尾ミヨ子，他 「ナースিং・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」（メディカ出版） 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂）		
参考書	医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版」（メディックメディア） 任 和子「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） その他、授業で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	本科目では、全ての看護援助において共通して大切な知識・技術・姿勢を学びます。事前・事後学修に努め、主体的に授業に臨んで下さい。 本科目は、2年次の「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

講義科目名称： 看護技術学Ⅰ

授業コード： K110430

英文科目名称： Fundamental Nursing Skills Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/浅野 沙奈絵/白田 梨奈/多川 聖子		
概要	対象者の健康を促進するために必要な日常生活行動の援助技術について、講義・演習を通して学習する。日常生活援助の場面を想定して、学生が互いに看護師役、患者役となって演習を行い、対象者の安全・安楽・自立の視点をもった日常生活行動の援助技術を修得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護職者が日常生活行動の援助を行う意義を説明できる。 ☐ 日常生活援助の看護基本技術について、原理・原則を説明できる。 ☐ 援助を受ける患者の立場に立って援助計画を立案できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 患者の安全・安楽・自立の視点に立ち、日常生活援助技術を原理・原則をふまえて実施できる。 ☐ 自己の行った事例患者への援助を振り返り、改善策を述べるができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■定期試験（50%）《3, 4》 ■演習課題（20%）：各演習における事前・事後課題（4回）《3, 4》 ■技術確認（30%）：排泄に関する援助技術 《3, 4》 既習の知識に基づき安全・安楽に配慮して正しく援助を行えているか、チェックリストを用いて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月24日（水） ガイダンス 日常生活援助技術とは	講義	升田・浅野・白田・多川
	第2回 2025年10月7日（火） 活動・運動を支援する技術、安楽かつ快適さを確保する技術 ・活動・運動に関する基礎知識 ・安楽な姿勢・体位の保持 ・活動・運動、安楽に関するアセスメント ・活動・運動、安楽に関する援助方法	講義	升田・浅野・白田・多川
	第3・4回 2025年10月21日（火） 活動・運動を支援する技術、安楽かつ快適さを確保する技術 【演習①】車椅子の移乗・移送、安楽な体位の保持 【事前課題】 該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の方法・根拠・留意点を、患者の安全・安楽・自立の視点で考え、所定の用紙に記載する。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 ＜課題の提出＞演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・浅野・白田・多川
	第5回 2025年10月28日（火） 体温を調節する技術 ・体温調節に関する基礎知識 ・体温調節のアセスメント ・体温調節に関する援助	講義	升田・浅野・白田・多川
	第6・7回 2025年11月4日（火） 体温を調節する技術 【演習②】足浴 【事前課題】 該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の方法・根拠・留意点を、患者の安全・安楽・自立の視点で考え、所定の用紙に記載する。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助に	演習	升田・浅野・白田・多川

	するための改善策を記載する。 <課題の提出>演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。		
第8回	2025年11月11日（火） 身体の清潔を援助する技術 ・清潔に関する基礎知識 ・清潔援助のアセスメント ・清潔に関する援助方法	講義	升田・白田・浅野・多川
第9・10回	2025年11月18日（火） 身体の清潔を援助する技術 【演習③】 全身清拭・陰部洗浄・寝衣交換 【事前課題】 該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の方法・根拠・留意点を、患者の安全・安楽・自立の視点で考え、所定の用紙に記載する。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 <課題の提出>演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・白田・浅野・多川
第11回	2025年11月25日（火） 排泄に関する援助技術 ・排泄に関する基礎知識 ・排泄のアセスメント ・排泄の援助方法（床上、ポータブルトイレ、おむつ）	講義	升田・浅野・白田・多川
第12・13回	2025年12月16日（火） 排泄に関する援助技術 【演習④】 床上排泄 【技術確認】 チェックリストを用いて評価を行う。 【事前課題】 該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の方法・根拠・留意点を、患者の安全・安楽・自立の視点で考え、所定の用紙に記載する。 【事後課題】 チェックリストの評価を踏まえて自己の援助を振り返り、改善策を考え、所定の用紙に記載する。 <課題の提出>演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	講義	升田・浅野・白田・多川
第14回	2026年1月6日（火） 食事・栄養摂取を促す技術 ・食事・栄養に関する基礎知識 ・栄養、摂食・嚥下のアセスメント ・食事・栄養の援助方法	講義	升田・白田・浅野・多川
第15回	2026年1月13日（火） A班：3限、B班：4限 食事・栄養摂取を促す技術 【演習⑤】 食事介助 【事前課題】 該当する範囲のテキストや参考書等を精読し、演習で行う援助の方法・根拠・留意点を、患者の安全・安楽・自立の視点で考え、所定の用紙に記載する。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 <課題の提出>演習週の木曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・白田・浅野・多川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元のテキストや参考書の該当箇所を読む。各授業の事前課題に取り組む。 事後学修：各授業の事後課題に取り組む。各単元の講義・演習内容を各自で復習し、自己学習ノート等にまとめ、整理する。		
テキスト	松尾ミヨ子, 他 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(メディカ出版) 松尾ミヨ子, 他 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(メディカ出版) 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」(南江堂)		
参考書	医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版」(メディックメディア) 角濱春美, 他「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 第3版」(メヂカルフレンド社) 三上れつ, 他「演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして」(ヌーヴェルヒロカワ) 任 和子「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) その他、授業で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	授業は自己学習（事前学修・事後学修）を前提に進めます。既習の知識（人体構造学、人体機能学等）も併せて学習を深めておいて下さい。 患者さんの安全・安楽を考えた身だしなみや態度・姿勢で、主体的に、積極的に授業に取り組んで下さい。 本科目は「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

講義科目名称： フィジカルアセスメント

授業コード： K090460

英文科目名称： Physical assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/白田 梨奈/浅野 沙奈絵/多川 聖子		
概要	対象者の健康状態を把握するために看護におけるフィジカルアセスメントの目的と意義を理解し、基本的なフィジカルイグザミネーションを実施し、系統的にフィジカルアセスメントできる知識・技術を修得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □基本的なフィジカルイグザミネーションの方法について説明できる。 □フィジカルイグザミネーションの結果に基づき、対象者の身体状況をアセスメントできる。 4 実践力、応用力、共感能力 基本的なフィジカルイグザミネーションを安全に正確に実施することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■定期試験 (50%) ≪3, 4≫ ■小テスト 4回 (20%) ≪3≫ 小テストは第4回～第7回に実施し、内容はそれぞれの演習で必要な解剖学的知識である。 ■演習課題 (10%) : バイタルサイン測定≪3, 4≫ ■技術確認 (20%) : バイタルサイン測定≪3, 4≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月25日 (木) ガイダンス/フィジカルアセスメントとは/バイタルサインの観察 ・フィジカルアセスメントとは 看護におけるフィジカルアセスメントの目的・意義 フィジカルアセスメントの基本技法 ・バイタルサインの観察(意識、体温、脈拍、呼吸、血圧) バイタルサインを測定する意義、人間が生きる上で重要なバイタルサインとは バイタルサイン測定の方法	講義	升田・白田・浅野・多川
	第2・3回 2025年10月2日 (木) バイタルサイン測定 ・事例患者に対するバイタルサイン測定を行う。(演習) 【事前課題】 ・事例患者に対するバイタルサイン測定の方法(体温、脈拍、呼吸、血圧)とその根拠、留意点を、所定の用紙に記載してくる。 【事後課題】 ・事前に考えてきた方法や根拠・留意点で不足していた内容を赤字で追記する。 ・演習で行った自身の技術を振り返り、所定の用紙に、自己の課題と改善策を具体的に記載する。 <課題の提出>翌週月曜日13時まで、指定された場所へ提出する。	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
	第4回 2025年10月9日 (木) 脳神経・運動系のフィジカルアセスメント ・小テスト① (配点5点) ・脳神経・運動器系のフィジカルアセスメントに必要な解剖学的知識の確認 ・脳神経・運動器系のフィジカルアセスメントを行うために必要な知識と方法 ・脳神経・運動器系のフィジカルイグザミネーションの実施	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
	第5回 2025年10月16日 (木) 消化器系のフィジカルアセスメント ・小テスト② (配点5点) ・消化器系のフィジカルアセスメントに必要な解剖学的知識の確認	講義・演習	升田・浅野・白田・多川

	・消化器系のフィジカルアセスメントを行うための知識と方法 ・消化器系のフィジカルイグザミネーションの実施		
第6回	2025年10月23日（木） 呼吸器系のフィジカルアセスメント ・小テスト③（配点5点） ・呼吸器系のフィジカルアセスメントに必要な解剖学的知識の確認 ・呼吸器系のフィジカルアセスメントを行うために必要な知識と方法 ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実施	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
第7回	2025年10月30日（木） 循環器系のフィジカルアセスメント ・小テスト④（配点5点） ・循環器系のフィジカルアセスメントに必要な解剖学的知識の確認 ・循環器系のフィジカルアセスメントを行うために必要な知識と方法 ・循環器系のフィジカルイグザミネーションの実施	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
第8回	2025年11月13日（木） 技術確認（事例患者のベッドサイドでのバイタルサイン測定、症状の観察） 【技術確認】 A班：3限、B班：4限 ・事例患者に対し、フィジカルアセスメントの知識と方法を駆使して、ベッドサイドでバイタルサイン測定を行う。 ・チェックリストを用いて評価を行う。 【事後課題】 ・チェックリストの評価をもとに、自身の技術を振り返り、自己の課題と対策を考え記録用紙に記載する。 <課題の提出>翌週月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：科目に必要な解剖生理学の知識を学習して臨む。教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修：授業で理解した内容をまとめ整理し、理解できていない部分は調べる。 授業で学習した内容に基づき、技術練習を行い、復習する。		
テキスト	藤崎郁「フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版」（学研） 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂） 松尾ミヨ子、他「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」（メディカ出版）		
参考書	山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる 第2版」（医学書院） 医療情報科学研究所編「フィジカルアセスメントがみえる」（メディックメディア） 関連科目で用いているテキスト その他、授業中に適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	対象者の身体状況を理解するフィジカルアセスメントは、看護実践の重要な技術です。演習・講義を通して、適切かつ安全な基本技術を身につけていきましょう。 そして、技術は1回の演習だけでは身につけません。自己の技術向上に向けて、自主練習を繰り返し、習得に努めて下さい。 本科目は、2年次の「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

講義科目名称： 看護過程論

授業コード： K080520

英文科目名称： Nursing Process

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年	2	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/白田 梨奈/浅野 沙奈絵/多川 聖子		
概要	対象者が健康によりよく生きていくことを支援する看護実践活動に必要な理論と方法論について学び、看護援助を意図的かつ科学的に実施していくために、対象者の健康状態を的確にアセスメントし、個別性のある看護を展開するための基礎的な思考力を身につける。 本科目では、V. ヘンダーソンの14の基本的看護の構成要素に基づき、事例を用いて看護過程の展開を行い、看護を実践する思考方法の基本である看護過程の基本的な考え方と方法を学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護における看護過程の意義が説明できる。 ☐ 看護過程を構成する要素とそのプロセスについて説明できる。 ☐ 事例患者について、V. ヘンダーソンの枠組みを用いて看護過程の思考プロセスを理解し展開できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■課題レポート：70%（中間課題20%、最終課題50%）≪3≫ 中間課題、最終課題ともに課題の内容において評価する ■小テスト3回：30%≪3≫ 看護過程に関する知識の確認として授業内に実施する。小テストのスケジュールと内容については、授業計画に記載の通りである。 ※定期試験は実施しない。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年10月1日（水） ガイダンス／看護過程とは ・看護過程とは ・看護過程の構成要素と相互関係 ＊事例提示	講義	升田・白田・浅野・多川
	第2回 2025年10月8日（水） 情報収集とアセスメント ・情報の種類 ・ヘンダーソンの情報収集の視点(常在条件、病理的状态、14項目のニーズ) ・ヘンダーソンの理論に基づいた情報の解釈・分析・推論・判断について 【事前課題】記録用紙Ⅰ、Ⅱの該当ページの内容を確認する。 【事後課題】授業の内容を踏まえ記録用紙Ⅰ、Ⅱに取り組む。 次回のグループワークで使用する。	講義	升田・白田・浅野・多川
	第3回 2025年10月15日（水） 情報収集とアセスメント 【グループワーク】 各自で取り組んだ記録用紙Ⅰ・Ⅱをもとに、グループで話し合い、内容の共有や疑問点の解消、不足部分の補充に取り組む。 【事前課題】第2回の事後課題（記録用紙Ⅰ、Ⅱ）に取り組む。 【事後課題】グループワークの結果をもとに記録用紙Ⅰ、Ⅱの修正を行う。 〈課題の提出〉 提出期日：第4回の授業日の13時まで 提出場所：教務システムのレポート登録に提出	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
	第4・5回 2025年10月22日（水） 看護問題の明確化・統合・優先順位 ・全体像把握のための関連図の意義と内容、アセスメントとの関連、問題の統合について ・アセスメントから導き出した看護問題の統合と明確化、優先順位について	講義	升田・白田・浅野・多川

	[小テスト①]看護過程とは、看護過程の構成要素と相互関係(配点10点) 【事前課題】記録用紙Ⅱ～Ⅳの内容を確認する。 【事後課題】授業の内容を踏まえ記録用紙Ⅲ、Ⅳに取り組む。		
第6回	2025年10月29日(水) 看護問題の明確化・統合・優先順位 【グループワーク】 各自で取り組んだ記録用紙Ⅲ・Ⅳをもとに、グループで話し合い、内容の共有や疑問点の解消、不足部分の補充に取り組む。各グループで、全体関連図を作成して問題の関連性を検討し、看護問題を明確化して看護問題リストを作成し、優先順位の根拠を記載する(記録用紙Ⅲ、Ⅳ)。※発表会の資料とするため、発表会当日13時までに、指定された場所に提出する。 【事前課題】第4・5回の事後課題(記録用紙Ⅲ、Ⅳ)に取り組む。 【事後課題】グループワークの結果をもとに、各自の記録用紙Ⅲ、Ⅳの修正を行う。 〈課題の提出〉 提出期日：第9回の授業日の13時まで 提出場所：教務システムのレポート登録に提出	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
第7・8回	2025年11月5日(水) 看護問題の明確化・統合・優先順位 【発表会】各グループで導き出した看護問題と優先順位を、アセスメントを踏まえて発表し、グループ間で討議する。 [小テスト②]情報収集とアセスメント、看護問題の明確化・統合・優先順位(配点10点)	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
第9回	2025年11月19日(水) 看護計画の立案 ・看護計画を立案する意義 ・看護計画とアセスメントのつながり ・看護目標の設定の仕方 ・看護計画の立案の仕方 【事前課題】記録用紙Ⅴの内容を確認する。 【事後課題】授業の内容を踏まえ記録用紙Ⅴに取り組む。 ※第9回までの講義内容で課題に取り組み、中間提出する。	講義	升田・浅野・白田・多川
第10回	2025年11月26日(水) 看護計画の立案 【グループワーク】 ・各自で取り組んだ記録用紙Ⅴをもとに、グループで話し合い、内容の共有や疑問点の解消、不足部分の補充に取り組む。 【中間課題】第9回までの講義内容で取り組んだ記録用紙Ⅰ～Ⅴを提出する。 提出期日：第11回の授業日の13時まで 提出方法：紙媒体に印刷して、指定された場所に提出	講義	升田・浅野・白田・多川
第11回	2025年12月3日(水) 看護計画の実施と評価 ・看護計画の実施・評価とは ・看護計画と実施・評価のつながり ・看護記録について 【事前課題】記録用紙Ⅵ、Ⅶの内容を確認する。 【事後課題】授業内で、看護計画を実施・評価するための看護問題を提示する。提示された看護問題について、記録用紙Ⅴに取り組み、看護目標と看護計画を立案する。次回のグループワークで活用する。	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
第12・13回	2025年12月17日(水) 看護計画の実施と評価 ・立案してきた看護計画をもと、看護援助を実施する。 ・実施した看護援助に基づき、看護目標、看護計画の評価を行う。 ・実施した看護援助について、記録用紙Ⅶを用いて、看護記録を記載する。 【事前課題】第11回の事後課題(記録用紙Ⅴの修正)に取り組む。 【事後課題】演習で記載した記録用紙Ⅶをもとに、記録用紙Ⅴに、看護計画の評価、修正を記載する。 ※演習で記載した記録用紙Ⅶと、事後課題は、最終提出で提出する。 【最終課題】記録用紙Ⅰ～Ⅶを提出する。 提出期日：第14回の授業日の13時まで 提出方法：紙媒体に印刷して、指定された場所に提出	演習・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
第14・15回	2026年1月7日(水) 看護過程の課題と展望 ・看護過程の現状と課題、今後の展望について ・事例の看護過程のまとめ [小テスト③]看護計画の立案、実施、評価(配点10点)	講義	升田・白田・浅野・多川

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修： ・テキストの該当範囲を読む。各授業で提示された課題に各自で取り組む。 事後学修： ・各回の授業で学習した内容に基づき、課題の個人ワークに取り組む。 ・提出された課題について、教員が確認して改善点を授業内でフィードバックする。授業でフィードバックされた内容について、各自で提出課題を見直し、不十分な点を修正する。 課題が不十分な場合には、教員による個別指導を行う。
テキスト	宮脇美保子「新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論」（メヂカルフレンド社） ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）
参考書	秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」（ヌーヴェルヒロカワ） 松尾ミヨ子，他「ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」（メディカ出版） その他、授業中に適宜提示する。
学生へのメッセージ等	看護過程を展開するには、病態医学、人体構造学、人体機能学、栄養学や、看護学概論、看護援助の基本、フィジカルアセスメント、看護技術学Ⅰ等の知識を活用します。 授業には、既習の知識の復習と、教科書の該当範囲を読む等による予習や、課題学習を行い、自分の考えを持って臨んで下さい。 疑問点等は、積極的に質問し解決に努めること。 本科目は、2年次の「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。

講義科目名称： 基礎看護学実習Ⅰ

授業コード： K080500

英文科目名称： Fundamental Nursing PracticumⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/浅野 沙奈絵/白田 梨奈/多川 聖子
概要	病院の施設・設備、対象者の療養環境、各病棟における看護師の活動や対象者との関わりについて見学して学びを深め、対象者をとりまく療養環境や看護師の役割について考察する。
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護学生としての自覚と責任を意識して行動できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 病院の施設・設備・機能を説明できる。 ☐ 様々な健康段階にある対象者の療養生活を取り巻く環境を考え、自分の言葉で説明できる。 ☐ 看護師がどのように対象者を理解し看護を行っているか学び、説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -
評価方法	評価表に基づき、実習記録、実習態度等によって評価する。《1, 3》
授業計画	1) 実習施設 奈良県立医科大学附属病院 2) 実習期間 11月～1月にかけて実施（臨地実習は12月23日、24日、25日に実施する。具体的な日程は基礎看護学実習Ⅰ要項参照） 3) 実習方法 病院内の見学および病棟における看護師のシャドーイングを行う。 詳細は基礎看護学実習Ⅰ要項参照
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修： 既習内容である「看護学概論」「看護援助の基本」「看護技術学Ⅰ」の復習に取り組む。 事後学修： 実習での体験やカンファレンス等から得た学び、実習を通して考えた看護の役割等について自己の考えを整理する。そこから、今後どのように看護を行っていきたいかを考え、自己の目指す看護師像をイメージし、今後の課題を明確にする。
テキスト	今までの授業で用いたテキスト
参考書	今までの授業で紹介した参考書
学生へのメッセージ等	基礎看護学実習Ⅰは、皆さんが看護学生として初めて取り組む実習です。実習を通して、皆さんには、患者さんが療養生活を送る病院・病棟とはどのような場所なのか、看護師はどのような活動をしているのか、どのように対象者と関わっているのかをしっかりと見て、考えてほしいと思います。 実習前の授業で既に学んだ内容を想起し、五感を最大限に活用して実習に取り組みましょう。

4 2年次開講科目の授業内容

講義科目名称： カウンセリング論

授業コード： K080090

英文科目名称： Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
田中 佐和子			
添付ファイル			

全担当教員	田中 佐和子/中川 晶			
概要	看護を実践する中では、相手を受容し共感しながら、援助的な人間関係を形成することが望まれる。この授業では、看護に必要な心理的援助のあり方について、カウンセリングの理論と技法を通し習得することを目的とする。			
目標	1 倫理観、態度、意欲 □看護専門職者としてふさわしい行動を示すことができる □看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力を習得する □実施する援助を説明し意思決定を支援する能力を習得する 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力を習得する □人間を生物・心理・社会的に理解しアセスメントに活かす基本能力を習得する □個人と家族の生活、地域の特性と心理的健康課題をアセスメントする基本能力を習得する 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □援助的関係を形成する能力を習得する □保険医療福祉チームの一員として協働し連携する能力を身につける			
評価方法	評価方法：講義内で実施する小レポート（50％）《3》、期末レポート（50％）《1, 3, 5》 評価基準：小レポートは、各講義テーマについて理解し、自分なりの視点で意見が述べられているか。期末レポートは、カウンセリングの視点から、事例を通して自分の考え、関わり方、援助の仕方について考察しているか。			
授業計画	授業内容		授業形態	担当者
	第1回	2025年9月19日（金） カウンセリングと現代 授業ガイダンスを含む	講義	田中
	第2回	2025年9月26日（金） カウンセリングの視点（１）心理援助の基本的構図	講義・演習	田中
	第3回	2025年10月3日（金） カウンセリングの視点（２）発達・認知・行動 脳と心の関係	講義・演習	田中
	第4回	2025年10月10日（金） 援助的コミュニケーションの技法(1)関わることとは	講義・演習	田中
	第5回	2025年10月17日（金） 援助的コミュニケーションの技法(2)聴くこととは	講義・演習	田中
	第6回	2025年10月31日（金） 心理アセスメント(１)アセスメントの基本	講義・演習	田中
	第7回	2025年11月7日（金） 心理アセスメント(２)質問紙法・作業検査法 事例検討を含む	講義・演習	田中
	第8回	2025年11月14日（金） 心理アセスメント(３)投影法・テストバッテリー 事例検討を含む	講義・演習	田中
	第9回	2025年11月21日（金） ストレス・マネジメント／レジリエンス	講義・演習	田中
	第10回	2025年11月28日（金） 様々な心理療法 事例を通して	講義・演習	田中

	第11回	2025年12月5日（金） トラウマとPTSDー緊急支援	講義・演習	田中
	第12回	2025年12月12日（金） トラウマとPTSDートラウマ回復支援 自死予防・性暴力被害者支援・働く人のメンタルヘルス他	講義・演習	田中
	第13回	2025年12月19日（金） 身体体験モードで学ぶカウンセリング 集団によるワークショップ	演習	田中
	第14回	2026年1月9日（金） 看護に生かすカウンセリング：アサーション・トレーニング	講義・演習	田中
	第15回	予定 ストレスの正体 ナラティブ・セラピー	講義	中川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマについて、資料の中から関心のある項目について自分の考えをまとめておく。 事後学習：講義内容の中から、自分が関心を持った項目について、どのように理解したか、活用していくにはどうしたら良いかについて洞察を深める。			
テキスト	授業中に適宜配布。			
参考書	管佐和子編著「医療現場に活かす臨床心理学」 朱鷺書房 玉瀬耕治著「カウンセリングの技法を学ぶ」有斐閣 窪田由紀・森田美也子・氏家達夫監修 河野莊子・金子一史・清川幸子編著「こころの危機への心理学的アプローチ」金剛出版 平木典子編著「ナースのためのアサーション」 金子書房 白川美也子著「赤ずきんとオオカミのトラウマケア」アスクヒューマンケア			
学生へのメッセージ等	自己他者理解・自己表現を促すためにも積極的な参加が求められる。 ナラティブについて理解し、生物学的・心理学的・社会学的な視点から心のケアについて考えていきましょう。			

講義科目名称： 英語表現法1

授業コード： K08037A K08037B K08037C
K08037D

英文科目名称： English Communication Skills I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1	必修
担当教員			
看護学科長			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科長/桑原 志郎 / 北澤 良子		
概要	この授業は英語の流暢さと5つの英語運用能力 (reading, writing, speaking interaction, speaking production, and listening) のバランスのとれた伸長、及び国際感覚の醸成を目的とする。看護・医療や国際・時事問題に関する様々なトピックを英語で学習することで、語学力 (知識、語彙)、批判的思考力や表現力を高める。また授業内ではグループワークや発表を行う機会を多く設け学生が意欲的・主体的に学習に取り組むことを通して、医療の現場において積極的に英語を使って、ほぼ完全な意思疎通ができるようにする。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 □実際の臨床の場で、異なった文化的背景をもつ患者の訴えを理解したり、治療の内容等を理解してもらうことが出来る。 □異なる文化的背景をもつ患者の状況を理解し、その理解に基づいた柔軟な対応をとり、異文化の中で孤立させない配慮が出来る。 3 知識、批判的思考力 - 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □英語を使ったロールプレイを、患者・看護師等いろいろな立場の役割になって行う事で、立場による感じ方の違いを理解し相手のバックグラウンドに応じた対応をすることができる。 □グループワークによる発表や活動により協働して連携して、課題解決に向かうことが出来る。		
評価方法	□出席、授業課題、宿題 ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする (例：3回欠席＝ - 5%、4回欠席＝ - 10%、5回欠席＝ - 15% etc.)。 ・授業内での取り組み：出席と授業への積極的な参加が求められる。授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課される。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題 (授業課題、宿題etc.) が何だったかは、自己責任で確認すること。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められる。 □評価 ■期末試験 (60%) 《2, 5》 ■授業内で実施する単語テスト (10%) 《2, 5》 ■速読による英文読解テスト (10%) 《2, 5》 ■essay及び授業内で視聴するビデオのまとめ (10%) 《2, 5》 ■presentationの評価 (5%) 《2, 5》 ■ループリックの自己評価の平均点 (5%) 《2, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年4月15日 (火) “Nursing English” Unit 1 挨拶と初診の手続き (Greeting and Registration) 外来の患者に対しての基礎的なコミュニケーションや患者情報を聞き取る丁寧な表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う	講義・演習	北澤・桑原
第2回	2025年4月22日 (火) “Living As” Chapter 1 Global Perspectives SDGsの概要について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト①】 前回学習した語彙の小テスト 【速読①】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第3回	2025年4月22日 (火) “Nursing English” Unit 2 診療科/院内案内 (Hospital Departments/Directions) 診療科の英語名と、患者に院内を案内する際の表現を学ぶ。	講義・演習	北澤・桑原

	予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト②】 前回学習した語彙の小テスト *第13週に実施予定のpresentationについて説明を行う 【単語テスト②】 前回学習した語彙の小テスト *第13週に実施予定のpresentationについて説明を行う		
第4回	2025年5月13日（火） “Living As” Chapter 2 Climate Change 気候変動について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト③】 前回学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 51-57の確認	講義・演習	北澤・桑原
第5回	2025年5月13日（火） “Nursing English” Unit 3 バイタルサインと基本問診 (Vital Signs and Medical Questionnaire) バイタルサインを取る際に用いる表現と、基本問診に使用する表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト④】 前回学習した語彙の小テスト 【TED視聴】 事前に視聴した教材 (URLは授業内で指定) について、課題に取り組み意見発表やグループディスカッションを行う。	講義・演習	北澤・桑原
第6回	2025年5月20日（火） “Living As” Chapter 3 Water 飲料水に関する問題について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑤】 前回学習した語彙の小テスト 【速読②】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第7回	2025年5月27日（火） “Nursing English” Unit 4 内科①呼吸器系/耳鼻咽喉科 (Internal Medicine(1) Respiratory System/ENT) 呼吸器内科及び耳鼻咽喉科でよく見られる症状や病名、また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑥】 前回学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 58-64の確認 *「essay writing 基礎」第9講に予定されている“essay writing”の事前学習として、基本的な書式についても学習し、きちんとした文章作法を身につける。	講義・演習	北澤・桑原
第8回	2025年6月3日（火） “Living As” Chapter 4 Clean Energy クリーンエネルギーに関連したトピックについて事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑦】 前回学習した語彙の小テスト 【速読③】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第9回	2025年6月10日（火） “Nursing English” Unit 5 内科②循環器系 (Internal Medicine(2) Cardiovascular System) 循環器内科でよく見られる症状や病名、また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑧】 前回学習した語彙の小テスト 【Essay Writing】 与えられたSDGsに関連したテーマについて指定語数制限を満たすessayを書いて提出する。 essay writingの基本的な書式についても学習し、それに沿ってessayを書く。	講義・演習	北澤・桑原
第10回	2025年6月17日（火） “Living As” Chapter 5 Poverty 世界の貧困問題について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。	講義・演習	北澤・桑原

	上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑨】 前回学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 65-71の確認		
第11回	2025年6月24日（火） “Nursing English” Unit 6 内科③消化器系（Internal Medicine(3) Digestive System） 消化器内科でよく見られる症状や病名、また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑩】 前回学習した語彙の小テスト *第13週に予定されているpresentationの準備時間を設ける	講義・演習	北澤・桑原
第12回	2025年7月1日（火） “Living As” Chapter 6 Hunger 世界的な食糧問題について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑪】 前回学習した語彙の小テスト 【速読④】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第13回	2025年7月8日（火） Final Presentation 第3週の説明で指示された医療・健康・SDGsに関連したトピックについて事前に準備した内容で、英語でのポスターセッションを行う。 聞き手は所定のルーブリックを用いて各プレゼンターを評価する。	演習	北澤・桑原
第14回	2025年7月15日（火） “Nursing English” Unit 7 泌尿器科（Urology） 泌尿器科でよく見られる症状や病名、また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑫】 第12週に学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 72-78の確認	講義・演習	北澤・桑原
第15回	2025年7月22日（火） “Living As” Chapter 7 Children 児童労働や世界的教育格差について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑬】 前回学習した語彙の小テスト 【速読⑤】 初見課題による英文読解テスト	演習・演習	北澤・桑原
授業外学修（事前学修・事後学修）	・授業外学習：（事前学習）シラバスで指定された次の授業の範囲の英文を、予習して、知らなかった語彙を調べ、テキストの内容を理解してくる。”Listening (Video視聴)”の活動の前には、あらかじめ教員から伝えられているURLを参考に指定された教材を視聴しておく。（事後学習）授業後に配布される授業ルーブリックに回答することで内容を振り返り、疑問点を整理しておく。（小テスト課題）シラバスに示された、前回の学習の復習にあたる語彙テストに備えて復習する。”Essay Writing”の課題に取り組む。英文を正しく書くための基礎的な文法的知識の振り返りと確認のため、”Murphy’s Grammar”を毎日取り組み、一定期間ごとの確認テストに備える。 ・反転型授業：”Living As Global Citizens”については、事前配布の訳文等を参考に、教科書に指示された課題に取り組み、授業では、それを基に、意見交換・発表・グループワーク等を行う反転型学習を実施する		
テキスト	Murphy, R. (2017). Grammar in Use - Intermediate. Cambridge University Press. [1年次からの継続使用] ISBN-10: 4889969233 ISBN-13: 978-4889969238. 宮田学編・井上真紀著 (2018)『看護英語の練習帳—インプットからアウトプットへ—』 萌文書林 ISBN-9784893473080 小関一也著・Kevin M. McManus著 (2021) Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals. 南雲堂 ISBN- 9784523179313.		
参考書	英英辞典 (LDOCE, COBUILD, OALD等を推奨します)や活用辞典を用いて、英単語の意味を直接英語で理解するしたり、使用例を確認することを推奨する。		
学生へのメッセージ等	ここの授業の目標である、英語の5技能のバランスの取れた成長を期するために各授業ごとに様々な活動を行っているため、授業には必ず出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。 また、国際社会で活躍できる専門家たる医療従事者となるために、最先端の情報を理解できる英語読解力や、論文発信につなげられるしっかりした英文構成力、英語での発表能力などの、基礎を養う。		

講義科目名称： 英語表現法Ⅱ

授業コード： K08038A K08038B K08038C
K08038D

英文科目名称： English Communication Skills Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
看護学科長			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科長/桑原 志郎 / 北澤 良子		
概要	この授業は英語の流暢さと5つの英語運用能力（reading, writing, speaking interaction, speaking production, and listening）のバランスのとれた伸長、及び国際感覚の醸成を目的とする。看護・医療や国際・時事問題に関する様々なトピックを英語で学習することで、語学力（知識、語彙）、批判的思考力や表現力を高める。また授業内ではグループワークや発表を行う機会を多く設け学生が意欲的・主体的に学習に取り組むことを通して、医療の現場において積極的に英語を使って、ほぼ完全な意思疎通ができるようにする。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 □実際の臨床の場で、異なった文化的背景をもつ患者の訴えを理解したり、治療の内容等を理解してもらうことが出来る。 □異なる文化的背景をもつ患者の状況を理解し、その理解に基づいた柔軟な対応を取り、異文化の中で孤立させない配慮が出来る。 3 知識、批判的思考力 - 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □英語を使ったロールプレイを、患者・看護師等いろいろな立場の役割になって行う事で、立場による感じ方の違いを理解し相手のバックグラウンドに応じた対応をすることができる。 □グループワークによる発表や活動により協働して連携して、課題解決に向かうことが出来る。		
評価方法	□出席、授業課題、宿題 ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする（例：3回欠席＝ - 5%、4回欠席＝ - 10%、5回欠席＝ - 15% etc.）。 ・授業内での取り組み：出席と授業への積極的な参加が求められる。授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課される。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題（授業課題、宿題etc.）が何だったかは、自己責任で確認すること。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められる。 □評価 ■期末試験（60%）《2, 5》 ■授業内で実施する単語テスト（10%）《2, 5》 ■速読による英文読解テスト（10%）《2, 5》 ■essay及び授業内で視聴するビデオのまとめ（10%）《2, 5》 ■presentationの評価（5%）《2, 5》 ■ルーブリックの自己評価の平均点（5%）《2, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月30日（火） ”Nursing English” Unit 8 外科・整形外科（Surgery/Orthopedics） 外科及び整形外科でよく見られる症状や病名、また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う	講義・演習	北澤・桑原
	第2回 2025年10月7日（火） “Living As” Chapter 8 Gender 世界と日本のジェンダー問題について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト①】 前回学習した語彙の小テスト 【速読①】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
	第3回 2025年10月14日（火） “Nursing English” Unit 9 産婦人科（Obstetrics and Gynecology） 産婦人科でよく見られる症状や病名、また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。	講義・演習	北澤・桑原

	予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト②】 前回学習した語彙の小テスト *第13週に実施予定のpresentationについて説明を行う		
第4回	2025年10月21日（火） “Living As” Chapter 9 Refugees 難民を取り巻く状況について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト③】 前回学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 79-85の確認	講義・演習	北澤・桑原
第5回	2025年10月28日（火） “Nursing English” Unit 10 小児科（Pediatrics） 小児科でよく見られる症状や病名、小児科での使用頻度が高い幼児言葉を含む語彙を学習する。また患者の主訴について詳しく尋ねる表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト④】 前回学習した語彙の小テスト 【TED視聴】 事前に視聴した教材(URLは授業内で指定)について、課題に取り組み意見発表やグループディスカッションを行う。		
第6回	2025年11月4日（火） “Living As” Chapter 10 Insects 環境や飢餓に関する問題と昆虫との関わりについて事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑤】 前回学習した語彙の小テスト 【速読②】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第7回	2025年11月11日（火） “Nursing English” Unit 11 検査時に必要な表現（Giving Tests） 検査時に患者に指示を与える表現や、患者の不安を取り除く声かけのための表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑥】 前回学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 86-92の確認	講義・演習	北澤・桑原
第8回	2025年11月18日（火） “Living As” Chapter 11 Vegetarianism 食の選択に関連したトピックについて事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑦】 前回学習した語彙の小テスト 【速読③】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第9回	2025年11月25日（火） “Nursing English” Unit 12 手術後の説明と指示（Before and After an Operation） 手術前後の患者とのコミュニケーションで必要な説明や指示の表現を学ぶ。 予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑧】 前回学習した語彙の小テスト 【Essay Writing】 与えられたSDGsに関連したテーマについて指定語数制限を満たすessayを書いて提出する。 essay writingの基本的な書式についても学習し、それに沿ってessayを書く。	講義・演習	北澤・桑原
第10回	2025年12月2日（火） “Living As” Chapter 12 Plastic Waste プラスチックゴミの問題について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑨】 前回学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 93-99の確認	講義・演習	北澤・桑原
第11回	2025年12月9日（火） “Nursing English” Unit 13 投薬（Medications）	講義・演習	北澤・桑原

	服薬指導時に必要な語彙や、説明・指示の表現を学ぶ。予習及び授業内で学習した語彙と表現の習熟を目指し、ペアまたはグループで患者と看護師のロールプレイを行う 【単語テスト⑩】 前回学習した語彙の小テスト *第13週に予定されているpresentationの準備時間を設ける		
第12回	2025年12月16日（火） “Living As” Chapter 13 Shopping フェアトレードに関するトピックについて事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑪】 前回学習した語彙の小テスト 【速読④】 初見課題による英文読解テスト	講義・演習	北澤・桑原
第13回	2025年12月23日（火） Final Presentations 第3週の説明で指示された、文化的に背景に配慮した医療についてのトピックについて事前に準備し、英語でのPPTを使用したプレゼンテーションを行う。 聞き手は所定のルーブリックを用いて各プレゼンターを評価する。	演習	北澤・桑原
第14回	2026年1月6日（火） “Living As” Chapter 14 Partnership グローバル・パートナーシップの意義について事前にテキストの文章を読み、課題に取り組む。 上記をもとに、ペアやグループでの意見交換や発表を日本語だけでなく英語でも行う。 【単語テスト⑫】 第12週に学習した語彙の小テスト 【Murphy小テスト】 Unit 100-105の確認	講義・演習	北澤・桑原
第15回	2026年1月13日（火） Special Unit : General Review これまでに学習した語彙や表現について復習し、アクティビティを通して定着度を確認する。 上記に関連してグループやペアでの意見交換やアイデアの共有を行う。 【単語テスト⑬】 前回学習した語彙の小テスト 【速読⑤】 初見課題による英文読解テスト	演習	北澤・桑原
授業外学修（事前学修・事後学修）	・授業外学習：（事前学習）シラバスで指定された次回の授業の範囲の英文を、予習して、知らなかった語彙を調べ、テキストの内容を理解してくる。”Listening (Video視聴)”の活動の前には、あらかじめ教員から伝えられているURLを参考に指定された教材を視聴しておく。（事後学習）授業後に配布される授業ルーブリックに回答することで内容を振り返り、疑問点を整理しておく。（小テスト課題）シラバスに示された、前回の学習の復習にあたる語彙テストに備えて復習する。”Essay Writing”の課題に取り組む。英文を正しく書くための基礎的な文法的知識の振り返りと確認のため、”Murphy’s Grammar”を毎日取り組み、一定期間ごとの確認テストに備える。 ・反転型授業：”Living As Global Citizens”については、事前配布の訳文等を参考に、教科書に指示された課題に取り組み、授業では、それを基に、意見交換・発表・グループワーク等を行う反転型学習を実施する		
テキスト	Murphy, R. (2017). Grammar in Use - Intermediate. Cambridge University Press. [1年次からの継続使用] ISBN-10: 4889969233 ISBN-13: 978-4889969238. 宮田学編・井上真紀著 (2018)『看護英語の練習帳—インプットからアウトプットへ—』 萌文書林 ISBN-9784893473080 小関一也著・Kevin M. McManus著 (2021) Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals. 南雲堂 ISBN- 9784523179313.		
参考書	英英辞典 (LDOCE, COBUILD, OALD等を推奨します)や活用辞典を用いて、英単語の意味を直接英語で理解するしたり、使用例を確認することを推奨する。		
学生へのメッセージ等	ここの授業の目標である、英語の5技能のバランスの取れた成長を期するために各授業ごとに様々な活動を行っているので、授業には必ず出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。 また、国際社会で活躍できる専門家たる医療従事者となるために、最先端の情報を理解できる英語読解力や、論文発信につなげられるしっかりした英文構成力、英語での発表能力などの、基礎を養う。		

講義科目名称： 微生物学

授業コード： K080170

英文科目名称： Microbiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
矢野 寿一			
添付ファイル			

全担当教員	矢野寿一／中野竜一／中野章代／鈴木由希		
概要	感染症の原因となる病原微生物の基礎的知識を習得し、適切な感染防御策をとることができる		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 感染症の原因となる微生物を理解し、病態、診断、治療について説明でき、医療関連感染を防止できる 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■筆記試験 80% <<3>> ■レポート 20% <<3>> レポートは講義で学習した微生物（細菌、ウイルス）から一つ選び、まとめるもの（1回目講義で説明します）であるが、教科書を写すだけでなく講義で学んだ内容が整理され記載されているかを重要視します		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1回目 2025年4月21日（月） 4限目 微生物学の歴史と感染症	講義	矢野寿一
	2回目 2025年4月22日（火） 3限目 微生物学総論：微生物とは、形態、機能、代謝	講義	中野章代
	3回目 2025年4月28日（月） 4限目 細菌学各論1：グラム陽性菌	講義	中野竜一
	4回目 2025年5月12日（月） 4限目 細菌学各論2：グラム陰性菌	講義	中野竜一
	5回目 2025年5月19日（月） 4限目 院内感染対策1：標準予防策と個人防護具	講義	鈴木由希
	6回目 2025年5月26日（月） 4限目 院内感染対策2：感染経路別予防策と職業感染対策	講義	鈴木由希
	7回目 2025年6月2日（月） 4限目 微生物検査1	講義	矢野寿一
	8回目 2025年6月9日（月） 4限目 微生物検査2	講義	矢野寿一
	9回目 2025年6月16日（月） 4限目 薬剤耐性菌1：グラム陽性菌	講義	中野竜一
	10回目 2025年6月23日（月） 4限目 薬剤耐性菌2：グラム陰性菌	講義	中野竜一
	11回目 2025年6月30日（月） 4限目 乳酸菌などその他の細菌	講義	中野章代

	12回目	2025年7月1日（火） 滅菌と消毒	4限目	講義	鈴木由希
	13回目	2025年7月7日（月） 抗菌化学療法	4限目	講義	鈴木由希
	14回目	2025年7月8日（火） ウイルス総論、各論	4限目	講義	中野章代
	15回目	2025年7月14日（月） まとめ 【反転授業】	4限目	講義	矢野寿一
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う。				
テキスト					
参考書	・感染制御の基本がわかる『微生物学・免疫学』 羊土社 ・『統計看護学講座 専門基礎6 微生物学』 医学書院 ・『微生物学・感染看護学』 医歯薬出版				
学生へのメッセージ等	Infection Control Nurse（感染管理認定看護師）を目指しませんか！				

講義科目名称： 病態医学Ⅲ

授業コード： K080330

英文科目名称： Clinical Medicine Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	4	必修
担当教員			
山内 基雄			
添付ファイル			

全担当教員	山内 基雄、太田 豊作、福島 英賢、川井 廉之、前川 尚宜、宮崎 敬太、鶴田 啓亮、山崎 正晴、内田 優美子、大前 隆志、荻原 建一、長谷川 真理、竹田 洋子、鮫島 謙一、田中 晴之、阿部 龍一、山田 有紀、常見 泰平、牧野 佑子、木村 麻衣、伊藤 高広、岩越 真一、橘 進彰、森澤 洋介		
概要	各種疾患の病態生理を学習し、臨床的に系統別疾患概念の理解を深め、「疾病のしくみ」を把握する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 各種疾患の病態生理を学習し、「疾病のしくみ」を理解できる。 ☐ 「疾病のしくみ」を理解した上で対象者の健康を包括的に理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	☐ 中間試験 2回 (60%) ≪3≫ ☐ 期末試験 1回 (40%) ≪3≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月9日（水） ガイダンスと病態医学Ⅲ総論	講義	山内
	第2回 2025年4月10日（木） 小児科学 1	講義	内田
	第3回 2025年4月16日（水） 救急医学 1	講義	川井
	第4回 2025年4月17日（木） 小児科学 2	講義	大前
	第5回 2025年4月23日（水） 救急医学 2	講義	福島
	第6回 2025年4月24日（木） 小児科学 3	講義	荻原
	第7回 2025年4月30日（水） 救急医学 3	講義	前川
	第8回 2025年5月1日（木） 小児科学 4	講義	長谷川
	第9回 2025年5月7日（水） 救急医学 4	講義	宮崎
	第10回 2025年5月8日（木） 小児科学 5	講義	竹田
	第11回 2025年5月13日（火） 臨床検査医学	講義	山崎

	第12回	2025年5月14日（水） 救急医学 5	講義	鶴田
	第13回	2025年5月21日（水） 麻酔科学	講義	阿部
	第14回	2025年5月22日（木） 産婦人科学 1	講義	常見
	第15回	2025年5月28日（水） 内科（膠原病・アレルギー疾患）	講義	鮫島
	第16回	2025年5月29日（木） 産婦人科学 2	講義	牧野
	第17回	2025年6月4日（水） 呼吸器内科学（睡眠呼吸障害・呼吸管理）	講義	山内
	第18回	2025年6月5日（木） 産婦人科学 3	講義	木村
	第19回	2025年6月11日（水） 内科（血液疾患 1）	講義	田中
	第20回	2025年6月12日（木） 産婦人科学 4	講義	山田
	第21回	2025年6月18日（水） 内科（血液疾患 2）	講義	田中
	第22回	2025年6月19日（木） 精神医学 1	講義	太田
	第23回	2025年6月25日（水） 放射線医学 1	講義	岩越
	第24回	2025年6月26日（木） 精神医学 2	講義	太田
	第25回	2025年7月2日（水） 放射線医学 2	講義	伊藤
	第26回	2025年7月3日（木） 精神医学 3	講義	太田
	第27回	2025年7月9日（水） 泌尿器科学 1	講義	橘
	第28回	2025年7月10日（木） 泌尿器科学 2	講義	森澤
	第29回	2025年7月16日（水） 精神医学 4	講義	太田
	第30回	2025年7月17日（木） 精神医学 5	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそって教科書を読み、予習しておく。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。			
テキスト	系統看護学講座「成人看護学[2] 呼吸器」～「成人看護学[15] 歯・口腔」 医学書院 系統看護学講座「母性看護学[2] 母性看護学各論」 医学書院 系統看護学講座「小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」～「小児看護学[2] 小児臨床看護各論」 医学書院 系統看護学講座「精神看護学[1] 精神看護の基礎」 医学書院			
参考書	授業中に紹介する。			

学生へのメッセージ等	授業内容が多く、範囲が膨大であるが挫折せずにがんばりましょう。
------------	---------------------------------

講義科目名称： 基礎薬理学

授業コード： K080340

英文科目名称： Basic Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1	必修
担当教員			
吉栖 正典			
添付ファイル			

全担当教員	吉栖 正典、松田 明子		
概要	薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を習得する。 薬理作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的薬理学知識を習得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 薬物療法の基礎知識を習得し、化学物質としての薬の性質および生体内動態を理解する。 ☐ 適切な薬物療法のために、人体の恒常性維持のための各種調節機構を理解し、説明することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	講義中の学習意欲、探求心を重視する。 最終的評価は、ペーパーテストによる理解度の総合評価による(100%)。《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月22日（火） 14：40～16：10 薬理学概説 薬物療法における看護師の役割	講義	吉栖
	第2回 2025年5月20日（火） 13：00～14：30 薬力学 薬物作用の特異性、薬物受容体・イオンチャネル・酵素・トランスポーター	講義	吉栖
	第3回 2025年5月27日（火） 13：00～14：30 薬物動態学 1 薬物の投与経路、薬物の吸収と分布 初回通過効果、バイオアベイラビリティ	講義	松田
	第4回 2025年6月3日（火） 13：00～14：30 薬物動態学 2 薬物の代謝と排泄	講義	松田
	第5回 2025年6月17日（火） 13：00～14：30 薬物相互作用 薬物動態学的相互作用、薬力学的相互作用	講義	吉栖
	第6回 2024年6月25日（火） 13：00～14：30 薬効の個人差への影響因子 性差、年齢、妊娠、遺伝子	講義	吉栖
	第7回 2025年7月1日（火） 13：00～14：30 薬物使用の有益性と危険性 医薬品と法令 薬物アレルギー、副作用、発がん性と催奇形性、医薬品医療機器法、各種取り締まり薬物、新薬開発	講義	吉栖
	第8回 2025年7月15日（火） 13：00～14：30 試験	筆記試験	吉栖
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に単元に関する教科書の箇所を全て精読してから講義に臨むこと。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院		

参考書	附属図書館に常備されている指定参考図書。必要に応じて紹介する。
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 臨床薬理学

授業コード： K080350

英文科目名称： Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2	必修
担当教員			
吉栖 正典			
添付ファイル			

全担当教員	吉栖 正典／中平 毅一／京谷 陽司／趙 晶		
概要	薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を習得する。 薬理作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的薬理学知識を習得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 疾患と治療薬物を関連づける。 ☐ 薬物の作用機序から薬理作用を理解し、併せて副作用を理解する。 ☐ 疾患に対する薬物処方、取り扱い時の注意点を修得し、疾患における禁忌薬を十分に把握する。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	講義中の学習意欲、探求心を重視する。 最終的評価は、ペーパーテストによる理解度の総合評価による(100%)。《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月25日 (木) 抗感染症薬	講義	中平
	第2回 2025年10月2日 (木) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	中平
	第3回 2025年10月9日 (木) 物質代謝に作用する薬物	講義	中平
	第4回 2025年10月16日 (木) 物質代謝に作用する薬物	講義	中平
	第5回 2025年10月23日 (木) 皮膚科用薬、眼科用薬	講義	中平
	第6回 2025年10月30日 (木) 抗がん薬	講義	京谷
	第7回 2025年11月6日 (木) 免疫治療薬、抗アレルギー薬	講義	京谷
	第8回 2025年11月13日 (木) 抗炎症薬	講義	京谷
	第9回 2025年11月20日 (木) 心臓・血管系に作用する薬物1	講義	京谷
	第10回 2025年11月27日 (木) 心臓・血管系に作用する薬物2	講義	京谷
	第11回 2025年12月4日 (木)	講義	趙

		末梢での神経活動に作用する薬物		
	第12回	2025年12月11日（木）	講義	趙
		中枢神経系に作用する薬物-1		
	第13回	2025年12月18日（木）	講義	趙
		中枢神経系に作用する薬物-2		
	第14回	2026年1月8日（木）	講義	趙
		救急の際に使用される薬物		
	第15回	2026年1月15日（木）	講義	趙
		漢方薬、消毒薬		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に単元に関する教科書の箇所をすべて精読してから講義に臨むこと。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕 医学書院			
参考書	附属図書館に常備されている指定参考図書。必要に応じて紹介する。			
学生へのメッセージ等	出席時間または単位認定試験などの受験資格に関しては、授業科目履修要領参照の事。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子／安藤 泰至／伊藤 雪絵／大河内 大博／高嶋愛理		
概要	現代医療において看護師は、日常診療やケアにおいてさまざまな意思決定場面に遭遇し、倫理的課題に直面する。そのなかで看護師は、適切に患者に支援する債務がある。看護師が患者に適切に倫理的支援を行うためには、看護学生自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養う必要がある。本科目では、患者の意思決定支援や患者を擁護する方法や倫理原則について学び、グループで討議し、自らがその価値観の感性を育くみ、研鑽する姿勢を養う。また、医療チームにおける看護の役割について、どのように患者の倫理的課題に気づき、取り組むのかを検討し、看護職として協働していく役割について学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ グループ討議や講義を通して、自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観や価値観を育み、研鑽していく姿勢を身につける。 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護実践における倫理的課題に気づき、科学的に分析し、その対策について立案できる。 ☐ 医療チームにおける看護の役割について、どのように患者の倫理的課題に気づき、取り組むのかを検討し、看護職として協働していく役割について学ぶ。 ☐ 人の生き方や死について考え、看護実践をする際に適切な意思決定が出来るように、「看護の気づく力」の構築の必要性を理解し、記述できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■授業参加度 (20%) 《1》 ■課題レポート (50%) 《1, 3》 ■小テスト (30%) 《3》 定期試験なし		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年9月24日（水） 4限目 看護実践における倫理に関する視点 【事前学習】看護学概論テキスト（p182）「学生のレポート『倫理的に問題を考える』」を読み、気づいた点を自己ノートに記入する。 【学習内容】気づき、看護倫理の視点、看護倫理綱領、リフレクション 【事後学習】自己の看護実践についてリフレクションを行う。	講義	松田
第2回	2025年10月8日（水） 外国人患者への看護実践における倫理的課題とその対策 【事前課題】テキストの該当ページ（看護倫理綱領について）を読む 【事後課題】外国人患者への対応を含めた看護実践活動ができるように日頃より意識する。	講義・演習	高嶋・松田
第3回	2025年10月15日（水） 看護実践における倫理的課題とその対処 【事前学習】・1回目配布した事例について読み、倫理的課題について記載する。用紙は授業中に説明する。 ・看護倫理綱領について読む 【学習内容】事例の倫理的課題について考える。 【事後学習】倫理原則とその定義について覚える。	演習	松田
第4回	2025年10月22日（水） 看護実践における倫理的課題とその対処 【事前学習】・提示された事例について読み、倫理的課題について自己ノートに記載する。 ・看護倫理綱領について読む 【学習内容】事例の倫理的課題について考える。 【事後学習】講義時の資料配布を復習する。	講義	伊藤雪絵

	第5回	2025年11月5日（水） 看護実践における倫理的課題とその対処 事例で考える臨床現場の倫理的ジレンマ/事例分析・グループワーク/小テスト 【事前課題】 1) テキストの看護倫理綱領、倫理原則について読む。 【学習内容】 ＊講義開始時小テスト実施 1) グループワーク：事例の倫理的課題とその看護の役割 2) 講義 3) 学びの共有および自己記録 【事後学習】事例検討を通して、自己の看護実践をする際に留意する点を振り返り、自己の看護倫理観を育んでいく。	講義	松田
	第6回	調整中 人の死について考える。「終末期医療における倫理的課題」 【事後学習】 ・講義資料を復習し、人の生と死について考え、看護の役割について熟考する。	講義	安藤泰至
	第7回	調整中 人の死について考える。「グリーフケア」他 【事後学習】 ・講義資料を復習し、人の死について考え、対象者を取り巻く環境や家族の思いを推測する視点や看護の役割について熟考する。	講義	大河内大博
	第8回	2025年12月10日（水） 自己の看護倫理観を育む グループワーク 【事前学習】・これまでの各授業の学びと課題について振り返り、本科目目標に沿っての自己課題について考え、自己ノートに記載する。（8回目要項参照） 【学習内容】・自己の看護倫理観について考える。グループワーク 【事後学習】本科目の学びを整理し、自己の看護観・看護倫理観につなげる。 提出物：課題③「自己の看護実践における倫理観とその課題」：提出先・時間は授業内に説明する。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前課題：ICN看護師の倫理綱領について読む 事後課題：指示された用紙に、各单元ごとに「学びと課題」について記入する。单元ごとに指定する。			
テキスト	1年次看護学概論で使用したテキスト			
参考書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。			
学生へのメッセージ等	講義を通して自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養っていこう。 なお、本科目は後期後半の位置づけであるが、10月上旬より開始する予定である。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/浅野 沙奈絵/白田 梨奈/多川 聖子		
概要	治療・検査、及び与薬など、診療に伴う援助技術の基本を学び、診療に関わる援助を患者が安全・安楽に確実に受けるための基礎的技術を修得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □診療に伴う援助技術の目的および対象者の観察の視点について説明できる。 □身体侵襲を伴う援助が、対象者の心身に及ぼす影響について述べるができる。 □診療に伴う看護援助を、安全・安楽の視点で具体的に方法を考え、説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 診療に伴う援助技術の原理・原則を理解し、根拠に基づき安全かつ正確に実施できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■定期試験（50％）《3,4》 ■演習課題（30％）：毎回の演習における事前・事後課題（5回）《3,4》 ■技術確認（20％）：導尿《3,4》 既習の知識に基づき安全・安楽に配慮して正しく援助を行えているか、チェックリストを用いて評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1・2回 2025年4月11日（金） ガイダンス／感染予防技術 ・診療の補助業務 ・診察・検査時の看護師の役割 ・感染予防技術 検査や治療・処置における感染予防の重要性 消毒、滅菌法、無菌操作	講義	升田・白田・浅野・多川
	第3・4回 2025年4月18日（金） 感染予防技術 【演習項目】無菌操作 【事前課題】演習で行う援助の根拠・留意点を、所定の用紙に記載する。その際、必ず文献を調べ、患者の安全・安楽・自立を踏まえて考える。 【事後課題】授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 ＜課題の提出＞演習翌週の月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・白田・浅野・多川
	第5回 2025年4月25日（金） 創傷管理の援助技術 ・創傷の治癒過程とアセスメント ・洗浄、保護、包帯法 【演習項目】包帯法 【事前課題】演習で行う援助の根拠・留意点を、所定の用紙に記載する。その際、必ず文献を調べ、患者の安全・安楽・自立を踏まえて考える。 【事後課題】授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 ＜課題の提出＞演習翌週の月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
	第6回 2025年5月9日（金） 排泄障害のある患者の看護 ・排泄障害の基礎知識 ・排泄障害のある患者のアセスメント ・排泄障害のある患者への援助方法	講義	升田・浅野・白田・多川
	第7回 2025年5月16日（金） 排泄障害のある患者の看護	演習	升田・浅野・白田・多川

	【演習項目】 導尿 【技術確認】 チェックリストを用いて評価を行う。 【事前課題】 チェックリストの各項目について、患者に安全・安楽・自立を考えた援助を提供するための根拠・留意点を記載する。その際、必ず文献を調べて記載する。 【事後課題】 チェックリストの評価を踏まえて自己の援助を振り返り、改善策を考え、所定の用紙に記載する。 ＜課題の提出＞演習翌週の月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。		
第8回	2025年5月23日（金） 呼吸・循環を整える技術 ・呼吸・循環を整える意義 ・呼吸障害のある患者のアセスメント ・呼吸管理のための援助方法	講義	升田・白田・浅野・多川
第9回	2025年5月30日（金） 呼吸・循環を整える技術 【演習項目】 酸素吸入療法・吸引 【事前課題】 演習で行う援助の根拠・留意点を、所定の用紙に記載する。その際、必ず文献を調べ、患者の安全・安楽・自立を踏まえて考える。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 ＜課題の提出＞演習翌週の月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・白田・浅野・多川
第10回	2025年6月6日（金） 検査と看護 ・診療に伴う検査について ・検査を受ける患者のアセスメント ・検査を受ける患者への援助方法	演習	升田・浅野・白田・多川
第11・12回	2025年6月13日（金） 検査と看護 【演習項目】 静脈血採血 【事前課題】 演習で行う援助の根拠・留意点を、所定の用紙に記載する。その際、必ず文献を調べ、患者の安全・安楽・自立を踏まえて考える。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 ＜課題の提出＞演習翌週の月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	講義	升田・浅野・白田・多川
第13回	2025年6月20日（金） 与薬と看護 ・与薬における看護師の役割 ・薬剤の種類と取り扱い方法 ・与薬方法と効果・副作用（有害事象）の観察 ・輸液の種類と管理方法	演習	升田・浅野・白田・多川
第14・15回	2025年6月27日（金） 与薬と看護 【演習項目】 筋肉内注射 【事前課題】 演習で行う援助の根拠・留意点を、所定の用紙に記載する。その際、必ず文献を調べ、患者の安全・安楽・自立を踏まえて考える。 【事後課題】 授業の内容を踏まえて自己の援助を振り返り、よりよい援助にするための改善策を記載する。 ＜課題の提出＞演習翌週の月曜日13時までに、指定された場所へ提出する。	演習	升田・浅野・白田・多川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元のテキストや参考書の該当箇所を読む。事前課題が提示された場合は課題に取り組む。 事後学修：各授業で事後課題が提示された場合は課題に取り組む。各単元の講義・演習内容について復習し、自己学習ノート等にまとめ、整理する。		
テキスト	松尾ミヨ子，他 「ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」（メディカ出版） 松尾ミヨ子，他 「ナースিং・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」（メディカ出版）		
参考書	医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.1 基礎看護技術」（メディックメディア） 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.2 臨床基礎看護技術」（メディックメディア） 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂） 三上れつ他「演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして」（ヌーヴェルヒロカワ） 任和子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） その他、授業中に適宜提示する。		
学生へのメッセージ等	身体侵襲を伴う技術を学習します。安全かつ確実に援助を実施するために、主体的な事前・事後学習を行い、積極的な学習姿勢で臨んでください。 本科目では、既習の病態医学、人体構造学、人体機能学、薬理学や、基礎看護学領域の科目（フィジカルアセスメント、看護援助の基本、看護技術Ⅰ等）の知識を活用するため、しっかり復習しておくこと。 本科目は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

講義科目名称：健康障害と看護

授業コード：K160470

英文科目名称：Health Disorder and Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子 高嶋愛理		
概要	健康の概念を理解し、自己の健康状態や生活行動の観察を通し、看護の視点を理解し、看護の対象となる人を生活者として捉え、生活に潜む危険事象を予測した看護の役割について学ぶ。健康上のニーズを持つ対象者、症状をもつ対象者や治療を受ける対象者への看護について学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □自己の健康状態や生活行動の観察・分析を通し、看護の対象となる人を生活者として捉え、看護の役割について記述できる。 □対象者（外国人患者を含む）のニーズに気づき、アセスメントを通して看護の役割について述べるができる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■授業参加度：10%《3》 ■グループワーク参加度・態度：15%《3》 ■小テスト（1回）：30%《3》 ■課題レポート：45%《3》 定期試験：なし		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月10日（木） 2限 健康増進するための行動/健康状態の経過に応じた看護 【講義内容】健康状態の経過、ICF 【事後学習】健康行動、健康状態と経過についての定義を覚える。	講義	松田
	第2回 2025年4月17日（木） 健康者の観察（生命活動）と看護の役割 【事前課題：課題①】指定用紙を基に自己の入浴動作を観察し、生命活動の視点で分析し看護の役割について記述する。 【学習内容】 1) グループワーク・一部発表：事前課題共有 2) 講義：入浴時の看護の役割 提出：課題①	講義・演習	松田
	第3 2025年4月24日（木） 【事前課題：課題②】 1) 指定された用紙を基に自己の生活動作を観察・分析し、看護の役割について記述する。 【学習内容】 1) グループワーク：事前学習課題共有 提出：課題②	講義・演習	松田
	4回 2025年5月1日（木） 対象者の生活行動とアセスメントの視点① 【事前学習】課題③ 講義 1) 事前学習の共有 2) 発達段階に応じたセルフケア 【課題提出】学びを記入し、課題③を提出する。	講義	松田

	【事後課題】発達段階に応じたセルフケアについて意識し、観察の視点を深める。		
	第5回 2025年5月8日（木） 対象者の生活行動とアセスメントの視点② 【事前学習】課題④ 講義 1) 事前学習の共有 2) 高齢者のフレイル予防について 【課題提出】課題④ 「学び」を記入し、提出する。 【事後課題】高齢者の生活をフレイル予防の視点で観察し、看護の視点を深める。	講義・演習	松田
	第6・7回 2025年5月15日（木） 1・2限 治療を受ける患者の看護 外国人患者への対応 【事前学習】外国人患者への医療体制 【事後学習】講義資料を復習する。	講義・演習	高嶋
	第8回 2025年5月22日（木） 対象者の生活行動とアセスメントの視点③ 【学習内容】 1) 小テスト 2) 事例検討	講義	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	各課題に沿って事前学修を行う。事後学修：単元ごとに目標に沿って看護の役割について検討する。		
テキスト	基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 1年次の看護技術学Ⅰのテキスト：南江堂 基礎看護技術		
参考書	授業で随時紹介する。 臨床看護学総論 基礎看護学④ 医学書院		
学生へのメッセージ等	看護行為は、知識・技能・態度の3つから構成されるといわれており、これらを論理的に統合していくことは、根拠のある看護実践の基本です。なお、本科目は「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための科目です。		

講義科目名称：ヘルスアセスメント

授業コード：K080530

英文科目名称：Health Assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/白田 梨奈/浅野 沙奈絵/多川 聖子		
概要	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、フィジカルイグザミネーションを活用して、科学的根拠のある技術の適用と必要性を判断し、対象者の健康状態を的確にアセスメントできる基礎能力を身につける。授業では、事例患者を用いて、臨床場面を想定した演習を行う。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し説明できる。 ☐ 事例患者の健康状態について、身体的・精神的・社会的側面から情報を収集し生活者としてとらえアセスメントできる。 ☐ アセスメントに基づき、事例患者に必要な看護援助を考え説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 アセスメントに基づき考えた看護援助の正確な方法を説明できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■演習課題：50%≪3.4≫ 課題①：10%、課題②：20%、課題③：20% ■定期試験：50%≪3≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年5月30日（金） ガイダンス／ヘルスアセスメントとは 事例患者の紹介 【グループ課題】事例患者のヘルスアセスメントを行い、看護計画を立案する。 【事後課題】次回のグループワークに取り組めるよう、各自準備を行う。	講義	升田・白田・浅野・多川
第2回	2025年6月6日（金） 事例患者のヘルスアセスメント① 【グループワーク】 グループで事例患者のヘルスアセスメントを行い看護計画を完成する。 [課題①] グループワークで話し合った内容をもとに、事例患者を身体、心理、社会的側面からアセスメントしその内容を指定の用紙に記載する。(個人ワーク) 課題提出：翌週月曜日の13時までに、指定された場所に提出する。	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
第3回	2025年6月20日（金） 事例患者のヘルスアセスメント② 【グループワーク】 事例患者のベッドサイドでの援助①②の援助計画を立案し、どのように援助を行うか具体的に検討する。	講義・グループワーク	升田・白田・浅野・多川
第4・5回	2025年7月4日（金） 事例患者のベッドサイドでの援助 1日目：喀痰が生じた場合 第1回で提示された事例患者について、本日の状態を判断し、立案した看護計画に基づいて、フィジカルイグザミネーションを用いて観察を行い看護援助を実施する。 [課題②] 【事前課題】課題①の内容を踏まえ、事例患者の状態をアセスメントするために必要な身体診査について、課題②の記録用紙に記載する。 【事後課題】演習で行った身体診査や患者との関わりをもとに、課題②の記録用紙に記載する。 課題提出：翌週月曜日の13時までに、指定された場所に提出する。	講義・演習	升田・白田・浅野・多川

	第6・7回	2025年7月11日（金） 事例患者のベッドサイドでの援助 2日目：腹痛が生じた場合 第1回で提示された事例患者について、本日の状態を判断し、立案した看護計画に基づいて、フィジカルイグザミネーションを用いて観察を行い、看護援助を実施する。 [課題③] 【事前課題】課題①の内容を踏まえ、事例患者の状態をアセスメントするために必要な身体診査について課題③の記録用紙に記載する。 【事後課題】演習で行った身体診査や患者との関わりをもとに、課題③の記録用紙に記載する。 課題提出：翌週月曜日の13時までに、指定された場所に提出する。	講義・演習	升田・白田・浅野・多川
	第8回	2025年7月18日（金） 事例患者への看護のまとめ／看護におけるヘルスアセスメントの意義	講義	升田・白田・浅野・多川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：1年生の科目の復習およびテキストの該当箇所を読む。各回の事前課題に取り組む。 事後学修：各回の事後課題に取り組む。授業内容を復習する。 課題が不十分な場合には、教員による個別指導を行う。			
テキスト	松尾ミヨ子、他 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」（メディカ出版） 藤崎郁「フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版」（学研） 香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂）			
参考書	秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」（ヌーヴェルヒロカワ） その他、授業中に適宜提示する。			
学生へのメッセージ等	既習の「フィジカルアセスメント」「看護過程論」「看護技術学Ⅰ」の知識を活用して授業を行います。特に、「看護過程論」と「フィジカルアセスメント」はこの科目の基盤となります。しっかり復習して臨んで下さい。 本科目は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年	2	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/白田 梨奈/浅野 沙奈絵/多川 聖子
概要	病院における保健・医療・福祉チームが協働する医療体制とその意義について学ぶ。入院生活を送っている患者を受け持ち、生活場面や診療場面への援助的関わりを通して、V.ヘンダーソンの理論を活用して、患者の個別性に応じた日常生活援助の実践過程を学ぶ。また、看護を展開する中で、対象者との関わりを通して援助的人間関係の構築に取り組み、看護専門職としての自覚と責任感をもって看護実践できる力を身につける。
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護学生としての自覚と責任感をもって行動できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □患者の健康課題の解決に向けて保健・医療・福祉チームがどのように協働しているか説明できる。 □患者を全人的に捉え、基本的ニーズの充足状況をアセスメントし説明できる。 □患者の個別性をふまえた看護計画を立案できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □患者との関わりを通して、援助的人間関係構築に向けた取り組みができる。 □アセスメントに基づいた日常生活援助を安全に実践できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -
評価方法	評価表に基づき、実習記録、実習態度によって評価する。《1, 3, 4》
授業計画	1) 実習施設 奈良県立医科大学附属病院 2) 実習期間 8月25日～9月12日（うち8日間、具体的な日程は基礎看護学実習Ⅱ要項参照） 3) 実習方法 原則として、一人の入院患者を受け持ち、看護を展開する。 詳細は基礎看護学実習Ⅱ要項参照
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修： 実習に活用できるように、以下の科目の履修内容を復習しておく。（看護学概論、看護援助の基本、看護技術学Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、看護過程論、健康障害と看護等） 事後学修： 実習期間中、その日の実習での体験や、カンファレンス等から得た学び、指導者や教員からの助言等をもとに、実習内容を振り返り、自己の考えを整理する。 実習期間終了後、実習を通して考えた看護の役割等について、自己の考えを整理して看護観を深め、今後の課題を明確化する。
テキスト	今までの授業に用いたテキスト
参考書	今までの授業に用いた参考書。 その他、実習の中で適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	この実習は、皆さんが病院で受け持ち患者を担当し看護実践を行う初めての实習になります。看護は、対象者が「その人らしく」生き、生活するために必要な援助を行います。これまで学習した知識や技術を総動員して、看護援助を考え、実践して下さい。患者・家族からたくさんの学びを得て、看護のすばらしさを感じてほしいと思います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2	必修
担当教員			
小竹 久実子			
添付ファイル			
別紙 1 概論レポート事前事後課題2025. pdf			
在宅看護学概論事前課題表2025. docx			
在宅看護学概論シラバス2025. pdf			

全担当教員	小竹 久実子／佐藤 郁代／栗田 麻美／武田 以知郎
概要	在宅療養の場や在宅看護の対象を理解し、生活を捉えた在宅の視点と在宅看護の特徴を学ぶ。
目標	1 倫理観、態度、意欲 Level B 目標 □6) 療養者とその家族の意思決定支援し、倫理的配慮の必要性を理解する。 2 創造性、探究力、国際的視野 Level B 目標 □1) 在宅療養の場とはどういう場のことであるのか検討できる。 □2) 在宅看護の対象について学習したことを想起して検討できる。 3 知識、批判的思考力 Level A 目標 □3) 在宅看護の歴史の変遷を捉え、現在の保健医療福祉制度を学び、在宅看護とのつながりを説明できる。 □4) 在宅療養者のもつ疾病の特徴と健康の捉え方を説明できる。 □10) 在宅看護における災害・緊急時対策を説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 Level A 目標 □8) 在宅の視点(生活の視点)を事例を通して理解する。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント Level B 目標 □5) 訪問診療の実際を知り、シームレスにケアをつなぐために、どのようなケアシステムと連携が必要か事例を通してグループで話し合いチームでマネジメントを理解する。 □7) 在宅看護を行うためにコミュニケーションスキルを磨くことの重要性を事例を通してグループワークにより理解する。 Level C 目標 □9) 事例を通してグループワークにより在宅における看護師の役割について関心を持つことができる。 目標（目標ごとの詳細の到達レベル揭示） 1) 在宅療養の場を理解する。 DP2 B, DP3 A, DP4 A 2) 在宅看護の対象を理解する。 DP2 B, DP3 A, DP4 A 3) 在宅看護の歴史の変遷を捉え、現在の保健医療福祉制度を学び、在宅看護とのつながりを理解する。 DP3 A, DP5 B 4) 在宅療養者のもつ疾病の特徴と健康の捉え方を理解する。 DP3 A, DP4 A 5) 訪問診療の実際を知り、シームレスにケアをつなぐために、どのようなケアシステムと連携が必要か理解する。 DP3 A, DP4 A, DP5 C 6) 療養者とその家族の意思決定支援し、倫理的配慮の必要性を理解する。 DP1 B, DP3 A, DP4 A 7) 在宅看護を行うためにコミュニケーションスキルを磨くことの重要性を理解する。 DP3 A, DP4 A, DP5 B 8) 在宅の視点(生活の視点)を理解する。 DP3 A, DP4 A 9) 在宅における看護師の役割を理解する。 DP3 A, DP4 A, DP5 B 10) 在宅看護における災害・緊急時対策を理解する。 DP3 A DP 1 倫理観、態度、意欲 2 創造性、探究力、国際的視野 3 知識、批判的思考力 4 実践力、応用力、共感能力 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント A: Level A 100% , B: Level B 80%, C: Level C 60% , D: Level D 30%

	<本授業で修得する能力> DP1 B：基盤となる倫理観と姿勢の重要性が理解できる。 DP2 B：基盤となる課題を検討できる。 DP3 A：修得した課題・問題解決方法を活用できる。 DP4 A：基本となる技術を応用できる。 DB5 B：基盤となる協働やマネジメントの重要性が理解できる。 DP5 C：基盤となる協働やマネジメントに関心をもつ。		
評価方法	○グループワークの態度(チームワーク含む)、授業参加状態(主体性、積極性含む) 20% 《1, 2, 3, 4, 5》 ○事前課題・事後課題 20% 《1, 2, 3》 ○定期試験 60% 《2, 3》 主体性、積極性、発言力、チームワーク(協働連携)、レポート、予習および復習(事前事後課題含む)、授業参加状況、最終試験等から全体的に評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月22日(月) 在宅療養の場と在宅看護の対象 【事前課題・事後課題】別紙1参照	講義	小竹
	第2回 2025年9月22日(月) 在宅看護の歴史と保健医療福祉制度の変遷	講義	小竹
	第3回 2025年9月29日(月) 在宅における保健医療福祉制度(介護保険) 1 【事前課題・事後課題】別紙1参	講義/GW GW	佐藤
	第4回 2025年9月29日(月) 在宅における保健医療福祉制度(介護保険) 2 -事例でとらえる- 【グループワーク】60分 【発表会】30分	GW 発表	佐藤
	第5回 2025年10月6日(月) 在宅における保健医療福祉制度(医療保険) 【事前課題・事後課題】別紙1参照 【グループワーク】30分	講義/GW GW	栗田
	第6回 2025年10月6日(月) 病院と在宅をシームレスにつなぐケア体制1 【グループワーク】30分	講義/GW GW	栗田
	第7回 2025年10月20日(月) 病院と在宅をシームレスにつなぐケア体制2 【事前課題・事後課題】別紙1参照 【発表会】90分	GW/発表	栗田
	第8回 2025年10月20日(月) 療養者とその家族の意思決定支援と倫理的配慮 【グループワーク】30分	講義/GW GW	小竹
	第9回 2025年10月27日(月) 在宅の視点：生活を捉える視点 【事前課題・事後課題】別紙1参照 【グループワーク】30分 【発表会】40分	講義/GW GW	小竹
	第10回 2025年10月27日(月) 訪問看護師のケアの実際と役割 【グループワーク】60分	講義/GW	小竹
	第11回 2025年11月10日(月) 在宅看護の災害・緊急時対策 【事前課題・事後課題】別紙1参照	講義/GW 発表	小竹
	第12回 2025年11月18日(火) 訪問診療の実際-具体事例から再考する在宅ケアのあり方- 【事前課題・事後課題】別紙1参照	GW/発表会 GW	武田
	第13回 2025年11月18日(火) 訪問診療の実際-具体事例から再考する在宅ケアのあり方- 【グループワーク】50分 【発表会】40分	講義 GW	武田
	第14回 2025年12月1日(月) まとめ1(発表会：訪問看護過程のプランまで) 【発表会90分】	GW 発表	小竹
	第15回 2025年12月1日(月) まとめ2(発表会：訪問看護過程のプランまで) 【発表会90分】	GW 発表	小竹
授業外学修(事前学修・事後学修)	授業毎に事前・事後課題があります。添付ファイルをご覧ください。 事前課題：添付ファイルにある別紙1の事前事後課題内容一覧表2024を確認し、授業前に学習すること。 在宅看護学概論事前課題表2024は、提示された期限までに作成し授業終了後提出すること。 事後課題：添付ファイルにある別紙1の事前事後課題内容一覧表2024を確認し、提出期限までに1F在宅看護学メールボックスに提出すること(詳細はシラバスに添付されたpdfを確認すること)		

テキスト	臺有桂 他編集：ナーシンググラフィカ在宅看護論、地域療養を支えるケア、メディカ出版、2025
参考書	
学生へのメッセージ等	2025年問題が迫る中、在宅看護は重要であり、在宅看護師が担うべき役割は大きいです。在宅看護は、予防から健康増進回復、ターミナルケア、災害看護などの救急を含み、全年齢、あらゆる疾患をもった療養者とその家族と関わる看護の集大成ともいえる分野でもあります。また同時に看護の本質を学べる科目でもあります。在宅看護学を学びながら、「看護とは何か」を一緒に考えていきましょう。 ※コロナ等の影響により授業スタイル等が変更する可能性があります。

講義科目名称： 成人看護学概論

授業コード： K080570

英文科目名称： Introduction to Adult Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
石澤 美保子／			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子／		
概要	健康に障害のある大人に対する看護を実践するために、変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉えられるようになる。成人看護学の対象となる大人のさまざまな健康障害に対しての基本となる考え方や理論、看護技術の根拠を論ずることができるようになる。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □成人看護学の対象である大人について、生活を営み人生を歩んでいる生活者として、生涯発達の視点と社会における役割、影響を受けている因子などを抽出し、それぞれの大人の理解に活用できる。 □成人看護学の対象である大人を取り巻く環境を理解し、生物学的に捉えアセスメントできる。 □成人看護学における根拠に基づいた基本的な看護とは何かを修得し、健康レベルに応じて個人、家族をアセスメントし実践していくために必要な看護計画の必要性を理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	<石澤美保子担当分50点> ■前期試験<3>80% ■第4回目授業時提出レポート1回<3>5% ■第4回目授業時グループワークでの態度、発表会1回<3>5% ■毎回授業終了後のNote of lectureの記載状況<3>10% < 担当分50点>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年4月9日（水） 4限目 成人看護学総論1 ・成人看護学の対象である大人とはなにか ・大人の発達段階（エリクソン、ハヴィガースト） ・発達段階（青年期、中年期）を理解したうえで大人の取り巻く環境、社会を知る	講義	石澤美保子
第2回	2025年4月16日（水） 4限目 成人看護学総論2 ・成人看護学の対象である大人とはなにか ・大人の発達段階（エリクソン、ハヴィガースト） ・発達段階（中年期、壮年期、そして老年期）を理解したうえで大人の取り巻く環境、社会を知る	講義	石澤美保子
第3回	2025年4月23日（水） 4限目 成人看護学総論3 ・第1回、2回目の授業内容をふまえて大人を取り巻く環境・社会を理解し、成人看護学の対象となる大人を生物学的に捉えアセスメントする。 ・大人の生活から捉える健康とは何かを知る。 ・大人の特徴を捉えたうえで健康障害が生じた際の個人、家族への心身への影響を理解できる。	講義	石澤美保子
第4回	2025年4月30日（水） 4限目 成人看護学総論4（グループワーク） 成人看護学領域の対象である大人の発達段階を探る。一身近な大人への「大人インタビュー」から学ぶ【グループワーク】 【事前課題】自分の周囲にいる大人1名にインタビューを行い、その人の年齢で考えられるエリクソンの発達課題における課題の達成と危機の克服を明らかにしていく。 1. インタビュー対象の選択 成人期の男性、女性、年齢は問わない。ただし、青年期の人は除く。壮年期、中年期以降の年齢（25～65歳ぐらいまで）とし、できるだけ自分より年が離れている人がよい。普段あるい	演習	石澤美保子

	は以前よりその人の生き方などに興味をもっている人をインタビュー対象として選ぶ。 2. インタビュー方法 対象となる人に、インタビューの目的を伝え、でき得る限りありのままに話してもらう。 3. インタビュー内容 対象のプロフィールをインタビューより知る。 1) 価値観・人生観：仕事、結婚、友人、夢、理想的な生き方とは 2) ライフスタイル：嗜好、趣味、スポーツ、平均的な1日の過ごし方 3) 健康意識：肥満、慢性疾患、ストレス、老いについて 4) 上記の基本内容を把握し、その人の今までの人生の中で、危機・衝撃的な出来事などを聞き、どのようにしてそれを乗り越えたか（あるいはその渦中なのか）を知る。 4. インタビューした対象の内容とエリクソンの発達課題（講義ビデオ図1：人生各期の発達課題と発達危機）を統合させて他の人に説明できるようにレポートを作成し、最後にタイトルを付けレポートを完成させる。タイトルは自由に付けてよい。 上記1～4までをA4用紙1枚に記述する。Wordのみ可（手書き不可）。4/30（水）授業時に持参し、各自のレポートを用いてグループワークを進める。 【グループワーク】60分 1. 各自自分のレポートを発表し、グループごとにディスカッションをする。 （提出レポートには、インタビュー対象との間柄（父、母、知人等）を記載してもかまわないが、グループワーク時は表現しなくてよい。例：50歳男性） 2. 各発達課題における課題の達成と危機の克服について共有し、グループ内で1事例を選びインタビューした内容とエリクソンの発達課題とを統合した内容を発表できるようにする。 【全体発表会】55分 大人の生き方や発達課題について、各グループの発表を聴き大人の発達課題を共有する。		
第5回	2025年5月7日（水） 4限目 成人急性期看護学1 成人の健康生活を促すための看護 －侵襲的治療を受ける患者への看護①－ ・急激な健康破綻をきたした人の状況と体験している心身の苦痛について理解し、問題を明確化できる。 ・急激な健康破綻に陥った大人への看護として、どのようなことが不可欠かを知り成人急性期看護学の基本となる知識を得る。	講義	石澤美保子
第6回	2025年5月14日（水） 4限目 成人急性期看護学2 成人の健康生活を促すための看護 －侵襲的治療を受ける患者への看護②－ ・侵襲的治療（手術（全身麻酔）、薬物療法、放射線療法等）に関する人体機能学および病態医学の復習をしたうえで、急激な健康破綻をきたした人の心身の安定をはかり、恒常性の機能が十分はたらくように支援する成人急性期看護を理解する。 ・急激な健康破綻に陥った人の療養環境について理解する（ICU、救命救急センター等）。	講義	石澤美保子
第7回	2025年5月21日（水） 4限目 成人看護学総論5 疾病の経過からみた健康状態 ・成人の健康状態、健康を脅かす要因について理解する。 ・疾病の経過からみた健康状態（急性期、回復期、慢性期、終末期）を理解する。	講義	
第8回	2025年5月28日（水） 4限目 成人慢性期看護学1 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 ・ストレス・コーピング理論と看護への活用－ ・ストレス・コーピング理論の歴史、概要、看護への活用を理解する。	講義	
第9回	2025年6月4日（水） 4限目 成人慢性期看護学2 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 危機理論と危機介入①－ ・危機理論の歴史的背景、概要、主な危機モデルを理解し、成人期にある人への危機理論の看護への活用について考える。 ・主な危機モデルとして、「Finkの危機モデル」「Aguilera & Messickの危機問題解決モデル」を取り上げる。	講義	
第10回	2025年6月11日（水） 4限目 成人慢性期看護学3 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 危機理論と危機介入②－ ・危機理論の歴史的背景、概要、主な危機モデルを理解し、成人期にある人への危機理論の看護への活用について考える。	講義	

	・主な危機モデルとして、「Finkの危機モデル」「Aguilera&Messickの危機問題解決モデル」を取り上げる。		
	第11回 2025年6月18日（水） 4限目 成人慢性期看護学4 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 ー健康生活の慢性的な揺らぎと再調整を促す看護 病みの軌跡理論と看護への活用ー ・ストラウスとコービンの病みの軌跡理論の歴史的背景、概要、看護への活用を理解する。	講義	
	第12回 2025年6月25日（水） 4限目 成人慢性期看護学5 成人の健康生活を促すための看護技術 ー成人の学習者の特徴と学習を促す看護技術ー ・大人の学習理論（アンドラゴジー）および患者教育の概要、成人学習者への患者教育を理解する。	講義	
	第13回 2025年7月2日（水） 4限目 成人慢性期看護学6 成人の健康生活を促すための看護技術 ー症状マネジメントモデルと看護への応用ー ・症状マネジメント概念モデルを理解し、「痛み」を例に、症状マネジメントの統合的アプローチの活用を考える。	講義	
	第14回 2025年7月8日（火） 3限目 成人急性期看護学 3 成人の健康生活を促すための看護技術 ー創傷管理論①ー ・最新の創傷ケアの基礎知識 ・創傷の定義、分類、現代の湿潤環境理論を基本とした創傷治療理論 ・Mooreの術後経過と生体反応と創傷治癒	講義	石澤美保子
	第15回 2025年7月16日（水） 4限目 成人急性期看護学 4 成人の健康生活を促すための看護技術 ー創傷管理論②ー ・成人急性期看護学における急性創傷の管理（開腹手術と腹腔鏡下（ダビンチ）手術） ・ドレッシング材の基礎知識	講義	石澤美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	<石澤美保子担当分> ■事前学修：各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布する）を熟読し、講義に臨むこと。4月30日（水）グループワークに向けての事前レポート作成がある。 ■事後学修：学修した内容をふまえた課題に取り組みレポートを作成、期限内に提出すること。 < 担当分>		
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 （テキストは毎回の講義時必ず持参のこと。）		
参考書	講義時に紹介する。		
学生へのメッセージ等	この授業は、疾患をもった大人に対して核となる大切な領域の概論です。この領域は、周囲の大人も学生自身も該当するライフステージです。講義内容から自分たちで考える習慣をつけてもらいたいと思います。		

講義科目名称： 成人看護学援助論Ⅰ（急性）

授業コード： K220010

英文科目名称： Adult Nursing Care SkillsⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
森脇 裕美			
添付ファイル			

全担当教員	森脇 裕美／石澤 美保子／松田 常美／堀井 えりな		
概要	手術を受ける患者および危機的状況にある患者とその家族に対する看護を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 手術療法が患者とその家族に与える影響を説明できる。 ☐ 危機的状況にある患者とその家族に与える影響を説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 手術を受けた患者とその家族が、周術期の過程で遭遇する身体的・心理的・社会的問題に対処するために必要な看護援助について説明できる。 ☐ 危機的状況にある患者とその家族に必要な看護援助について説明できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験（90％）≪3,4≫ ■第4回目事前課題（5％）≪3≫ ■Note of lectureの記載状況（5％）≪3,4≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月24日（水） 3限目 ガイダンス/手術侵襲と生体反応 ・手術療法の目的と種類 ・手術侵襲に対する生体反応 ・Mooreの術後回復過程 ・生体反応と各機能への影響	講義	森脇 裕美
	第2回 2025年10月1日（水） 3限目 手術室における看護 ・手術室看護の実際	講義	手術室看護 認定看護師
	第3回 2025年10月1日（水） 4限目 周術期看護/手術前看護 ・周術期にある患者・家族の特徴 ・周術期における看護 ・手術を受ける患者の術前の身体・心理アセスメント ・術前オリエンテーションの目的と方法	講義	森脇 裕美
	第4回 2025年10月15日（水） 3限目 手術後患者の看護① ・術後の病室環境 ・術直後のモニタリング ・術後の回復を促進するための看護 ・術後の退院に向けたケア、社会資源の活用 【事前課題】 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）の「第9章 手術後患者の看護」を読み、術後の病室環境および患者の状態を図示する。 課題用紙配布日：第1回目の講義 提出日：10月1日（水）8時50分までに指定のボックスに提出	講義	森脇 裕美
	第5回 2025年10月22日（水） 3限目 手術後患者の看護② ・全身麻酔後に起こりやすい合併症の発生機序 （呼吸・循環） ・全身麻酔後に起こりやすい合併症の予防・回復に向けた看護 （呼吸・循環）	講義	森脇 裕美
	第6回 2025年10月27日（月） 4限目 手術後患者の看護③	講義	森脇 裕美

	・全身麻酔後に起こりやすい合併症の発生機序 (消化器合併症・術後感染・縫合不全・術後せん妄) ・全身麻酔後に起こりやすい合併症の予防・回復に向けた看護 (消化器合併症・術後感染・縫合不全・術後せん妄)		
第7回	2025年10月29日(水) 3限目 呼吸機能障害をもつ患者の看護 ―肺切除術を受ける患者の看護― ・呼吸器の構造と機能 ・肺がんの疫学 ・肺がんの病態、症状、検査、診断、治療 ・肺切除術を受ける患者の術前・術後看護	講義	森脇 裕美
第8回	2025年11月12日(水) 3限目 循環機能障害をもつ患者の看護 ―開心術を受ける患者の看護①― ・循環器の構造と機能 ・虚血性心疾患の疫学 ・虚血性心疾患の病態、症状、検査、診断、治療	講義	堀井 えりな
第9回	2025年11月19日(水) 3限目 循環機能障害をもつ患者の看護 ―開心術を受ける患者の看護②― ・開心術を受ける患者の術前・術後看護	講義	堀井 えりな
第10回	2025年11月26日(水) 3限目 消化・吸収障害をもつ患者の看護① ―胃切除術を受ける患者の看護― ・胃の構造と機能 ・胃がんの疫学 ・胃がんの病態、症状、検査、診断、治療 ・胃切除術を受ける患者の術前・術後看護	講義	松田 常美
第11回	2025年11月26日(水) 4限目 消化・吸収障害をもつ患者の看護② ―大腸切除術を受ける患者の看護― ・大腸の構造と機能 ・大腸の疫学 ・大腸がんの病態、症状、検査、診断、治療 ・大腸切除術を受ける患者の術前・術後看護	講義	石澤 美保子
第12回	2025年12月10日(水) 3限目 脳・神経機能障害をもつ患者の看護 ―開頭術を受ける患者の看護― ・脳・神経系の構造と機能 ・くも膜下出血の疫学 ・くも膜下出血の病態、症状、検査、診断、治療 ・開頭術を受ける患者の術前・術後看護	講義	松田 常美
第13回	2025年12月17日(水) 3限目 性機能障害をもつ患者の看護 ―乳房切除術を受ける患者の看護― ・乳房の構造と機能 ・乳がんの疫学 ・乳がんの病態、症状、検査、診断、治療 ・乳房切除術を受ける患者の術前・術後看護	講義	森脇 裕美
第14回	2025年12月17日(水) 4限目 運動機能障害をもつ患者の看護 ―人工股関節置換術を受ける患者の看護― ・運動器および神経の構造と機能 ・変形性股関節症の疫学 ・変形性股関節症の病態、症状、検査、診断、治療 ・人工股関節置換術を受ける患者の術前・術後看護	講義	松田 常美
第15回	2026年1月7日(水) 3限目 集中治療を受ける患者の看護 ・集中治療室の特徴 ・集中治療室における看護師の役割 ・集中治療室入室前・入室中の看護	講義	森脇 裕美
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修：事前に各単元に関するテキストの範囲を精読し授業に臨むこと。 第4回目(10/15)の授業については事前課題がある。 事後学修：各単元に関する教科書の箇所、授業資料の内容が理解できたか復習し確認しておくこと。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2][3][5][7][9][10] 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	「健康の理解」、「成人看護学概論」など既修の知識をもとに、手術を受ける患者や集中治療を受ける患者とその家族に対する看護を学びます。事前学修で教科書を読み、関心を持って授業に臨んでください。「成人看護学実習Ⅰ」で看護過程を展開する基礎知識となる科目です。主体的に学ぶ姿勢を身につけましょう。		

講義科目名称： 成人看護学援助論Ⅱ（慢性）

授業コード： K220020

英文科目名称： Adult Nursing Care Skills Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
石橋 千夏			
添付ファイル			

全担当教員	石橋 千夏		
概要	慢性の病気とともに生きる患者・家族への看護について学ぶ		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 看護職者としてふさわしい身なり・態度で、患者・家族(役)と関わることができる 2 創造性、探究力、国際的視野 ☐ 文献や理論を参考にして、実践や体験を考察できる 3 知識、批判的思考力 ☐ 生涯にわたり病気のコントロールを必要とする患者・家族の身体・心理・社会的特徴について説明できる ☐ 代表的な慢性疾患を通して、疾患特異的なセルフマネジメントについて説明できる 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 患者・家族がその人らしく生活するために、背景やサポートも考慮した看護計画を立案し、実践、評価できる 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 患者・家族（役）とエンパワメントを意識してコミュニケーションできる		
評価方法	■リアクションペーパー、レポート、演習記録、ディスカッションなど授業への参加度・態度（50%） 《1, 2, 3, 4, 5》 ■定期試験（50%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
1	2025年9月25日（木） 慢性の病気とともに生きるひとの特徴／慢性病のセルフマネジメントと看護 【レポート】 闘病記を読む（詳細は授業で説明）：12/11締切 【レポート】 行動変容の体験（詳細は授業で説明）：10/2提出	講義	石橋
2	2025年10月2日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護(1) ―糖尿病患者の看護	講義	石橋
3	2025年10月9日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際1-1 ―2型糖尿病患者の看護 ①情報整理、アセスメント：10/14提出	演習	石橋
4	2025年10月16日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護(2) ―慢性腎不全患者の看護	講義	石橋
5	2025年10月23日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際1-2 ―2型糖尿病患者の看護 ②介入計画：11/6提出	演習	石橋
6	2025年10月30日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際1-3 ―2型糖尿病患者の看護 ③実践、評価：11/6提出	演習	石橋/未定
7	2025年11月6日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護(3) ―心不全患者の看護	講義	石橋
8	2025年11月13日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際2-1 ―うっ血性心不全患者の看護 ①情報整理、アセスメント：11/17提出	演習	石橋
9	2025年11月20日（木） 慢性病とともに生きる患者への学習支援	講義	石橋

	10	2025年11月27日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際2-2 —うっ血性心不全患者の看護 ②介入計画：12/1提出、媒体作成：12/11提出	演習	石橋
	11	2025年12月4日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護(4) —慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の看護	講義	石橋
	12	2025年12月11日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護の実際2-3 —うっ血性心不全患者の看護 ③実践、評価：12/18提出	演習	石橋
	13	2025年12月18日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護(5) —パーキンソン病患者の看護	講義	石橋
	14	2026年1月8日（木） 慢性の病気とともに生きるひとへの看護(6) —クローン病患者の看護	講義	石橋
	15	2026年1月15日（木） ライフサイクルと慢性病のセルフマネジメント —まとめ	講義	石橋
授業外学修（事前学修・事後学修）	①患者の理解の基盤となる人体構造学、人体機能学、病態医学、薬理学は、単元で提示する代表疾患にそって復習しておきましょう。 ②成人看護学概論で学んだ理論・概念を、実際に活用できるように理解を深めておきましょう。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]～[10] 医学書院 成人看護学 慢性期看護 改訂第4版 南江堂			
参考書	適宜紹介する			
学生へのメッセージ等	病態医学や成人看護学概論での学びを基盤に、療養生活を送る患者・家族への支援について考え、演習（実践）します。 日常生活での経験も活用し、自ら考えることを求めます。 今後の臨床での実践をイメージして、主体的に取り組みましょう。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子		
概要	生理的加齢変化と生活機能、高齢者の生活史と心理を理解する。 ライフサイクルにおける老年期の特徴と健康について理解する。 高齢者に特有な疾患・症状について理解を深め、適切な看護ケアを学ぶ。 老年看護学に必要なとされる理論及び高齢者の包括的アセスメントを学ぶ。 高齢者看護の基本と看護師の役割を考察する。 高齢者の終末期の支援を学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 □老年看護の実践者としての責務を遂行するにあたり、個々の高齢者の尊厳を第一義とし、個々の能力に配慮した看護のあり方を検討する。 □老年看護において、高齢者のアドボケートとして権利を擁護し、患者の価値や信念に最も近い決定ができる援助を検討する。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □生理的加齢変化に伴う生活機能の変化、および高齢者の生活史と心理的特徴を理解できる。 □ライフサイクルにおける老年期の特徴と、高齢者に特有な疾患・症状について理解を深めるとともに、高齢者の終末期の支援を理解し、説明することができる。 □高齢者看護の基本から看護師の役割を考察することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■授業時間数の3分の2以上の出席者に対し、以下の方法で評価する。30分以上の遅刻・早退は出席にならない。 ■レポート（20％）《1, 3》 ■筆記試験（80％）《1, 3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年4月11日（金） 1限 老年期の特徴と生理的加齢変化 加齢に伴い心身の諸機能が変化し、環境への適応能力が減退するが、生活習慣や環境によって様ではない。注意すべき免疫機能・心肺機能・骨や筋肉への影響を学ぶ	講義	澤見、木村、古角
第2回	2025年4月18日（金） 1限 生理的加齢変化に伴う生活機能への影響 第1回の学習を基に、生活機能への影響を考察する【反転授業：事前に第1回の講義を確認し、影響を考えておく】	講義	澤見、木村、古角
第3回	2025年4月25日（金） 1限 認知症の理解と予防 認知症とは、認知症の薬物・非薬物療法、認知症予防、認知症高齢者のケアを学習する。	講義	澤見、木村、古角
第4回	2025年5月2日（金） 1限 デイケア・デイサービスの概要とケア デイケアとデイサービスの概要、通所の目的、ケアの内容について学習する	講義	木村、古角、澤見
第5回	2025年5月9日（金） 1限 グループホーム・特養の概要とケア ①グループホームとは、グループホームでの生活と支援を学習する。②特養とは、特養での生活と支援を学習する。	演習	木村、古角、澤見
第6回	2025年5月16日（金） 1限 看多機・老健の概要とケア ①看多機とは、看多機での生活と支援を学習する。②老健とは、老健での生活と支援を学習する。	講義	木村、古角、澤見
第7回	2025年5月23日（金） 1限 高齢者の健康障害の特徴、権利擁護	講義	澤見、木村、古角

	高齢者の健康障害は、一般的に個々の生活習慣の影響を受けて発症する。このため、慢性疾患である生活習慣病の発症率が高い。健康障害の特徴と生活への影響を学ぶ。高齢者の権利擁護、自立支援について学習する。		
第8回	2025年5月30日（金） 1限 高齢者の健康障害のケア、演習オリエンテーション 第7回の学習を基に、必要なケアを考え、グループで共有する 【反転授業：事前に第3回の講義を確認し、必要なケアを考えておき、小グループディスカッションを行う。事前に演習のデモンストレーション動画を視聴し、演習方法の資料を読んでおく】 演習オリエンテーション：① 2人1組、右麻痺高齢者の起居動作（右麻痺装具装着）、食事、歩行介助 ②車いす片手・片足駆動：スロープあり（右に錘を装着）③動画視聴 【反転授業：事前にオリエンテーション資料を確認しておく】	講義	澤見、木村、古角
第9回	2025年6月6日（金） 1限 右麻痺の高齢者の疑似体験、車いす片手・片足駆動、学習振り返り 演習：① 2人1組、右麻痺高齢者の起居動作（右麻痺装具装着）、食事、歩行介助 ②車いす片手・片足駆動：スロープあり（右に錘を装着）③動画視聴 【反転授業：事前に動画を確認しておく】	講義	澤見、木村、古角
第10回	2025年6月13日（金） 1限 疑似体験のレポート発表、高齢者の運動障害とケア 右麻痺の高齢者のレポートを共有し、運動障害とケアについて検討する	演習	澤見、木村、古角
第11回	2025年6月20日（金） 1限 消化器疾患の概要 実習で多く担当する消化器疾患の概要を学習する	講義	木村、古角、澤見
第12回	2025年6月27日（金） 1限 消化器疾患患者の状態とアセスメント、ケア 実習で多く担当する消化器疾患の患者のアセスメントとケアを学習する	講義	澤見、木村、古角
第13回	2025年7月4日（金） 1限 呼吸器疾患の概要 実習で多く担当する呼吸器疾患の概要を学習する	講義	和田、澤見、木村、古角
第14回	2025年7月11日（金） 1限 呼吸器疾患患者の状態とアセスメント、ケア 実習で多く担当する呼吸器疾患の患者のアセスメントとケアを学習する	講義	和田、澤見、木村、古角
第15回	2025年7月18日（金） 死生観 日本人の死生観について、死生学とは、学習を通して現在の死生観を共有する	講義	澤見、木村、古角
授業外学修（事前学修・事後学修）	● 事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。反転授業においては、事前に提示した動画や資料を確認しておくこと ● 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。		
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
参考書	授業中に紹介します		
学生へのメッセージ等	生理的加齢変化と生活機能と心理の関係性、高齢期の疾患の特徴を理解し、高齢者看護の役割を学びましょう		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子		
概要	高齢者の生活機能に応じた自立支援、高齢者の癌看護を理解し、状態像に応じた支援を考察する。 感覚機能障害や認知症のある高齢者とのコミュニケーション、看護の役割について学習する。 疾患をもち加療中の高齢者のアセスメントを学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 高齢者に多い生活機能低下を理解し、適応した支援を検討できる。 ☐ 老年看護における自立支援について検討できる。 ☐ 高齢者の癌看護を理解し、多様な段階の高齢者への活用を検討できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 高齢者の生活機能を踏まえ、疾患をもち加療中の高齢者のアセスメントを学び、実践できる。 ☐ 多様な状態の高齢者の心理状態を検討し、対応した看護を考察できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 白内障や難聴など、感覚機能障害のある高齢者とのコミュニケーションについて理解し、応用できる。 ☐ 認知症高齢者とのコミュニケーションについて理解し、応用できる。		
評価方法	■授業時間数の3分の2以上の出席者に対し、以下の方法で評価する。30分以上の遅刻・早退は出席にならない。 ■レポート（20％）《3, 4, 5》 ■筆記試験（80％）《3, 4, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 高齢者の生活機能、認知症予防における非薬物療法について概論で学習した高齢者の生活機能と認知機能を見直しておくこと。	講義	澤見、木村、古角
	第2回 認知症高齢者のケア 第1回の認知症予防を見直しておくこと。	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第3回 認知症高齢者のケア：事例検討 【反転授業：事前に掲示板にアップした事例を把握しておくこと】	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第4回 高齢者の癌看護（放射線療法） ・放射線について ・放射線療法（放射線治療）の概要 ・有害事象（放射線性皮膚炎）と支持療法 ・奈良医大の放射線治療 ・放射線治療の流れ ・事例紹介	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第5回 高齢者の癌看護（化学療法） ・がん発生のメカニズム ・がん化学療法（がん薬物療法）とは ・がん化学療法の目的・適応条件・効果判定 ・抗がん剤（注射）の調剤の様子、投与専用ルート ・副作用とケア（投与中の副作用、血管系の副作用、消化器系（悪心・嘔吐、下痢、便秘、口内炎）の副作用、末梢神経系の副作用、脱毛） ・がん化学療法における看護のポイント	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第6回 高齢癌患者とのコミュニケーション（演習、グループワーク） 【講義】 ・コミュニケーションとは ・医療現場におけるコミュニケーション	演習	認定看護師、澤見、木村、古角

	・基本的なコミュニケーションスキル ・高齢者にみられるコミュニケーションの特徴 ・高齢者とのコミュニケーションの方法 【演習】 ・2人1組による基本的なコミュニケーション演習を行い、発表を通して感想と学びを共有する。 ・癌治療中の高齢者と医療者とのロールプレイを観察し、2人1組でディスカッションし、発表を通して全員で感想と学びを共有する。		
第7回	高齢者の口腔ケア、演習オリエンテーション ベッド上30度臥位での摂食介助、口腔ケアの方法を学習する。動画配信。	講義	澤見、木村、古角
第8回	演習：高齢者の口腔ケア 学生同士でベッド上30度臥位での摂食介助、口腔ケアを実施する。 【反転授業】 配信された動画を見てポイントを確認しておくこと	演習	澤見、木村、古角
第9回	ENBDの留置や腹水貯留のある肝臓や胆管に関する疾患および観察とケア、肝臓や胆管に関する疾患・肝障害によって現れる症状（腹水、黄疸、肝性脳症、食道静脈瘤）・閉塞性黄疸を伴う肝細胞癌患者の看護・腹水を伴う肝細胞癌の看護 ・肝臓や胆管に関する疾患 ・肝障害によって現れる症状（腹水、黄疸、肝性脳症、食道静脈瘤） ・閉塞性黄疸を伴う肝細胞癌患者の看護 ・腹水を伴う肝細胞癌の看護	講義	木村、古角、澤見
第10回	ADLが低下した高齢者の心理と援助、施設入所中の高齢者の心理と援助（帰宅願望など） ADLが低下した高齢者の心理と援助について学ぶ 施設入所中の高齢者の心理と援助について学ぶ	講義	木村、古角、澤見
第11回	呼吸器疾患患者の事例検討 呼吸器疾患の概要と看護を、事例を通じて学習する	講義	和田、澤見、木村、古角
第12回	高齢者の生活機能 看護過程とは、健康管理① 看護過程の要素、アセスメント、看護診断について理解できる	講義	澤見、木村、古角
第13回	高齢者の生活機能 栄養・代謝 演習オリエンテーション 【反転授業：栄養・代謝パターンのアセスメントを見直しておくこと、事前配布の演習資料を確認しておくこと】	講義	澤見、木村、古角
第14回	経管栄養法演習① 経管栄養法モデルに経鼻経管栄養チューブを挿入、胃液（モデルの胃内の水）吸引、気泡音確認、経管栄養の滴下。 【反転授業：事前に演習動画を視聴し、手順を確認しておくこと】	演習	澤見、木村、古角
第15回	経管栄養法演習② 演習とアセスメントのグループに別れ、それぞれの演習課題を実施する。 ・演習はチェックリストを用いて行う。 ・演習後は各自レポートを作成する。 ・待機時間は課題のアセスメントに取り組み、第15回の演習終了時に提出する。	演習	澤見、木村、古角
授業外学修（事前学修・事後学修）	● 事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。反転授業においては、事前に提示した動画や資料を確認しておくこと ● 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。		
テキスト	看護診断ハンドブック 医学書院		
参考書	授業中に適宜紹介します。		
学生へのメッセージ等	人生の最終段階で出会いたい人は、質の高い看護を提供できる看護師です。高齢者に最高の看護ケアを提供できるようしっかり学んでいきましょう。高齢者のアセスメントの基本をしっかり身につけましょう。		

講義科目名称： 小児看護学概論

授業コード： K080680

英文科目名称： Introduction to Pediatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ		
概要	子どもと家族がもっている力が最大限発揮できるよう援助を行っていくための基礎的知識として、子どもの発達、家族の発達、倫理、社会制度などの知識を習得し、小児看護の対象である子どもと家族を、統合的にとらえる。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 子どもの権利、小児看護における倫理について、その重要性が理解できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □子どもと家族の健康及び支援について考察し説明できる □子どもの成長・発達によってとらえられる反応や状況を理論を活用して説明し、その発達段階に適した看護について検討できる □現代の子どもがおかれている状況や問題が説明できる 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験70%《1,3》 ■課題レポート30%《3》を総合して評価します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月9日（水） 子どもとは 小児看護とは 小児看護の対象	講義	川上
	第2回 2025年4月16日（水） 子どもの権利と小児看護における倫理 子どもの権利を尊重した看護 医療における子ども憲章	講義	川上
	第3回 2025年4月23日（水） 課題①新生児・乳児の発達について 子どもの成長・発達の原則と評価 成長・発達の原則 小児看護で用いられる理論とその活用 1 愛着の理論・小児看護の活用	講義	川上
	第4回 2025年4月30日（水） 小児看護で用いられる理論とその活用 2 自我発達理論・小児看護の活用 認知発達理論・小児看護の活用	講義	川上
	第5回 2025年5月7日（水） 課題②離乳食について 乳児期の子どもの成長・発達と看護 1ー子どもの活動ー 課題① ーについて 子どもの活動ー動くー	反転授業・講義	川上
	第6回 2025年5月14日（水） 乳児期の子どもの成長・発達と看護 2ー子どもの反応ー 課題② ーについて 子どもの反応ー食べるー	反転授業・講義	川上
	第7回 2025年5月21日（水） 幼児期の子どもの成長・発達と看護 1ー基本的生活習慣の獲得・セルフケアー しつけと基本的生活習慣の獲得の支援 排泄 食事	講義	川上
	第8回 2025年5月28日（水） 幼児期の子どもの成長・発達と看護 2ー基本的生活習慣の獲得ー	講義	川上

	清潔 遊び 子どもにとっての遊びの意味 遊びの看護への活用		
第9回	2025年6月4日（水） 学童期の子どもの成長・発達と看護－学童期におこりやすい課題－ 発達課題 成長評価	講義	川上
第10回	2025年6月11日（水） 子どもと家族 1 母親の子どもの障害の受容について 障害のある子どもとの生活について	講義	ゲストスピーカー/川上
第11回	2025年6月18日（水） 子どもと家族 2 きょうだいの支援について 障害のある同胞と生活するきょうだいの生活	講義	川上
第12回	2025年6月25日（水） 思春期の子どもの成長・発達と看護－思春期・AYA世代におこりやすい課題－ 発達課題 意思決定	講義	川上
第13回	2025年7月2日（水） 課題③ 地域の子育て支援策の実際 現代の子どもがおかれている状況や問題 不登校 引きこもり いじめ 自殺 ICT	講義	川上
第14回	2025年7月9日（水） 子どもと家族の健康を支える社会制度 - 子育て支援策 - 地域の子育て支援策について、背景や特徴を考察する	グループワーク	川上
第15回	2025年7月16日（水） 小児看護の動向と課題 子どもと家族の健康を支える社会制度 社会の変化と小児看護の動向・課題	グループワークの発表・講義	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習として、次の授業に該当する範囲を読んでおく。事前課題がある場合は、課題について学習し授業に臨む。 事後学習として、資料を活用し授業内容を深める。		
テキスト	奈良間美保他著：系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学1，医学書院。		
参考書	舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版，医学書院。 他、授業で紹介する。		
学生へのメッセージ等	日常で会える子どもや、子どもをとりまく環境、情報について関心を高めてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
渋谷 洋子			
添付ファイル			

全担当教員	渋谷洋子 山田晃子 早川友香 伊東聖子 垣内拓也		
概要	子どもと家族がもっている力が最大限発揮できるよう、小児期に特徴的な症状や健康レベルなど、健康障害が子どもに及ぼす影響を捉え、子どもと家族への援助について考える。また、子どもと家族が置かれているさまざまな状況に応じた援助方法について学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 子どもの発達課題や健康状況、入院による環境変化等に対応できるよう、子どもと家族がもっている力が最大限発揮できるための援助の基本が理解できる。 ☐ 症状や障害および入院が、子どもとその家族の生活に及ぼす影響を理解し、アセスメントすることができる。 ☐ 小児期に特徴的な疾患や障害を、子どもの発達の特徴と関連してアセスメントすることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 小児期にみられる主な症状とその援助について考えることができる。 ☐ 健康障害をもつ子どもの健康レベルに応じた援助について検討することができる。 ☐ 健康障害が子どもと家族に与える影響について考えることができる。 ☐ さまざまな状況にある子どもと家族の援助について検討することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■定期試験（70％）《3,4》 ■レポート（30％）《3,4》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 症状を示す子どもと家族への援助① 子どもの痛み、発熱、呼吸困難	講義	渋谷
	第2回 症状を示す子どもと家族への援助② 子どもの脱水、下痢、嘔吐	講義	渋谷
	第3回 症状を示す子どもと家族への援助 子どものけいれん、意識障害、ショック	講義	渋谷
	第4回 子どもの救命・救急時の看護 子どもの成長・発達に応じた子どもに起こりやすい事故と事故予防方法 小児救急外来における子どもと家族への看護 被災した子どもと家族への支援	講義	山田
	第5回 子どもの入院と看護 治療・療養環境とその影響 入院する子どもの特徴と家族の特徴 入院中の子どもと家族の看護 【レポート課題】配点10点 テーマ：治療・療養環境とその影響について	講義	渋谷
	第6回 急性期にある子どもと家族の看護 急性期の特徴、川崎病、肺炎	講義	渋谷
	第7回 周手術期にある子どもと家族の看護 周手術期の特徴、術前・術後の看護	講義	手術看護認定看護師 垣内
	第8回	演習	渋谷

	周手術期にある子どもと家族の看護 事例を基に、グループワーク 【レポート課題】配点10点 テーマ：手術を受ける子どもの看護（発達段階を選択）		
	第9回 慢性期にある子どもと家族の看護 慢性期の特徴、アレルギー疾患、喘息	講義	山田
	第10回 慢性期にある子どもと家族の看護 糖尿病、ネフローゼ症候群	講義	山田
	第11回 がんの子どもと家族への看護 血液・造血器疾患と看護、終末期にある子どもと家族の看護	講義	小児看護専門看護師 早川
	第12回 活動制限のある子どもの看護 子どもの活動制限の特徴、骨軟部腫瘍の子どもの看護他 【レポート課題】配点10点 テーマ：子どもに病名を伝えることについて	講義	渋谷
	第13回 ハイリスク新生児と家族の看護 ハイリスク新生児の生理学的適応への集中ケア 非侵襲的なケア・発達を支えるケア 家族中心のケア	講義	新生児集中ケア認定看護師 伊東
	第14回 在宅療養中の子どもと家族の看護 小児在宅医療、医療的ケア、在宅療養中の子どもと家族の看護	講義	山田
	第15回 特別講演	講義・演習	渋谷
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：次回の講義に関する内容をテキストで事前学修して下さい。 事後学修：講義時の「ポイント」を事後学修して下さい。		
テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院		
参考書	見てできる臨床ケア図鑑 小児看護 学研 小児看護学概論 南江堂 小児看護技術 南江堂		
学生へのメッセージ等	人間発達論、病態医学Ⅲ（小児科学Ⅰ～Ⅴ）、小児看護学概論で学習した知識を基に、さまざまな状況にある健康障害をもつ子どもへの援助を考えます。子どもの気持ちを考えながら看護としてできる援助を考えましょう。 山田が担当する講義について：講義資料やレジメは、事前に教務システムに登録するので、講義までにダウンロードして各自で準備をしてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
五十嵐 稔子			
添付ファイル			

全担当教員	五十嵐 稔子／木村 奈緒美		
概要	母性の定義や理念、また母性を取り巻く環境への理解を深め、女性の一生を通じた健康の維持・増進、リスク予防を目的とした看護を支える基礎知識を習得する。さらに周産期における母子やその家族の健康を維持・促進するための看護の基本的な原則と理論を学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 母性の定義や理念および倫理的課題について説明できる。 ☐ 女性の意思決定を支援し、セルフケアを促進する方法について関心を持つ。 2 創造性、探究力、国際的視野 国際社会の母子保健活動について説明できる。 3 知識、批判的思考力 ☐ 母性看護の対象となる女性および家族を包括的アセスメントする方法について説明できる。 ☐ 女性と家族をとりまく環境と、それが健康に及ぼす影響について説明できる。 ☐ 女性のライフサイクル各期の特徴と発達課題、および健康上の課題について説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■ 評価方法：ミニッツレポート（15回）30%と試験70%により評価します。《1, 2, 3》 評価基準：ミニッツレポートにより理解度の確認を行います。 試験は、15回の授業の範囲とします。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年4月10日（木） 3限目 授業ガイダンス 母性看護の理念、母性看護における倫理、安全管理 【事前課題】 シラバスに目を通しておく。 【グループワーク】 女性の生涯と母性について考える。 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第2回	2025年4月17日（木） 3限目 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス、ヘルスプロモーション 【事前課題】 教科書に目を通しておく。 【グループワーク】 看護の視点から経口中絶薬について考える。 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第3回	2025年4月24日（木） 3限目 親になることと、家族の発達について考える 【事前課題】 教科書に目を通しておく。 【グループワーク】 親となることについて考える 【ミニッツレポート】	講義	木村
第4回	2025年5月1日（木） 3限目 母性の対象理解① 身体的特性 【事前課題】 教科書に目を通しておく。 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第5回	2025年5月8日（木） 3限目 母性の対象理解② ライフサイクル、母性の発達・成熟・伝承 【事前課題】 育児支援対策に関するニュースを調べておく。 【グループワーク】 性別役割分業と、育児支援対策について 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第6回	2025年5月15日（木） 3限目 母性看護の歴史的変遷と現状・母性看護の対象を取り巻く環境 【事前課題】 教科書に目を通しておく。 【グループワーク】 少子化による社会問題と、出産の意思決定について 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第7回	2025年5月22日（木） 3限目	講義	五十嵐

	母子保健統計 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【ミニッツレポート】		
第8回	2025年5月29日（木） 3限目 ライフサイクル各期における母性看護① 思春期 成熟期 【事前課題】教科書に目を通しておく。これまでに受けた性教育について、思い出し、まとめておく。 【グループワーク】自分がこれまでに受けた性教育について 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第9回	2025年6月5日（木） 3限目 思春期教育の実際 ゲストスピーカーによる講義 【ミニッツレポート】	講義	中村 五十嵐
第10回	2025年6月12日（木） 3限目 ライフサイクル各期における母性看護② 更年期 老年期 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【グループワーク】更年期障害のある女性へのサポートを考える。 【ミニッツレポート】	講義	木村
第11回	2025年6月19日（木） 3限目 リプロダクティブ・ヘルスケア：性感染・HIV・喫煙 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【グループワーク】性感染症広げないためにどうすればよいか 【ミニッツレポート】	講義	木村
第12回	2025年6月26日（木） 3限目 リプロダクティブ・ヘルスケア：家族計画・人工妊娠中絶症 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【演習】家族計画の健康教育 【ミニッツレポート】	講義	木村
第13回	2025年7月3日（木） 3限目 母性看護学の看護過程、情報収集、アセスメント 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
第14回	2025年7月10日（木） 4限目 リプロダクティブ・ヘルスケア：DV・児童虐待・国際社会の母子保健 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【演習】アンガーマネジメント 【ミニッツレポート】	講義	木村
第15回	2025年7月17日（木） 3限目 アドボカシーと意思決定を支える技術、保健指導 【事前課題】教科書に目を通しておく。 【ミニッツレポート】	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：教科書の、各回の講義テーマに該当する部分を読んでおく。 事後学習：ミニッツレポートの提出をする。講義内容をまとめ、復習する。		
テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論，医学書院		
参考書	母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護，メヂカルフレンド社 国民衛生の動向、厚生統計協会		
学生へのメッセージ等	講義を通して、自分の価値観・考えについて振り返る機会になると思います。 自ら考える姿勢で取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
乾 つぶら			
添付ファイル			

全担当教員	乾 つぶら／上田 佳世		
概要	リプロダクティブヘルス・ライツの視点から生み育てる女性の健康支援における基礎的能力を養い、母性看護の対象者について理解する。それとともに、看護を通して周産期における女性の健康が子どもの健康へ受け継がれていくときの支援の在り方や母性看護の特性や役割を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □妊娠の生理、胎児の発育と生理、妊娠による身体的な特徴や生理的变化、妊娠の心理・社会的変化、妊婦を取り巻く社会、妊婦と家族の新しい役割獲得について理解し、説明できる。 □分娩の要素や機序より分娩経過に伴う身体的な変化や心理・社会的な変化を理解し、説明できる。 □女性と子どもを支えるための国の関係法規、国や地域での母子保健や健康支援の現状を通して母性看護の役割や課題について理解し、説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □妊娠経過による影響をふまえ、妊婦や胎児の健康状態のアセスメントと必要な支援を理解し、説明できる。 □妊婦やパートナーの親役割やその家族の新しい役割を獲得する準備と胎児への愛着形成とその支援を理解し、説明できる。 □分娩の生理的な正常の進行と正常から逸脱（ハイリスク）、母児の健康状態や産婦や家族の心理・社会的な問題とそれに必要な支援を理解し、説明できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■ 小テスト3回 40% 《3.4》 ■ 定期試験 50% 《3.4》 ■ 課題レポート（演習の課題とレポート）10% 《3.4》 レポートの提出期日や方法は授業中に提示します。 小テストでは、知識を整理し次のステップに進めるチャンスですので追再試は実施しません。体調管理をして授業に臨んでください。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 授業ガイダンス 子どもを産み育てることと母性看護 妊娠の定義 妊娠の生理	講義	上田 乾
	第2回 胎児の発育とその生理 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 次回の演習の説明	講義	上田
	第3回 妊婦健康診査、妊婦体験、妊婦体操の技術演習 【事前課題レポート】 配点 5点 配布する演習のレポートに記載されている、妊娠期の健康診査の目的、婦健康診査の注意点、レオポルド触診法、超音波ドップラーやトラウベを用いた胎児心音の聴取方法、子宮・腹囲の測定方法と手順、妊婦の姿勢、妊娠期の運動効果について調べて記入し、演習の授業に参加する。 【事後課題レポート】 配点 5点 妊婦が日常生活を過ごす上で必要な支援について自分の考えをまとめて述べる。	演習	上田 乾
	第4回 妊娠期の心理・社会的特性 妊婦と家族の看護（妊婦の日常生活への健康教育）	講義	上田
	第5回 妊婦と家族の看護（妊婦の日常生活への健康教育、母子保健、	講義	上田

	関係法規、親になるための準備教育)		
	第6回 ハイリスク妊娠とその看護 小テスト 【小テスト】 配点 15点 これまでの講義した、妊娠の定義、妊娠の生理、胎児の発育とその生理 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント、妊婦と家族の看護の範囲から出題する。	講義	上田
	第7回 胎児心拍モニタリング 妊娠期 まとめ	講義	上田
	第8回 分娩の要素 小テスト 【小テスト】 配点 10点 胎児心拍モニタリングの範囲から出題する。	講義	乾
	第9回 分娩の経過	講義	乾
	第10回 産婦の心理・社会的変化	講義	乾
	第11回 分娩期の産婦・胎児、家族のアセスメントと看護1 小テスト 【小テスト】 配点 15点 分娩の要素、分娩の経過、産婦の心理・社会的変化の範囲から出題する。	講義	
	第12回 分娩期の産婦・胎児、家族のアセスメントと看護2	講義	乾
	第13回 ハイリスク分娩と看護	講義	乾
	第14回 地域母子保健の実際 ～妊娠届けの把握、出産準備教室、家庭訪問支援～	講義	ゲストスピーカー 助産師 菊地先生
	第15回 全体のまとめ 子どもを産み育てること 看護職に求められる支援と次世代育成	講義	乾
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：事前に、授業で学習する教科書の該当箇所を読む。 事後学修：授業中に提示した課題に取り組む。講義資料や教科書の該当箇所を再度読み直し、自分の言葉で説明できるといい。		
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 病気がみえる Vol.10 産科 医療情報科学研究所(編) メディックメディア		
参考書	ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 太田操編著 医歯薬出版株式会社 第4版		
学生へのメッセージ等	女性やその家族にとって、看護師、助産師、保健師の支援は新たないのちを育んでいく上でとても重要な役割を担っています。 この講義や演習を通して、新たないのちを授かり子どもを生み育てるとはどういうことか、どんな支援が必要か、そこで自分ができることとは何かを学びつかんでもらい、専門職として自信と誇りをもった人になる機会になればと願っております。 ※授業テーマや小テストの日程は、授業形態及び進捗状況により変更することがあります。		

講義科目名称： 精神看護学概論

授業コード： K080650

英文科目名称： Introduction to Psychiatric and mental health
Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
奥田 淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田 淳		
概要	あらゆる発達段階・健康段階にある人々の精神の健康問題を理解し、人間関係をベースとする理論を学ぶ。また、精神医療の変遷とともに精神障害者に対する社会の変化や法律、社会資源について理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 精神看護の対象となる人と健康を包括的に理解できるアセスメント方法を活用できる。 ☐ 精神に障害がある人を取り巻く環境について、国内外の精神保健医療福祉における治療や支援、社会的問題、法律の歴史、動向から理解できる。 ☐ 精神医療福祉に関わる様々な職種や看護師の役割について理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験：40%《3》 ■小テスト（1回）：10%《3》 ■レポート（3回）：30%《3》 ■事前課題（1回）：10%《3》 ■グループワークと発表への参加状況・態度：10%《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月14日（月） 精神看護とは 精神医療・看護における課題や精神看護における役割の理解 ・精神医療の課題 ・精神科医療のニーズ ・入院と地域における支援 ・精神看護師の役割 ・精神の健康とは	講義	奥田
	第2回 2025年4月21日（月） ライフサイクルとこころの健康(1)（心の構造と機能） 心の構造と機能の理解 ・心の仕組みと人格の発達 ・自我の構造とはたらき ・自我機能と防衛機制	講義	奥田
	第3回 2025年4月28日（月） ライフサイクルとこころの健康(2)（心の健康に関するストレスと危機） 心の健康に関するストレスと危機の理解 ・ストレスとは ・精神疾患とストレスの関係 ・精神保健における危機とは ・ストレスや危機への予防 ・ストレスや危機への対処	講義	奥田
	第4回 2025年4月30日（水） ライフサイクルとこころの健康(3)（ライフサイクルにおける心の発達と危機） ライフサイクルにおける心の発達と危機の理解 ・対象関係論 ・愛着理論 ・発達理論（発達課題と危機）	講義	奥田
	第5回 2025年5月12日（月） 精神医療・看護の歴史と現状	講義	奥田

	精神医療・看護の歴史と現状の理解 ・海外における精神医療・看護の歴史 ・日本における精神医療・看護の歴史 ・現在の精神医療と看護		
第6回	2025年5月19日（月） 精神保健福祉活動の実際(1)（精神保健福祉に関する法律） 精神保健福祉に関する法律の理解 ・精神保健福祉法 ・障害者総合支援法 ・生活保護法	講義	奥田
第7回	2025年5月26日（月） 精神保健福祉活動の実際(2) 精神保健福祉士との協働 精神保健福祉士との協働の理解 ・精神保健福祉士の役割 ・精神保健福祉士から見たチーム医療と多職種連携の実際 【レポート課題①】授業終了後、以下の内容を記載 ・レポートテーマ：講義を受けての学びと感想 ・字数：500文字	講義	ゲストスピーカー
第8回	2025年6月2日（月） 精神看護学で活用する患者-看護師関係の発展モデル 精神看護学で活用する患者-看護師関係の発展モデルの理解 ・Peplau, H, E（ペプロウ）の理論 ・Orland, I, J（オーランド）の理論 ・Travelbee, J（トラベルビー）の理論 ・Wiedenbach, H（ウィーデンバック）の理論	講義	奥田
第9回	2025年6月9日（月） 精神保健福祉活動の実際(3)（リエゾン精神看護、様々な職種の役割、多職種連携） 【小テスト】 精神保健福祉活動に関わる様々な職種や多職種連携の理解 ・リエゾン精神看護（専門看護師） ・精神保健に携わる様々な職種 ・精神保健における多職種連携	講義	奥田
第10回	2025年6月16日（月） 精神保健福祉活動の実際(4) 精神科訪問看護の実際 地域における 精神看護・精神保健の理解 ・精神科訪問看護における主要な概念 ・精神科訪問看護師の役割 【レポート課題②】授業終了後、以下の内容を記載 ・レポートテーマ：講義を受けての学びと感想 ・字数：500文字	講義	ゲストスピーカー
第11回	2025年6月23日（月） 関係の中の人間（家族と精神の健康） 関係の中の人間（家族と精神の健康）の理解 ・家族なコミュニケーションのゆがみ ・システムとしての家族 ・精神の障害をもつ人の家族への支援	講義	奥田
第12回	2025年6月30日（月） 司法精神医療と看護の実際（諸外国および我が国の司法精神医療と看護） 司法精神医療と看護の実際（諸外国および我が国の司法精神医療と看護）の理解 ・諸外国における司法精神医療と看護 ・日本における司法精神医療と看護	講義	奥田
第13回	2025年7月7日（月） 精神保健福祉活動の実際(4)（回復への支援、リカバリーとストレングスモデル） 精神保健福祉活動の実際（回復への支援、リカバリーとストレングスモデル）の理解 ・精神の障害のある人への回復への支援の考え方 ・リカバリー ・ストレングスモデル	講義	ゲストスピーカー
第14回	2025年7月14日（月） ヤングケアラー問題と支援 -精神疾患の親をもつ子どもの理解- ヤングケアラー問題と支援の理解 ・ヤングケアラーとは ・精神疾患の親をもつ子どもの経験 ・精神疾患の親をもつ子どもへの支援 【レポート課題③】授業終了後、以下の内容を記載 ・レポートテーマ：講義を受けての学びと感想 ・字数：500文字	講義	奥田

	第15回 2025年7月22日（火） 精神に障害がある人を包括的に理解するための方法についての検討【グループワーク】 【事前課題】 以下の項目について対象理解のためにどのように活用できるかを文献等から調べA4用紙1枚にまとめる ・心の機能、発達 ・ストレスと危機 ・人間関係発展のための各理論 ・地域支援の中心となる概念（リカバリー、ストレングス） ・家族関係と精神の健康 ・多職種連携 【グループワーク：事前学習内容の共有（30分）】 *個人で調べてきた内容について、各々発表してグループメンバーと共有する。 【全体発表会（60分）】 *グループ内で検討した内容を発表する 【事前課題の提出】 ・講義終了時に提出する	演習	奥田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマにそって教科書を読み、知識を深める。 事後学習：学習した内容をふまえた課題についてのレポートをまとめて、期間内に提出する。		
テキスト	1) 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子 他 医学書院 2) 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 武井麻子 他 医学書院		
参考書	1) 精神看護と法・倫理 坂田三允編 中山書店 2) ケースを通してやさしく学ぶ 看護理論 黒田裕子監修 改訂4版 日総研出版 3) 医療福祉総合ガイドブック2020年度版 NP0法人 日本医療ソーシャルワーク研究会 4) 服部祥子著「生涯発達人間論－人間への深い理解と愛情を育むために」．第2版．医学書院 5) 萱間真美「リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術」．医学書院 6) チャールズ・A・ラップ/リチャード・J・ゴスチャ著，田中英樹監訳「ストレングスモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス 第3版」．金剛出版		
学生へのメッセージ等	日々の生活の中でこころの健康や精神障害、精神疾患をキーワードとしてニュースや新聞・雑誌記事、本を読み、映画ドキュメント番組などを観て見聞を広めてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	必修
担当教員			
橋本 颯子			
添付ファイル			

全担当教員	橋本 颯子		
概要	精神疾患を有する人の看護について精神機能と心理状態を理解し、また、環境調整や援助による回復過程を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 人間が生きるうえでの精神機能や患者役割による影響を生涯にわたる観点から説明できる。 ☐ 主な精神疾患を理解したうえで、薬物療法における作用と副作用、検査の根拠について説明できる。 ☐ 精神療法およびリハビリテーション療法のうち、作業療法や音楽療法など心理社会的介入について説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 精神疾患の経験がもたらす影響を考察し、回復に向けた社会的援助について説明できる。 ☐ 精神疾患を有する人を生物学的・心理学的・社会的側面から包括的にアセスメントし、そのセルフケアについて説明できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■ 小テスト 2回(40%) 《3,4》 ■ レポート 3回(35%) 《3,4》 ■ ミニッツレポート15回(15%) 《3,4》 ■ 授業中の課題6回(10%) 《3,4》 ミニッツレポートや授業中の課題は授業を受けて授業時間内に提出するようにしてください。 授業中の課題は授業中に授業内容に即した課題を提示します。 小テストの追再試は実施しません。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月24日（水） ガイダンス 精神看護の対象 ・精神疾患における経過 ・精神看護における援助の特徴	講義	橋本
	第2回 2025年10月1日（水） 精神看護における援助の基礎① 安心感の探索 ・こころの働きと援助関係 ・信頼関係の構築 ・プロセス・レコードの活用 【事前課題】 精神看護の展開（医学書院）の第8章の「関係をアセスメントする」「患者－看護師関係における感情体験」を読み、プロセス・レコードに取り上げる場面を考える。 【レポート課題①】配点10点 ・基礎看護学実習のある場面を指定された用紙に記載する。 ・提出期限：翌週の月曜日16:00（指定された場所）	講義・演習	橋本
	第3回 2025年10月8日（水） 精神看護における援助の基礎② セルフケアのアセスメント ・セルフケアモデル ・精神症状による認知モデルへの影響 【授業中の課題】	講義・演習	橋本
	第4回 2025年10月15日（水） 援助者のエンパワメント ・家族支援 ・エンパワメント	講義	橋本
	第5回 2025年10月22日（水） 精神疾患の回復への アプローチ① 生活支援 ・地域で精神疾患を有する人を支援する ・幻聴妄想かるた大会（幻覚や妄想がある当事者の体験） 【事前課題】	講義	新澤克憲先生と ハーモニーの当事者

	精神看護の展開（医学書院）の第10章の「地域における生活支援の方法」を読み、身近にある精神障害を有する人を支援する施設について調べる。 【レポート課題②】配点10点：授業終了後 以下の内容を記載 ・印象に残ったかたを1つ選び、選んだ理由とその精神症状を含めて説明する。 ・当事者の生涯から生きにくさや日々の暮らしの楽しみについて述べる。 ・当事者の地域生活を支援するために、看護師として何を期待されているかについて述べる。 ・文字数：800字以上 ・提出期限：翌週の月曜日16:00（教務システム）		
第6回	2025年10月29日（水） 精神看護の方法① 治療への動機づけ ・ストレングスのアセスメント ・強みと希望のアセスメント 【授業中の課題】	講義・演習	橋本
第7回	2025年11月5日（水） 精神看護の方法② 集団療法 ・集団が持つ意味 ・集団療法の種類（SSTなど） 【小テスト】配点20点：6回の授業の範囲。	講義・演習	橋本
第8回	2025年11月12日（水） 精神疾患と精神症状への援助① 気分障害 ・気分につきあうこと ・活動と休息のバランス ・抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬 【授業中の課題】	講義	橋本
第9回	2025年11月19日（水） 精神疾患と精神症状への援助② 統合失調症 ・生きがいと自己・他者への信頼 ・抗精神病薬 【授業中の課題】	講義	橋本
第10回	2025年11月26日（水） 精神疾患の回復へのアプローチ③ 音楽療法～音を紡ぐコミュニケーション～ ・音が持つ意味 ・非言語的コミュニケーションの体験	講義・演習	音楽療法士 石原興子先生
第11回	2025年12月3日（水） 精神疾患を有する人の情報収集 ・生物学的・心理学的・社会的側面の情報収集 ・セルフケアの情報収集 【レポート課題③】配点15点 ・基礎看護学実習の一場面を指定された用紙に記載する。 ・提出期限（指定された場所） 1回目 翌週の月曜日16:00 2回目 翌々週の月曜日16:00	講義・演習	橋本
第12回	2025年12月10日（水） 精神疾患の回復へのアプローチ② 作業療法 ・作業やレクリエーションの意味 ・生活における作業のアセスメント	講義・演習	作業療法士
第13回	2025年12月17日（水） 精神疾患を有する人の情報の分析と解釈 ・生物学的・心理学的・社会的側面の情報の統合 ・全体アセスメントと焦点化	講義・演習	橋本
第14回	2026年1月7日（水） 精神疾患と精神症状への援助③ 依存と摂食障害 ・コーピングによる影響 ・治療や行動変容への動機付け ・セルフヘルプ 【授業中の課題】	講義	橋本
第15回	2026年1月14日（水） 学習内容の整理 地域で生活を支援すること ・精神疾患を有する人が地域で生活する上で困ることとその支援 【小テスト】配点20点：15回の授業の範囲。 【事前課題】 精神看護の展開（医学書院）の第10章の「地域における生活支援の方法」を読む。 【授業中の課題】配点5点 以下の内容を記載 ・当事者は地域で生活する上でどのような活動が制限され、どのような悩みや困りごとがあるのか。 ・当事者に対して、どのように看護していきたいか？	講義	橋本

授業外学修（事前学修・事後学修）	● 事前学修：事前に、各回の授業内容について、テキストを読む。 ● 事後学修：授業資料やテキストの該当箇所を読み返し、自分の言葉で説明できるようにする。授業中に提示した課題に取り組む。
テキスト	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎（武井麻子他編著、医学書院） 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開（武井麻子他編著、医学書院）
参考書	1) 生涯発達人間論－人間への深い理解と愛情を育むために 第3版（服部祥子著、医学書院） 2) マンガでわかる！統合失調症 家族の対応編（中村ユキ著・高森信子監修、日本評論社） 3) ストレングスからみた精神看護過程＋全体関連図、ストレングス・マッピングシート（萱間真美編、医学書院） 4) 生きづらさをひも解く 私たちの精神疾患（YPS横浜ピアスタッフ協会等編、NPOコンボ）
学生へのメッセージ等	精神疾患を有する人の生活やその支援について、一緒に学んでいきましょう。 授業日程は変更の可能性がありますので、授業中にお知らせしますが、授業カレンダーを確認するようにしましょう。

講義科目名称： 家族看護学

授業コード： K12088B

英文科目名称： Family Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ／粕井 みづほ／藤野 崇		
概要	家族という集団を一つの単位としてとらえ、その集団に備わっている能力や機能が発揮できるよう支援するために家族成員の心理的側面、ライフサイクルさらに家族看護に関する諸理論を学ぶ。そのことで家族を統合的にとらえ支援方法、看護職の在り方を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ー 2 創造性、探究力、国際的視野 ー 3 知識、批判的思考力 ☐ 現代の家族の特徴を理解し、家族の課題・問題が考察できる。 ☐ 健康問題を有する家族成員を含めた家族全体をケアの対象と位置づけ、家族の生活を考慮し課題・問題の解決方法がアセスメントできる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 課題・問題を有する家族への援助について、家族が持つ力に注目し計画立案できる。 ☐ 健康状態や発達段階により異なる課題・問題を有する家族の援助方法が説明できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 家族を援助するためのコミュニケーションの重要性とアプローチのポイントについて理解できる。 ☐ 家族を援助するための社会資源の活用や保健医療チームとの連携について理解できる。		
評価方法	■課題レポート 授業1～4回分《3》30%、授業5～15回分（看護過程の展開） 《3, 4, 5》30% ■定期試験 40%《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 家族心理学での家族 1. 家族の捉え方 2. 家族ライフサイクル	講義	粕井
	第2回 家族ライフサイクルと現代の家族 1. 乳幼児期の家族	講義	粕井
	第3回 家族ライフサイクルと現代の家族 2. 児童期の家族 3. 青年期の家族	講義	粕井
	第4回 家族ライフサイクルと現代の家族 4. 中年期の家族 5. 老年期の家族 レポート課題の提示 提出期限は別途伝える	講義	粕井
	第5回 家族看護学とは何か 看護学における家族の理解 家族を看護することについて、実習を振り返り検討する	講義・グループワーク	川上
	第6回 家族を理解するための理論 家族という集団の特徴、理論を活用した家族のとらえ方	講義	川上
	第7回 家族アセスメントモデル 健康問題を有する家族員を含めた家族全体をケアするためのアセスメントモデル	講義	川上
	第8回 事例による家族看護過程：情報収集 家族の病気体験の理解（家族看護エンパワーメントモデル）	講義・演習	川上
	第9回 事例による家族看護過程 アセスメント（家族看護エンパワーメントモデル）	講義・演習	川上
	第10回	講義・演習	川上

	事例による家族看護過程 アセスメント（家族看護エンパワーメントモデル）		
	第11回 事例による家族看護過程 家族像の形成（家族看護エンパワーメントモデル）	講義・演習	川上
	第12回 事例による家族看護過程 介入方法の検討（家族看護エンパワーメントモデル）	講義・演習	川上
	第13回 家族看護方法、家族看護における看護者の基本姿勢 家族看護の実践者がもっておくべき実践的な知識	講義	家族看護専門看護師（藤野）
	第14回 家族看護専門看護師の実践 家族支援専門看護師の役割（実践・相談・調整・倫理調整など）	講義	家族看護専門看護師（藤野）
	第15回 家族看護学の研究論文から家族看護の特徴を考える まとめ	グループワーク 発表	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、授業内容に該当するテキストや参考図書の範囲を読み、内容を把握しておく。 事後学修として、授業の資料やテキスト等を用いて授業内容を整理し理解を深める。課題レポートをまとめる。 具体的に事前学修・事後学修内容が示された場合は、その内容を学修する。		
テキスト	中野綾美・瓜生浩子編著：家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア メディカ出版 1～4回については、適宜配布する。		
参考書	鈴木和子・渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践第5版 日本看護協会出版会 粕井みづほ・青野明子著：発達と家族の心理 久美出版 岡堂哲雄著：家族心理学入門 陪風館 上別府圭子著：家族看護学 系統看護学講座別巻 医学書院		
学生へのメッセージ等	家族の在り方も多様化しています。家族を支援の対象として位置づけ関心をもち看護の視点を拡げていきましょう。		

講義科目名称： 公衆衛生看護学概論

授業コード： K120730

英文科目名称： Introduction to Public Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年	2	必修
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美		
概要	公衆衛生看護学の理念、目標・活動の場・対象を理解し、公衆衛生看護活動の基盤となる概念・理論を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ ヘルスプロモーションの理念に基づき住民が自ら健康を目指す行動を支援する方法が理解できる。 ☐ 一次予防を重視した保健活動の重要性が理解できる。 ☐ コミュニティアズパートナーモデルを用いて地域特性と住民の健康課題をアセスメントできる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■ 定期試験（80％）《3》 ■ ミニツツレポート（20％）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月11日（金） 公衆衛生看護の基本理念	講義	坂東
	第2回 2025年4月18日（金） 公衆衛生看護の対象	講義	坂東
	第3回 2025年4月25日（金） 保健師の主な所属機関①	講義	坂東
	第4回 2025年5月2日（金） 保健師の主な所属機関②	講義	坂東
	第5回 2025年5月9日（金） 社会環境と健康課題①	講義	坂東
	第6回 2025年5月16日（金） 社会環境と健康課題②	講義	坂東
	第7回 2025年5月23日（金） 公衆衛生看護活動の展開①	講義	坂東
	第8回 2025年5月30日（金） 公衆衛生看護活動の展開②	講義	坂東
	第9回 2025年6月6日（金） 公衆衛生看護活動の展開③	講義	坂東
	第10回 2025年6月13日（金） 公衆衛生看護活動の展開④	講義	坂東
	第11回 2025年6月20日（金） 公衆衛生看護活動に関する法令	講義	坂東

	第12回	2025年6月27日（金） 公衆衛生看護の歴史①	講義	坂東
	第13回	2025年7月4日（金） 公衆衛生看護の歴史②	講義	坂東
	第14回	2025年7月11日（金） 公衆衛生看護活動と予防活動	講義	坂東
	第15回	2025年7月18日（金） まとめ	講義	坂東
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理をしておく。			
テキスト	1 標準保健師講座①：地域看護学概論：医学書院			
参考書	1 国民衛生の動向：厚生統計協会			
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学概論では、個人・家族・集団・地域・社会における予防ならびに健康増進に働きかける公衆衛生看護活動について一緒に学びましょう。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
啜 素代			
添付ファイル			

全担当教員	啜 素代／仲川 洋介		
概要	公衆衛生看護活動の対象となる人々の生活や健康課題、支援の特徴について理解し、施策および地域の社会資源を活用しながら人々が主体的に課題を解決できるような看護活動を考える。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 対象となる人々の生活、健康課題、支援の特徴について理解できる。 ☐ 対象となる人々に応じた施策、地域の社会資源について理解できる。 ☐ 対象となる人々が主体的に課題を解決できるような看護活動を考えることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験（70%）《3》 ■授業内で実施する小レポート、小テスト（30%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月14日（月） 対象別公衆衛生看護活動の理念 母子保健活動・女性の健康支援1 母子保健医療福祉の動向(1)	講義	啜
	第2回 2025年4月18日（金） 歯科保健1 歯と口の解剖学、日本の歯科医療の概要など	講義	仲川
	第3回 2025年4月21日（月） 母子保健活動・女性の健康支援2 母子保健医療福祉の動向(2) 母子および親子の健康課題と支援(1)	講義	啜
	第4回 2025年4月28日（月） 母子保健活動・女性の健康支援3 母子および親子の健康課題と支援(2) 子どもの健康課題と支援(1)	講義	啜
	第5回 2025年5月2日（金） 歯科保健2 歯科・口腔外科学領域の疾患、周術期口腔機能管理など	講義	仲川
	第6回 2025年5月12日（月） 母子保健活動・女性の健康支援4 子どもの健康課題と支援(2) 女性のライフサイクル各期の健康課題と支援	講義	啜
	第7回 2025年5月19日（月） 母子保健活動・女性の健康支援5 支援のニーズが高い対象と家族の健康課題と支援 虐待防止における保健師の役割と支援	講義	啜
	第8回 2025年5月26日（月） 成人保健活動・生活習慣病対策1 成人保健医療福祉の動向	講義	啜
	第9回 2025年6月2日（月） 成人保健活動・生活習慣病対策2 成人保健における健康課題と支援	講義	啜
	第10回 2025年6月9日（月）	講義	啜

	成人保健活動・生活習慣病対策 3 生活習慣病やがんへの予防と支援		
	第11回 2025年6月16日（月） 感染症の保健活動 1 感染症対策の動向 疾病管理と平常時・発生時の対応 予防接種	講義	睨
	第12回 2025年6月23日（月） 感染症の保健活動 2 感染症の予防と感染症に罹患した人々や接触者の健康への支援	講義	睨
	第13回 2025年6月30日（月） 難病保健医療福祉活動 難病に関する保健医療福祉の動向 難病患者の健康課題と支援	講義	睨
	第14回 2025年7月7日（月） 精神保健医療福祉活動 1 精神保健医療福祉の動向 精神保健における健康課題と支援	講義	睨
	第15回 2025年7月14日（月） 精神保健医療福祉活動 2 地域に暮らす精神疾患をもつ人々への支援 心の健康づくりの課題と支援	講義	睨
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業内容に沿ってテキストの該当箇所を確認し、概要を把握しておく。 事後学修：各回の授業で伝える重要ポイントを復習し、授業内容を整理しておく。		
テキスト	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
学生へのメッセージ等	必修科目です。看護職として求められる公衆衛生看護の知識を修得しながら、対象に応じた看護活動を考えしていきます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	2	選択
担当教員			
啜 素代			
添付ファイル			

全担当教員	啜 素代／近藤 いずみ		
概要	対象別の公衆衛生看護活動の特徴を理解し、本人およびその家族が主体的に問題解決できるような支援方法、支援内容を検討する。また、事例検討を通じて地域包括ケアシステムの構築について理解を深める。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □対象別（母子・成人・精神・難病・感染症）の公衆衛生看護活動の特徴を理解し、本人およびその家族が主体的に問題解決できるような支援方法、支援内容を検討することができる。 □事例検討を通じて、地域包括ケアシステムの構築について理解を深めることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	評価方法：定期試験（85%）と授業内で実施する小レポート（15%） 評価基準：定期試験は講義内容に関する理解度をはかる 小レポートは各テーマに対する思考が記述されているかをみる 再試験は行わない方針である。 ■ 定期試験（85%）《3》 ■ レポート（15%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年9月19日（金） 1限目 公衆衛生看護活動における支援の特性	講義	啜
	第2回 2025年9月26日（金） 1限目 地域における母子への支援① 地域で暮らす子どもとその家族への支援：事例提供・グループワーク	演習	啜／近藤
	第3回 2025年10月3日（金） 1限目 地域における母子への支援② 地域で暮らす子どもとその家族への支援：発表・まとめ	演習	啜／近藤
	第4回 2025年10月10日（金） 1限目 地域における母子への支援③ リスクのある母子への対応：事例提供・グループワーク	演習	啜／近藤
	第5回 2025年10月17日（金） 1限目 地域における母子への支援④ リスクのある母子への対応：発表・まとめ	演習	啜／近藤
	第6回 2025年10月24日（金） 1限目 地域における成人への支援① 事例提供・グループワーク	演習	啜／近藤
	第7回 2025年10月31日（金） 1限目（仮） 地域における成人への支援② ゲストスピーカーによる講話	講義	啜/ゲストスピーカー
	第8回 2025年11月7日（金） 1限目 難病患者とその家族への支援① 事例提供・グループワーク	演習	啜／近藤
	第9回 2025年11月14日（金） 1限目 難病患者とその家族への支援② 発表・まとめ	演習	啜／近藤
	第10回 2025年11月21日（金） 1限目（仮）	講義	啜/ゲストスピーカー

	難病患者とその家族への支援③ ゲストスピーカーによる講話		
	第11回 2025年11月28日（金） 1限目 地域における精神疾患患者への支援① 事例提供・グループワーク	演習	嘸／近藤
	第12回 2025年12月5日（金） 1限目 地域における精神疾患患者への支援② 発表・まとめ	演習	嘸／近藤
	第13回 2025年12月12日（金） 1限目 地域における感染症保健活動① 結核患者への対応：結核に関する知識の確認・事例提供	演習	嘸／近藤
	第14回 2025年12月19日（金） 1限目 地域における感染症保健活動② グループワーク・発表・まとめ	演習	嘸／近藤
	第15回 2026年1月9日（金） 1限目（仮） 地域における感染症保健活動③ ゲストスピーカーによる講話	講義	嘸/ゲストスピー カー
授業外学修（事前 学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそってテキストの該当箇所を確認し、自ら概要を把握しておく 事後学修：各回の講義から配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく		
テキスト	・ 準保健師講座③対象別公衆衛生看護活動 ・ 標準保健師講座②公衆衛生看護技術	医学書院 医学書院	
参考書	・ 国民衛生の動向 ・ 公衆衛生がみえる	厚生労働統計協会 MEDIC MEDIA	
学生へのメッセー ジ等	保健師課程選択科目です。保健師課程の履修を希望する学生は必ず履修してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年	1	選択
担当教員			
城島 哲子			
添付ファイル			

全担当教員	城島 哲子		
概要	公衆衛生看護における地域組織と様々なグループを育成する保健師の役割を学ぶとともに、組織・グループと協働して行う地域づくり活動を学びます。小グループ体験から、傾聴・共感するコミュニケーションを実践し自己理解を深めます。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 地域組織・住民グループ・自助グループそれぞれの特性を理解し、支援方法・評価方法が理解できる。 ☐ 小グループ体験（現象）をグループ理論・概念に照らして統合したレポートが記述できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 小グループ体験を通して、自己開示と他者へのフィードバックの重要性をレポートに記述できる。		
評価方法	1. 出席カードとアーリーバードで出欠を確認する。 2. 4回の講義内容について、定期試験を実施する。 3. 4回の小グループからの学びは、課題レポートを提出する。 4. 定期試験とレポートの合計点で成績を評価し、再試験は実施しない。 ■ 定期試験 (50%) 《3》 ■ レポートと観察 (50%) 《3, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 講義1 公衆衛生看護における地域組織活動の位置づけと概念	講義	城島
	第2回 講義2 健康増進と地域づくりをめざしたグループ活動	講義	城島
	第3回 講義3 患者会・当事者によるセルフヘルプグループ	講義	城島
	第4回 講義4 地域ケアシステムづくりとネットワーク化／小グループの進め方	講義	城島
	第5回 小グループ1 グループへのコメント	グループワーク	城島
	第6回 小グループ2 グループへのコメント	グループワーク	城島
	第7回 小グループ3 グループへのコメント	グループワーク	城島
	第8回 小グループ4 グループへのコメント	グループワーク	城島
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：①各回の講義内容について指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 ②小グループには自分を語り、人の話を聴ける心のゆとりをもって参加する。 事後学修：①各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理をしておく。 ②毎回の小グループ終了後、グループ内で起こったことや自分の気持ちの変化について洞察を深め		

	る。
テキスト	標準保健師講座② 対象別地域看護技術 医学書院
参考書	講義中に紹介する。
学生へのメッセージ等	・保健師課程の希望者は必ず履修してください。 ・構成的エンカウンターグループの手法を用いた小グループを4回実施します。小グループでは自己開示と他者の意見から学び自分を成長させる対人援助の基本的姿勢が求められます。科目のねらいと目標を理解して受講してください。

5 3年次開講科目の授業内容

講義科目名称： 公衆衛生概論

授業コード： K090250

英文科目名称： Introduction to public health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	今村 知明/佐伯 圭吾/清水 多嘉子/久保 慎一郎/堀池 諒/坂東 春美		
概要	公衆衛生学の基本的な概念を獲得する。また、社会と看護・医学・医療との関わりを考える。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 公衆衛生の観点から、社会と看護・医学・医療とのかかわりを理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■定期試験（80%）《3》 ■授業参加度（20%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月11日（金） 保健師とは何か 母子保健	講義	坂東 春美
	第2回 2025年4月11日（金） 疫学とは何か	講義	佐伯 圭吾
	第3回 2025年4月18日（金） 公衆衛生とは何か 衛生行政とは	講義	今村 知明
	第4回 2025年4月25日（金） 高齢者保健と介護保険 生活習慣病	講義	坂東 春美
	第5回 2025年5月9日（金） 感染症 国際保健	講義	堀池 諒
	第6回 2025年5月16日（金） 看護行政①	講義	久保 慎一郎（厚生労働省）
	第7回 2025年5月23日（金） 看護行政②	講義	清水 多嘉子（がん研究会有明病院）
	第8回 2025年5月30日（金） 産業保健 学校保健 まとめ	講義	坂東 春美
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に「国民衛生の動向」など指定するテキストを精読すること		
テキスト	「国民衛生の動向（厚生労働統計協会編）」最新版は必須 「公衆衛生がみえる 2024-2025（メディックメディア）」 必要に応じて、テキストを指定する		
参考書	講義中に紹介する		

学生へのメッセージ等	講義中の私語厳禁 公衆衛生の必要性と重要性について理解してほしい
------------	-------------------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

全担当教員	周藤 俊治		
概要	統計学の基礎を理解することで、データの収集、分析、結果の解釈に必要とされる基礎知識を修得する		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □収集したデータの状況を目的に応じて可視化することができる □推測統計の基礎的な部分を説明することができる 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■提出課題30%《3》 ■期末試験70%《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 記述統計（1） 尺度とデータ形式、度数分布、ヒストグラム(教科書12章A1～5, 14章A1～2)	講義	周藤
	第2回 記述統計（2） 代表値、散布度、箱ひげ図(教科書12章D)	講義	周藤
	第3回 推測統計（1） 点推定（平均）(教科書13章B1)	講義	周藤
	第4回 推測統計（2） 点推定（分散）(教科書13章B1)	講義	周藤
	第5回 推測統計（3） 平均値の区間推定（1）（標準誤差）(教科書13章B1)	講義	周藤
	第6回 推測統計（4） 平均値の区間推定（2）（正規分布）(教科書12章C1, 13章B1)	講義	周藤
	第7回 推測統計（5） 平均値の区間推定（3）（t分布）(教科書12章C1, 13章B1)	講義	周藤
	第8回 まとめ	講義	周藤
授業外学修（事前学修・事後学修）	<事前学修> 事前に教科書および講義サイトを確認し、用語など不明なものをリストアップしておくこと 授業で使用する資料が指示されている場合、必要に応じてプリントアウトすること <事後学修> 例題や課題に関する不明点について調べて理解する、もしくは担当教員に相談し解決すること		
テキスト	教科書：看護学生のための疫学・保健統計（建帛社）（疫学，保健統計学Ⅱと同じテキストになります） 講義サイト： https://medbb.net/education/nmuhlthstat1_2025 授業で使用する資料は講義サイトより提供する		

参考書	
学生へのメッセージ等	1) 受講生の理解度や実態を考慮してシラバスを変更する場合がある。講義用Webサイトに変更内容を反映するので確認の事

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	選択
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

全担当教員	周藤 俊治		
概要	疫学分野において必要とされるデータの収集、分析、結果の解釈の流れを演習を通して理解する		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □データの収集、分析、結果の解釈まで一連の流れを演習を通して理解し実施することができる □仮説検定を行い結果の解釈をすることができる 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■期末試験 50% 《3》 ■提出課題 50% 《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 推測統計（6） 推定と検定(教科書13章B1～2, 13章C1～4)	講義・演習	周藤
	第2回 推測統計（7） 平均値の検定(教科書13章B5, 13章C4)	講義・演習	周藤
	第3回 推測統計（8） ノンパラメトリック検定(教科書13章B6, 13章C5)	講義・演習	周藤
	第4回 推測統計（9） 割合の検定(教科書13章B3～4, 13章C4)	講義・演習	周藤
	第5回 関連の指標 相関係数, 回帰分析(教科書13章A1～2)	講義・演習	周藤
	第6回 既存の統計資料の入手と活用（1） 厚生労働統計(教科書10章A2～5)	講義・演習	周藤
	第7回 既存の統計資料の入手と活用（2） 国勢調査, 学校保健統計調査, 社会生活基本調査(教科書10章A1, 6～7)	講義・演習	周藤
	第8回 まとめ	講義・演習	周藤
授業外学修（事前学修・事後学修）	<事前学修> 事前に教科書および講義サイトを確認し、用語など不明なものをリストアップしておくこと 授業で使用する資料が指示されている場合、必要に応じてプリントアウトすること <事後学修> 例題や課題に関する不明点について調べて理解する、もしくは担当教員に相談し解決すること		
テキスト	教科書：看護学生のための疫学・保健統計（建帛社）（疫学，保健統計学Ⅰと同じテキストになります） 講義サイト： https://medbb.net/education/nmuhlthstat2_2025 授業で使用する資料は講義サイトより提供する		

参考書	
学生へのメッセージ等	PCを用いてデータ取得および分析を行います。 1) 受講生の理解度や実態を考慮してシラバスを変更する場合がある。講義用Webサイトに変更内容を反映するので確認の事

講義科目名称： 医療安全

授業コード： K090860

英文科目名称： Medical Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

全担当教員	松田 明子／飛田 伊都子／徳谷 純子／高嶋愛理		
概要	医療を受ける人々または医療従事者によって、安全で質の高い医療を提供するための基礎的知識について知り、薬剤事故事例等の原因やその対策を検討する。個人学習やグループワークを通して、看護実践に活用出来る医療安全の視点を学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □医療における危険要因（医療側・状況・患者側）について捉え、安全管理および事故予防対策から検討し、看護師の役割について述べることができる。 □診療補助業務に関する事故について分析し、その対策について説明することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 医療安全の考えを理解し、チーム医療の一員として看護師の役割について述べることができる。		
評価方法	■3課題（50%）《3》 ■小テスト（40%）《3》 ■グループワーク・参加度（10%）《3, 5》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年5月29日（木） 医療安全を学ぶ意義/医療事故と看護業務 【事後学習】講義を振り返り、テキスト「人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義」について考える。	講義	松田
	第2回 2025年6月5日（木） 職業感染防止/感染防止の実際 【事前学習】 1年次に履修した感染予防技術に関する資料を再度読む。看護技術学のテキストの該当ページを読む。 【学習内容】 1)小テスト① 2)看護実践と感染予防の実際 【事後学習】 看護実践における感染予防技術について、本講義を通して再認識し、感染予防技術に留意する点について、日頃より意識して取り組む。	講義	徳谷 純子
	第3回 2025年6月12日（木） 医療事故と行動分析 【事前学習】 1)テキスト 序章「医療安全を学ぶ大切さ」を読む。 【事後学習】 1)講義の配布資料を再度読み、安全管理の視点になぜ行動分析が必要なのかを考える。	講義	飛田伊都子
	第4回 2025年6月19日（木） 診療補助業務における事故とその対策（酸素療法等） 【事前学習：課題①】 1)配布資料の事例1・2について診療補助業務における医師の指示工程について分析し、事故の原因となる看護行為を挙げ、その対策を考え記述する。 【学習内容】 1)グループワーク・一部発表 2)講義 【課題提出】1)授業の学びを記入し、事前課題を提出。 【事後学習】診療補助業務における医療事故の特性についてテキストで復習する。	講義・演習	松田

	第5回	2025年6月26日（木） リスクコミュニケーションと多職種連携 【事前学習】テキスト「医療安全とコミュニケーション」を読む 【講義内容】リスクコミュニケーションと多職種連携 【事後学習】講義時配布資料を振り返っておく。	講義・演習	高嶋愛理
	第6回	2025年7月3日（木） 対象者の薬剤管理：グループワーク 【事前学習】課題②に取り組む。 【学習内容】 1) グループワーク：課題②の共有・グループワーク 【提出】発表資料（グループ）	演習	松田
	第7回	2025年7月10日（木） 対象者の薬剤管理：グループ発表 【学習内容】 1) 小グループにて課題を共有 2) 講義 【事後学習】薬理学の知識と医療安全の考えを関連させて学習する視点を熟考する。	講義・演習	松田
	第8回	2025年7月17日（木） 診療補助業務における事故とその対策（誤薬） 【事前学習】テキスト「診療の補助の事故防止」を読む。薬剤に関する計算問題 【学習内容】小テスト②・診療補助業務における事故とその対策 【事後学習】該当箇所のテキストを復習する。 提出物：1回目の授業配布資料参照	講義・演習	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前・事後学修：各単元の目的に沿って学習する。各課題に沿って提示された内容を学習する。			
テキスト	・系統看護学講座：統合分野、医療安全、医学書院. ・1年次の看護学概論で使用したテキストおよび2年次の看護技術学ⅠⅡで使用したテキスト。			
参考書	講義時に紹介する。			
学生へのメッセージ等	ヒューマンエラー対策で最も重要なことは「自分を知る！」ことです。対象者への看護を行う際、行為の意味や行為の優先順位を考え、行動できるように常に意識しましょう。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2	必修
担当教員			
栗田 麻美			
添付ファイル			
在宅看護学援助論(2025) 授業外学修一覧 資料1.pdf			

全担当教員	栗田 麻美/羽場 香織/小竹 久実子/佐藤 郁代/久保田 千代美/朝倉 健太郎/松本 静香/高山 雅子
概要	健康上の課題を持ちながら地域で暮らす療養者と、その人を取りまく人々を理解し、その人らしく暮らし続けるための具体的な看護を学ぶ。
目標	1 倫理観、態度、意欲 Level A 目標 □1)療養者とその人を取りまく人々へ真摯に向き合う姿勢を示すことができる Level B 目標 □2)対象者へ看護を提供するにあたり、倫理的配慮の必要性和重要性に気づくことができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 Level B 目標 □4)対象者を全人的に捉え、看護過程を展開することができる。 3 知識、批判的思考力 Level A 目標 □3)対象者の理解や看護実践に必要な知識を調べ、説明することができる。 □5)対象者が望む自分らしい暮らしについて人生ストーリーを踏まえて捉えることができる。 □6)疾患や発達段階、病期等、対象者の特性とニーズを捉え、看護を考えることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 Level A 目標 □4)対象者を全人的に捉え、看護過程を展開することができる。 □10)在宅看護における援助的コミュニケーションの特徴を踏まえて、行動することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント Level A 目標 □10)在宅看護における援助的コミュニケーションの特徴を踏まえて、行動することができる。 Level B 目標 □8)対象者が在宅で自分らしく暮らしていくためのチームケアの実際が理解できる。 □11)対象者が自分らしく暮らしていくための地域包括ケアシステムを具体的に検討できる。 目標(目標ごとの詳細の到達レベル揭示) 1) 療養者とその人を取りまく人々へ真摯に向き合う姿勢を示すことができる。DP1A、DP3A、DP5A 2) 対象者へ看護を提供するにあたり、倫理的配慮の必要性和重要性に気づくことができる。DP1B、DP5B 3) 対象者の理解や看護実践に必要な知識を調べ、説明することができる。DP1B、DP2B、DP3A 4) 対象者を全人的に捉え、看護過程を展開することができる。DP1A、DP2B、DP3A、DP4A、DP5A 5) 対象者が望む自分らしい暮らしについて人生ストーリーを踏まえて捉えることができる。DP1A、DP3A、DP4A 6) 疾患や発達段階、病期等、対象者の特性とニーズを捉え、看護を考えることができる。DP1A、DP1B、DP3A、DP4A 7) 対象者の在宅生活を豊かにするために活用できる社会資源を理解できる。DP1A、DP3A、DP4A、DP5A 8) 対象者が在宅で自分らしく暮らしていくためのチームケアの実際が理解できる。DP1B、DP3B、DP4A、DP5B 9) 対象者に合わせた看護を実践し、リフレクションすることができる。DP1A、DP3A、DP4A 10) 在宅看護における援助的コミュニケーションの特徴を踏まえて、行動することができる。DP1A、DP3A、DP4A、DP5A 11) 対象者が自分らしく暮らしていくための地域包括ケアシステムを具体的に検討できる。DP1A、DP2B、DP3A、DP4A、DP5B 12) 在宅看護学実践に向けての自己の課題を明確化することができる。DP1A、DP2B、DP3A、DP4A、DP5A DP 1 倫理観、態度、意欲 2 創造性、探究力、国際的視野 3 知識、批判的思考力

	4 実践力、応用力、共感能力 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント A : Level A 100% B : Level B 80% C : Level C 60% D : Level C 30% 〈本授業で修得する能力〉 DP1A : 基盤となる倫理感と姿勢を示すことができる。 DP1B : 基盤となる倫理観と姿勢の重要性が理解できる。 DP2B : 基盤となる課題を検討できる。 DP3A : 取得した課題・問題解決方法を活用できる。 DP4A : 基本となる技術を応用できる。 DP5A : 基盤となる協働やマネジメントの姿勢を示すことができる。 DP5B : 基盤となる協働やマネジメントの重要性が理解できる。		
評価方法	■定期試験 40% 〈1、3、4、5〉 ■レポート課題・看護過程課題 40% 〈1、2、3、4、5〉 ■グループワーク、ロールプレイ演習、発表会での態度や参加状況 20% 〈1、2、3、4、5〉		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月15日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション① 科目オリエンテーション 単元1オリエンテーション 【事前課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹、佐藤
	第2回 2025年4月15日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション② 【グループワーク】70分 【事後課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹、佐藤
	第3回 2025年4月22日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション③ 【グループワーク】70分 【事前課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹
	第4回 2025年4月22日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション④ 【グループワーク】70分 【事後課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹
	第5回 2025年5月2日（金） 単元2：難病療養者の対象理解と訪問看護の実際① 【グループワーク】40分 【事前課題】添付の資料1参照	講義 演習	高山、羽場 栗田、小竹
	第6回 2025年5月2日（金） 単元2：難病療養者の対象理解と訪問看護の実際② 【グループワーク】40分 【事後課題】添付の資料1参照	講義 演習	高山、羽場 栗田、小竹
	第7回 2025年5月13日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション⑤ 【グループワーク】70分 【事前課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹
	第8回 2025年5月13日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション⑥ 【グループワーク】60分 【事後課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹
	第9回 2025年5月20日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション⑦ 訪問場面演習 【ロールプレイ演習】70分 【事前課題】添付の資料1参照	演習	栗田、羽場 小竹、佐藤 久保田、高山
	第10回 2025年5月20日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション⑧ 訪問場面演習 【ロールプレイ演習】70分 【事後課題】添付の資料1参照	演習	栗田、羽場 小竹、佐藤 久保田、高山
	第11回 2025年5月27日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション⑨ 訪問場面演習のリフレクション 【グループワーク】40分 【事前課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹、久保田 高山
	第12回 2025年5月27日（火） 単元1：対象理解と援助的コミュニケーション⑩ 単元1のまとめ 【発表会】40分 【事後課題】添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹、久保田 高山
	第13回 2025年5月28日（水） 単元3：在宅療養児の対象理解と訪問診療の実際①	講義 演習	朝倉、栗田 羽場、小竹

	【グループワーク】 40分 【事前課題】 添付の資料1参照		
第14回	2025年5月28日（水） 単元3：在宅療養児の対象理解と訪問診療の実際② 【発表会】 40分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	朝倉、栗田 羽場、小竹
第15回	2025年6月3日（火） 単元4：在宅療養移行支援の実際① 【グループワーク】 40分 【事前課題】 添付の資料1参照	講義 演習	松本、羽場 栗田、小竹
第16回	2025年6月3日（火） 単元4：在宅療養移行支援の実際② 【グループワーク】 40分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	松本、羽場 栗田、小竹
第17回	2025年6月10日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援① 単元5のオリエンテーション 【グループワーク】 30分 【事前課題】 添付の資料1参照	講義 演習	羽場、栗田 小竹
第18回	2025年6月10日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援② 【グループワーク】 40分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	羽場、栗田 小竹
第19回	2025年6月17日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援③ 【グループワーク】 60分 【事前課題】 添付の資料1参照	講義 演習	羽場、栗田 小竹
第20回	2025年6月17日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援④ 【グループワーク】 60分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	羽場、栗田 小竹
第21回	2025年6月24日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援⑤ 【グループワーク】 70分 【事前課題】 添付の資料1参照	講義 演習	羽場、栗田 小竹
第22回	2025年6月24日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援⑥ 【グループワーク】 70分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	羽場、栗田 小竹
第23回	2025年7月1日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援⑦ 訪問場面演習 【ロールプレイ演習】 70分 【事前課題】 添付の資料1参照	演習	羽場、栗田 小竹、佐藤 久保田、高山
第24回	2025年7月1日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援⑧ 訪問場面演習 【ロールプレイ演習】 80分 【事後課題】 添付の資料1参照	演習	羽場、栗田 小竹、佐藤 久保田、高山
第25回	2025年7月8日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援⑨ 訪問場面演習のリフレクション 【グループワーク】 50分 【事前課題】 添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹、久保田 高山
第26回	2025年7月8日（火） 単元5：生活の再構築を必要とする対象者への支援⑩ 単元5のまとめ【グループワーク】 50分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹、久保田 高山
第27回	2025年7月15日（火） 単元6：人生の最終段階にある対象者への支援① 単元6のオリエンテーション 【グループワーク】 70分 【事前課題】 添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹
第28回	2025年7月15日（火） 単元6：人生の最終段階にある対象者への支援② 【グループワーク】 80分 【事後課題】 添付の資料1参照	講義 演習	栗田、羽場 小竹
第29回	2025年7月22日（火） 単元6：人生の最終段階にある対象者への支援③ 小澤竹俊先生の講義 【グループワーク】 30分	講義 演習	小澤、栗田、 羽場、小竹

	【事前課題】添付の資料1参照		
	第30回 2025年7月22日（火） 単元6：人生の最終段階にある対象者への支援④ 小澤竹俊先生の講義 単元6のまとめ 科目のまとめ 【グループワーク】30分 【事後課題】添付の資料1参照	講義 演習	小澤、栗田 羽場、小竹
	※グループワークや発表会、ロールプレイ演習など、授業時間内の時間配分と詳細は、単元の最初の時間に提示します。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業毎に事前・事後課題があります。添付ファイル資料1をご覧ください。 事前課題： ①レポート課題ほか：添付ファイル【資料1】の「2025年度在宅看護学援助論授業外学修一覧」の1事前課題、1)レポート課題ほか、を確認し事前に学習を計画的に進めてください。 ②看護過程課題：添付ファイル【資料1】の「2025年度在宅看護学援助論授業外学修一覧」の1事前課題、2)看護過程課題の欄を確認してください。具体的な内容は、各単元最初の時間に提示します。 事後課題： 添付ファイル【資料1】の「2025年度在宅看護学援助論授業外学修一覧」の2.事後課題、1)看護過程課題の欄を確認してください。具体的な内容は、各単元最初の時間に提示します。		
テキスト	1) 石田千絵 他：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術、メディカ出版、2025		
参考書	1) 石田千絵 他：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論①地域を支えるケア、メディカ出版、2025 2) 河野あゆみ編集：地域・在宅看護論 第6版、メヂカルフレンド社、2021 3) 押川真喜子監修：写真でわかる訪問看護アドバンス、インターメディカ、2016 4) 宇都宮宏子、山田雅子：看護がつながる在宅看護移行支援 - 病院・在宅患者像別看護ケアのマネジメント、日本看護協会出版会、2014		
学生へのメッセージ等	健康上の課題を持ちながら地域で暮らす療養者と、その人を取りまく人々が自分らしく暮らし続けられることを目指して、具体的に対象者の生活のイメージをしながら学びを深めていきましょう。メンバーと協働し、活発なディスカッションを通じて、主体的に学んでほしいと思います。		

講義科目名称：ヘルスプロモーションと健康教育

授業コード：K090830

英文科目名称：Health Promotion and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	2	必修
担当教員			
堀池 諒			
添付ファイル			

全担当教員	堀池 諒		
概要	看護職が行う健康教育の必要性や目的を理解し、健康教育の基礎的な理論、教育内容、方法、および手順を修得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護職が行う健康教育の必要性や目的を理解できる。 ☐ 健康教育・ヘルスプロモーションの基礎理論を理解できる。 ☐ 健康教育の企画・運営・実践方法を展開することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験（50%）《3》、 ■授業を通して作成する健康教育案（健康教育企画書・指導案・媒体・健康教育のシナリオ）（50%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月15日（火） 健康教育・ヘルスプロモーションとは	講義	堀池
	第2回 2025年4月22日（火） 個人、家族、集団、地域の健康課題と強みのアセスメント① 健康教育演習1：対象自治体と健康課題の決定	講義・演習	堀池
	第3回 2025年5月13日（火） 個人、家族、集団、地域の健康課題と強みのアセスメント② 健康教育演習2：対象の決定	講義・演習	堀池
	第4回 2025年5月20日（火） 健康教育の目的と目標、関連する理論 健康教育演習3：目的と目標の決定	講義・演習	堀池
	第5回 2025年5月27日（火） 健康教育のコツ①実施内容と頻度 健康教育演習4：実施内容と頻度の決定	講義・演習	堀池
	第6回 2025年6月3日（火） 健康教育のコツ②実施方法と場所 健康教育演習5：実施方法と場所の決定	講義・演習	堀池
	第7回 2025年6月10日（火） 健康教育のコツ③コストと効果 健康教育演習6：費用対効果と費用便益の検討	講義・演習	堀池
	第8回 2025年6月17日（火） 健康教育のコツ④評価の設定 健康教育演習7：評価内容、評価方法の決定	講義・演習	堀池
	第9回 2025年6月24日（火） 健康教育のコツ⑤振り返りとネーミング 健康教育演習8：これまでの作成内容の修正、企画した健康教育に名前をつける	講義・演習	堀池
	第10回 2025年7月1日（火） 健康教育のコツ⑥実践する際の要点 健康教育演習9：発表原稿の作成	講義・演習	堀池
	第11回 2025年7月1日（火） 健康教育のコツ⑦効果的な広報	講義・演習	堀池

	健康教育演習 1 0 : 広報ポスターの作成		
	第12回 2025年7月8日 (火) 健康教育のコツ⑧見やすくわかりやすい媒体 健康教育演習 1 1 : 媒体の作成	講義・演習	堀池
	第13回 2025年7月8日 (火) 健康教育のコツ⑨予行演習と修正 健康教育演習 1 2 : グループ間で予行演習し修正	講義・演習	堀池
	第14回 2025年7月15日 (火) 健康教育のコツ⑩：実践 健康教育演習 1 3 : 発表と評価	講義・演習	堀池
	第15回 2025年7月22日 (火) 健康教育のコツ⑪評価に基づく改善 健康教育演習 1 4 : 改善案の作成	講義・演習	堀池
授業外学修（事前学修・事後学修）	1. 講義の前後に単元に関する教科書の箇所を精読する。 2. 講義・演習の内容を踏まえて、健康教育案の作成および修正を行う。		
テキスト	1) 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院		
参考書	1) 松本千明著. 医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎：医歯薬出版株式会社		
学生へのメッセージ等	ヘルスプロモーション、行動変容の理論を基盤とした健康教育のプロセスを学び、公衆衛生・医療の現場で実践できるよう学習していきます。演習ではワード、パワーポイント等を使います。毎回の授業にパソコンを持参してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2	必修
担当教員			
佐藤 郁代			
添付ファイル			
在宅看護学実習 授業外学修：実習前の課題.pdf			

全担当教員	佐藤 郁代／小竹 久実子／栗田 麻美／羽場 香織
概要	健康上の課題を持ちながら地域で暮らす対象者と、とりまく人々への理解を深め、その人らしく暮らし続けるための在宅看護の実際を学ぶ。本実習を通し、生活の場における療養支援に必要な知識、技術、態度を修得することを目的とする。 知識、技術、態度とは、以下の内容である。 相手に関心を寄せる力、忠恕力、臨床判断力、計画立案力、看護実践する力、内省力、コミュニケーション力 上記の力を統合させ、倫理観を育む。
目標	1 倫理観、態度、意欲 Level A 目標 □3-1) 対象者の価値観や主体性を尊重した関わりができる。 □3-2) 対象者のプライバシーを尊重した行動ができる。 □5-1) 主体的に実習に取り組める。 2 創造性、探究力、国際的視野 Level A 目標 □5-5) 実習を通して、看護とは何か(看護観)を想像し、創造できる。 3 知識、批判的思考力 Level A 目標 □2-2) 対象者の全体像をとらえ、アセスメントできる。 □2-3) 対象者の人生ストーリーをとらえ、日々の生活を説明できる。 □2-9) 看護過程の評価、および修正ができる。 4 実践力、応用力、共感能力 Level A 目標 □2-4) 看護目標を対象者と共に考え、臨機応変に設定できる。 □2-6) 看護の対象者の状態に合わせて、その場で再アセスメントできる。 □2-8) 看護計画に基づき、基本となる技術を応用して看護を実践できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント Level A 目標 □4-1) 対象者に適した社会資源を活用し、マネジメントの姿勢を示すことができる。 □4-2) 対象者の暮らしに関わる人々との連携や協働を考え、マネジメントの姿勢を示すことができる。 □5-2) 対象者をとりまく人々の一員として行動できる。 (目標ごとの詳細の到達レベル揭示) 1. 在宅で生活を送る対象を理解する。 1) 対象者の健康状態を説明できる。 DP1A、DP3A、DP5A 2) 対象者の健康状態が生活全般におよぼす影響を説明できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 3) 対象者をとりまく人々の心身状態や生活の様子を説明できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 4) 対象者の真意を捉えられる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 2. 在宅における看護過程を展開する。 1) 必要な情報を収集できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 2) 対象者の全体像をとらえ、アセスメントできる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 3) 対象者の人生ストーリーをとらえ、日々の生活を説明できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 4) 看護目標を対象者と共に考え、設定できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 5) 具体的な看護計画を立案できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 6) 看護の対象者の状態に合わせて、その場で再アセスメントできる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 7) 再アセスメントに基づき、看護を再計画できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 8) 看護計画に基づき看護を実践できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 9) 看護過程の評価、および修正ができる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 3. 対象者の尊厳と安全を保障する支援の実際を理解する。 1) 対象者の価値観や主体性を尊重した関わりができる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 2) 対象者のプライバシーを尊重した行動ができる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A 3) 看護師が行っている医療安全や危機管理に対する取り組みを説明できる。 DP1A、DP2A、DP3A、DP4A、DP5A

	4. 対象者の暮らしに関わる人々との連携や協働の実際と、その意義を理解する。 1) 対象者に適した社会資源の活用の実際を説明できる。DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 2) 対象者の暮らしに関わる人々との連携や協働の実際を説明できる。DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 3) 人々が健康に暮らすために看護師が取り組んでいる地域への働きかけを説明できる。DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 4) 看護をつなぐことを意識した行動ができる。DP1A、DP2A、DP3A、DP4B、DP5A 5) 対象者の継続看護について考察できる。DP1A、DP2A、DP3A、DP4B、DP5A 5. 看護者として自己の役割を理解して行動するとともに、「看護とは」について考察する。 1) 主体的に実習に取り組める。DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 2) 対象者をとりまく人々の一員として行動できる。DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 3) 自己の健康管理ができる。DP1A、DP2A、DP3A、DP4B、DP5A 4) 実習を通して自己の課題を明確にできる。DP1A、DP2A、DP3A、DP5A 5) 実習を通して、看護とは何か(看護観)を考えることができる。DP1A、DP2A、DP3A、DP4B、DP5A DP 1. 倫理観、態度、意欲 2. 創造性、探究力、国際的視野 3. 知識、批判的思考 4. 実践力、応用力、共感能力 5. コミュニケーション能力、チームマネジメント A : Level A 100%、B : Level B 80%、C : Level C 60%、D : Level D 30% ＜本授業で修得する能力＞ DP1 A : 基盤となる倫理観と姿勢を示すことができる。 DP2 A : 基盤となる課題を創造できる。 DP3 A : 修得した知識を基に課題・問題の解決方法を活用できる。 DP4 A : 基本となる技術を応用できる。 DP4 B : 基本となる技術を適切に実施できる。 DP5 A : 基盤となる協働やマネジメントの姿勢を示すことができる。
評価方法	実習内容と実習への取り組み姿勢、事前課題、事後課題、および実習記録から実習目標の到達度を総合的に評価する。《1. 2. 3. 4. 5 》
授業計画	1. 実習施設：奈良県内訪問看護ステーション 18ヶ所 2. 実習方法：在宅療養者を原則1名受持ち、看護を展開する。 その他、1日2-4名程度の療養者に、訪問看護師とともに訪問し、看護を実践する。 3. 実習記録およびその他の詳細は在宅看護学実習要項を参照する。
授業外学修（事前学修・事後学修）	実習前の課題： 1) 対象理解やより良い在宅看護実践のため既習の知識を活用できるよう、在宅看護学概論および在宅看護学援助論の学修内容を復習する。 2) 基本的な看護技術に関する復習および練習（バイタルサイン測定や、ボディメカニクスの活用等）を行う。 3) 在宅療養者への医療ケアのレポートを作成する。 4) 実習施設周辺の地域に関するレポートを作成する。 ※ 実習前の課題の詳細については、添付ファイル「別紙：在宅看護学実習前の課題」を参照すること。 実習中の課題： 1) その日の実習での体験や気づきに基づき、訪問した対象者の理解や看護実践を振り返る。 2) 対象にかかわる多職種の連携の実際について考察する。 3) 翌日以降の自己の課題を明確にする。 2週間の実習を経てのまとめの課題： 1) 受け持ち療養者の看護サマリーを作成する。 2) 2週間の実習を振りかえり、今後の自己の課題を明確にする。 3) 「看護とは何か」に関するレポートをA4判1枚程度で作成する。
テキスト	
参考書	デジタルナースング・グラフィカ (iPad版) メディカ出版 その他、在宅看護学概論および在宅看護学援助論で示した参考書に加え、随時、実習中に提示する。
学生へのメッセージ等	在宅で療養しながら豊かな生活を送る「Aging in Place」実現のために、在宅看護実践力を養うことは重要です。在宅看護における生活の視点は、在宅療養の場面のみならず、どの場においても必要な根幹となる看護の視点です。療養者とその家族を支えるために多職種のチームの方々と連携する必要性を理解し、看護実践へとつなげてください。その看護実践から、行った援助が看護であったのかどうか振り返り、自らの看護観の醸成につなげてください。

講義科目名称： 成人看護学援助論Ⅲ（急性）

授業コード： K220030

英文科目名称： Adult Nursing Care Skills Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
松田 常美			
添付ファイル			

全担当教員	松田 常美／石澤 美保子／森脇 裕美／堀井 えりな		
概要	既存の知識を基盤に、周術期における対象者を全人的に捉えることで患者の理解を深め、周術期に必要な看護を 実践できる思考過程と実践的思考プロセスを学習する。 具体的には、事例患者の情報を身体・心理・社会面からアセスメントを行い、導き出された看護問題について 看護計画を立案し、立案した看護計画の実践を行い、一連の看護過程の展開を行う。また、周術期に必要な看護 技術の根拠を学び演習を通し、周術期に必要な看護技術を習得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □周術期における患者の特徴を述べることができる。 □事例患者の情報を整理・統合・分析を行い、看護問題を抽出し、抽出した看護問題を解決するための看護 計画を立案できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □立案した事例患者の看護計画に基づき、看護実践を行うことができる。 □周術期看護を提供するために必要な看護技術を実践できる。 □グループワークで自己の考えを述べ、議論することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験 60% ≪3≫ ■演習評価 28% ≪3,4≫ ■レポート 10% ≪3,4≫ ■note of lectureの記載状況 2% ≪3,4≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2025年4月9日（水） 2限目 ガイダンス・周術期における看護過程の展開・看護過程の展開 1 【目標】 ・看護過程と構成要素を理解できる ・アセスメントの情報収集、アセスメントに関する知識を想起 し、系統的情報収集に活用できる 【講義内容】 ・情報の整理・統合 ・情報の統合と分析	講義	松田 常美
第2回	2025年4月16日（水） 2限目 【講義】⇒【GW】⇒【講義】 看護過程の展開2：事例の分析（健康知覚/健康管理パターン） 【目標】 ・ゴードンの機能的健康パターンを活用した情報の整理とアセ スメントを理解できる ・ゴードンの機能的健康パターンの健康知覚/健康管理パター ンの分析に必要な情報分析の視点が理解できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をま とめることができる 【講義内容】 ・事例のアセスメントのポイント ・健康知覚/健康管理パターンの分析のポイント ・健康知覚/健康管理パターンの解説 ・次回グループワークの分析のためのポイント（栄養/代謝パ ターン） 【グループワーク】発表を含めて40分 ・行ってきた事前学修を基にグループワークを行い、健康知覚/ 健康管理パターンの分析を行う ・グループごとに成果を発表し、成果物を提出する（授業終了 後） 【事前課題】 ・健康知覚/健康管理パターンの分析を行い、授業日の8時50分	講義/グルー プワーク	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな

	までに指定のボックスに提出すること 【事後課題】 ・教員の解説やグループワークを参考にして事前課題の健康知覚/健康管理パターンの分析を完成させ、6月23日（月）の8時50分までに指定のボックスに提出すること		
第3回	2025年4月23日（水） 2限目 周術期におけるフィジカルアセスメント1 【目標】 ・深部静脈血栓症の病態および症状、予防方法について理解できる ・弾性ストッキングを装着する目的および装着方法を理解できる ・腹会陰式直腸切断術後に行う残尿測定の目的と測定方法について理解できる ・一次救命処置の目的と方法を理解できる	講義	森脇 裕美
第4回	2025年4月30日（水） 2グループに分けて、1・2限目 周術期におけるフィジカルアセスメント2 【目標】 ・一次救命処置を正しく実施することができる ・エコー測定を正しい手技で行うことができる ・エコー画像で膀胱の位置を確認することができる 【事前課題】 ・演習に向けて指定された課題を行い、当日に課題を持参すること 【事後課題】 ・演習での学びを指定された用紙に記載し5月2日（金）8時50分までに指定のボックスに提出すること	演習	森脇 裕美 石澤 美保子 松田 常美 堀井 えりな
第5回	2025年5月7日（水） 2限目 【GW】⇒【講義】 看護過程の展開3：事例の分析（栄養/代謝パターン） 【目標】 ・ゴードンの機能的健康パターンの栄養/代謝パターンの分析に必要な情報分析の視点が理解できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をまとめることができる 【グループワーク】発表を含めて40分 ・行ってきた事前学修を基にグループワークを行い、栄養/代謝パターンの分析を行う ・グループごとに成果を発表し、成果物を提出する（授業終了後） 【講義内容】 ・栄養/代謝パターンの解説 ・次回グループワークの分析のためのポイント（排泄パターン） 【事前課題】 ・栄養/代謝パターンの分析を行うこと ・提出については第2回を参照すること 【事後課題】 ・事前課題の栄養/代謝パターンの分析を完成させること。提出については第2回を参照すること	グループワーク/講義	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
第6回	2025年5月14日（水） 2限目 ストーマ造設を受ける患者の看護 【目標】 ・ストーマ造設に伴う身体的変化を理解できる ・ストーマリハビリテーションの概要と実際を理解できる	講義	石澤 美保子
第7回	2025年5月21日（水） 2グループに分けて、1・2限目 ストーマ造設を受ける患者の看護技術演習 【目標】 ・ストーマ造設術を受ける患者のセルフケアに向けた援助の実際を理解することができる ・ストーマ造設術後の患者の日常生活を類似体験し、必要な看護援助を理解できる 【事前課題】 ・演習内容のストーマサイトマーキングが、テキストを見ずに行えるよう復習をしておくこと（授業開始前に事前課題レポートを提出すること） ・演習内容のストーマ装具の貼付ができるよう配布された資料の設定と実施項目を熟読すること 【事後課題】 ・演習での学びを指定された用紙に記載し5月23日（金）8時50分までに指定のボックスに提出すること	演習	石澤 美保子 松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
第8回	2025年5月28日（水） 2限目 救急看護 【講義内容】 ・救急看護の概念 ・救急看護の対象の理解 ・救急患者とその家族に対する看護実践 ・本学附属病院高度救命救急センターにおける看護実践	講義	救急看護認定看護師
第9回	2025年6月4日（水） 2限目 【GW】⇒【講義】	グループワーク/講義	松田 常美 森脇 裕美

	看護過程の展開4：事例の分析（排泄パターン） 【目標】 ・ゴードンの機能的健康パターンの排泄パターンの分析に必要な情報分析の視点が理解できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をまとめることができる 【グループワーク】発表を含めて40分 ・行ってきた事前学修を基にグループワークを行い、排泄パターンの分析を行う ・グループごとに成果を発表し、成果物を提出する（授業終了後） 【講義内容】 ・排泄パターンの解説 ・次回グループワークの分析のためのポイント（活動/運動パターン） 【事前課題】 ・排泄パターンの分析を行うこと ・提出については第2回を参照すること 【事後課題】 ・事前課題の排泄パターンの分析を完成させること。提出については第2回を参照すること		堀井 えりな
第10回	2025年6月11日（水） 2限目 【GW】⇒【講義】 看護過程の展開5：事例の分析（活動/運動パターン） 【目標】 ・ゴードンの機能的健康パターンの活動/運動パターンの分析に必要な情報分析の視点が理解できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をまとめることができる 【グループワーク】発表を含めて40分 ・行ってきた事前学修を基にグループワークを行い、活動/運動パターンの分析を行う ・グループごとに成果を発表し、成果物を提出する（授業終了後） 【講義内容】 ・活動/運動パターンの解説 ・次回グループワークの分析のためのポイント（認知/知覚パターン） 【事前課題】 ・活動/運動パターンの分析を行うこと ・提出については第2回を参照すること 【事後課題】 ・事前課題の活動/運動パターンの分析を完成させること。提出については第2回を参照すること	グループワーク/講義	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
第11回	2025年6月18日（水） 2限目 【GW】⇒【講義】 看護過程の展開6：事例の分析（認知/知覚パターン） 【目標】 ・ゴードンの機能的健康パターンの認知/知覚パターンの分析に必要な情報分析の視点が理解できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をまとめることができる 【グループワーク】発表を含めて40分 ・行ってきた事前学修を基にグループワークを行い、認知/知覚パターンの分析を行う ・グループごとに成果を発表し、成果物を提出する（授業終了後） 【講義内容】 ・認知/知覚パターンの解説 【事前課題】 ・認知/知覚パターンの分析を行うこと ・提出については第2回を参照すること 【事後課題】 ・事前課題の認知/知覚パターンの分析を完成させること。提出については第2回を参照すること	グループワーク/講義	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
第12回	2025年6月25日（水） 2限目 【講義】⇒【GW】 看護過程の展開7：看護計画1 【目標】 ・看護計画の立案方法が理解できる ・グループで話し合いを行い、看護計画を立案できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をまとめることができる 【講義内容】 ・看護計画の構成要素 ・看護計画の立案の実際 【グループワーク】20分 ・事例患者の看護計画を立案する 【事前課題】 ・テキストの該当する箇所を熟読すること 【事後課題】 ・グループワークを参考に事例の看護計画の立案をすること。第12回の事後課題は第13回の事前課題として第13回の授業に持参すること	講義/グループワーク	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな

	第13回	2025年7月2日（水） 2限目 看護過程の展開 8：看護計画 2 【目標】 ・グループで話し合いを行い、看護計画を立案できる ・グループワークで自分の意見を発言し、グループの意見をまとめ、発表することができる 【グループワーク】発表を含め70分 ・事例患者の看護計画を立案する ・グループごとに成果を発表し、成果物を提出する（授業終了後） 【事前課題】 ・事例の看護計画を立案すること ・提出については第2回を参照すること 【事後課題】 ・第15回の演習に向けて看護計画の修正を行うこと。第13回の事後課題は第15回の事前課題として第15回の授業に持参すること	グループワーク	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
	第14回	2025年7月9日（水） 2限目 【講義】⇒【演習】 創傷管理論：創傷管理におけるドレッシングの方法 【目標】 ・皮膚の構造とスキンケアの目的を理解できる ・創傷治癒理論を理解し、ドレッシング材の目的と使用法が理解できる ・貼付困難部位のドレッシング貼付方法を検討し、貼付することができる 【事前課題】 ・演習に向けて指定された課題を行い、当日に課題を持参すること 【事後課題】 ・演習での学びを指定された用紙に記載し7月11日（金）8時50分までに指定のボックスに提出すること	講義/ 演習	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
	第15回	2025年7月16日（水） 2グループに分けて、1・2限目 手術後の回復を促進するための看護 【目標】 ・立案した看護計画を安全・安楽に注意して実践できる ・実践した看護計画を評価し、追加・修正ができる 【事前課題】 ・事例の看護計画の立案を行うこと 【事後課題】 ・実践した看護計画の追加・修正を行い、7月18日（金）8時50分までに指定のボックスに提出すること	演習	松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：単元に関する教科書の箇所をすべて精読してから講義に臨むこと。 第2・5・9・10・11・13・15回はグループワークに向けて事前課題がある。詳細は各単元を参照のこと。 第4・7・14回は演習に向けての事前課題がある。詳細は各単元を参照のこと。 事後学修：講義・演習の内容をふまえた授業の復習、課題に取り組むこと。 第2・5・9・10・11・12・13・15回の事後課題の提出は、各単元を参照のこと。 第4・7・14回の事後学修は演習後にレポートを作成する。期限を守って提出すること。			
テキスト	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 江川隆子編 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ			
参考書	適宜紹介する。			
学生へのメッセージ等	1年次の「健康の理解」、2年次の「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」の内容を理解した上で主体的に講義、演習に臨みましょう。 手術療法を受ける患者や危機的状況にある患者とその家族への看護実践の基盤となる知識や看護技術の習得をとおして、成人急性期看護学で求められる看護の役割について学びましょう。			

講義科目名称： 成人看護学援助論Ⅳ（慢性）

授業コード： K220040

英文科目名称： Adult Nursing Care Skills Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
添付ファイル			

全担当教員	以下、別途通知
概要	
目標	
評価方法	
授業計画	
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	
参考書	
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 成人看護学実習Ⅰ（急性）

授業コード： K220050

英文科目名称： Adult Nursing Clinical PracticumⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	3	必修
担当教員			
松田 常美			
添付ファイル			

全担当教員	松田 常美／石澤 美保子／森脇 裕美／堀井 えりな
概要	手術を受ける患者を受け持ち、手術を受ける患者とその家族に対する周術期の看護実践を学び、回復を促進するための看護に必要な知識・技術を習得し、チームの一員として看護実践を行い、態度を習得する。
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 手術侵襲によって起きる生体反応を理解できる。 ☐ ゴードンの機能的健康パターンを活用して情報の整理、アセスメントを行い、看護問題を抽出することができる。 ☐ 看護問題を抽出し、抽出した看護問題を解決するための看護計画を立案できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 立案した看護計画に基づき、看護実践を行うことができる。 ☐ 周術期看護を提供するために必要な看護技術を実践できる。 ☐ 看護学生として、自分の役割と責任を自覚して実践できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —
評価方法	■事前学修・実習記録・態度をもとに実習目標に照らして総合的に判断する。 100%≪3,4≫ ■評価方法は実習要項に準ずる。≪3,4≫
授業計画	【実習期間】 ・3週間 【実習施設】 ・奈良県立医科大学附属病院 (B棟4階病棟、B棟6階病棟、C棟6階病棟、中央手術部、集中治療部) 【実習方法】 ・原則として、一人の周術期にある患者を受け持ち、看護を展開する ・詳細は実習要項を参照のこと
授業外学修（事前学修・事後学修）	【事前学修】 ・事前に示された内容について、実践で活用できるよう整理し実習に臨むこと ・実習病棟決定後にその病棟（整形外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科）に特有の疾患や術式、その看護について調べ、事前学習課題マイノートを作成する。それらを作成することで実践に活用できるよう整理し、実習に臨むこと ・事前に指定する術後合併症の標準看護計画を立案し、評価・修正を加えることができるように整理しておくこと 【事後学修】 ・日々の実習内容を振り返り、指定の様式で看護過程を展開すること
テキスト	・系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 ・江川隆子編 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ
参考書	・別途指示する
学生へのメッセージ等	・既習の知識を活用できるよう、事前学習を行い知識を整理して実習に臨んでください。 ・1人の患者とゆっくり向き合える機会のため、手術を受ける患者や家族の体験を理解し、急性期看護の役割を理解しましょう。

講義科目名称： 成人看護学実習Ⅱ（慢性）

授業コード： K220060

英文科目名称： Adult Nursing Clinical Practicum Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	3	必修
担当教員			
石橋 千夏			
添付ファイル			

全担当教員	石橋 千夏／未定
概要	慢性疾患とともに生きる患者と家族をさまざまな側面から理解し、その人らしく生きることができるよう健康レベルに合わせて支援する基礎的能力を養う。
目標	1 倫理観、態度、意欲 □看護職者としてふさわしい態度をとることができる 2 創造性、探究力、国際的視野 □看護実践の意味を振り返り、ケース・レポートにまとめることができる。 3 知識、批判的思考力 □慢性の病気を持つ患者と家族をさまざまな側面からとらえ、健康レベルを説明することができる。 □慢性の病気を持つ患者を取り巻くサポートシステムについて説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □慢性の病気を持つ患者と家族をアセスメントし、個別性に合わせて看護計画を立案できる。 □慢性の病気を持つ患者と家族がその人らしく生活できるように援助することができる。 □実践した看護を評価・修正することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □慢性の病気を持つ患者や家族と、援助関係を築くことができる。 □医療チーム・看護チームの一員としての役割について説明できる。
評価方法	成人看護学実習Ⅱの実習目標の到達状況について、準備状況（事前学習）や実習態度も含めて、総合的に評価する。 100% 《1, 2, 3, 4, 5》
授業計画	1. 実習施設 奈良県立医科大学附属病院（C棟5階病棟、C棟7階病棟、B棟8階病棟） 2. 実習期間 3週間 3. 実習方法 原則として患者1名を受け持ち、看護を展開する （詳細は実習要項を参照すること）
授業外学修（事前学修・事後学修）	【事前学修】 実習病棟ごとに提示された内容にそって学習し、各自で学習ファイルを作成する。 事前学習を実習中に活用できるよう、見出しを付けるなど整理しておく。 【事後学修】 成人看護学実習Ⅱで学んだことや課題を、今後の実践に活かす。 ケース・レポートをとおして実践の意味を振り返り、自己の看護観の醸成につなげる。
テキスト	
参考書	適宜紹介する
学生へのメッセージ等	慢性疾患とともに生きる患者・家族にとって、入院は療養生活の一時期にすぎません。しかし、患者や家族がその人らしく生きていくための方向付けとなる、看護の役割が重要となる期間です。個別性が高く難しさを感じるでしょうが、患者や家族とともに模索することで、患者・家族とともに歩む看護を感じてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子		
概要	高齢者の生理的加齢変化と疾患の特徴を踏まえ、看護過程を展開し、高齢者や家族との共感的な援助関係を築く方法を検討する。 演習を通して看護技術を習得し、チームの一員としてメンバーシップ・リーダーシップを考え、実践する。 多職種との連携を学び、チームの中の看護の役割を学習する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 ☐ 高齢者の疾患、生活機能、心理状態について、また、高齢者の生活歴、家族の状況をアセスメントできる。 ☐ アセスメントを生かし、関連図によって情報から看護診断までをつないで全体像を示すことができる。 ☐ アセスメント・関連図を生かし、自立支援に向けた具体的な看護計画を立案できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 演習を通して看護技術を習得し、実践できる。 ☐ 起こりえるリスクを予測し、安全・安楽なケアを検討できる。 ☐ 高齢者や家族との共感的な援助関係を築く方法を検討できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 演習を通して、チームの一員としてメンバーシップ・リーダーシップを発揮できる。 ☐ 多職種との連携を学び、チームの中の看護の役割を説明できる。		
評価方法	■授業時間数の3分の2以上の出席者に対し、以下の方法で評価する。30分以上の遅刻・早退は出席にならない。 ■レポート（10%）《3, 4》他学生と同一のものを提出した場合には、採点対象にならない。 ■筆記試験（50%）《3, 4》 ■看護過程用紙の提出：アセスメント、関連図、看護計画（40%）《3, 4, 5》他学生と同一のものを提出した場合には、採点対象にならない。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月14日（月） 3限 老年看護学の看護過程 栄養、排泄 【反転授業：事前にペーパーペイシェントの情報を確認しておくこと】 講義の中でペアワークがある【ペアワーク：2人ペアで、排泄ケアを受ける立場になって心理を検討し、発表する】	講義	澤見、木村、古角
	第2回 2025年4月21日（月） 3限 MMT測定の実践 MMT測定についての講義と演習オリエンテーション	講義	澤見、木村、古角
	第3回 2025年4月28日（月） 3限 MMT測定の実践 上肢の関節 5-6人を1グループとして演習、場所：シミュレーション室1。 待機学生は演習を取り囲んで見学。 【反転授業：事前にオリエンテーション資料（上肢）を確認しておくこと】	講義	理学療法士、澤見、木村、古角
	第4回 2025年5月12日（月） 4限 MMT測定の実践 下肢の関節 5-6人を1グループとして演習、場所：シミュレーション室1。 待機学生は演習を取り囲んで見学。 【反転授業：事前にオリエンテーション資料（下肢）を確認しておくこと】	演習	理学療法士、澤見、木村、古角
	第5回 2025年5月19日（月） 3限 タクティールマッサージのオリエンテーション、看護過程 活動、睡眠 演習オリエンテーション、動画配信 【反転授業：事前にペーパーペイシェントの情報を確認しておくこと】	演習	理学療法士、澤見、木村、古角
	第6回 2025年5月26日（月） 3限 タクティールマッサージの実践	演習	澤見、木村、古角

	前半：タクティールマッサージの実際（3人1組）、フェイスタオル1枚持参、後半：アセスメント（第10回のアセスメント）、40分で前後入れ替え		
第7回	2025年6月2日（月） 3限 消化器疾患のケアの実際① 消化器疾患のケアの実際（事例・アセスメント・計画）胃・食道の疾患で早期に退院するESD・EVL・EISなど	講義	木村
第8回	2025年6月9日（月） 3限 消化器疾患のケアの実際② 消化器疾患のケアの実際（事例・アセスメント・計画）肝疾患・胆道疾患など	講義	古角
第9回	2025年6月16日（月） 3限 呼吸器疾患患者の事例検討① 呼吸器疾患患者の事例について、アセスメント・ケアを検討する①	講義	澤見、木村、古角
第10回	2025年6月23日（月） 3限 呼吸器疾患患者の事例検討② 呼吸器疾患患者の事例について、アセスメント・ケアを検討する②	講義	澤見、木村、古角
第11回	2025年6月30日（月） 3限 看護過程 認知、自己知覚 感覚・知覚・認知に関する内容の分析：患者の聴覚・視覚・嗅覚・味覚・触覚・認知・思考の機能、コミュニケーション能力を把握し、障害の代償や予防について分析する 【自己知覚】患者の自己認識や自尊感情、ボディイメージなどをアセスメントし、それらが患者の健康状態や生活にどのような影響を与えているのかを分析する。	講義	澤見、木村、古角
第12回	2025年7月7日（月） 3限 看護過程 役割、セクシュアリティ、コーピング 【役割－関係】患者の役割や人間関係、役割を通じた社会的関係に関するアセスメント。患者の現在の生活における主要な役割と疾病による役割の変化、それらに対する影響を分析する 【コーピング】ストレスのもとになっているストレッサーに対する行動や対処方法を分析する。	講義	澤見、木村、古角
第13回	2025年7月14日（月） 3限 看護過程 価値信念、関連図 【価値信念】患者の思考や行動、信念を表すもので、さまざまな状況の中で自分らしく行動する基本的な考え方。患者のこれまでの行動や意思決定を支えている価値観から、療養生活における意思決定の基準を推測し、それに応じたサポートを考える。 関連図・看護計画について、例示を用いて解説し、ペーパーペイシエントに置き換えて検討する。	講義	澤見、木村、古角
第14回	3限 看護計画、脳卒中の病態 看護計画について、例示を用いて解説し、ペーパーペイシエントに置き換えて検討する。 脳卒中は、脳に向かう動脈が詰まったり破裂したりして、血流の途絶により脳組織の一部が壊死し、突然症状が現れる。概要、アセスメント、ケアについて学習する。	講義	澤見、木村、古角
第15回	1限 終末期の看護を考える 余命が残りわずかになった高齢者に対し、残りの人生を穏やかに過ごせるように、状況を経過観察し、原因や予防策を実施していく事で、苦痛を少しでも取り除くことを検討する。	講義	澤見、木村、古角
授業外学修（事前学修・事後学修）	● 事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。反転授業においては、事前に提示した動画や資料を確認しておくこと ● 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。		
テキスト	2年次と同様のテキスト（2年次に購入した『看護診断ハンドブック』を引き続き使用するので購入は不要です）		
参考書	授業中に適宜紹介します。		
学生へのメッセージ等	実習に向けて、技術演習でスキルを確実にしておきましょう。 看護過程の展開について、不明点が残らないように質問してください。		

講義科目名称： 老年看護学実習

授業コード： K080640

英文科目名称： Gerontological Nursing Clinical Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	4	必修
担当教員			
澤見 一枝			
添付ファイル			

全担当教員	澤見 一枝／木村 満夫／古角 美保子
概要	高齢者施設実習を通して、療養・生活の場での看護の役割を理解し、生活機能に応じた看護を実践する。附属病院における病棟実習を通して、受け持ち患者の疾病・障害・その治療による身体・心理的影響と、起こり得るリスクをアセスメントし、それに応じた具体的な看護計画を立案・実践・評価・修正する。
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 高齢者と共感的な援助関係を築くことができる ☐ 高齢者の個別性に配慮し、尊重した態度で接することができる 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 加齢に伴う変化、疾病・障害とその治療が高齢者の生活に、どのように影響しているかアセスメントし、具体的な計画を立案できる。 ☐ 高齢者の生活歴・家族の状況をアセスメントし、看護計画に反映させることができる。 ☐ 高齢者の状態の変化を予測し、適切な援助を考えることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 高齢者の疾患・加齢変化・生活機能障害についてアセスメントし、個別性のある看護が提供できる ☐ 高齢者に起こり得るリスクを予測し、安全・安楽な援助を実践できる ☐ 高齢者の自立支援を考慮した援助を実践できる 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 高齢者施設や実習病棟における看護の役割を理解し、チームの一員としてメンバーシップを発揮できる ☐ 認知症高齢者に対する基本的態度を身につけ、コミュニケーション技術を用いて対象に合った援助ができる
評価方法	■実習時間数の5分の4以上の出席者に対し、以下の方法で評価する。 ■事前学習（10％）《3》 ■実習記録と実習要項の評価表に基き評価する（90％）《1, 3, 4, 5》
授業計画	医療施設実習 附属病院 脳神経外科病棟実習 附属病院 消化器内科病棟実習 附属病院 呼吸器内科病棟実習 高齢者施設実習 デイケア・グループホーム実習 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・小規模多機能型介護施設・看護多機能型施設実習 実習期間：医療施設 2 週間、高齢者施設 2 週間 実習方法 1) 事前学習 2) 高齢者施設実習では、1 ユニットの利用者を対象として看護を展開し、学びの発表を行う。 3) 医療施設実習では、一人の入院患者を受け持ち看護を展開し、学びの発表を行う。 4) 実習記録の提出：同一の患者を学生2名で受け持ったとしても、同一の実習記録は採点しない。 5) 終了レポート 詳細は、実習要項を参照のこと。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：実習要項に記載してある課題をレポートにまとめ、実習初日の朝に提出すること 事後学修：実習要項に記載してある内容をレポートにまとめ、実習終了後の月曜17時までに提出すること
テキスト	看護診断ハンドブック
参考書	実習の中で適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	老年看護学概論や老年看護学援助論で学習した理論や知識に基づき看護を実践してください。高齢者の方から多くのことを学ばせていただける機会ですので、尊厳を常に意識して実習してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
山田 晃子			
添付ファイル			

全担当教員	山田晃子 / 渋谷洋子		
概要	様々な生活状況、健康状態における子どもと家族への看護援助について理解する。 子どもと家族への看護援助を展開するための科学的な思考過程（看護問題の明確化とその解決策の立案および実践の効果検討方法）について基礎的知識を習得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 疾患や健康障害をもつ子ども、地域で生活する子どもとその家族の課題・問題の解決方法を検討し説明できる ☐ 看護過程の事例をもとに、子どもと家族の課題・問題の解決方法を検討し説明できる 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 子どもの発達段階に応じて看護技術を適切に実施できる方法が説明できる ☐ 看護過程の事例をもとに、子どもと家族に適切な看護技術が提供できる 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期テスト：出題範囲第1回～15回（40%）《3.4》 ■看護援助技術演習提出課題(5%)《4》 ■看護過程の展開演習：最終提出記録・ロールプレイ演習の実施・発表会資料(45%)《3.4》 ■授業の取り組み：振り返りシートや講義中の課題の提出・看護過程事前課題を期限までに提出・看護過程の展開の発表会で積極的な発言や質問(10%)《3.4》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月14日（月） 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 検査・処置を受けることが子どもに及ぼす影響 検査・処置に取り組む子どもと子どもの家族への援助	講義	山田
	第2回 2025年4月21日（月） 看護過程の展開方法 看護過程方法、演習の進め方、事例紹介	講義	山田
	第3回 2025年4月28日（月） 子どもの検査や処置時の看護技術 ① 子どもの身体状態をアセスメントの特徴、観察項目 腰椎穿刺、骨髄穿刺を受ける子どもへの援助方法	講義	山田
	第4回 子どもの検査や処置時の看護技術 ② 子どもの身体的アセスメントの方法 子どもの点滴固定方法	講義	山田
	第5回 在宅療養中の子どもと家族の看護 在宅で療養する子どもと家族の特徴、在宅で療養する子どもと家族のための援助	講義	山田
	第6回 2025年5月12日（月） 事例を用いた看護過程の展開 ① 【グループワーク】ゴードンの11の機能的健康パターンにそって情報の分類、アセスメント 【事前課題1回目提出】（提出期限と方法は、講義中に説明） ・事例の情報を分類	演習	山田
	第7回 2025年5月19日（月） 子どもの検査や処置時の看護技術演習 【事前課題】 ①子どものバイタルサイン測定シナリオ ②次の2点は、演習までに完成させて、当日持参する。 ・バイタルサインを測定するための必要物品・留意点 ・末梢静脈内持続点滴固定を実施する際の留意点、観察事項	演習	山田 / 渋谷

	【技術演習】 モデル人形を使用して、バイタルサイン測定と末梢静脈内持続点滴固定を実施する 【レポート課題】提出期限や方法は、講義中に説明する。		
第8回	子どもの救命・救急時の看護① 子どもに起こりやすい事故と事故予防方法 子どもに対する1次救命処置	講義	山田
第9回	2025年5月26日（月） 事例を用いた看護過程の展開 ② 【グループワーク】アセスメント 【事前提出課題2回目】（提出期限と方法は、講義中に説明） ・事例のアセスメント	演習	山田
第10回	事例を用いた看護過程の展開 ③ 【グループワーク】関連図の作成と看護問題の抽出	演習	山田
第11回	子どもの救命・救急時の看護② 災害時の子どもと家族の看護 救急処置が必要な子どもと家族への看護 小児救急外来における子どもと家族への支援 被災した子どもと家族への支援	講義	山田
第12回	事例を用いた看護過程の展開 ④ 【グループワーク】ロールプレイの準備 【提出課題】（提出期限や提出方法は、講義中に説明） ・グループで立案した看護問題リスト	演習	山田
第13回	2025年6月30日（月） 事例を用いた看護過程の展開 ⑤ 【実習室にてロールプレイ】立案した看護計画に基づきグループ単位でロールプレイを実施 【提出課題】（提出期限や提出方法は、講義中に説明） ・発表会資料	演習	山田/ 渋谷
第14回	2025年7月7日（月） 事例を用いた看護過程の展開 ⑥ 【看護過程の展開の発表会】 ロールプレイで実施した援助と評価をグループで発表する。 【最終記録の提出】提出期限 7月8日24時 看護過程の展開演習記録（情報の整理とアセスメント、関連図、看護計画の立案、評価と修正）を提出する。関連図は、手書きで作成する。	演習	山田
第15回	2025年7月14日（月） 事例を用いた看護過程の展開 ⑦ / 病気の子どもとその家族を支える看護実践 ・看護過程：まとめと実習に向けて確認（山田） ・病気の子どもとその家族を支える看護実践（教育講師） 病気の子どもとその家族への看護実践、看護観について	講義	山田/教育講師
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修 講義 該当する教科書の章を読んでおく 演習 事前学習課題に取り組む、演習に取り組むために必要と考える資料を集めておく 事後学修 講義や演習内容を振り返り、学びをまとめる。指示された課題を期限までに提出する。		
テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院		
参考書	写真でわかる小児看護技術 山元恵子監修 インターメディカ 新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 松尾宣武 濱中喜代編 メヂカルフレンド社 授業でも提示する。		
学生へのメッセージ等	子どもの健やかな育ちを家族と共にどのように支えていくかを考えます。学習に対する積極的な態度及び、演習ではグループメンバーと協力して取り組む姿勢を重視します。 看護技術演習及び看護過程演習の一部は、2クラスに分かれて行います。時間割に変更が生じるため、掲示や教員からの説明を聞き洩らさないようにして下さい。 講義のレジメや資料は、事前に教務システムに登録するので、講義までにダウンロードして各自で準備をしてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2	必修
担当教員			
山田 晃子			
添付ファイル			

全担当教員	山田晃子 / 渋谷洋子 / 川上あずさ
概要	既習の知識・技術を統合し、小児およびその家族の健康生活の向上を支援する看護援助の実践能力を習得する。
目標	1 倫理観、態度、意欲 □ 専門職の一員として子どもと家族の尊重、権利擁護の重要性とその実際が理解できる。 □ グループにおいて各自が担う役割を果たすことができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □ 受け持ち患児の発達段階に応じた諸機能の発達の評価、及び患児の成長発達を妨げる問題が検討できる。 □ 受け持ち患児の疾患や治療によって生じる患児の生活の内容を検討し、個別性に応じた具体的な解決策、日常生活支援を立案できる。 □ 受け持ち患児の健康問題が家族役割や家族の生活に及ぼす影響を考察し支援方法が検討できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □ 患児にかかる負担を推測し、安全安楽を踏まえた具体策の実施と適切性の評価ができる。 □ 医療の場における安全管理（感染管理・事故防止）を適切に実施できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □ 小児の健全な成長・発達にかかわる関係者の役割が理解できる。 □ 小児の成長・発達に応じた入院、外来、在宅医療への看護の継続、連携および社会資源の活用方法が理解できる。 □ 小児病棟、及びNICU・GCUにおける看護の特徴と看護の役割が理解できる。
評価方法	■ 実習記録 《3.4.5》 70% ■ 実習での実践 《1.4》 25% ■ 実習記録の期限内の提出《1》 5%
授業計画	実習期間 2 週間 実習施設 奈良県立医科大学附属病院 小児センター（一部の学生） 国保中央病院 小児科病棟（一部の学生） 奈良県立医科大学附属病院 新生児集中治療部 NICU・GCU（全員） 実習方法 原則として、病棟では入院している患児を受け持ち、看護を展開する。 NICU・GCUでは、見学実習を行う。 詳細は小児看護学実習要項参照のこと。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修 実習要項に記載している事前学習を参照して、自己学習をする。 事後学修 実習内容を振り返り、実習記録に整理し期限までに提出する。
テキスト	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ資料や看護過程演習録、及び人間発達論、人体構造学、人体機能学、病態医学、栄養学、薬理学、看護技術学など3年次までに学習した内容を資料として活用できるように整理して1つのファイルにまとめておくこと。
参考書	実習中に提示する。
学生へのメッセージ等	実習は“子ども”が対象であるため、小児期に罹る伝染性疾患（風疹、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎）の抗体価が低い学生は、実習までに予防接種を受けるなど何らかの対処をしておくこと。また、11月以降に実習する学生は、インフルエンザについても、同じく予防接種を受けるなどの対処をしておくこと。予防接種を受けるなどの対処をしていない場合は、実習の履修ができないことがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
上田 佳世			
添付ファイル			

全担当教員	上田 佳世/乾 つぶら		
概要	ライフサイクルの中で、妊娠・出産・子育てを迎え経験する母親と子ども、父親/パートナーを含む家族を対象として、対象の身体的・心理社会的な変化と新たな生活への適応や健康課題に対する支援について学修する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □産褥期の女性の身体的変化、心理・社会的変化について説明できる □新生児の子宮外適応、健康と生理的变化について理解できる □子どもが誕生することで母親・父親/パートナーとその家族の役割や関係の再構築などの心理社会的な変化について理解できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □産褥婦および新生児の健康状態を把握するために必要な看護技術が理解し、実施できる □産褥婦と新生児のニーズや生活を捉えて、健康課題を支援する看護を理解できる □母子とその家族関係やその再構築に必要な支援について理解ができる □地域における母子の包括的な育児支援について説明ができる 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■小テスト2回（30%）《3.4》 ■レポート課題（20%）《3.4》 ■定期試験（50%）《3.4》 小テストは授業内容を單元ごとに知識を整理するために行います。 小テストでは知識を整理し次のステップに進めるチャンスですので、追再試は実施しません。体調管理をして授業に臨んでください。 レポートの提出期日や方法は授業中に提示します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 授業ガイダンス／産褥経過／褥婦のアセスメント	講義	上田 乾
	第2回 褥婦と家族の看護、産褥期の異常と看護	講義	上田
	第3回 進行性変化・授乳支援	講義	上田
	第4回 正常褥婦の看護過程① 第1回小テスト「産褥経過とアセスメント」	講義と演習	上田 乾
	第5回 退院との生活支援・子育て支援	講義	上田
	第6回 正常褥婦の看護過程②	講義と演習	上田 乾
	第7回 新生児の生理	講義	乾
	第8回 新生児のアセスメント	講義	乾
	第9回 新生児の看護	講義	乾

	第10回 新生児期の異常と看護 第2回小テスト「新生児の生理 アセスメント 看護」	講義	乾
	第11回 新生児の看護過程	講義と演習	上田 乾
	第12回 褥婦の健康観察・新生児の全身観察・清潔ケア等技術演習	演習	上田 乾
	第13回 産褥期の看護ケア、臨床での応用	講義と演習	看護教育講師
	第14回 異常分娩時（帝王切開術後、急速遂娩、異常出血、無痛分娩）の母児の看護	講義	乾
	第15回 地域における母子の包括支援	講義	ゲストスピーカー
授業外学修（事前学修・事後学修）	■事前学修：事前に、授業で学習する教科書の該当箇所を読む。 ■事後学修：授業中に提示した課題に取り組む。講義資料や教科書の該当箇所を再度読み直し、自分の言葉で説明できるといい。		
テキスト	1. 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 2. ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 太田操編著 医歯薬出版株式会社 第4版 3. 新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ 4. 病気がみえる Vol.10 産科 医療情報科学研究所(編) メディックメディア		
参考書			
学生へのメッセージ等	産褥期の女性は、心身の変化が著しい時期です。また新生児は出生後に劇的な変化をします。産褥期・新生児期の経過を理解して母子と家族がより健康に過ごせるような支援ができるよう基本的な専門知識と技術を学修しましょう。 授業は実習に関連する内容が多いです。臨床での母子の看護に活かすことができるよう頑張ってください。 ※授業テーマおよび小テスト日程は授業の進捗及び授業形態によって変更することがあります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2	必修
担当教員			
上田 佳世			
添付ファイル			

全担当教員	上田 佳世／乾 つぶら／五十嵐 稔子
概要	妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、対象者と家族に必要な看護実践能力をする。 分娩の立会いや産後の母子の看護を通して生命の尊厳と人間尊重の態度を養う。
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 周産期にある母子の生命の尊厳と人間尊重の態度を示すことができる 2 創造性、探究力、国際的視野 3 知識、批判的思考力 ☐ ウェルネスの視点を取り入れた看護過程が展開できる ☐ 産褥婦の身体的変化（退行性変化・進行性変化）、心理社会的変化のアセスメントができる ☐ 子宮外生活の適応、新生児期の生理的な変化や特徴と健康を逸脱した状態をアセスメントができる 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 産褥婦の健康、母親役割や母児の愛着形成を促す看護を実施できる ☐ 新生児の健康や成長発達を促すための看護（保清・抱っこ・オムツ交換など）を実施できる ☐ 母子や父親・パートナーと家族の関係の再構築を支援する看護や継続した支援の必要性が説明できる 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 対象者と関係構築に必要なコミュニケーションをとることができる ☐ 周産期医療のチームの一員として報告、連絡、相談ができる
評価方法	①実習目標の達成状況（実践と記録） ②ケースカンファレンス ③テーマカンファレンス ④事前学修 ⑤実習の姿勢 を総合的に評価する。①～⑤の合計100%≪1. 3. 4. 5≫ ※詳細は、実習要項を参照のこと
授業計画	1. 実習施設 奈良県立医科大学附属病院 E棟5階 2. 実習期間 2週間（学内実習を含む） 3. 実習内容 1) 実習オリエンテーション 2) 産褥および新生児の看護展開（1～2組の母子を受け持つ） 3) 見学実習（集団指導・乳児健診他） 4) 学内実習はケースカンファレンスおよびテーマカンファレンスを行う ※詳細は母性看護学実習要項を参照のこと
授業外学修（事前学修・事後学修）	★事前学修 以下の内容をファイルにまとめ実習に持参すること 1) 実習目標をたてる 2) 母性看護学に関する関心あるテーマについて考える 3) 看護計画（経膈分娩・帝王切開術後の産褥期・新生児期の看護） 4) 分娩期の看護 5) 新生児の子宮外適応、生理的变化や特徴 6) 産褥期・新生児期の健康を逸脱した状態や必要な医療ケア ※1)～6)の他の詳細は、実習要項を参照のこと
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版
参考書	新体系看護学全書 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 新生児ベーシックケア 医学書院
学生へのメッセージ等	母性看護学概論および援助論Ⅰ・Ⅱを通して学修した看護を産褥婦と新生児を主な対象として実践します。産後の入院期間は1週間程度と短い期間の受け持ちをさせていただきます。そのため、産褥婦と新生児とその家族が、退院後もより健康な状態で過ごせるよう支援が必要です。母親の気持ちに寄り添い、新しい家族を迎える家族への支援についても考えていきましょう。妊娠・出産を迎えたお母様とお子様の看護を通していのちの尊さや、ライフサイクルを通して家族の新たな出発点になる看護の重要性について深く学んでほしいです。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3 年	1	必修
担当教員			
奥田 淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田 淳 / 高島 佳之		
概要	精神看護に関する基礎的な知識を理解し、精神に健康問題を持つ人とその家族のアセスメントと看護援助の方法について修得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □精神に障害がある人の健康レベルを生育歴や発達課題をふまえて成長発達に応じてアセスメントすることを適切に実施できる。 □精神に障害がある人のと家族における社会的問題を理解し、対象と家族の生活を適切にアセスメントできる。 □精神に障害がある人の病態や精神機能、自我機能、対人関係能力をふまえて生物・心理・社会的側面から対象を理解し、根拠に基づいた支援を計画的に適切に実施できる。 4 実践力、応用力、共感能力 □精神医療福祉における治療的アプローチに基づいた実践を。 □リカバリーやストレングスに基づいた支援を適切に実施できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期テスト：50% 《3, 4》 ■小レポート 3回：30% 《3, 4》 ■看護過程の記録：10% 《3, 4》 ■グループワーク、発表に対する参加状態と態度：10% 《3, 4》		
授業計画	授業内容		授業形態
	第1回	2025年4月10日（木） 主な精神疾患と看護① 統合失調症の看護 統合失調症の病態、治療、看護の理解 ・主な症状 ・発症の要因 ・主な治療 ・看護	講義
	第2回	2025年4月17日（木） 主な精神疾患と看護② 気分（感情）障害の看護 気分障害の病態、治療、看護の理解 ・主な症状 ・発症の要因 ・主な治療 ・看護	講義
	第3回	2025年4月24日（木） 対象理解と看護過程① （事例による看護過程の展開 情報の整理とアセスメント） 統合失調症患者の事例による看護過程（講義・グループワーク） ・看護過程の進め方のオリエンテーション ・記録用紙への情報の整理 ・記録用紙別のアセスメントの理解	講義・演習
	第4回	2025年5月1日（木） 主な精神疾患と看護③ 神経症・パーソナリティ障害・摂食障害の看護 不安障害、解離性障害、重度ストレス反応および適応障害、適応障害、パーソナリティ障害、摂食障害の病態、治療、看護の理解 ・主な症状 ・発症の要因 ・主な治療 ・看護	講義

第5回	2025年5月8日（木） 対象理解と看護過程②（事例による看護過程の展開 アセスメント） 統合失調症患者の事例による看護過程（講義・グループワーク） ・記録用紙別のアセスメントの理解 ・基本的情報のアセスメント ・精神機能のアセスメント ・生物・社会・心理的側面からのアセスメント	講義・演習	奥田／高島
第6回	2025年5月15日（木） 主な精神疾患と看護④ アディクション患者の看護 アディクション（依存症）の病態、治療、看護の理解 ・主な症状 ・発症の要因 ・主な治療 ・看護	講義	奥田
第7回	2025年5月22日（木） 精神看護専門看護師の役割と多職種連携 精神科専門看護師の役割の実際と多職種連携を理解する ・精神科専門看護師の業務 ・精神医療保険福祉チーム ・専門看護師による支援における精神障害をもつ人の回復について 【レポート課題①】授業終了後、以下の内容を記載 ・レポートテーマ：講義を受けての学びと感想 ・字数：500文字	講義 演習	ゲストスピーカー
第8回	2025年5月29日（木） 精神の障害のある人への回復への支援② メリデン版訪問家族支援 精神障害をもつ人とその家族への支援の実際を理解する ・精神に障害がある人の家族の体験 ・メリデン版訪問家族支援 【レポート課題②】授業終了後、以下の内容を記載 ・レポートテーマ：講義を受けての学びと感想 ・字数：500文字	演習	ゲストスピーカー
第9回	2025年6月5日（木） 対象理解と看護過程③（事例による看護過程の展開 全体像の把握） 統合失調症患者の事例による看護過程（講義・グループワーク） ・全体像の書き方の理解 ・情報やアセスメントの関連性を図に示し、看護課題を検討する	講義	奥田／高島
第10回	2025年6月12日（木） 精神の障害のある人への回復への支援② 心理療法（心理教育、SST） 心理療法の実際を理解する ・認知行動療法、社会技能訓練における理論的背景の理解 ・認知行動療法、謝期技能訓練の具体的な方法の理解 ・認知行動療法を使ったグループワーク	講義・演習	奥田／高島
第11回	2025年6月19日（木） 対象理解と看護過程④（事例による看護過程の展開 看護目標・看護計画立案） 統合失調症患者の事例による看護過程（講義・グループワーク） ・看護目標・看護計画立案の理解 ・リカバリー・ストレングスの概念を用いた看護計画 ・動機付けの方法を用いた看護計画	講義・演習	奥田／高島
第12回	2025年6月26日（木） 精神の障害のある人への身体への支援 精神に障害のある人の身体疾患やその支援 ・薬物療法による合併症とその支援 ・行動制限に伴う合併症とその支援 ・侵襲を伴う治療とその看護	講義	奥田
第13回	2025年7月3日（木） 対象理解と看護過程⑤（事例による看護過程の展開 看護計画立案）	講義	奥田／高島

	統合失調症患者の事例による看護過程（講義・グループワーク） ・生物・心理・社会的側面に基づいた具体的な看護計画の立案 【全体像・看護計画の提出】 ・グループで作成した全体像と看護計画を提出 【看護過程記録用紙の提出】 ・個人で作成した看護過程記録用紙を提出する		
第14回	2025年7月10日（木） 医療観察法病棟の看護師の役割 医療観察法入院処遇病棟の看護師の役割を理解する ・医療観察法入院処遇病棟の施設構造、人員配置、安全管理 ・医療観察法入院処遇における看護師の役割の実際 ・医療観察法入院処遇における多職種連携による治療プログラム 【レポート課題③】授業終了後、以下の内容を記載 ・レポートテーマ：講義を受けての学びと感想 ・字数：500文字	講義	ゲストスピーカー
第15回	2025年7月17日（木） 事例による看護過程の展開⑥ まとめ・グループ発表 統合失調症患者の事例による看護過程（講義・グループワーク） ・グループによる発表 - 全体像・看護計画の発表 - 質疑、意見交換	講義・演習	奥田／高島
授業外学修（事前学修・事後学修）	1）事前学修：各回の講義テーマにそって教科書を読み、知識を深める。「事例による看護過程の展開」のときは、事例をよく読み、事例に示している対象となる人の特徴を把握する。 2）事後学修：授業で説明された内容に関して、看護系雑誌や図書を読んで知識を深める。「事例による看護過程の展開」のときは、授業時間内にできなかった記録の整理をおこなう。		
テキスト	1) 武井麻子他「系統看護学講座 専門2 精神看護学① 精神看護の基礎」、医学書院 2) 武井麻子他「系統看護学講座 専門2 精神看護学② 精神看護の展開」、医学書院 3) 宇佐美しおり・鈴木啓子「オレムのセルフケアモデル―事例を用いた看護過程の展開―」、NOUVELLE HIROKAWA		
参考書	遠藤淑美他編 統合失調症の看護ケア、中央法規 フランク・ゴープル著/小口忠彦監訳「マズローの心理学―第三勢力」、産能大学出版 服部祥子著「生涯発達人間論―人間への深い理解と愛情を育むために」、第2版、医学書院 チャールズ・A・ラップ/リチャード・J・ゴスチャ著、田中英樹監訳「ストレングスモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス 第3版」、金剛出版 カタナ・ブラウン編、坂本明子監訳「リカバリー希望をもたらすエンパワメントモデル」、金剛出版 萱間真美「リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術」、医学書院		
学生へのメッセージ等	精神障害をもつ人の主な精神症状やそれに対する具体的な援助、また、精神障害をもつ人の家族への支援の方法などを学習します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3 年	2	必修
担当教員			
奥田 淳			
添付ファイル			

全担当教員	奥田 淳 / 高島 佳之 / 橋本 顕子
概要	精神機能や自我機能障害から生じる症状や日常生活上の困難について理解し、対象者の心理・身体・社会的側面から個別的な援助が実践できる基礎的能力を身につける。また、病院から地域への連続した看護を対象者の環境や精神保健医療福祉、倫理的視点から考える。
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 病院から地域への連続した看護について、対象者の環境や精神保健医療福祉、倫理的視点から考察し、対象となる人を包括的にアセスメントすることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 精神機能や自我機能障害から生じる症状や日常生活上の困難について理解し、対象者の心理・身体・社会的側面から個別的な援助が実践できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —
評価方法	■実習における実践と実習記録：90%《3, 4》 ■カンファレンスへの参加態度：10%《3, 4》
授業計画	1. 実習時間および実習施設 1) 実習時間 9:00～16:00 2) 実習施設 (1) 奈良県立医科大学精神医療センター D病棟 (2) 奈良県立医科大学附属病院精神医療センター デイケア「まほろば」 社会福祉法人 萌 及び 寧楽（なら）ゆいの会 2. 実習方法 1) 実習目標の設定 2) 精神障害を持つ入院中の患者1名を受け持ち、看護を展開する 3) 原則として毎日カンファレンスを開き、実習の振り返りを行う 4) 対象者との治療的コミュニケーション技術を高めるためにプロセスレコードなどを活用する 5) 実習施設内デイケア、もしくは事業所に1日参加する 6) 実習内容 1週目；看護過程における実習記録を整理し、不足している情報を明らかにすると共に、患者の看護課題を明確にする。 プロセスレコードを用いたカンファレンスを行い自己洞察を深める。 2週目；看護計画に沿って、看護を実践する。実習記録をまとめる。 1週目、2週目のどちらかに事業所、デイケア棟で実習を行う。
授業外学修（事前学修・事後学修）	1) 事前学修：実習開始前は、精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱで学習した理論や概念、疾患の特徴とその看護を学習する（実習要項の事前学習内容を参照）。実習開始後は、日々の実習の前日に受け持ちの対象となる人の看護を展開できるように、対象者の疾患や症状、その看護、治療をテキストや参考図書、その他の資料を活用し学習する。 2) 事後学修：日々の実習終了後、対象理解を深めるために、また、個別性のある看護を展開するために疑問に思ったことや分からなかったことをテキストや参考図書、その他資料を活用して学習し、理解する。
テキスト	
参考書	武井麻子他編著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」、医学書院 武井麻子他編著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開」、医学書院 宇佐美しおり・鈴木啓子著「オレムのセルフケアモデル―事例を用いた看護過程の展開―」、NOUVELLE HIROKAWA 萱間真美「リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術」、医学書院 服部祥子著「生涯人間発達論―人間への深い理解と愛情を育むために―」、第2版、医学書院 上野恭子監修「目で見える精神看護 第2版 Vol.1 精神科医療と福祉の現状」、医学映像教育センター 岡田佳詠監修「目で見える精神看護 第2版 Vol.2 精神看護実習」、医学映像教育センター 岡本隆寛監修「目で見える精神看護 第2版 Vol.3 病院から地域社会へ」、医学映像教育センター 武井麻子監修「精神障害者の地域生活支援」、京都科学 武井麻子監修「精神疾患の理解と看護 ①統合失調症」、京都科学 金子真理子監修「精神看護のためのアセスメント事例集 Vol.1 うつ病の患者事例」、医学映像教育センター 森千鶴監修「精神看護のためのアセスメント事例集 Vol.2 統合失調症急性期の患者事例」、医学映像教育

	センター 伊藤桂子監修「精神看護のためのアセスメント事例集 Vol.3 統合失調症慢性期の患者事例」. 医学映像教育センター 加藤志ほ子監修「心理臨床を学ぶ Vol.3 心理アセスメント（心理査定）」. 医学映像教育センター 水野雅文監修「病気の基礎知識 病気の成因・病態と治療 Vol.8 精神の領域」. 医学映像教育センター
学生へのメッセージ等	授業において学習した知識と技術を活用し、対象を理解するとともに、自己理解を深めてください。

6 4年次開講科目の授業内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	2	必修
担当教員			
村上 真			
添付ファイル			

全担当教員	村上 真		
概要	現代における社会・行政についての基本的枠組みを理解した上で、保健・福祉および医療分野で問題となる事項についての検討能力を培う。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □日本国在住者として日本の基本的な行政の仕組みを説明できる。 □社会保障にかかわる専門職者として基礎的な保健・医療・福祉の制度やその課題を説明できる。 □様々な制度が構築されまた改革される文脈を説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	平常点：授業時における小テスト・感想等の提出（20％）《3》 期末試験：筆記試験（80％）《3》：保健・福祉・医療分野において、どのようなサービスがどのような方法で国民に提供されているか、特に行政の観点から、基本的な知識を踏まえた上で説明できるかを問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 はじめにー保健医療福祉行政の枠組みー	講義	村上
	第2・3回 保健医療福祉制度の枠組み 厚生行政、医療行政、保健行政	講義	村上
	第4・5回 保健医療福祉制度の枠組み 福祉行政、福祉六法	講義	村上
	第6・7回 国と地方公共団体の財政の仕組み 国の財政、地方財政	講義	村上
	第8・9回 社会保障の給付と財源 社会保障の給付、社会保障関係費	講義	村上
	第10・11回 社会保障の給付と財源 医療費、地方公共団体の社会保障	講義	村上
	第12・13回 近年の改革の特徴と動向 介護保険制度、後期高齢者医療制度等	講義	村上
	第14・15回 近年の改革の特徴と動向 ② 精神保健福祉法、障害者総合支援法等	講義	村上

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に前回の授業内容の重要なポイントを振り返り、疑問点等があれば整理しておくこと。疑問点等を授業中また授業後に解消できるようにすること。
テキスト	『保健医療福祉行政論』医学書院（最新版）
参考書	講義中に適宜指示する。
学生へのメッセージ等	現代では保健・福祉および医療分野の業務に従事する人々は、中央省庁・地方自治体が定める制度・政策の枠組みや社会保険制度の枠組みの中で日々活動することになる。特にこれら「行政」の観点から、それぞれの進路についての理解を深めてもらいたい。

講義科目名称： 疫学

授業コード： K080180

英文科目名称： Epidemiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	選択
担当教員			
佐伯 圭吾			
添付ファイル			

全担当教員	佐伯圭吾、大林賢史、山上優紀		
概要	疫学は、集団の健康状態や疾病発生の分析から、危険因子や防御因子を発見する。また危険因子を除去し、防御因子を増強することで、健康増進と疾病予防を行う学問である。本講義の目的は、疫学研究の基本的な知識を習得することである。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 疫学研究方法の基本的仕組みを理解する ☐ 各疫学研究方法の強みおよび限界点を理解する ☐ 誤差や交絡因子の影響を理解する 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■小テスト (10%) 《3》 ■定期試験 (90%) 《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月10日 (木) 疫学とはなにか 過去の疫学研究事例を紹介	講義	佐伯
	第2回 2025年4月17日 (木) 疾病発症の危険因子と防御因子 疾病発症モデル 多要因原因説	講義	佐伯
	第3回 2025年4月17日 (木) 誤差 標本の抽出、標本サイズ、信頼区間、バイアス	講義	佐伯
	第4回 2025年4月24日 (木) 疫学指標 有病率、罹患率、相対危険、寄与危険	講義	佐伯
	第5回 2025年4月24日 (木) 交絡因子 交絡の定義、直接法による年齢調整・SMR (標準化死亡比)	講義	佐伯
	第6回 2025年5月1日 (木) 生態学的研究、横断研究 生態学的錯誤、関連の時間性	講義	佐伯
	第7回 2025年5月1日 (木) 症例対照研究 オッズ比	講義	佐伯
	第8回 2025年5月8日 (木) コホート研究 前向きコホート研究、歴史的コホート研究	講義	佐伯
	第9回 2025年5月8日 (木) 無作為化比較試験 プラセボ効果、マスキング、根拠に基づく医療 (EBM)	講義	佐伯
	第10回 2025年7月3日 (木) 睡眠障害の疫学	講義	大林
	第11回 2025年7月3日 (木) がん、循環器疾患、フレイルの疫学	講義	佐伯

	第12回	2025年7月10日（木） 疫学演習 1	演習	山上 佐伯
	第13回	2025年7月10日（木） 疫学演習 2	演習	山上 佐伯
	第14回	2025年7月17日（木） 感度と特異度	講義	佐伯
	第15回	2025年7月17日（木） 環境疫学	講義	佐伯
授業外学修（事前学修・事後学修）	テキストを読み、事前・事後学修に取り組んでもらいたい。			
テキスト	看護学生のための疫学・保健統計（建帛社）			
参考書	講義中に紹介する。			
学生へのメッセージ等	講義中は、積極的に議論に参加してもらいたい。適宜、国家試験対策の練習問題にも取り組む予定である。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4 年	2	選択
担当教員			
村上 真			
添付ファイル			

全担当教員	村上 真		
概要	保健医療福祉行政論Iを踏まえた上で、保健・福祉および医療分野で問題となる事項についてのなお一層の検討能力を培う。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 - 2 創造性、探究力、国際的視野 - 3 知識、批判的思考力 □保健師の主要な活動の場としての国や地方公共団体の制度について説明できる。 □地方公共団体や各関係機関の役割について説明できる。 □地方自治の制度と日常の活動についての関わりを説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	平常点：授業時における内容に関する小テスト・意見などのペーパーの提出（20％）《3》。 定期試験：筆記試験（80％）《3》。日本の保健・福祉・医療制度の特徴や各地域の保健行政の取組について、特に保健サービスの特徴や日本の行政制度についての十分な理解のもと説明できるかを問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 社会保障制度と公衆衛生行政 ① 目的と根拠 方法と財源 行政的給付 社会保険	講義	村上
	第2回 社会保障制度と公衆衛生行政 ② 国と地方公共団体の役割 地方分権と保健師の役割	講義	村上
	第3回 社会保障制度と公衆衛生行政 ③ 国と地方公共団体の財政の仕組み 国庫補助金 財政移転	講義	村上
	第4回 保健行政の仕組み ① 市町村と都道府県の役割と組織 保健所・市町村保健センター	講義	村上
	第5回 保健行政の仕組み ② 労働衛生 環境衛生 学校保健	講義	村上
	第6回 社会福祉行政の仕組み ① 生活保護 児童福祉 母子・寡婦福祉	講義	村上
	第7回 社会福祉行政の仕組み ② 障がい者福祉 高齢者福祉	講義	村上
	第8回 社会福祉行政の仕組み ③ 社会福祉基礎構造改革 等 日常生活自立支援制度と成年後見制度	講義	村上
	第9回	講義	村上

	医療サービスの仕組み ① 国の役割 地方自治体の役割		
	第10回	講義	村上
	医療サービスの仕組み ② 医療提供体制 診療報酬制度		
	第11回	講義	村上
	地域とその他の社会保障制度① 介護保険 年金保険等		
	第12回	講義	村上
	地域とその他の社会保障制度② 介護保険 地域福祉等		
	第13回	演習	村上
	演習① 各国の住民意識と保健医療福祉制度 各国の意識調査		
	第14回	演習	村上
	演習② 奈良県の保健医療福祉計画 地域の重点課題の読み取り		
	第15回	講義・演習	村上
	演習③ 奈良県の保健医療福祉計画 自治体と行政 保健師の役割		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に前回の授業内容の重要ポイントを振り返り、疑問点等を整理しておくこと。 授業中また授業後に疑問点等を解消できるようにすること。		
テキスト	『保健医療福祉行政論』医学書院（最新版）		
参考書	講義中に適宜指示する。		
学生へのメッセージ等	保健師課程選択学生の必修科目です。		

講義科目名称： 緩和ケア論

授業コード： K120960

英文科目名称： Palliative Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1	必修
担当教員			
添付ファイル			

全担当教員	以下、別途通知
概要	
目標	
評価方法	
授業計画	
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	
参考書	
学生へのメッセージ等	

講義科目名称： 看護管理論

授業コード： K080950

英文科目名称： Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

全担当教員	川上 あずさ／撫養 真紀子／附属病院看護部		
概要	看護職および看護組織の役割・機能を理解し、看護管理における現状と課題について理解を深め、保健医療福祉において看護専門職が力を発揮していくための考え方を学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 看護における専門職の理論を学び、看護専門職の意義について理解できる。 ☐ 看護管理の基礎的な理論や内容、看護サービスの質保証の意義を理解できる。 ☐ 背景にある社会情勢や医療制度の変化をふまえたうえで看護管理における現状と課題および展望について考察できる。 4 実践力、応用力、共感能力 看護における組織体制とその役割・機能とその実際について説明できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 看護サービスのマネジメント・プロセスについて理解できる。 ☐ チームの一員として協働するためのコミュニケーション能力について説明できる。		
評価方法	■前半4回分の課題レポート50%《3, 5》 ■後半4回分は、定期試験30%《4, 5》と課題20%《5》の評価とします。 前半の課題レポートは、事後学習としてテーマに沿ってまとめる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月21日（月） 看護専門職と看護管理	講義	撫養
	第2回 2025年4月21日（月） リーダーシップとフォロワーシップ	講義・グループワーク	撫養
	第3回 2025年4月28日（月） 組織変革の方法と変革理論	講義・グループワーク	撫養
	第4回 2025年4月28日（月） 看護専門職のキャリア開発	講義	撫養
	第5回 看護サービスに対する管理と実際 1	講義	附属病院看護部
	第6回 看護サービスに対する管理と実際 2	講義	附属病院看護部
	第7回 看護サービスに対する管理と実際 3	講義	附属病院看護部
	第8回 看護の専門性とは 課題レポートの作成	講義・グループワーク	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、テキストの授業内容に該当する範囲を読んでおくこと。 事後学修として、授業時の資料を確認しながら内容をふかめること。		
テキスト	手島恵編集：看護管理学、南江堂		

参考書	授業の中で適宜紹介する。
学生へのメッセージ等	社会、経済状況についても平素から関心をもち講義内容に関連する文献や記載物を読んでください。

講義科目名称： リハビリテーション看護

授業コード： K080560

英文科目名称： Rehabilitation Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	必修
担当教員			
石澤 美保子			
添付ファイル			

全担当教員	石澤 美保子／松田 常美／森脇 裕美／堀井 えりな		
概要	加齢や疾患によりリハビリテーション看護が必要となる対象とその家族の精神・身体・社会的機能障害についてを学び、廃用症候群の予防、日々の活動、社会参加の促進へ向けた支援方法について理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ リハビリテーションを必要とする人の特徴、リハビリテーション看護の概念を説明できる。 ☐ 生活機能障害をもつ人とその家族が体験する障害の世界について理解できる。 ☐ 生活の再構築を必要とするような健康状態の人に対して、リハビリテーション看護としての合併症の予防、および身体的・心理社会的な健康の最善の回復と維持を理解し、各々に対してアセスメントできる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 急性期・回復期・維持期のリハビリテーションの場と看護の目的・方法を説明できる。 ☐ おもな生活機能障害をもつ人のアセスメントと援助方法、予防的視点での援助技術を適切に実施できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ リハビリテーション看護におけるコミュニケーションをとるための技能および姿勢を示すことができる。 ☐ リハビリテーション看護における他職種との連携を目的とするチームアプローチを理解し、看護専門職者の役割および自己の課題を示すことができる。		
評価方法	■ 中間試験（筆記試験）1回≪3≫（85％）5月27日 ■ 第4回目授業時レポート2回≪4, 5≫：演習事前課題と事後課題（10％） ■ Note of lectureの記載状況≪3≫（5％） ■ なお、上記にて59％以下の者には前期定期試験期間中においてレポート試験を実施する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月10日（木） 4限目 リハビリテーションとは ・リハビリテーションの語源、位置づけ ・リハビリテーション看護の概念 ・チームアプローチと看護師の役割・専門性 ・国際生活機能分類（ICF）の考え方 ・リハビリテーションを必要とする人の特徴 ・リハビリテーション看護展開のポイント	講義	石澤 美保子
	第2回 2025年4月10日（木） 5限目 生活機能障害別リハビリテーション看護 疾患別リハビリテーション看護：高次脳機能（認知機能）障害患者 ・高次脳機能障害の特徴 ・高次脳機能障害のリハビリテーションの流れと看護の役割	講義	石澤 美保子
	第3回 2025年4月15日（火） 3限目 身体機能維持のための看護－フットケア－ 転倒・転落を防ぐこと、足を見るための看護技術 ・高齢者の転倒・転落・骨折・寝たきりにならないためのフットケア ・足の生活習慣病とは何かを知る ・フットケアに必要な解剖・生理 ・予防的フットケアと医療フットケア（ハイリスク疾患におけるフットケア）について	講義	石澤 美保子
	第4回 2025年4月22日（火） 3限目4限目 身体機能維持のための看護－フットケア演習－（演習は2グループに分かれて行う予定） フットケアのためのアセスメントと予防ケアが実施できる 【事前課題】系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学⑥（医学書院）P2-3に対し、フットケアと指導を行うためにテキ	演習	石澤 美保子 松田 常美 森脇 裕美 堀井 えりな 皮膚・排泄ケア特定認定看護師

	スト（新はじめよう！フットケア、日本看護協会出版会）を読んで必要な知識を配布された課題用紙にまとめる。 【演習】 1. 教員による解説とデモンストレーション 2. 素足になり学生同士でフットアセスメントを実施する（色鉛筆にて描写） 3. 学生同士で患者・看護師役交代で爪切りの実施 4. フットケアモデル（京都科学）を用いて足病変（巻き爪、肥厚爪、胼胝、鶏眼）がある場合のフットケアを実施する（やすり、ニッパー、コーンカッターの使い方）。 5. 質疑応答、まとめ 【事後課題】 演習記録（A4用紙2枚、演習当日配布分）を完成させて、指定の期日までに成人急性期看護学の指定のボックスに提出する。		
第5回	2025年5月13日（火） 3限目 疾患別リハビリテーション看護：脳卒中患者 ・脳卒中の病態生理と発症による心身・生活への影響 ・脳卒中発症後のリハビリテーションの流れと看護の役割 ・廃用症候群の予防と生活期（維持期）の看護	講義	石澤 美保子
第6回	2025年5月13日（火） 4限目 生活機能障害別リハビリテーション看護 感覚器障害とリハビリテーション看護：聴覚障害患者、嚥下障害患者 ・聴覚障害の病態生理と発症による心身・生活への影響 ・聴覚障害のリハビリテーションの流れと看護の役割、コミュニケーションの方法 ・嚥下の生理学的メカニズム ・嚥下障害をもつ人の観察・ケア・指導のポイント ・嚥下障害による心身・生活への影響と看護の役割	講義	石澤 美保子
第7回	2025年5月20日（火） 3 限目 生活機能障害別リハビリテーション看護 感覚器障害とリハビリテーション看護：視覚障害患者 ・視覚障害の病態生理と発症による心身・生活への影響 ・視覚障害のリハビリテーションの流れと看護の役割	講義	石澤美保子
第8回	2025年5月27日（火） 3限目 リハビリテーション看護まとめ 中間テスト リハビリテーション全8回のまとめ ・生活機能障害別、疾患別リハビリテーションの流れと看護の役割 ・中間試験	講義	石澤 美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布した場合）を熟読し、講義に臨むこと。第4回目4月22日（火）の演習に向けての事前学習レポート課題がある。 事後学修：学修した内容をふまえた授業の復習または課題に取り組むこと。第4回目4月22日（火）演習後に演習記録の提出がある。		
テキスト	■リハビリテーション看護 スーヴェルヒロカワ （上記テキストは毎回の講義時必ず持参すること） ■新はじめよう！フットケア 日本看護協会出版会		
参考書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	これまで学んだ医学の専門基礎分野、基礎実習、領域実習を含めた看護学の専門分野の既習内容をふまえ、4年生としての視点でリハビリテーション看護を修得してください。		

講義科目名称： 看護研究特論

授業コード： K090810

英文科目名称： Research Methodology for Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	4 年	1	必修
担当教員			
看護学科教員(コーディネーター:看護教育部長)			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科教員(コーディネーター:看護教育部長)		
概要	この科目は、既習の諸学および領域実習、統合実習等において得た知識や思考を活用し、研究テーマの絞り込みから研究計画書の作成までの行程を学ぶ。 授業の前半では看護研究の意義や概要を学ぶ。授業の後半は、自分の関心のある領域を選択し、その看護領域の担当教員やグループメンバーとのディスカッションを通して自分の研究課題を絞り込んで研究計画書を立案する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 □看護研究の意義について理解し、自分の研究課題における研究の背景・意義について、担当教員およびグループメンバーに伝えること、および研究計画書に記載できる。 □看護研究の倫理について理解し、自分の研究課題において起こりうる倫理的問題および倫理的配慮を研究計画書に記載できる。 □研究のプロセス、研究デザインの種類を理解し、自分の研究課題における研究の目的および方法について、担当教員およびグループメンバーに伝えることができ、研究計画書を完成させることができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 □研究論文の作成と発表方法について説明できる。 □文献検討の意義を理解し、自分の研究課題にあったデータベースを用いて文献検索ができる。 □英語研究論文の講読について理解し、自分の研究課題に関する英語研究論文を選択し活用することができる。 3 知識、批判的思考力 - 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -		
評価方法	■研究計画書(80%) 《1,2》 ■演習(グループワークを含む)における態度、参加状態(20%) 《1,2》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月9日(水) 1限目 看護研究の意義と研究のプロセス 【目標】看護研究の意義およびプロセスについて説明できる。	講義	升田茂章
	第2回 2025年4月9日(水) 2限目 文献検索の方法 【目標】看護研究で用いるデータベースの種類と特徴を理解し、文献検索の方法を説明できる	講義・演習	図書館司書 (教育部長)
	第3回 2025年4月16日(水) 1限目 文献検討の意義および方法 【目標】看護研究における文献検討の意義を理解し、一次的文献検索により研究テーマを絞り込む方法を説明できる。	講義	松田常美
	第4回 2025年4月16日(水) 2限目 研究デザインおよび研究計画書 【目標】研究デザインの種類、研究の各段階のステップ、研究計画書の形式・具体的な記載内容を説明できる。	講義	佐藤郁代
	第5回 2025年4月23日(水) 1限目 看護研究における倫理 【目標】看護研究において起こりうる倫理的問題、配慮すべき内容およびその配慮方法を説明できる。	講義	上田佳世
	第6回 2025年4月23日(水) 2限目 量的研究 【目標】量的研究の概要、データ収集および分析の方法を説明できる。	講義	坂東春美
	第7回 2025年4月30日(水) 1限目 質的研究 【目標】質的研究の概要、方法を理解し、文献研究の意義、目的、データ収集および分析の方法を説明できる。	講義	奥田淳

	第8回	2025年4月30日（水） 2限目 研究成果のまとめと発表方法 英語研究論文の講読 【目標1】 研究論文の作成と発表方法を説明できる。 【目標2】 英語研究論文の講読について説明できる。	講義	山内基雄
	第9回～第15回	2025年5月7日（水） 5/7～28の毎週水曜日、1・2限 *配置された各領域において、看護研究の基盤となる内容を文献検討し（一次的文献検討）、グループワークなどを通して学習を深め、研究計画書を完成させる。 *看護研究オリエンテーション（領域発表も含む）は、4月の予定。 *看護研究計画書の提出日：要項を確認すること。 *第9回目以降の演習は、基本的には毎水曜1・2限目。ただし、領域により別途時間を変更することがあるので、必ず確認すること。	演習	各看護領域担当教員
授業外学修（事前学修・事後学修）	【第1回から第8回までの講義】 ●事前学修：各単元の授業内容に沿ったテキスト「看護における研究」の範囲を熟読し、内容を把握して講義に臨むこと。 ●事後学修：配布された資料も用いて学習した内容を復習すること。 【第9回から第15回までの演習】 ●事前学修：担当教員から指示された内容について、調べたり考えたことをレポートにまとめて演習に参加する。 ●事後学修：準備したレポートについて、演習での学びや考えたことにより修正、加筆し研究のプロセスをすすめる。 ●事前学修・事後学修の具体的な内容・方法については、各担当教員から説明があります。			
テキスト	編 南裕子・野嶋佐由美（2017）看護における研究（第2版），日本看護協会出版会			
参考書	編・著 小笠原知枝・松本光子（2012）これからの看護研究－基礎と応用－（第3版），ヌーベルヒロカワ 監訳 近藤潤子，著 D.F. ポーリット&C.T. ベック（2010）看護研究（第2版），医学書院			
学生へのメッセージ等	【4月～5月末まで：統合実習が始まるまで】 この授業は、第1回から第8回までの講義の後に、選択した自分の領域での学習が始まります。第9回から第15回までの演習は、自分の関心のある領域を選択し、その看護領域の担当教員やグループメンバーとのディスカッションを通して自分の研究課題を絞り込んで研究計画書を立案していきます。 【6月以降：統合実習終了後】 「看護研究（必修 2単位）」へと引き継がれ、立案した研究計画書に沿って自分の研究を実施し、その後は論文作成、抄録作成、看護研究発表会へと4年間の学びの集大成になります。看護専門職者としての大切な学びの基礎となる科目ですので、しっかり学習してください。			

講義科目名称： 看護研究

授業コード： K090820

英文科目名称： Nursing Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	2	必修
担当教員			
看護学科教員			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科教員(コーディネーター:公衆衛生看護学)
概要	1. 看護における研究の必要性、目的、方法論等を学習し、倫理観と看護観を養う。 2. 看護とは何かについて興味・関心を高め、科学的かつ論理的思考力、創造力を養う。
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護研究の意義、倫理的配慮の必要性を説明できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 □疑問や興味、関心を持った看護研究課題を見出すことができる。 □テーマに沿った文献検索および検討をすることができる。 □自らが選択した研究のテーマについて、研究計画を立案できる。 3 知識、批判的思考力 □研究計画に基づき、データの収集から解析、結果、考察、結論までの研究の流れを理解することができる。 □科学的かつ論理的思考力を活用して研究論文をまとめることができる。 4 実践力、応用力、共感能力 - 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント -
評価方法	教員または学生間の討論（看護研究発表会を含む）や論文を対象に、担当教員が次の観点から評価を行う。 1) 研究の着眼点、意義、必要性 2) 研究課題に対する探究方法の適切性 3) 研究の独自性 4) 論文の論理性、明瞭性、簡潔性 5) 論文としての形式条件の充足性 6) 研究に取り組む積極性、主体性 ■論文作成・研究発表（100%） 《1, 2, 3》
授業計画	時間割は前期（水）1・2時限、後期（水）2時限としているが、担当指導教員により時間割の変更が生じることもある。
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修： ①看護研究特論で作成した研究計画書を見直してみる。 ②キーワードを5つほど挙げてみる。 ③そのキーワードで研究されているかどうか、医学中央雑誌やPubMedなどの文献検索システムを用いて確かめておく（件数も控えておく）。 事後学修：看護研究発表会を経て得た気づきや学びをふまえて、自身が行った研究を見直し、必要に応じて論文や抄録を修正する。
テキスト	担当教員が授業中に適宜紹介する。
参考書	看護における研究（第2版），南裕子、野嶋佐由美（編），日本看護協会出版会，2017.
学生へのメッセージ等	研究は、自ら積極的に探し求めていく行動力が新たな発見につながる重要な要素です。疑問に思ったこと、気づきを大切にして、楽しみながら取り組んでいってください。調べてもわからないことや解決しないことなどは、担当領域の教員・グループの他学生から積極的に意見を求めるなど、能動的に動いていくことで探究力が養われていきます。ともに看護とは何かを追究していきましょう。

講義科目名称： 統合実習

授業コード： K120950

英文科目名称： Comprehensive Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	必修
担当教員			
看護学科教員			
添付ファイル			

全担当教員	看護学科教員
概要	統合実習は、看護の発展と探求を目的に、これまでの学びをもとに自分がさらに学びたい領域を選択したうえで、既習した知識、技術、態度を統合し、創造的、探究的思考と対象を尊重した看護実践能力を進展させる。さらに、統合実習での実践や学びを通して、看護の専門性についても考えて自らの看護観を深める。
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 対象の個別性に配慮した看護を深めることができる。 ☐ 複数の対象者の援助の優先順位とその根拠を考え、説明できる。 ☐ 看護の質を保証するための医療安全や危機管理の実践がわかり、説明できる。 4 実践力、応用力、共感能力 ☐ 学習課題の達成を目指して、主体的に実習に取り組み、看護援助技術を適切に実施できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ 看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップの実践を学び、看護をマネジメントする姿勢を示すことができる。 ☐ 保健・医療・福祉との連携、チーム医療および他職種との協働がわかり、実践する姿勢を示すことができる。
評価方法	■ 規定の実習時間の4/5以上出席できていることを前提とし、実習目標の到達度、実習への取り組み・態度、実習記録・レポート内容、カンファレンスの参加状況等により総合的に評価する《3, 4, 5》 ■ 評価方法の詳細は、各領域の統合実習要項に示す。《3, 4, 5》
授業計画	実習期間：6月2日（月）～ 6月27日（金）（うち2週間、具体的な日程は各領域の統合実習要項を参照のこと） ○成人急性期看護学（13名） ①医大C6病棟 ②医大B4病棟 ③医大B6病棟 ④医大中央手術部 ○成人慢性期看護学（13名） ①医大C5病棟 ②医大C7病棟 ③医大B8病棟 ○老年看護学（13名） ①医大B7病棟 ②医大B5病棟 ③医大C8病棟 ④済生会中和病院（地域包括ケア病棟） ○母性看護学（13名） ①医大E5病棟 ②奈良県内助産所 ③乳児院 ④子育て探索 ○小児看護学（13名） ①医大E7病棟（小児センター） ②医大E4病棟（新生児集中治療部（NICU・GCU）） ○精神看護学（13名） ①医大精神医療センター2階病棟 ②医大精神医療センター3階病棟 ③医大精神医療センター1階相談室 ④国立病院機構やまと精神医療センター 5 病棟（医療観察法病棟） ○在宅看護学（13名） ①橿原訪問看護ステーション ②訪問看護ステーションさくら ③ゆい訪問看護ステーション

	④訪問看護ステーションみそら ⑤西の京病院患者支援センター 実習方法： 1) 4月のガイダンスの際に、学生アンケートで希望を募って領域を決定する。 2) 詳細は各領域の統合実習要項を参照のこと。
授業外学修（事前学修・事後学修）	【事前学修】 ①1～3年における学内および臨床実習での学びを振り返り、選択した領域での統合実習において目的を達成するための自分の学習課題を抽出する。 ②自分の学習課題を解決するための目標を明確にしたうえで具体的に学習を進める。 【事後学修】 ①統合実習での学びをまとめて、卒業時点での自分の学習課題を明確にして、解決できるよう取り組む。 ②卒業後の看護者としての自分の学習課題および今後の展望を検討する。
テキスト	領域決定後に、各領域より提示する。
参考書	領域決定後に、各領域より提示する。
学生へのメッセージ等	統合実習は、看護学の発展と探索を目的に、これまでに学んだ知識・技術・態度の統合に加えて、看護管理、医療安全、チーム医療、関係職種との連携などの実際を学ぶ幅広い実習内容になります。最終学年での仕上げの実習でもありますので、目標達成に向けて積極的に取り組みましょう。

講義科目名称： 災害看護論

授業コード： K080910

英文科目名称： Disaster Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4 年	1	必修
担当教員			
西上 あゆみ			
添付ファイル			

全担当教員	西上 あゆみ		
概要	災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要である。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害サイクルに応じた人への影響、災害時に特徴的な看護課題や看護ニーズを学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 看護専門職者として、基本的な行動を行うことができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 日本における医療現場における災害対策についてその変遷と現在の対策を説明できる。 3 知識、批判的思考力 災害がもたらす看護の対象となる人々と地域への影響を説明することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 災害サイクルに応じた対応を理解し、発災前には自身と看護の対象となる人への備えの説明や実践の手助けができる。発災後はサイクルに応じた対応ができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント 災害対応における他職種連携について説明でき、被災した方へのふさわしいコミュニケーションや姿勢を示すことができる。		
評価方法	評価方法：授業への参加度とレポート（40％）《1, 2, 3, 4, 5》、テスト(60％)《1, 2, 3, 4, 5》。 評価基準：参加状況については出席カードへのコメントで学んだ内容が理解できているか、レポートでは課題について学んだ内容が記載され、授業中での振り返りを通して、加筆修正までできているかで評価する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 災害とは 1) 災害の定義と分類・特性 2) 災害サイクルと各期の特徴	講義	西上
	第2回 災害看護とは 1) 災害看護の定義 2) 災害時のニーズアセスメント 3) 災害時に特徴的な健康問題	講義	西上
	第3回 災害中・長期の看護 1) 避難所における看護活動 2) 中・長期における健康問題	講義	西上
	第4回 こころのケア 1) 被災者の心理 2) 災害時のストレス反応やPTSD 3) 被災者のメンタルケア	講義	西上
	第5回 要援護者へのケア 1) 災害時に子どもに起こること 2) 災害時に妊産婦に起こること 3) 災害時に慢性疾患患者に起こること 4) 災害時に高齢者に起こること	講義	西上
	第6回 災害への備え 1) 自己防災 2) 病院防災 3) 地域防災 4) ネットワークの構築	講義	西上
	第7回 救援活動(国内・国際) 1) 災害に対する国内の体制 2) 災害に対する国際的な体制 3) 支援活動	講義 演習	西上

	4) 救護者へのケア		
	第8回 まとめ（レポートの振り返りを含む）	講義 テスト	西上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：集中講義となる為、テキストは一読の上、講義に臨んでください。 事後学修：テキストでは「学習の振り返り」と国家試験の過去問題が示されているため、これに取り組んでおく。		
テキスト	三澤寿美・太田晴美：災害看護、学研		
参考書	酒井明子：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践（3）：災害看護 第3版、メディカ出版 日本看護協会出版会編集部 編：ルポ・そのとき看護はナース発 東日本大震災レポート、日本看護協会出版会 黒田裕子・神崎初美：避難所・仮設住宅の看護ケア、日本看護協会出版会		
学生へのメッセージ等	提出物は期限を厳守して下さい。日頃から災害に関するニュース記事などに興味を持って、より災害看護に対する考え方や理解が深められるようにしておいて下さい。授業時間内の積極的な質問を歓迎します。授業後についてはメールを頂ければ、その都度対応いたします。		

講義科目名称： チーム医療論

授業コード： K090850

英文科目名称： Theory of Interprofessional Team Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

全担当教員	太田 豊作、浦 靖子、藤本 千明、畠中 利英、小西 康司、西田 博樹、綿松 静香、加藤 佑里、浦 亜胡耶、増井 薫、北村 哲郎、東 勇希、藤村 茂和、安藤 さつき、有田 恵亮、石原 興子、大西 英子、原 裕美子、井岡 司、仲田 有希、山本 朝美、赤澤 奈那、若月 幸平、五十嵐 稔子、岡本 左和子			
概要	保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況において、医療チームの成員が互いに協力して、1つの問題に対して多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし、意見を交換することによって全人的治療は実現する。他の専門職種を理解し、良好な医療チームがどのように形成されるかを学ぶ。			
目標	1 倫理観、態度、意欲 □医療チーム内での、看護の位置づけを理解し、専門性の展開を示し、医療者像を描くことができる。 □医療チーム内で統合された意見やアプローチ方法を、対象となる人と家族の立場に立ち簡潔に示すことができる。 2 創造性、探究力、国際的視野 － 3 知識、批判的思考力 多職種の専門的立場を理解し、対象となる人と家族を適切にアセスメントできる。 4 実践力、応用力、共感能力 多職種のアセスメントを統合し、応用する上での適切性を判断できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント □多職種協働の医療チームの重要性を理解し、マネジメントの姿勢を示すことができる。 □他職種の専門的立場に敬意を持ち、意思疎通を図ることができる。			
評価方法	■授業参加度（10％）《1》 ■グループワークでの態度、発表会への参加状態（40％）《1, 3, 4, 5》 ■レポート（50％）《1, 3, 5》			
授業計画	授業内容		授業形態	担当者
	第1回	2025年4月10日（木） 1限 チーム医療概論	講義	太田
	第2回	2025年4月10日（木） 2限 専門職の理解 1 地域連携・入退院支援センター、医療ソーシャルワーカー	講義	浦 藤本
	第3回	2025年4月17日（木） 1限 専門職の理解 2 医療技術センター総論、臨床工学技士部門	講義	畠中 小西
	第4回	2025年4月17日（木） 2限 専門職の理解 3 歯科技工士、歯科衛生士、視能訓練士	講義	西田 綿松 加藤
	第5回	2025年4月24日（木） 1限 専門職の理解 4 臨床心理士、認定遺伝カウンセラー、リハビリテーション概論	講義	浦 増井 北村
	第6回	2025年4月24日（木） 2限 専門職の理解 5 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	講義	東 藤村 安藤
	第7回	2025年5月8日（木） 1限 精神疾患ケアチーム（PSW）	講義	有田
	第8回	2025年5月8日（木） 2限 専門職の理解 6 音楽療法士	講義	石原
	第9回	2025年5月15日（木） 1限 皮膚・排泄ケア認定看護師、小児看護専門看護師	講義	大西 原
	第10回	2025年5月15日（木） 2限 栄養サポートチーム 管理栄養士	講義	井岡
	第11回	2025年7月10日（木） 1限 専門職の理解 7	講義	仲田

	薬剤師		
	第12回	2025年7月10日（木） 2限 手術看護認定看護師、がん看護専門看護師	講義 山本 赤澤
	第13回	2025年7月15日（火） 1限 事例を用いたチーム医療【グループワーク】 事例検討から医療人としてどう対応すべきか、医療チームとしての在り方をグループ毎にまとめる。	演習 太田 若月 五十嵐 岡本
	第14回	2025年7月15日（火） 2限 事例を用いたチーム医療【グループワーク】発表・総括 各グループで検討した内容を全体で共有し、議論を深める。	演習 太田 若月 五十嵐 岡本
	第15回	事例演習	演習 太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマについて、看護との関係性・繋がりという観点で自分の考えを整理しておく。		
テキスト	特に指定しない		
参考書	鷹野和美(編著) 「チーム医療論」 医歯薬出版株式会社		
学生へのメッセージ等	他職種についてよく理解し、チーム医療の在り方について考えてみましょう。		

講義科目名称： 国際看護論Ⅰ

授業コード： K090870

英文科目名称： Cross - Cultural Understanding of International Healthcare Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	必修
担当教員			
升田 茂章			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章/渋谷 洋子		
概要	グローバル・ナースングについて考え、国際社会で活動するための基礎的知識と態度を学ぶ。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 国際看護の基本となる、対象者の文化的背景を理解することの重要性を説明することができる。 ☐ 世界情勢の変化や外国の文化を理解することが看護の対象者を理解するために重要であることが説明できる。 2 創造性、探究力、国際的視野 ☐ 世界情勢を理解し、国際的視野をもって各地域の健康課題を理解し説明することができる。 ☐ 異国の文化を学び国際社会で活動するために看護の対象を理解するための課題を検討できる。 3 知識、批判的思考力 — 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	評価方法：各授業中または授業後に提示する課題レポート 8回（60％）《1, 2》 全授業終了後の課題レポート（40％）《1, 2》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月15日（火） 2限目 授業オリエンテーション／異文化理解と看護1 概要 世界の課題とSDGs	講義	升田
	第2回 2025年4月30日（水） 3限目 異文化理解と看護2 中国の文化 日本における支援の実際	講義	徐全揚先生
	第3回 2025年5月13日（火） 2限目 看護師の国際移動と職務 職務の実際 奈良医大で勤務するインドネシア人看護師として	講義	ヨノ・カルジョノ先生（附属病院）
	第4回 2025年5月23日（金） 3限目 異文化理解と看護3 看護の視点と文化人類学 「タイの社会と文化」	講義	馬場雄司先生（非常勤講師）
	第5回 2025年5月27日（火） 2限目 国際的看護活動1	講義	大川純代先生
	第6回 2025年7月1日（火） 5限目 国際的看護活動2	講義	牧田亜実先生
	第7回 2025年7月16日（水） 3限目 異文化理解と看護4 支援の実際①	講義	新垣智子先生 渋谷 升田
	第8回 2025年7月16日（水） 4限目 異文化理解と看護5 支援の実際② 国際的視野をもつ看護実践	講義	新垣智子先生 渋谷 升田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各講義のテーマについて、関係する教科書や資料を読んで授業に臨んでください。 事後学修：講義内容について振り返り自分の考えを整理しておく。		
テキスト	「国際化と看護」（MCメディカ出版）		
参考書	系統看護学講座 文化人類学 第3版 波平恵美子編集（医学書院）		

学生へのメッセージ等	グローバル・ナーシングに欠かせないのは異文化理解です。身近な日常（日本の文化）を見つめることから始めましょう。

講義科目名称： 国際看護論Ⅱ

授業コード： K090880

英文科目名称： Cross - Cultural Understanding of International Healthcare Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4 年	1	選択
担当教員			
升田 茂章／渋谷 洋子			
添付ファイル			

全担当教員	升田 茂章／渋谷 洋子		
概要	関心のある国やタイの文化の中で生活する人々を理解し、グローバルな視点から健康問題を捉え、国際社会における看護の役割について理解を深める。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 □諸外国の異文化を理解し、生活習慣への影響や健康課題について考え説明することができる □日本とタイの健康問題に関する特徴を、科学的データや文献を用いながら説明することができる 3 知識、批判的思考力 — 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	事前学習、授業中。海外研修中のプレゼンテーション、最終レポートから総合的に評価します。 事前学習（20％）《2》 プレゼンテーション（40％）《2》 最終レポート（40％）《2》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月15日（火） 授業オリエンテーション タイ王国 チェンマイ大学について 今後の授業スケジュール	講義	升田・渋谷
	第2回 2025年4月22日（火） 諸外国の文化と健康 関心のある国の文化と健康について	講義／演習	升田・渋谷
	第3回 2024年5月13日（月） 諸外国のCOVID-19の感染状況と対策について 関心のある国のCOVID-19の現在の感染状況とその対策について	講義／演習	升田・渋谷
	第4回 2025年5月20日（火） 諸外国の文化と健康 選択した関心のある国の文化と健康課題についてプレゼンテーションを行う	講義／演習	升田・渋谷
	第5回 2025年5月27日（火） タイ文化の特徴について	講義／演習	升田・渋谷
	第6回 2025年7月1日（火） 日本文化とタイ文化の違い	講義／演習	升田・渋谷
	第7回 2025年7月8日（火） タイの医療制度の理解 タイの医療制度について各自で調べる	講義／演習	升田・渋谷
	第8回 2025年7月15日（火） 日本とタイの医療制度の違いと各国の健康課題 日本とタイの医療制度の違いと各国の健康課題についてプレゼンテーションを行う	講義／演習	升田・渋谷
	第9回 外国人看護師を迎えて		升田・渋谷
	第10回 外国人看護師を迎えて		升田・渋谷

	第11回 チェンマイ大学海外研修		升田・渋谷
	第12回 チェンマイ大学海外研修		升田・渋谷
	第13回 チェンマイ大学海外研修		升田・渋谷
	第14回 チェンマイ大学海外研修		升田・渋谷
	第15回 チェンマイ大学海外研修		升田・渋谷
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業外学修については、授業内で案内を行う		
テキスト	なし		
参考書	「国際化と看護」 MCメディカ出版 （2018）		
学生へのメッセージ等	海外研修は8月中旬（予定）。海外研修中は講義、見学ともに英語で行います。一定の英語能力を備えていることが望ましい（英語の成績が良好であること、目安としてTOEIC500点かCASEC575点レベルの英語能力）。研修先・内容はやむを得ない事情により変更することがあります。履修登録者は、最大10名とし、4名未満の場合は開講しません。		

講義科目名称： 公衆衛生看護学活動展開論

授業コード： K120750

英文科目名称： Community assessment Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	選択
担当教員			
堀池 諒			
添付ファイル			

全担当教員	堀池 諒		
概要	この科目は、公衆衛生看護学等において得た知識や思考を活用し、地域特性から健康課題を抽出しその課題を解決するための事業計画ならびに評価計画を立案するまでの行程を学ぶ。 GISの活用と操作方法を通して、自分の配属実習地（市町村）における事業評価ならびに評価計画を立案する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 公衆衛生看護活動における、効果的な地域保健活動を行う上で必要な地域アセスメントとして対象（個人、家族、集団等）の特性を把握する基礎的能力を養うことができる。 ☐ 地域アセスメントの実施により、地域における人々の健康に関する情報を分析し、健康問題とその背景を明らかにする能力を身に着けることができる。 ☐ ヘルスプロモーションの理念をもとに、地域診断で明確となった健康課題の優先順位を決定し施策化および保健活動計画を立案するための基礎的能力を養うことができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	各回の講義内容で指定する課題レポート（100％）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月9日（水） 地域診断の目的・方法、GIS(地理情報システム)の活用 GISチュートリアル含む	講義	堀池
	第2回 2025年4月9日（水） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）のアセスメント1 行政と政治	講義・演習	堀池
	第3回 2025年4月11日（金） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）のアセスメント2 行政と政治	講義・演習	堀池
	第4回 2025年4月11日（金） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）のアセスメント3 人口統計	講義・演習	堀池
	第5回 2025年4月16日（水） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）のアセスメント4 人口統計	講義・演習	堀池
	第6回 2025年4月16日（水） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）のアセスメント5 歴史・民族性・価値観	講義・演習	堀池
	第7回 2025年4月18日（金） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）のアセスメント6 物理的環境	講義・演習	堀池
	第8回 2025年4月18日（金）	講義・演習	堀池

	地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント7 物理的環境		
第9回	2025年4月21日（月） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント8 保健医療と社会福祉	講義・演習	堀池
第10回	2025年4月21日（月） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント9 保健医療と福祉	講義・演習	堀池
第11回	2025年4月25日（金） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント10 経済	講義・演習	堀池
第12回	2025年4月25日（金） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント11 交通と安全	講義・演習	堀池
第13回	2025年4月30日（水） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント12 教育・レクリエーション	演習	堀池
第14回	2025年4月30日（水） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント13 コミュニケーションと情報	演習	堀池
第15回	2025年5月2日（金） 地域特性（地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析）の アセスメント14 GIS・追加収集	演習	堀池
第16回	2025年5月2日（金） 地域アセスメント情報の関連性と整理1 地区踏査の方法と計画作成	演習	堀池
第17回	2025年5月9日（金） 地区踏査 実習市町村	演習	堀池
第18回	2025年5月9日（金） 地区踏査 実習市町村	演習	堀池
第19回	2025年5月9日（金） 地区踏査 実習市町村	演習	堀池
第20回	2025年5月9日（金） 地区踏査 実習市町村	演習	堀池
第21回	2025年5月14日（水） 地区踏査のまとめ1	講義・演習	堀池
第22回	2025年5月14日（水） 地区踏査のまとめ2	講義・演習	堀池
第23回	2025年5月16日（金） 健康課題の抽出1	講義・演習	堀池
第24回	2025年5月16日（金） 健康課題の抽出2	講義・演習	堀池
第25回	2025年5月21日（水） 健康課題の抽出3	講義・演習	堀池
第26回	2025年5月21日（水） 事業計画・評価計画1	講義・演習	堀池
第27回	2025年5月23日（金） 事業計画・評価計画2	講義・演習	堀池
第28回	2025年5月23日（金） 事業計画・評価計画3	講義・演習	堀池

	第29回	2025年5月28日（水） 課題解決のための情報収集1	講義・演習	堀池
	第30回	2025年5月28日（水） 課題解決のための情報収集2	講義・演習	堀池
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておくこと。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておくこと。			
テキスト	1) 地域看護アセスメントガイド 佐伯和子編著 医歯薬出版株式会社			
参考書	1) コミュニティ・アズ・パートナー 第2版 編集 エリザベス T. アンダーソン / ジュディス・マクファーレイ 監訳 金川 克子 / 早川 和生 医学書院 2) 保健師業務要覧 日本看護協会出版会 3) 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 4) 国民衛生の動向			
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習において、地域を理解するために最重要な講義・演習であり、積極的な取り組みと幅広い視点を持って臨んでください。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	選択
担当教員			
啜 素代			
添付ファイル			

全担当教員	啜 素代／近藤 いずみ／鶴屋 和彦／中川 仁／中谷 敏昭／熊本 登司子		
概要	生活習慣病対策・がん対策の基盤となる法規、政策について理解し、地域で生活する成人・高齢者が主体的に課題解決できるような支援技術を修得する。また、地域特性に応じた支援の工夫、継続支援の方法を思考する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 □生活習慣病対策、がん対策の基盤となる法規、政策、公衆衛生看護における保健指導の目的、活用できる理論について理解できる。 □高血圧、慢性腎疾患の診断・治療、生活習慣病対策における栄養指導・運動指導の基本的な考え方、指導方法について理解できる。 □地域特性に応じた保健指導が実施できる。また、支援の工夫、継続支援の方法を思考できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	各授業における小レポート・小テスト（50%），演習の参加態度と到達度（50%）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年4月11日（金） 生活習慣病対策、がん対策の基盤となる法規、政策の動向 医療制度、介護保険制度の理解	講義	啜
	第2回 2025年4月11日（金） 公衆衛生看護における保健指導 保健指導の目的と活用できる理論	講義	啜
	第3回 2025年4月18日（金） 特定健康診査・特定保健指導 施策の背景、目的、内容、評価など	講義	啜
	第4回 2025年4月18日（金） 地域特性に応じた保健指導① 地域理解と対象理解	演習	啜／近藤
	第5回 2025年4月25日（金） 地域特性に応じた保健指導② 保健指導の計画作成	演習	啜／近藤
	第6回 2025年5月2日（金） 地域特性に応じた保健指導③ 保健指導の実施	演習	啜／近藤
	第7回 2025年5月2日（金） 慢性腎臓病（CKD）の診断基準と治療ガイドライン	講義	鶴屋
	第8回 2025年5月16日（金） 成人・高齢者への運動指導① 基本的な考え方・注意点など	講義	中谷
	第9回 2025年5月16日（金） 成人・高齢者への運動指導② 運動指導の実際	演習	中谷
	第10回 2025年5月19日（月） 高血圧の診断基準と治療ガイドライン	講義	中川
	第11回 2025年5月23日（金）	演習	啜／近藤

	地域特性に応じた保健指導④ 保健指導の評価		
	第12回 2025年5月23日（金） 地域特性に応じた保健指導⑤ 支援の工夫、継続支援の検討	演習	噯／近藤
	第13回 2025年5月30日（金） 特定保健指導対象者への栄養指導① 基本的な考え方、注意点など	講義	熊本
	第14回 2025年5月30日（金） 特定保健指導対象者への栄養指導② 栄養指導の実際	演習	熊本
	第15回 2025年7月4日（金） 保健指導のまとめ	講義	噯
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義・演習の配布資料等をもとに内容をまとめ、整理をしておく。		
テキスト	・標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 医学書院		
参考書			
学生へのメッセージ等	保健指導の実践能力を修得する科目です。また、公衆衛生看護学実習と直結します。積極的に学んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	選択
担当教員			
啜 素代			
添付ファイル			

全担当教員	啜 素代／近藤 いずみ		
概要	地域で生活する母子が主体的に課題解決できるような支援技術を修得する。また、母子が主体的に課題解決できるような支援の工夫、継続支援の方法を思考する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 地域で生活する母子が主体的に課題解決できるような支援技術を修得できる。 ☐ 地域で生活する母子が主体的に課題解決できるような支援の工夫を思考できる。 ☐ 地域で生活する母子が主体的に課題解決できるような継続支援の方法を思考できる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■演習の参加態度と到達度（50％）《3》 ■授業内で実施する小レポート・小テスト（50％）《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年5月30日（金） 地域で生活する母子への支援 1 母子の健康課題と支援 子どもの健康課題と支援	講義	啜
	第2回 2025年5月30日（金） 地域で生活する母子への支援 2 地域で生活する母子への支援に活用できる理論	講義	啜
	第3回 2025年7月2日（水） 母子家庭訪問 1 予防的訪問の意義 予防的訪問の計画作成	演習	啜／近藤
	第4回 2025年7月2日（水） 母子家庭訪問 2 予防的訪問の計画作成(2) 予防的訪問に必要な技術	演習	啜／近藤
	第5回 2025年7月4日（金） 母子家庭訪問 3 予防的訪問の実施	演習	啜／近藤
	第6回 2025年7月4日（金） 母子家庭訪問 4 予防的訪問の評価、記録作成	演習	啜／近藤
	第7回 2025年7月9日（水） 母子家庭訪問 5 母子家庭訪問のまとめ	講義	啜
	第8回 2025年7月9日（水） 乳幼児健康診査 1 乳幼児健康診査の意義 乳幼児健康診査に必要な技術	講義	啜
	第9回 2025年7月11日（金） 乳幼児健康診査 2 乳児健康診査（乳児期前期・後期） 問診・保健指導の計画作成	演習	啜／近藤

	第10回	2025年7月11日（金） 乳幼児健康診査 3 乳幼児健康診査の問診・保健指導の実施	演習	嘸／近藤
	第11回	2025年7月16日（水） 乳幼児健康診査 4 問診・保健指導の評価，記録作成	演習	嘸／近藤
	第12回	2025年7月16日（水） 乳幼児健康診査 5 乳幼児健康診査のまとめ	講義	嘸
	第13回	2025年7月18日（金） 地域で生活する母子への継続支援方法の検討①	演習	嘸／近藤
	第14回	2025年7月18日（金） 地域で生活する母子への継続支援方法の検討②	演習	嘸／近藤
	第15回	2025年7月18日（金） 地域で生活する母子への支援のまとめ	講義	嘸
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業内容に沿ってテキストの該当箇所を確認し、概要を把握しておく。 事後学修：各回の授業で伝える重要ポイントを復習し、授業内容を整理しておく。			
テキスト	1. 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 2. 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院			
参考書	1. 乳幼児健診マニュアル 福岡地区小児科医師会乳幼児保健委員会 医学書院 2. 写真で見る乳幼児健診の神経学的チェック法 前川喜平・小枝達也 南山堂			
学生へのメッセージ等	地域で生活する母子への支援技術を修得する科目です。支援技術を修得しながら、支援の工夫や継続支援方法について考えていきます。公衆衛生看護学実習に直結する科目ですので積極的に学んでください。			

講義科目名称： 産業保健活動論

授業コード： K120790

英文科目名称： Occupational Health Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	選択
担当教員			
河田 志帆			
添付ファイル			

全担当教員	河田 志帆		
概要	職域における保健・看護活動を学ぶ。現代の労働者を取り巻く環境を踏まえ、産業保健に関連する制度・法的根拠を理解するとともに、産業保健における看護職の役割と活動を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 ☐ 労働者の権利を守る看護職としての役割について説明できる ☐ 労働者への支援において必要な倫理的態度について示すことができる 2 創造性、探究力、国際的視野 グローバルな視点で産業保健活動について説明できる 3 知識、批判的思考力 ☐ 産業保健に関連する法体系および行政のしくみについて説明できる ☐ 社会情勢を踏まえ現代の労働者の健康課題の動向や特徴について説明できる ☐ 多様化する労働環境が労働者に与える影響や、今後検討が必要は課題について検討できる 4 実践力、応用力、共感能力 現代の労働者を取り巻く環境を踏まえ健康課題を抽出し、その対策について検討できる 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント ☐ グループワークと通じて、労働者の健康課題について検討し仲間と協働しながら対策について検討することができる ☐ 産業保健における多職種との協働に必要な技能と姿勢について示すことができる		
評価方法	■ 授業内課題①（個人課題）（10%） ≪3, 4≫ ■ 授業内課題②（グループ課題）（20%） ≪1, 2, 3, 4, 5≫ ■ テスト（70%） ≪1, 3, 4≫		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 産業保健・産業看護の理念と目的、歴史	講義	河田志帆
	第2回 産業保健の法体系・行政のしくみ	講義	河田志帆
	第3回 事業場の安全衛生管理体制	講義	河田志帆
	第4回 労働者の健康課題の動向と実際 ・第6回のグループワークに向けた授業内課題①について授業内に提示する	講義・演習	河田志帆
	第5回 産業看護活動の実際（生活習慣病予防・メンタルヘルス対策）	講義	河田志帆
	第6回 産業看護活動の展開（グループワーク） ・グループワークに向けた授業内課題①について（第4回授業時に提示）グループ内で共有し、健康課題の解決に向けた支援策（授業内課題②）について検討する	演習	河田志帆
	第7回 産業看護活動の展開（グループワーク） ・各グループで検討した健康課題への対応策（授業内課題②）について発表し、学びを共有する	演習	河田志帆
	第8回 国際産業保健・産業保健における健康危機管理・地域連携	講義	河田志帆
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを学習し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義のノートと配布資料をもとに内容をまとめ整理しておく。		

テキスト	1. 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院
参考書	・国民衛生の動向 ・産業看護学第2版 2023年版：河野啓子：日本看護協会出版会
学生へのメッセージ等	保健師課程履修者の必須科目です。公衆衛生看護学実習Ⅰ（産業保健）の準備科目でもあるのでしっかりと学んでください。

講義科目名称： 学校保健活動論

授業コード： K120800

英文科目名称： School Health Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	1	選択
担当教員			
古川 恵美			
添付ファイル			

全担当教員	古川 恵美		
概要	学校における看護活動を学ぶ。学校保健に関連する制度・法的基盤を理解するとともに、養護教諭の役割と活動を理解する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 学校保健の関係法規・校種別の特徴とその職務、養護教諭をとりまく現状と課題について理解ができる。 ☐ 学校教育における組織的な学校保健活動と、児童生徒のライフステージの特徴とそれに応じた支援、地域における関機関との連携・協働について理解ができる。 ☐ 養護教諭の視点から考える、保健室経営・保健管理・保健学習のあり方と特別支援教育・学校安全・危機管理について理解ができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	評価方法：授業内で実施する小レポート3回（50％）《3》、期末レポート（50％）《3》 評価基準：小レポートは、テーマ毎の内容を理解し、自分なりの問題意識を持つことができるか。期末レポートは、主題について学んだ内容が整理されており、どのように学んでいくか自己の考えが提示されているか。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 学校保健の現状と課題 関係法規・校種別の特徴など	講義	古川
	第2回 学校教育における組織的な学校保健活動 児童生徒のライフステージの特徴とそれに応じた支援	講義	古川
	第3回 養護教諭をとりまく現状とその職務 学校と地域における関連する他機関との連携・協働	講義	古川
	第4回 養護教諭の視点から考える保健室経営	講義	古川
	第5回 養護教諭の視点から考える保健管理	講義	古川
	第6回 養護教諭の視点から考える保健学習	講義	古川
	第7回 特別支援教育	講義	古川
	第8回 学校安全、危機管理	講義	古川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に単元に関する教科書の箇所を全て精読してから講義に臨むこと。		
テキスト	1 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動：医学書院		

参考書	授業中に提示します。
学生へのメッセージ等	児童生徒が示す健康課題を受け止め、課題解決に向けた教育活動の実践が養護教諭の役割です。ぜひ、あなたの養護教諭像をつかんでください。

講義科目名称： 公衆衛生看護管理論

授業コード： K120810

英文科目名称： Public Health Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4 年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美		
概要	地域住民の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と配分を促進する公衆衛生看護管理の活動方法が理解できる。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 ☐ 健康危機管理の事例についてその原因を予測・特定し、健康被害のレベルと範囲を記述してプレゼンテーションできる。 ☐ 発災に伴う環境の変化が人日の生活と健康に与える影響をアセスメントし、災害フェース毎の対応が検討できる。 ☐ 公衆衛生看護管理の原則を理解し、健康課題に対応した事業計画と予算案を策定することができる。 4 実践力、応用力、共感能力 — 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■定期試験：45%《3》 ■健康危機管理活動に関する資料作成とプレゼンテーション：45%《3》 ■授業と演習への参加度：10%《3》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2025年5月1日（木） 公衆衛生看護管理① 公衆衛生看護管理の基本	講義	坂東
	第2回 2025年5月7日（水） 公衆衛生看護管理② 公衆衛生看護活動の法令	講義	坂東
	第3回 2025年5月7日（水） 公衆衛生看護管理③ 公衆衛生看護と研究	講義	坂東
	第4回 2025年5月12日（月） 健康危機管理① 健康危機管理の基本	講義	坂東
	第5回 2025年5月12日（月） 健康危機管理② 災害保健活動	講義	坂東
	第6回 2025年5月15日（木） 健康危機管理③ 感染症集団発生の保健活動	講義	坂東
	第7回 2025年5月19日（月） 事例検討とグループワーク① 災害・感染症等に関する事例検討とグループワーク	講義・演習	坂東
	第8回 2025年5月19日（月） 事例検討とグループワーク② 災害・感染症等に関する事例検討とグループワーク	講義・演習	坂東
	第9回 2025年5月22日（木） 事例検討とグループワーク③ 災害・感染症等に関する事例検討とグループワーク	講義・演習	坂東
	第10回 2025年5月22日（木） 事例検討とグループワーク④ 災害・感染症等に関する事例検討とグループワーク	演習・演習	坂東
	第11回 2025年6月24日（火）	演習・演習	坂東

	プレゼンテーション準備①		
	第12回 2025年6月24日（火） プレゼンテーション準備②	講義・演習	坂東
	第13回 2025年6月27日（金） 発表①	講義・演習	坂東
	第14回 2025年6月27日（金） 発表②	講義・演習	坂東
	第15回 2025年6月27日（金） まとめ	講義	坂東
授業外学修（事前学修・事後学修）	【事前学修】 ①健康危機管理の事例は過去に発生した〔災害、感染症、環境汚染、放射線災害被害など〕から選んだ1事例についてWEB、出版物、論文、映像等の媒体から情報収集する。 【事後学修】 ①各回の講義ノート・視聴覚媒体・指定した参考資料をもとに内容をまとめる。 ②国家試験過去問題と照合し自己学習を深める		
テキスト	1. 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 （第5版） 医学書院 2. 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 （第4版） 医学書院		
参考書	1 公衆衛生看護学.jp インターメディカル 2 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術 医歯薬出版株式会社		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護管理論は①健康危機管理、②災害保健活動、③公衆衛生看護管理の3つから構成されます。授業内容を理解したうえで、演習1「健康危機管理事例のプレゼンテーション」、演習2「事業計画と予算書の立案の作成」に取り組んでください。		

講義科目名称： 公衆衛生看護学実習 I

授業コード： K120820

英文科目名称： Public Health Nursing Practicum I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4 年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			
全担当教員			
坂東 春美／堀池 諒／啜 素代／近藤 いずみ			
概要	地域で生活する個人・家族とそれらが所属する・集団を対象に、健康と生活の質を高める支援理解し、保健所・へき地・産業・学校で働く保健師および養護教諭による公衆衛生看護実践能力を習得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 — 4 実践力、応用力、共感能力 □地域で生活する個人・家族とそれらが所属する・集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を理解することができる。 □地域全体の健康増進と疾病予防を目指す保健所・へき地・産業で働く保健師による公衆衛生看護過程を展開することができる。 □学校保健における養護教諭による公衆衛生看護過程を展開することができる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	■実習前の事前レポート（15%）《4》 ■実習の参加度と理解度（85%）《4》		
授業計画	公衆衛生看護学実習 I（2 単位）は、保健所、へき地、産業、学校保健の分野で行います。 実習内容 1 保健所実習： ・家庭訪問、相談業務、管轄市町村の広域的地域診断 ・特定集団に対する支援（医療的ケア児、がん患者、難病、結核、感染症など） ・奈良県保健研究センター 見学実習 ・奈良県精神保健福祉センター 見学実習 ・奈良県公衆衛生学会 見学実習 2 へき地実習：1 日～2 日 ・奈良県郡部の自然災害被災地域で、災害各期の対応、復興の経過、防災計画を学ぶ 3 産業実習：2 日 ・事業所がおこなう産業保健活動を学ぶ ・産業医・衛生管理者・保健師が行う業務に学ぶ 4 学校実習：2 日 ・学校がおこなう児童および生徒の健康管理と養護教諭の職務を学ぶ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の実習内容にそって、指定テキストの指定箇所やこれまでの講義で得た資料等を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の実習内容から自己の記録と指導者や教員から得た助言等をもとに内容をまとめ、整理をしておく。		
テキスト	1 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 2 標準保健師講座② 地域看護技術 医学書院 3 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書	1 国民衛生の動向 厚生統計協会 2 公衆衛生が見える MEDIC MEDIA 3 公衆衛生看護学、J P 第 4 版 データ更新版 インターメディカル		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習 I では、保健所、へき地、産業、学校の公衆衛生看護活動に参加します。へき地実習では宿泊する可能性があります。学校実習は出身校に自分で実習の交渉をおこないます。主体的な態度で実習に取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4 年	3	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

全担当教員	坂東 春美／堀池 諒／啜 素代／近藤 いずみ		
概要	地域で生活する個人・家族とそれらが所属する・集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を理解し、市町村で働く保健師による公衆衛生看護実践能力を習得する。		
目標	1 倫理観、態度、意欲 — 2 創造性、探究力、国際的視野 — 3 知識、批判的思考力 — 4 実践力、応用力、共感能力 □地域で生活する個人・家族とそれらが所属する・集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を理解することができる。 □地域全体の健康増進と疾病予防を目指す市町村で働く保健師による公衆衛生看護過程を展開することができる。 □市町村の保健センター・役場、地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター、保育所・幼稚園、小・中学校、高齢者福祉センターなどにおいて、家庭訪問・健康教育・地域診断の看護技術が実践できる。 5 コミュニケーション能力、チームマネジメント —		
評価方法	評価方法：家庭訪問の準備と実施（20%）《4》 健康教育の準備と実施（30%）《4》 地域診断の情報収集とアセスメント（20%）《4》 各事業参加態度と保健計画の理解等（30%）《4》 評価基準：家庭訪問・健康教育・地域診断は事前準備と実施（アセスメント）が行えるか 実習記録は参加態度と実習目標の内容に関する理解度を測る		
授業計画	公衆衛生看護学実習Ⅱ（3単位）は市町村で行います。保健センター・役場と、地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター、保育所・幼稚園、小・中学校、高齢者福祉センターなど、住民の健康を支援する市町村の行政機関や、関係機関で実習します。 実習内容 1 保健センター・健康増進課等で行う業務 ・家庭訪問、相談、健診・検診、健康教育、地域診断 ・グループ支援・組織育成・関係機関との協働、健康危機管理（災害対応・虐待対応など） 2 地域包括支援センター等で行う業務 ・介護保険に関する業務、介護予防事業、高齢者虐待・高齢者の権利擁護に関すること など 3 保険課等で行う業務 ・国民健康保険に関する業務、国保データヘルス計画策定・評価に関すること ・特定健康診査に関連するヘルスアップ事業、個別指導など 4 子育て世代包括支援センターで行う事業 ・妊産婦と乳幼児の支援 ・安心して妊娠・出産・子育てができる「地域づくり」のための連絡調整・連携、協働、社会資源開発		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の実習内容にそって、指定テキストの指定箇所やこれまでの講義で得た資料等を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の実習内容から自己の記録と指導者や教員から得た助言等をもとに内容をまとめ、整理しておく。		
テキスト	1 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 2 標準保健師講座② 地域看護技術 医学書院 3 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考書	1 国民衛生の動向 厚生統計協会 2 公衆衛生が見える MEDIC MEDIA 3 公衆衛生看護学 JP 第4版 データ更新版 インターメディカル		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習Ⅱでは公衆衛生看護学展開論で学習した地域診断をもとに、地域特性を踏まえた公衆衛生看護活動について学習します。家庭訪問、個別面接、健康教育を実践するとともに、実習で得た情報を加えて地域診断レポートを完成させます。全力で取り組んでください。		

No	科目名	授業方法	単位	実務経験 内容 (職種)	担当教員名
1	疫学	講義・演習	2	医師	佐伯 圭吾、大林 賢史、山上 優紀
2	保健統計学Ⅰ	講義	1	診療放射線技師	周藤 俊治
3	保健統計学Ⅱ	講義・演習	1	診療放射線技師	周藤 俊治
4	病態医学Ⅰ	講義	2	医師	吉澤 明彦、武田 麻衣子、内山 智子、佐々木 翔、松岡 未奈巳、新田 勇治、岡田 文美、畠山 金太、西川 武
5	病態医学Ⅱ	講義	4	医師	山内 基雄、庄 雅之、鶴屋 和彦、河村 健二、横谷 倫世、学内眼科専門医、学内耳鼻咽喉頭頸部外科専門医、学内整形外科専門医
6	病態医学Ⅲ	講義	4	医師	山内 基雄、太田 豊作、福島 英賢、川井 廉之、前川 尚宜、宮崎 敬太、鶴田 啓亮、山崎 正晴、内田 優美子、大前 隆志、荻原 建一、長谷川 真理、竹田 洋子、鮫島 謙一、田中 晴之、阿部 龍一、山田 有紀、常見 泰平、牧野 佑子、木村 麻衣、伊藤 高広、岩越 真一、橋 進彰、森澤 洋介
7	看護学概論	講義・演習	1	看護師	松田 明子
8	看護倫理学	講義・演習	1	看護師	松田 明子、安藤 泰至、伊藤 雪絵、高嶋 愛里
9	看護援助の基本	講義・演習	1	その他	大河内 大博
10	看護技術学Ⅰ	講義・演習	1	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
11	看護技術学Ⅱ	講義・演習	1	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
12	フィジカルアセスメント	講義・演習	1	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
13	健康障害と看護	講義・演習	1	看護師	松田 明子、高嶋 愛里
14	ヘルスアセスメント	講義・演習	1	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
15	看護過程論	講義・演習	2	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
16	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
17	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2	看護師	升田 茂章、白田 梨奈、浅野 沙奈絵、多川 聖子
18	成人看護学概論	講義	2	看護師	石澤 美保子
19	成人看護学援助論Ⅰ（急性）	講義	1	看護師	森脇 裕美、石澤 美保子、松田 常美、堀井 えりな
20	成人看護学援助論Ⅱ（慢性）	講義・演習	1	看護師	石橋 千夏
21	成人看護学援助論Ⅲ（急性）	講義・演習	1	看護師	松田 常美、石澤 美保子、森脇 裕美、堀井 えりな
22	成人看護学実習Ⅰ（急性）	実習	3	看護師	松田 常美、石澤 美保子、森脇 裕美、堀井 えりな
23	成人看護学実習Ⅱ（慢性）	実習	3	看護師	石橋 千夏
24	老年看護学概論	講義・演習	2	看護師	澤見 一枝、木村 満夫、古角 美保子
25	老年看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	澤見 一枝、木村 満夫、古角 美保子
26	老年看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	澤見 一枝、木村 満夫、古角 美保子
27	老年看護学実習	実習	4	看護師	澤見 一枝、木村 満夫、古角 美保子
28	小児看護学概論	講義	2	看護師	川上 あずさ
29	小児看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	渋谷 洋子、山田 晃子、早川 友香、伊東 聖子、垣内 拓也
30	小児看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	山田 晃子、渋谷 洋子
31	小児看護学実習	実習	2	看護師	山田 晃子、渋谷 洋子、川上 あずさ
32	母性看護学概論	講義	2	助産師	五十嵐 稔子、木村 奈緒美
33	母性看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	助産師	乾 つぶら、上田 佳世
34	母性看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	助産師	上田 佳世、乾 つぶら
35	母性看護学実習	実習	2	助産師	上田 佳世、乾 つぶら、五十嵐 稔子
36	精神看護学概論	講義	2	看護師	奥田 淳
37	精神看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	橋本 顕子
38	精神看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	奥田 淳、高島 佳之
39	精神看護学実習	実習	2	看護師	奥田 淳、高島 佳之、橋本 顕子
40	公衆衛生看護学概論	講義	2	保健師	坂東 春美
41	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	講義	2	保健師	曙 素代
42	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	講義	2	保健師	仲川 洋介
43	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	講義・演習	1	保健師	曙 素代、近藤 いずみ
44	公衆衛生看護学活動展開論	講義・演習	2	保健師	城島 哲子
45	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	講義・演習	2	保健師	堀池 諒
46	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	講義・演習	1	保健師	曙 素代、近藤 いずみ
47	産業保健活動論	講義・演習	1	保健師	河田 志帆
48	学校保健活動論	講義	1	養護教諭	古川 恵美
49	公衆衛生看護管理論	講義・演習	2	保健師	坂東 春美
50	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	2	保健師	坂東 春美、堀池 諒、曙 素代、近藤 いずみ
51	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	3	保健師	坂東 春美、堀池 諒、曙 素代、近藤 いずみ
52	看護管理論	講義・グループワーク	1	看護師	川上 あずさ、撫養 真紀子
53	リハビリテーション看護	講義・演習	1	看護師	石澤 美保子、松田 常美、森脇 裕美、堀井 えりな
54	家族看護学	講義・演習	2	看護師	川上 あずさ、藤野 崇
55	在宅看護学概論	講義・グループワーク	2	その他	粕井 みづほ
56	在宅看護学援助論	講義・演習	2	看護師	小竹 久美子、佐藤 郁代、栗田 麻美
57	在宅看護学実習	実習	2	医師	武田 以知郎
58	看護研究特論	講義・演習	1	看護師	栗田 麻美、羽場 香織、小竹 久美子、佐藤 郁代、久保田 千代美、朝倉 健太郎、松本 静香
59	看護研究	実習	2	看護師	小澤 竹俊
60	ヘルスプロモーションと健康教育	講義・演習	2	看護師	佐藤 郁代、小竹 久美子、栗田 麻美、羽場 香織
61	統合実習	実習	2	看護師	看護学科教員
62	災害看護論	講義・演習	1	看護師	看護学科教員
63	チーム医療論	講義・演習	1	保健師	堀池 諒
64	医療安全	講義・演習	1	看護師	西上 あゆみ
65	国際看護論Ⅰ	講義	1	医師	太田 豊作
66	国際看護論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	松田 明子、飛田 伊都子、徳谷 純子、高嶋愛里
				看護師	升田 茂章、渋谷 洋子
				看護師	升田 茂章、渋谷 洋子
計			111		

看護学科 教員名簿

(看護学科専任教員)

(令和7年4月1日付)

領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号	領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号
人間発達学	教授	太田 豊作	334	小児看護学	教授	川上 あずさ	327
					講師	山田 晃子	312
臨床病態医学	教授	山内 基雄	333		講師	渋谷 洋子	313
理論基礎看護学	教授	松田 明子	332	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	326
					准教授	木村 奈緒美	311
実践基礎看護学	教授	升田 茂章	331		講師	乾 つぶら	310
	助教	浅野 沙奈絵	322		講師	上田 佳世	309
	助教	白田 梨奈	321		助教	山崎 愛	321
	助教	多川 聖子	322		助教	吉田 菜津美	321
成人急性期看護学	教授	石澤 美保子	330	精神看護学	教授	奥田 淳	325
	准教授	松田 常美	303		講師	橋本 颯子	307
	講師	森脇 裕美	316		助教	高島 佳之	322
	助教	堀井 えりな	322	在宅看護学	教授	小竹 久実子	324
成人慢性期看護学	講師	石橋 千夏	315		准教授	佐藤 郁代	308
					講師	栗田 麻美	306
老年看護学	教授	澤見 一枝	328		助教	羽場 香織	321
	講師	木村 満夫	314	公衆衛生看護学	教授	坂東 春美	323
	助教	古角 美保子	322		准教授	堀池 諒	304
					講師	啜 素代	305
					助教	近藤 いずみ	321

(教養教育部門専任教員／看護学科兼任教員)

(令和7年4月1日付)

氏名	授業科目名	所 属 等	教室
池邊 寧	哲学 医療に関わる倫理学Ⅰ 医療に関わる倫理学Ⅱ 西洋文化論	教養教育部門哲学准教授	実習研究棟2階220
ポール・マシソン	English for Communicative Purposes	教養教育部門臨床英語准教授	実習研究棟2階215
裏山 悟司	生物学	教養教育部門生物学助教	実習研究棟1階生物研究室
山本 恵三	化学	教養教育部門化学准教授	実習研究棟1階化学研究室
石指 宏通	健康科学 健康運動学	教養教育部門保健体育教育教授	体育館
若月 幸平	アジア文化論 臨床心理学 教育実践論 西洋文化論	教育開発センター教育教授	教育開発センター
城戸 楓	情報科学	教育開発センター講師	教育開発センター
矢野 寿一	微生物学	医学科微生物感染症学教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 竜一	微生物学	医学科微生物感染症学准教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 章代	微生物学	医学科微生物感染症学講師	基礎4階微生物感染症学教室
鈴木 由希	微生物学	医学科微生物感染症学助教	基礎4階微生物感染症学教室
今村 知明	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学教授	基礎4階公衆衛生学教室
周藤 俊治	保健統計学Ⅰ・Ⅱ	地域医療学講座准教授	地域医療学講座
井上 浩一	人体構造学	医学科第一解剖学教授	基礎2階第一解剖学教室
堀井 謹子	人体構造学	医学科第一解剖学講師	基礎2階第一解剖学教室
東 超	人体構造学	医学科第一解剖学講師	基礎2階第一解剖学教室
服部 剛志	人体構造学	医学科第二解剖学教授	基礎2階第二解剖学教室
辰巳 晃子	人体構造学	医学科第二解剖学准教授	基礎2階第二解剖学教室
眞部 寛之	人体機能学	医学科第一生理学准教授	基礎3階第一生理学教室
坂野 公彦	人体機能学	医学科第二生理学講師	基礎3階第二生理学教室
中村 修平	生化学	医学科生化学教授	基礎2階生化学教室
井本 ひとみ	生化学	医学科生化学講師	基礎2階生化学教室
堀川 誠	生化学	医学科生化学講師	基礎2階生化学教室
牧野 舞	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
志摩 喬之	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
吉澤 明彦	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学教授	病理診断科医局
武田 麻衣子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学准教授	病理診断科医局
内山 智子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
佐々木 翔	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学医員	病理診断科医局
松岡 未奈巳	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学医員	病理診断科医局
新田 勇治	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学医員	病理診断科医局
岡田 文美	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学医員	病理診断科医局
畠山 金太	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学医員	病理診断科医局
庄 雅之	病態医学Ⅱ	医学科消化器・総合外科学教授	消化器総合外科学医局
鶴屋 和彦	病態医学Ⅱ 公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	腎臓内科学教授	腎臓内科学医局
河村 健二	病態医学Ⅱ	玉井進記念四肢外傷センター准教授	整形外科医局
横谷 倫世	病態医学Ⅱ	医学科消化器・総合外科学講師	消化器総合外科学医局
吉栖 正典	基礎薬理学	医学科薬理学教授	基礎3階薬理学教室
中平 毅一	臨床薬理学	医学科薬理学准教授	基礎3階薬理学教室
京谷 陽司	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
趙 晶	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
福島 英賢	病態医学Ⅲ	医学科救急医学教授	救急科医局
前川 尚宜	病態医学Ⅲ	医学科救急医学准教授	救急科医局
宮崎 敬太	病態医学Ⅲ	医学科救急医学助教	救急科医局
川井 廉之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学助教	救急科医局
鶴田 啓亮	病態医学Ⅲ	医学科救急医学医員	救急科医局
山崎 正晴	病態医学Ⅲ	中央臨床検査部准教授	中央臨床検査部技局
内田 優美子	病態医学Ⅲ	総合周産期母子医療センター講師	小児科医局
大前 隆志	病態医学Ⅲ	地域医療学講座特任助教	地域医療学講座
荻原 建一	病態医学Ⅲ	医学科小児科学講師	小児科医局
長谷川 真理	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
竹田 洋子	病態医学Ⅲ	医学科小児科学医員	小児科医局
鮫島 謙一	病態医学Ⅲ	医学科腎臓内科学講師	腎臓内科学医局
田中 晴之	病態医学Ⅲ	医学科血液内科学助教	血液内科医局
阿部 龍一	病態医学Ⅲ	中央手術部助教	中央手術部医局
山田 有紀	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学助教	産婦人科医局
常見 泰平	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学助教	産婦人科医局
牧野 佑子	病態医学Ⅲ	総合周産期母子医療センター助教	小児科医局
木村 麻衣	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学医員	産婦人科医局
伊藤 高広	病態医学Ⅲ	中央放射線部講師	中央放射線部医局
岩越 真一	病態医学Ⅲ	医学科放射線診断・IVR学講師	放射線診断・IVR学医局
橘 進彰	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科学医員	泌尿器科医局
森澤 洋介	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科学助教	泌尿器科医局
佐伯 圭吾	疫学 公衆衛生概論	医学科疫学・予防医学教授	基礎4階疫学・予防医学教室
大林 賢史	疫学	医学科疫学・予防医学特任准教授	基礎4階疫学・予防医学教室
山上 優紀	疫学	医学科疫学・予防医学助教	基礎4階疫学・予防医学教室
中川 仁	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	医学科循環器内科学助教	循環器内科学医局
仲川 洋介	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	医学科口腔外科学助教	口腔外科学教室

(教養教育部門非常勤講師／看護学科非常勤講師)

(令和7年4月1日付)

氏 名	授業科目名	所 属 等
近池 操	臨床心理学	奈良県病院協会看護専門学校 非常勤講師
須磨 知美	臨床心理学	カウンセリングルームRibbon Care 代表
宿谷 仁美	臨床心理学	関西福祉科学大学 講師
杉野 竜美	教育実践論	神戸医療未来大学 教授
板橋 孝幸	教育実践論	奈良教育大学 教授
谷 直之	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
倉持 史郎	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
リマ・ガシュット	English for Communicative Purposes	
北澤 良子	英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ	
桑原 志郎	英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ	学校法人淀之水学院 理事
浅井 良純	アジア文化論	同志社大学 嘱託講師
富岡 三智	アジア文化論	立命館大学、京都産業大学、甲南女子大学 非常勤講師
水野 杏紀	アジア文化論	関西医療大学 非常勤講師
勝井 伸子	西洋文化論	森ノ宮医療大学 非常勤講師
折井 穂積	西洋文化論	
田中 佐和子	カウンセリング論	クライシスサポートセンター アットリンク奈良
河野 秀壽命	日本国憲法	
藤間 公太	家族社会学	京都大学大学院教育学研究科 准教授
古屋 哲	国際情勢論	立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
村上 真	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ	京都国際社会福祉センター
清水 多嘉子	公衆衛生概論	がん研有明病院 看護部長
久保 慎一郎	公衆衛生概論	厚生労働省
小島 ゆかり	栄養学	近畿大学 非常勤講師
廣中 安佐子	生化学	
安藤 泰至	看護倫理学	鳥取大学 准教授
大河内 大博	看護倫理学	願生寺
飛田 伊都子	医療安全	大阪医科薬科大学看護学部 教授
石原 興子	精神看護学援助論Ⅰ チーム医療論	相愛大学 准教授
熊本 登司子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	畿央大学 准教授
中谷 敏昭	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	天理大学 教授
河田 志帆	産業保健活動論	京都看護大学大学院 教授
古川 恵美	学校保健活動論	兵庫県立大学 教授
撫養 真紀子	看護管理論	兵庫県立大学 教授
粕井 みづほ	家族看護学	
藤野 崇	家族看護学	近畿大学病院 看護師
武田 以知郎	在宅看護学概論	明日香村国民健康保険診療所 所長
朝倉 健太郎	在宅看護学援助論	大福診療所 所長
久保田 千代美	在宅看護学援助論	Chiyomi Kubota Care研究所 所長・看護師
松本 静香	在宅看護学援助論	医療法人春秋会 城山病院 教育担当師長 緩和ケア特定認定看護師
小澤 竹俊	在宅看護学援助論	めぐみ在宅クリニック 院長
西上 あゆみ	災害看護論	藍野大学 教授
新垣 智子	国際看護論Ⅰ	りんくう総合医療センター
大川 純代	国際看護論Ⅰ	国立国際医療研究センター
馬場 雄司	国際看護論Ⅰ 国際看護論Ⅱ	京都文教大学 教授
城島 哲子	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	
高島 愛里	看護倫理学 健康障害と看護	多文化共生センターきょうと

